PROPAGATION

Totsuka DXers Circle

August 2014
Edition 2

PROPAGATION　Contents

August 2014
Edition 2　Totsuka DXers Circle (TDXC)

2	特集　TDXC 沖縄 DX ペディション	
4	LCC で夢のペディ・沖縄訪問記（手配編）	宮内聰
7	DX ペディション記念 T シャツをつくる	長谷川眞也
9	TDXC 沖縄ペディ始末記	中川弘夫
13	TDXC 沖縄ペディに参加して	五十嵐雄希
14	Okinawa Hamahigajima DX Pedition Log	長谷川眞也
16	「日本 BCL 連盟〜その設立から解散までを調べて」	中川弘夫
26	誌上放談・元 KDXC 竹野 OM を囲んで	
42	Introduction of TDXC	Satoshi Miyauti
44	緊急レポート Boni-Whip 1st impression	我戸塚豪
46	PERSEUS リモート受信へのチャレンジ	中川弘夫
49	FDM-S2 かんたんマニュアル	長谷川眞也
59	Windows8.1 に PERSEUS をセットアップ〜奮闘記	長谷川眞也
65	ロードバイク＋ポケット DSP ラジオで Ultralight DX	五十嵐雄希
69	Magical stick Ace について	我戸塚豪
72	受信機ルポ　TECSUN PL-380	長谷川眞也
75	横浜のハムショップ	五十嵐雄希
79	ラジオを売る側になって。	岩田学
82	シンガポール　FM 現地受信の旅	五十嵐雄希
90	北陸フリー切符で現地受信の旅	五十嵐雄希
97	BCL グルメの旅〜喫茶タンパ	長谷川眞也
98	ラジオライフ　別冊の魅力	竹野伸郎
106	国会図書館で BCL 書籍を探そう！	中川弘夫
109	リグの傍にこの一冊　「移動運用で楽しむアマチュア無線」	
110	「ワイドバンド受信機＋PC で広がる電波受信」	長谷川眞也
111	思い出のベリカード	竹野伸郎
112	返信情報 QSL Information	
113	BCL 用語事典　2014 年度増補改訂版	長谷川眞也
140	PROPAGATION Edition 1　正誤表	
141	会員だより	
142	編集後記	

Cover Illustration：長谷川眞也

総力特集・LCCで行く

ノイズだらけの自宅シャックとはまるで違う、異次元のDXingを体験することができるDXpedition。普段なかなか行けない遠方へ出掛けて未知の局を追う、ペディショナー羨望のイベントです。

TDXCの活動の根幹にあるDXpeditionですが、三浦半島や茅ヶ崎、外房などの近郊から飛び出して遠征するのは、はじめてのことです。

しかも今回のペディの趣旨はリーズナブルに行くためLCC（low-cost carrier：格安航空会社）を利用し、土日を使った一泊二日で沖縄の海岸にテントを張り、思いっきりフィリピン中波だけを聞く…まさに異例ずくめの計画となりました。

太陽活動極大期でペディ当日もSSN 154と高く、南太平洋などDX局はほとんど期待薄。また開催地の沖縄県うるま市浜比嘉島からManilaまでは、直線で1493km。茅ヶ崎から沖縄局を聞くような距離なので、正直「DXing」的には物足りなかったのですが、それでも亜熱帯の潮風と波音をバックに100局近いフィリピン局が中波バンド一杯にひしめく状況に、参加メンバーはおおいに非日常を楽しむことができました。

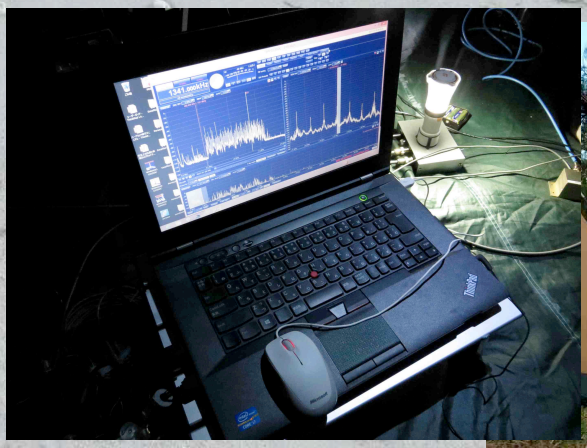
沖縄 DX ペディション

「ただラジオを聞くためだけに一泊で沖縄へ」普通の感覚では酔狂以外のなにものでもありませんが、そこはまさに「映画シティ・スリッカーズのようなオッサン達のロマンの世界」。しかもペディの企画から移動、宿、食事、天候、受信設備とすべてがトラブルも無く順調で、たいへん心地のよい旅でした。旅程をコーディネートしていただいた宮内さん、成田までの運転を買っていただいた中川さんの尽力の賜物だと思います。参加が危ぶまれた五十嵐さんも仕事の折り合いがつき、ともに喜びを分かち合うことができました。多忙な中、少ない休日を調整し、力を合わせて同じ方向へ向かっていった参加者全員に、あらためてこの場を借り御礼を申し上げます。

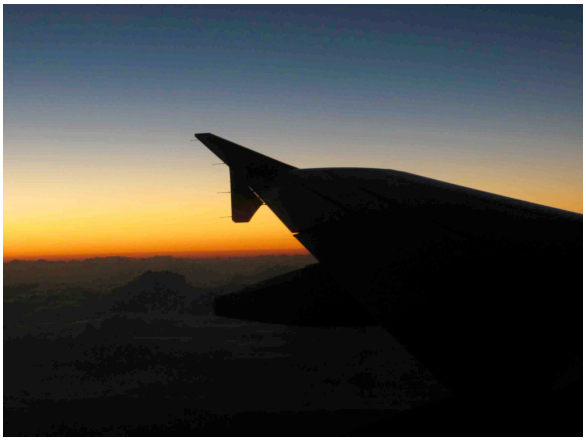
このペディを会誌の巻頭特集としてあらためて振り返り、同時に TDXC 想い出のアルバムとして残したいと思います。同じような旅を計画している DXer 諸兄の参考になれば幸いです。

まだ見ぬ最高のロケーションと DX 局を求め、またいつか再び出発する日を夢みて…

（長谷川眞也）



ＬＣＣで夢のペディ・沖縄訪問記（手配編）



宮内　聰

■時は 2013 年 7 月、TDXC メンバーとのミーティング。。というよりちょっとした飲み会。僕以外のメンバーの献身的な投稿と作業により、記念すべき創刊号（第一弾）が誕生したそのお披露目会にて、話は既に第二弾企画。次々にいろいろなアイディアが出る中、ひょんなことから、以前から気になっていた格安航空券を使って、どこか遠くへペディに行きたいなという発言が飛び出した。ＬＣＣ（ロー・コスト・キャリアー）と呼ばれるお値段お値打ちの航空会社のチケットを利用すれば、低予算の旅行でも、これまでには経験したことのないロケでのペディが可能になるのでは、という発想です。

■それから３ヶ月、早々に 10 月には実現していたので、メンバーの意気込みとフットワークは素晴らしいの一言！　このペディでの出来事や一部始終については、参加メンバーからの愉快な寄稿を愉しみにしつつ、僕からはこれからＬＣＣペディについて興味をお持ちの方々へ、ほんの少しでも手配をする時に役立つ TIPS が届けられればとその「手配編」をお届けします。

■最近はＬＣＣがニュースにも出るようになりましたね。パイロット不足で便を欠航するとか。。そんな断片的なことでもＬＣＣの理解には役立ちます。ＬＣＣとはどんな航空会社なのか、簡単におさらいをしておきましょう。現在日本の空（国内線）を運行する航空会社は、全日空と日本航空いわゆる大手の２社以外にも、北海道のエアードゥ、北九州を拠点とするスターフライヤー、宮崎を拠点のソラシドエアー、近々？二階建てのエアバス３８０を受領するスカイマークと幾つも存在します。これらに加えて、ここ数年の間に、海外資本だったり、日本の会社とのジョイントでのＬＣＣといわれる会社が入ってきています。ＡＮＡが香港資本とのジョイントで業績も好調なピーチエアー（前述のパイロット不足による減便のニュース）、対照的にＡＮＡがエアーアジアとのジョイントで興したエアーアジアジャパンは早々に市場から退散、現在は体制諸々を見直しバニラエアーとして再登場。他にはＪＡＬが豪州ジェットスターとのジョイントで運行する、ジェットスタージャパン。今回はこのジェットスタージャパンを利用しての沖縄ＬＣＣペディを手配してみました。

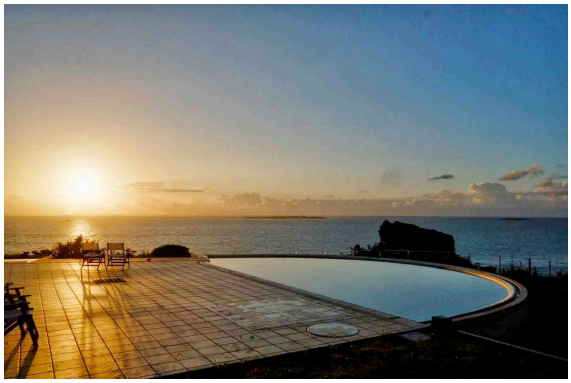
■ＬＣＣの魅力とは言うまでもなく、”正しく”購入すれば格安で航空券が手に出来ることに尽きると思います。”正しく”という言い方がくせものですが、それには幾つかのルールがあるので、これらをおさえて、デメリットやリスクについても知っておけば、なんとかなる。。と前向きに！　独り旅ならまだしもメンバー数名となると、スケジュール調整が至難の業が難しいというのも事実ですね。

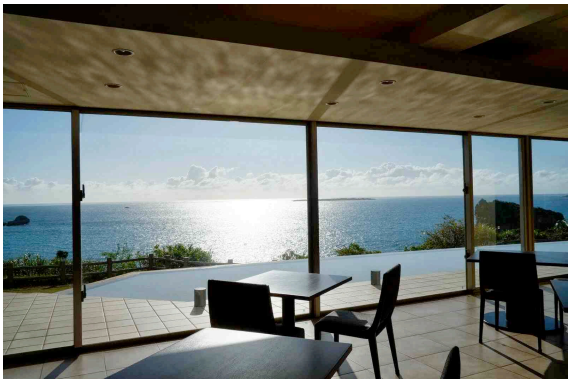
■具体的にＬＣＣペディ手配ルールをみていきましょう。
「利用日をなるべく早く決める」--- これは一番おおきな要素かと思います。
⇒大手のチケットにもありますが、「早割り」という考えで、実際に利用する日よりも何日・何ヶ月も前に購入することになります。
⇒ＬＣＣと言えども慈善事業者ではないので、早い時期には安い価格でチケットを販売していても、ある程度席が埋まってしまうと後は利益を出すため「それなり」の値段でしか販売してくれません。一便一便の収支バランスを事細かに計算しているので同じ時間帯の便でも曜日や祝祭日前後などで大きく値段が変わります。

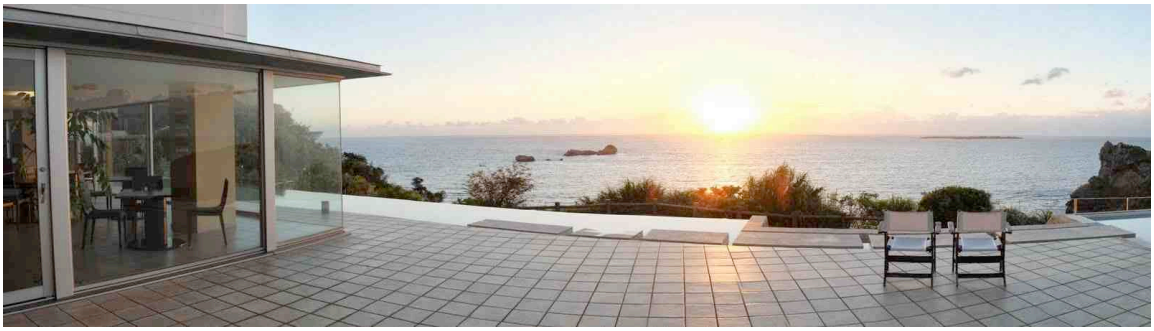
■仲間のスケジュールを調整して、宿も同時に手配が出来て、チケットを購入した。。。それでも、出発までの何日、何ヶ月の間に、急に都合がつかなくなったりする場合もなきにしもあらずですよね。

■ペディ利用時ＬＣＣのリスクその①
・変更や払い戻しに制限が多い点⇒いくつかのチケット種類があるので、その後の予定に不安があったり、最初のＬＣＣペディ時などでは、若干チケット値段は高くとも、変更や払い戻しに対しての制限の緩いものを選択したほうが良いかもしれません。それではＬＣＣの低価格という魅力が薄れてしまうかもしれないので矛盾もありますが、バランス判断が難しいところでもあります。ＬＣＣの場合、基本的には”買ってしまったチケットはそのまま乗らないと損”という鉄則は理解しておいた方がいいと思います（手数料を払って別の日に、ということが出来ても、乗らないから払い戻して、といって出来ないチケットも多々あります）。

■ペディ利用時ＬＣＣのリスクその②
・万が一、何らかの理由にてスケジュール通りに運行してくれない、というリスク。多分に航空会社の責任なんだから、何とかしてくれるでしょう。。というのはこれまでの考え。ＬＣＣでは、基本的には他の航空会社へ振替えはしてもらえません。明日、あさっての便なら乗れますけど、と言われても！のびっくり対応もリスクとして存在しています。限られた週末のペディを計画した場合、どうしても目的地へ辿り着くには、当日購入可能な他社便を買うか。ペディそのものを中止するかという判断に迫られてしまいます。当







日購入のチケットとなるとかなり割高なのは否めないので、LCC ペディの根源が揺らいでしまいます。ペディを中止にするとした場合でも、宿のキャンセル料の問題も出てきます。ＬＣＣでない場合には、それが台風などの理由でなければ、多分に同じ路線を飛ぶ他社便に振り替えてもらえるので、ここのリスクの差異は大きいです。

■何事にもリスクは存在しますので、あとは運を天に任せるしかない。。。と一旦リスクをおさらいした後は、やはり楽しいことに向かって全力で進めてみましょう！実際、今回のＬＣＣペディでここまでのリスクやらネガティブ論をメンバーできちんと共有したり議論したことはなかったとも思います。

■今回実際に手配をしたチケットの種類についてご参考まで記録しておきます：
利用ＬＣＣ：ジェットスタージャパン
利用運賃（チケット）：スタータープラス（往路 12,990 円、復路 16,990 円）
・基本は購入時の最安値＋@990 円で座席指定が出来ますのでこのサービスをつけました。この 990 円ですが、機内販売（飲み物やおやつなど）500 円分として利用可能なので、実際には 490 円で座席指定が可能との計算です。
・ＬＣＣの場合は座席指定も重要な課金対象品目になっていますので、当日空港で座席指定をすることになると、多分、3 列の真中にバラバラ、という状況がおきかねません。ここは”大人”の我々であれば、仲間とペディの語らいをしながらのフライト時間として近い座席をゲットしておくことをお奨めします。
荷物代金：ＬＣＣの基本は、飛行機に預ける荷物には別途手数料がかかります。ジェットスターの利用便の場合には、機内持ち込み荷物は 10Kg まで OK なので、預け荷物は皆で共同利用するキャンプやアンテナ機材等など、＋20kg を事前購入して追加代金は往復 2,200 円でした。これを空港で支払おうとすると金額が高めに設定されているのと、チェックイン時に慌しいこととなるので、極力搭乗までの手続きがミソと思います。

■最後に今回のＬＣＣペディでのチェックイン時のひとコマ。機内持ち込み荷物 10kg という話は皆の認識の下、なんと往路の重量チェックで 3 人が 100g 単位、全く同じ重量であったのにはびっくり仰天！　みんな 10kg に収めようとがんばったんだな、というか中身が皆殆ど同じものをパッキングしているので、当然といえば当然？それにしてもびっくりでした。

DX ペディション記念 T シャツをつくる

長谷川　眞也

■沖縄ペディ記念ウェア

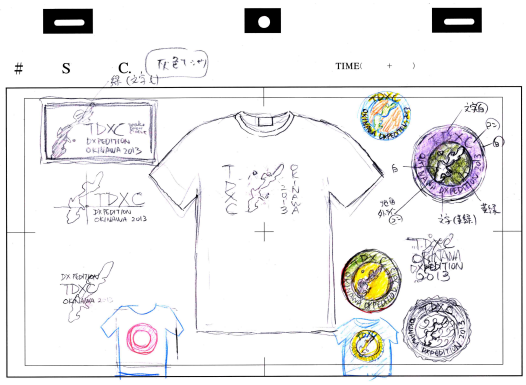
今回の LCC 沖縄ペディは、TDXC にとっても筆者個人にとっても「初めての DX ペディ遠征旅行」になりました。当初の開催予定 11 月には息子の保育園バザーがあり参加できない見込みでしたが、皆さんのご好意で航空チケットの高くなる 10 月のほうにスケジュールをずらしていただけました。会員諸兄に感謝の気持ちを伝え、ペディを盛り上げる「記念になること」はできないか…と考えました。ハムの DX ペディションでは、コールサインなどをデザインした「DX ペディション記念ウェア」がよくつくられていますが、BCL のペディションでは聞いた事がありません。そこで、沖縄ペディ開催を記念したウェアを製作することにしました。

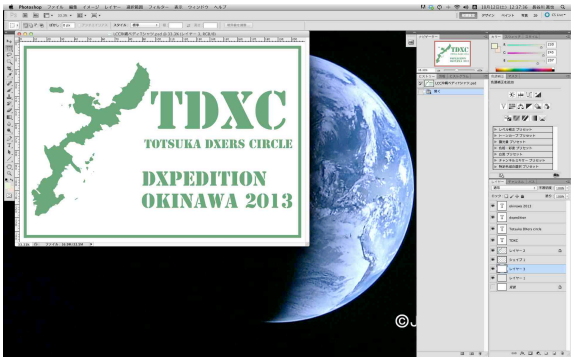
■T シャツのデザイン

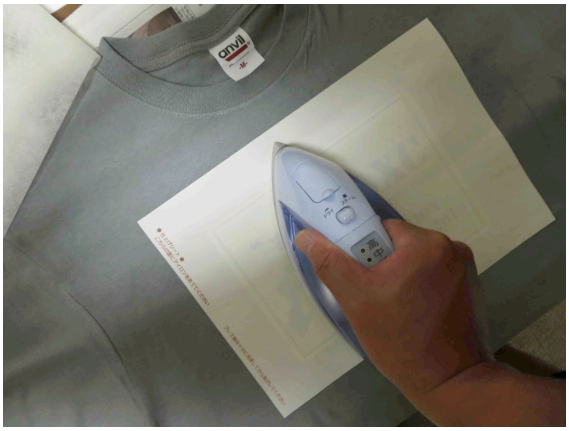
10 月下旬とはいえ日中の最高気温 28 度という沖縄ですので記念ウェアは T シャツにします。まず T シャツのデザインを考えます。沖縄と DXing というイメージから、40 代のオジサンたちが着ても恥ずかしくないもの（笑）を想定し、沖縄県のシルエットと文字を配置したアイデアスケッチを重ねます。原稿は Photoshop を使い、沖縄県地図のフリー素材画像を加工、フォントを組み合わせて作成します。

■材料を集める

オリジナルデザインの T シャツをプリントしてくれるメーカーもあるのですが、安価に作るために自作します。無地 T シャツは、米国のメーカーAnvil（アンビル）の「Adult ヘビーウェイト 半袖 無地 T シャツ 6.1oz ストームグレー M」を選択。アメリカンサイズなのでひとまわり小さい M サイズに、デザイン柄の色味に合うグレー系をチョイス。Amazon で 1 枚 331 円と格安でした。この生地にアイロン・プリントを使って柄を印刷します。自宅の Canon インクジェット・プリンタで使える用紙を 2 種選択（SANWA SUPPLY







インクジェットカラー布用アイロンプリント紙 A4 サイズ 2 枚入り JP-TPRCLN、エレコム 洗濯に強いアイロンプリントペーパー カラー生地用 A4 サイズ 2 枚入り EJP-SCP1）。どちらもそれほど品質に差はないです。ただ SANWA SUPPLY のプリント紙は裏表の目印のために角が一カ所だけ斜めに切り取られており、ここをプリンターの挿入方向にセットすると、プリンター内で引っかかってしまうことがあります。筆者のプリンターでは用紙の 1/3 ほどの面積が汚れてプリントされてしまいました（その結果、エレコムの用紙を買い直した）。プリンターにセットする際は、角が切り取られていないほうを差し込むとよいと思います。なおアイロンプリント用紙の価格はカラー布地用よりも白布用のほうが安いので、白色 T シャツで作ったほうがより安価に作れます。

■T シャツの製作

材料が揃ったら、いよいよ製作です。Photoshop で作った図柄を、プリンターでアイロンプリント用紙に印刷します。30 分ほどインクを乾かし、ドライモードにしたアイロンを用意。しっかりアイロンを当てないと洗濯でプリントがはがれるので、新聞紙を敷いたコタツ板の上に T シャツを置き、プリント紙の上に「あて紙」を重ねて、その上から念入りにアイロンを押し当てていきます。詳しい方法はアイロンプリント用紙の取説を熟読して下さい。アイロンがけした直後の T シャツは非常に熱くなってますので、冷ましてからあて紙をはがします。これで完成です。ペディ参加人数分、世界で 4 枚だけの T シャツができました。

■沖縄ペディで着用

この記念 T シャツは、参加メンバーに内緒で作っていました。沖縄に到着してからサプライズ披露となりましたが、全員が喜んで着てくれました。お揃いのウェアでペディション、そして肩を組んでの記念撮影。テント内は非常に蒸し暑く、T シャツはあっという間に汗でびしょびしょになってしまいましたが、忘れられない思い出となりました。

<u>制作費</u>

T シャツ 1 枚 331 円×4＋送料 390 円＋アイロンプリント紙 782 円=2496 円。1 枚あたり 624 円。

TDXC 沖縄ペディ始末記

中川　弘夫

■2013 年 10 月 19～20 日、TDXC の 4 メンバーで沖縄ペディを敢行した。参加メンバーは今回の仕掛け人 Miya さん、PROPAGATION 編集長 Shin さん、宴会アレンジャーいかさん、そしてペディお抱え運転手（笑）の私であった。そもそもこの話が出たのは TDXC 設立 1 周年＆会誌発行記念飲み会の時であった。会誌が無事完成し、さて次は何を楽しみに活動しようか？と話し合っていた中で、業界人の Miya さんから「日本も LCC 元年と言われていますがこれを使って遠くに行くのはどうでしょうか？」という提案がなされた。ただ遠くに行くというよりも、話題の LCC を使うというところに、非常に興味を引かれた。「面白い！行きましょう！」間髪置かず満場一致の賛成となった。

■飲み会お礼メールを交わす中で、翌日早速 Miya さんが沖縄便の料金を調べて連絡を下さった。そしてこの時点で極めて具体的な候補日程も提示してくれた。飲み会で満場一致になっても、それが現実に実行されることは非常に少ないのではないだろうか。その場のノリで皆賛同するが、それについて誰かがイニシアチブを取ることが無いからである。ところが今回はすぐにこの提案である。これは非常に大事なことだと思う。沖縄ペディ実現の可能性が一気に高まった気がした。

■4 人とも 40 代のサラリーマン（1 名自営業）でありそれぞれ仕事も家庭も忙しく、1 泊とは言え日程を合わせるのは容易ではない。今回も休日出勤が続いているいかさん、連載ものの開始で同じく休日すらままならない Shin さん、海外出張や家族の介護等でタイトな Miya さん（案外ヒマなのは私だけか？）の日程調整が大変だった。加えて今回候補に挙げた 10 月は台風シーズンが終わり切らない時期でもあり、ぶつかったらオジャンである。しかしそこまでは分からないので、皆の情熱が消えてしまわないなるべく早くにやるべきであるというのが、4 人の共通認識であったように感じる。だから 10 月より 11 月のチケットの方が安かったのだがとにかく 4 人が一緒に行ける日程を優先し、日程は 10 月 19～20 日に決定した。

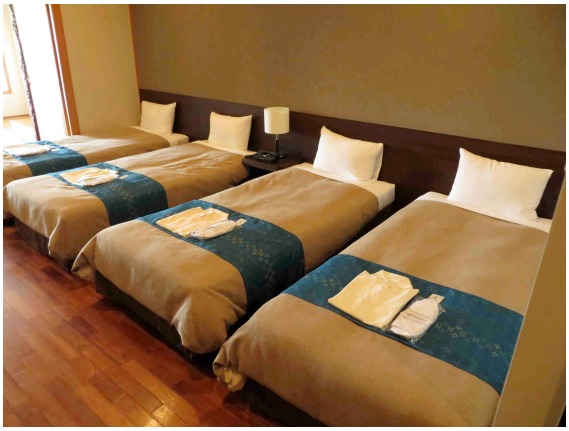
■沖縄で DX など初めてだけに、どの辺りが適当なのかも良く分からない。調べると本島南端に喜屋武岬というところがあり、ここが本島や中国大陸からの電波の影響を一番排除できる可能性のある場所かとも思われた。

しかしながらざっと見たところここにペディが出来る宿は見つからなかった。Miya さんはさすがプロで、手際良く宿も候補を挙げてくれる。2 つの候補の中で東シナ海に面した宿は大陸向きだけに DX には不利と思われもうひとつの浜比嘉島リゾートは太平洋側に面し、こちらの方が適しているように感じた。しかも Miya さんが見つけてくれたのは、4 人で 1 泊朝食付き 22,000 円の激安プラン！9/8 には同じく Miya さんから旅程表も送られてきて、本当に行けるんだという実感が湧いてくる。こうなると意地でも成功させたいと思うし、これに向けて皆 PC のスペアバッテリーを買ったり、SDR 用電源を作ったり色々準備を開始した。Shin さんに至ってはここで思い切って PC を新調した。皆気合が入って来たのを感じる。気持ちも大いに盛り上がってきた。

■共用する機材は私の方で準備する。テント、アンテナ、プリアンプ、分配器などであるが、これには今春から開始したバイクチョイペのノウハウが活きた。ずっとクルマで行けないので荷物を極力コンパクトにせねばならないが、テントの他はアンテナセット（釣のロッドケースで全て収まる）、そして電源系も電池で全て賄えるようになり、極めてシンプルな荷物で間に合った。特に共有機材の忘れ物は絶対許されないので、通常のペディ以上に入念に持ち物チェックを行なった。

■しかし実施半月前にはいかさんが仕事でトラブルが発生し、参加に黄色信号が点ってしまった。やはりオッサン 4 人が揃うのは無理か･･･。Shin さんの PC も期日までに間に合うかギリギリである。そして 5 日前、いかさんは何とか危機を脱し（決断し？）参加断行！Shin さんの新 PC も 2 日前に到着。皆ギリギリセーフとなった。そして私は･･･前日に会社行事とその打ち上げ、その後高校の同期に誘われ飲み会ということで、帰宅は 1 時を回ってしまった。LCC の欠点は成田まで行かなければならないことである。今回は朝の出発便のため 4 時半起床なので 3 時間も寝られない。かなりキツいが必死に起きて、私の地元駅で Miya さんを、そして Shin さん、いかさんをピックアップし一路成田へ。そうして時間通りに間に合って、ジェットスターに乗り込んだ。ここで安心した私は仮眠タイムに。私自身が一番緊張した時間は終わった（笑）。成田を 9:05 発で那覇に 11:55 着だ。

www.fm-toyomi.com
FM 83.2 MHz
FMとよみ
Community FM Radio Tomigusuku-city Okinawa , Japan



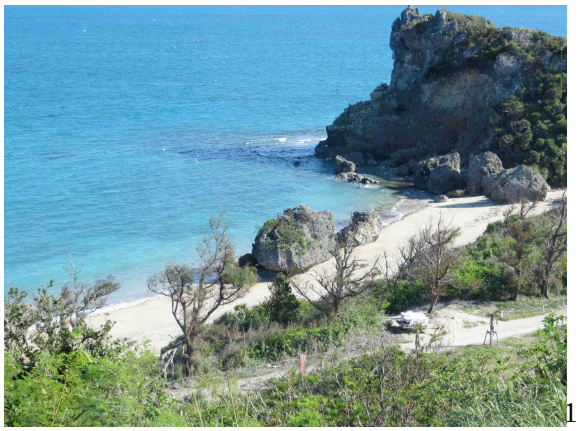
■那覇に着くとレンタカーを借り早速移動開始。これも Miya さんが手回し良く予約してくれていた。そして昼食。別段当てがある訳ではないので、近くのイオンの駐車場に車を停めてフードコートで食事。道中はレンタカーでラジオをかけ、出来るだけ沖縄を実感しようと思う。助手席に座った私はオーディオを操作し、地元 FM 局をスキャンする。で 14 時には FM とよみの ID をゲット。FM たまんなど数局を受信出来た。Shin さんはその模様をちゃっかり録画し局から QSL をゲットしていた。やるなぁ、抜け目なし！

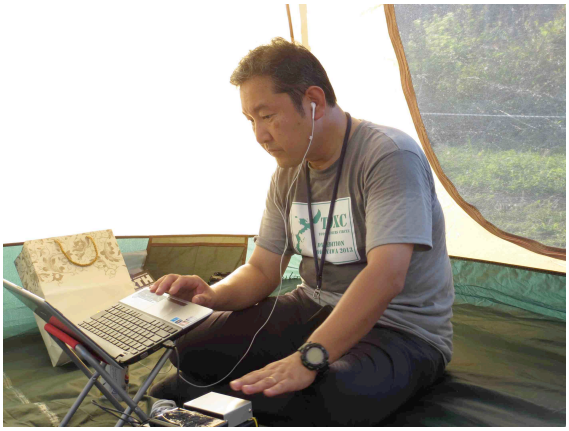
■そして 15 時半前にホテル浜比嘉島リゾートに到着。ロビーは全面ガラスでオーシャンビュー。素晴らしい海が飛び込んできた。スペシャル価格とは言え 4 人で 22,000 円の宿とは思えない。実に感動した。

■部屋に入って準備一息ついたところで、Shin さんからメンバー全員にサプライズのプレゼントが配られた。この日のために TDXC ペディション T シャツを作ってきてくれたのだ。忙しい時間の合間を縫って作ってくれたことに感動！Shin さん、有難う！

■お揃いの T シャツに着替え、ペディ会場を求めて海岸まで向かう。かなり高低差があるので、荷物は全てレンタカーで運ぶ。さあ、良い会場が見つかるか、緊張の瞬間だ。結論から言うとこれ以上望めない、最高の会場であった。ちょうどアンテナとテントが張れる平らなスペース、砂浜ではなく安定した土の地面である。結果的に最高のシャックが設置出来た。そして夕方からワッチを開始するが、狙いの南太平洋は非常に静かである。聞こえてくるのはフィリピンと台湾ばかり。ターゲットが不調だったのはちょっと残念だが土地柄フィリピンは強力な入感でこれは大変期待出来そうである。そんな感じでしばらく PERSEUS で記録した後、食事や入浴、宴会、仮眠のため一旦ホテルに引き上げる。機材も大半は部屋に持ち帰った。

■やはり海を一望出来る風呂で仲間四人、裸で寛ぐ。そしてレストランで食事。美味い飯、オリオン生ビール最高だ！BGM の沖縄民謡が、ムードを高めて





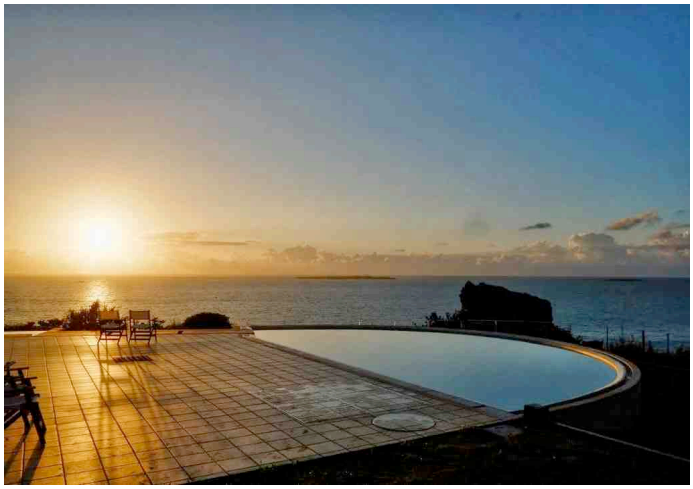
くれる。そして部屋に戻り引き続き宴会。皆あらゆるものを調整し、この場に 4 人が揃うことが出来たことを喜びつつ、気持ち良く酔った。そして一旦就寝。

■翌朝はフィリピン局の放送開始に合わせ、5 時前にシャック入り。素早く設置して受信態勢に入る。やはり沖縄、ここは別天地だ。フィリピン局の入感は当たり前だが関東とは様相が一変する。594 も 954 も NHK や TBS に負けずフィリピンが入るのだ。一体どれだけ掘れるだろうと思いつつ、6 時過ぎまで沢山記録してまた撤収。そしてしばし仮眠し朝飯タイムだ。朝飯も眺めの良いレストランでバイキング。私は 2000 年にも沖縄に家族旅行したのだが、その時の目玉が「無人島ツアー」として渡った浮原（うきばる）島。一体どこだったのか当時は考えもしなかったのだが、今回このツアーに参加するに当たって調べ直したら、何とこの浜比嘉島から渡し舟が出ていたのだ。なので懐かしく、従業員の方にどれが浮原島なのか尋ねると、目の前の大きな島を指差してくれた。自衛隊の演習場にもなっているそうで、今は昔ほど自由に渡れないのだそうだ。そんな昔の想い出も交錯しつつ、ゆったりと食後のコーヒーを楽しんだ。

■今回このペディで一番嬉しかったのは、やはり 4 人が一緒に行けたことだろう。繰り返しになるが、一番忙しい世代なので ある。仕事も家庭も色々やり繰りして皆が集まれたことが嬉しかった。それと有言実行。言ったことを必ずやる。それが出来たこの仲間は最高だし一生の友達だろう。ぶっつけ本番にならざるを得ない遠征ペディで、最高のロケーションに恵まれたことも嬉しかった。

■最後になるが今回のお仲間全員、特に立役者 Miya さんに改めて感謝の意を表したい。

TDXC 沖縄ペディに参加して



五十嵐　雄希

■PROPAGATION Edition1 発行を祝って執り行った飲み会の場で Miya さんからご提案があった LCC 利用の沖縄ペディ。一部始終は Naka さんに執筆いただいたので、私なりの感想を少しばかり書きたいと思う。

■飲み会参加者の賛同を受け、Miya さんに実施日の調整、ロケーション選定、航空券、宿、レンタカーなど諸々の手配にご尽力いただき、提案からあっという間の開催となった。旅行業界にお勤めの Miya さんのプロフェッショナルぶりには驚くばかりであった。

■当日は前日遅くまで会社関係の飲み会だったという Naka さんが早朝からマイカーで参加メンバーの自宅を廻って拾っていただき、成田空港まで運転いただいた。沖縄に着いてからも Naka さんの運転でペディ会場までのドライブを楽しむことができた。ペディの帰りも、疲れた体に鞭打って、参加者を成田から自宅に送り届けてくれた。この場を借りて感謝申し上げたい。

■宿泊地のホテルにチェックインし部屋に入ると、Shin さんからのサプライズが。なんと、今回の Pedi のために T シャツをデザインし、参加者全員にプレゼントしてくれた。Shin さんの今回のペディに向けての意気込みと、参加メンバーへのサービス精神をもってなせることである。本当にうれしいプレゼントだった。

■このおそろいの T シャツを着て、透き通った青い海の海岸に設営したペディ会場での受信。大量の蚊に悩まされながらも、日が暮れると大量に入感するフィリピン中波局。ここは沖縄なのだと実感する。翌朝の放送開始時の受信に期待して、早々に撤収し、ホテルの食堂での食事と部屋での酒盛り。BCL の話や BCL とは全く関係ない馬鹿話まで、時を忘れて楽しんだ。翌朝には期待通りフィリピン中波局が大量入感。中にはここはフィリピンか！と思いたくなるような強力な局も。存分に楽しんだ後ホテルに戻ると、海に浮かぶ朝日が。すばらしい光景で今回のペディの思い出とともに脳裏に焼きついている。

■小生が現在の TDXC メンバーと交流するようになってから 2 年も経たないうちに TDXC 発足会報発行、そしてついには沖縄ペディ。DX を一緒に楽しむ仲間がいることに今まで以上に感謝した沖縄ペディだった。

Octorver 19-20, 2013 Hamahigajima, Okinawa DX Pedition Log

Freq.	Call	City	JST	Condx.	
531	DYDW	Tacloban	19:08	vp	"DYDW AM, Tacloban...Radio Diwa"
540	DZWT?	Mt. Province	5:58	vp	"(DZ)WT AM, a commercial radio station owned and operated by the Mt. Province Broadcasting Corporation"
558	DZXL	Obando	5:04	g	"Ito ang himpilan DZXL 5 5 8 Radyo Mo Nationwide the Mega Manila"
567	KGUM	Agana	17:59	f	"Saturday night's and News Talk K57, KGUM Agana Guam"
576	DXMF	Davao	19:00	p	"Bombo Radyo Davao"
576	DZHR	Tuguegarao	5:00	p-vp	"Ito ang DZRH... Manila Broadcasting Company" Relay 666 DZRH
594	DZBB	Obando	6:00	g	"Ang himpilan walang kinikilingan, walang prinoprotektahan, serbisyong totoo lamang. Ito ang GMA Super Radyo DZ-dobol B 5 9 4 (cinco nueve cuatro)"
612	DYHP	Cebu	6:02	f	"Ito ang DYHP 6 1 2 sa Cebu, Numero Uno! Tatak RMN"
630	DZMM	Obando	5:01	f	"♪DZMM Radyo Patrol Sais Trenta. Una sa balita, Una sa paglilingkod. DZMM Radyo Patrol Sais Trenta. Ako, Ikaw, Tayo. Tulay ng Pagbabago"
630	DYWB	Bacold	5:19	p	"Good Morning. This is Radio Station DYWB. Now, Signing on"
657	DYVR	Roxas	5:30	vp	"DYVR RMN Roxas, Kasama mo! DDDDYVR 6 5 7 Kasama mo! Tatak RMN"
665.92	DZRH	Valenzuela	5:00	f	"Ito ang D Z R H Naglilingkod Sa Pagbabalita... ♪DZRH～...Makabagong Bayanihan"
684	DYEZ	Bacolod	5:24	f	"Good Morning. Your turned to Aksyon Radyo Bacolod, a commercial radio station owned and operated by the Manila Broadcasting Company"
684	DZCV	Tuguegarao	5:59	vp	"Good Morning…This is radio station DZCV, a commercial radio station owned and operated by the Filipinas Broadcasting Network"
702	DZAS	Bocaue	18:33	p	"Ito ang Far East Broadcasting Company Philippines FEBC himpilan 7 0 2 DZAS Agapay ng Sambayanan"
711	DYBR	Tacloban	18:37	p-vp	"DYBR Apple Radio"
711	DZVR	Laoag	5:54	vp	"Bombo Radyo...the National Telecommunications Commissions"
711	DZYI?	Ilagan	6:00	vp	"Sonshine Radio…DZ(YI) Sonshine Radio"
720	DYOK	Iloilo	5:05	f	"Aksyon Radyo Iloilo...MBC, an Manila Broadcasting Company"
729	DZGB	Legaspi	4:51	p	"Ito ang DZGB"
729	DXIF	Cagayan de Oro	5:56	p	"Bombo Radyo Cagayan de Oro"
747	DYHB	Bacolod	5:05	f-p	"Ito ang himpilan RMN Bacolod, 7 4 7 kHz"
747	DZJC	Laoag	5:58	vp	"radio station...DZJC...a commercial broadcast station owned and operated by the Manila Broadcasting Company"
774	DYRI	Iloilo	4:55	f	"Iloilo, DYRI 7 7 4, Tatak RMN"
774.03	DWWW	Valenzuela	4:31	g-f	"You're listening to the ultimate station of your generation, DWWW 7 7 4. Playing the music of your life, DWWW 7 7 4"
782.98	DXRA?	Davao	5:06	vvp	"7 8 3 7 8 3 Radyo ni Juan"
801	DZNC	Cauayan	6:02	p	"Bombo Radyo DZNC...National Telecommunications Commissions"
818.95	DYVL	Tacloban	4:58	f-p	"Good Morning. This is Radio Station DYVL, Aksyon Radio"
828	DXCC	Cagayan de Oro	5:30	f	"Ito ang DXCC 8 2 8 Tatak RMN RMN Radyo Mo Nationwide"
837	DYFM	Iloilo	5:00	g	"Good Morning, Ladies and Gentlemen. Welcome to Bombo Radyo Philippines, the No.1 radio network in the country, here in Iloilo. You are listening to DYFM Bombo Radyo Iloilo, a commercial radio station owned and operated by Consolidated Broadcasting System incorporated" "Basta Radyo... BOMBO!"@1902
846	DZRV	Quezon City	5:01	g	"This is Radio Station DZRV Radio Veritas, owned and operated by the Global Broadcasting System Incorporated, operated at 8 4 6kHz with the power of 50,000W"
864	DYHH	Bogo	4:44	f-p	"EL Nuevo Bantay Radyo...DY double D 1260(doce sesenta) Metro City, DY double H 864(ocho seis cuatro) Bogo City"
882	DWIZ	Obando	5:30	f-p	"Ito ang himpilang nagbabalita sa mamamayan, naglilingkod sa bayan. DWIZ 8 8 2 (ocho ocho dos)"
891	DZGR	Tuguegarao	5:57	p	"Good Morning. This is DZGR Bombo Radyo, Signing on"
900	DYOW	Roxas City	6:00	f-p	"You are listening to himpilan DYOW Bombo Radyo Roxas"
900	Unknown PHL		6:01	vp	National Anthem
909	DYSP?	Puerto Princesa	19:01	vp	"(DYSP AM)…"
909	DZEA	Laoag City	5:56	p	"Good Morning! Radies and Gentlemen, Good Morning. This is DZEA Radyo Totoo"
918	DZSR	Quezon City, MM	19:03	vp	"No.1…DZSR Sports Radio 9 1 8 Nationwide"
927	DWRS	Vigan City	4:54	p	"Good Morning. This is DWRS Commando Radio"
927	DZLG	Legaspi City	5:50	f-p	"Ito ang Bombo Radyo Legaspi. Numero Uno…Basta Radyo BOMBO!"
936	DXIM	Cagayan de Oro	18:48	vp	"Philippine Broadcasting Service, DXIM 9 3 6 Radyo ng Bayan, Cagayan de Oro"
954	Unknown PHL		18:59	vp	National Anthem
954	DZEM	Obando	18:30	f	"Ito ang INC Radio DZEM 9 5 4 Ang Tinig ng Katotohanan himpilan Iglesia ni Cristo"
963	DYMF	Cebu	19:00	vp	"Basta Radyo... BOMBO!"
972	DXKH	Cagayan de Oro	5:59	p	"DZRH AM Manila Broadcasting Company"

980.97	DZRD	Dagupan	19:07	vp	"SonShine Radyo DZRD Dagupan…Balita"
981	DXBR	Butuan	4:57	p	"Basta Radyo BOMBO! Basta Radyo BOMBO! Basta Radyo BOMBO! …Ang DXBR Bombo Radyo Butuan"
981	DWMT	Naga	5:00	vp	"♪DZRH～" Relay 666 DZRH
990	Unknown PHL		5:01	vp	"♪DZRH～" Relay 666 DZRH. DZMT or DYTH
990	DZIQ	Metro Manila	5:32	f	"DZIQ Radio Inquirer 9-90 AM"
999	DYSS	Cebu	6:01	f	"DY doble S Super Radyo Cebu"
1007.96	Unknown PHL		18:56	vp	Religious" ♪Hallelujah～"
1017	DXSN	Surigao	5:53	f-p	"DXSN is a…radio station, Silangan Broadcasting Corporation"
1026	DZAR	Obando	18:17	f	"SonShine Radyo, Ka-Partner mo sa Balita at Serbisyo! DZAR Ang alternatibong radyo"
1035	DZWX	Baguio	5:47	vp	"Bombo Radyo DZWX Baguio...licens number..."
1043.865	DXCO	Cagayan de Oro	5:09	f-p	"DXCO Radio Corporation of the Philippines"
1044	DZNG	Naga	5:36	f	"Bombo Radyo Naga is the commercial AM radio station...Newsounds Broadcasting Network Incorporated…Ang DZNG Bombo Radyo Naga"
1062	DZEC	Metro Manila	5:02	g-f	"Magandang umaga. Ito ang Radio Agila, I sang himpilang komersyal na pagmamay-ari ng Eagle Broadcasting Corporation"
1071.06	Unknown PHL		6:01	vp	OM FP Talk
1080	DWIN	Dagupan	5:02	p	"Ito ang Radio Agila" Relay 1062 DZEC
1080.02	DYBH	Bacolod	5:00	f-p	"Magandang umaga...Ito ang DZRH Naglilingkod Sa Pagbabalita…Filipinas" Relay 666 DZRH
1107	DWDY?	Cauayan	6:00	p-vp	"…D (W) D Y 11-10 kHz…DY Cauayan"
1107	DYIN	Kalibo City	19:03	p	"Bombo Radyo Philippines"
1116	Unknown PHL		18:59	p	"…AM…Radyo...Filipino"
1125	DZWN	Dagupan	5:50	vp	"Bombo Radyo Dagupan, Now Signing on"
1134.18	DWDD	Metro Manila	5:00	f-p	"Ito ang himpilan ng kawal ng bayan! Armed Forces Radio, DW dobol D"
1161	DYKR	Kalibo	5:34	p	"Ito ang himpilan DYKR 11-61 Radyo mo Nationwide, the Kalibo. Now, Signing on"
1161	DZMD	Daet	5:56	p	"Ito ang PBN DZMD. …PBN Broadcasting Network Incorporated"
1161	DYRD	Tagbilaran	5:59	vp	FP "DYRD AM, Now signing on"
1179	Unknown PHL		5:36	vp	OM FP Talk
1179	DXYK	Butuan	6:00	vp	"GMA Super Radyo DZ double B" Relay 594 DZBB
1188	DXRU	Cagayan de Oro	18:03	p	"Radyo Ultra"
1215	DYRF	Cebu	6:01	f	"Ito ang DYRF, Word Broadcasting Corporation"
1224	DWSR	Lucena	4:58	vp	"Ang DZRH...Manila Broadcasting Company…Ang DZRH..." Relay 666 DZRH
1233	DWRV	Bayombong	5:55	f-p	"This is Radyo Veritas Bayombong, Now Signing on"
1233	Unknown PHL		5:56	vp	National Anthem. DYVS?
1242.14	DWBL	Malanday	18:27	vp	"D W B L"
1259.975	DYDD	Lapu-lapu	18:01	p	"♪El Nuevo Bantay Radyo～ El Nuevo Bantay Radyo～"
1278	DZRM	Malolos	18:00	p-vp	"Radyo Magasin...Radyo Magasin 12-78kHz... ♪PBS～"
1314	DWXI	Paranaque	5:57	f	"Ito ang DBS, Delta Broadcasting System. D W X I Himpilan ng Mabuting Balita. Himpilang Pinagpala!"
1323	DYSI	Iloilo	5:03	p-vp	"DYSI Super Radyo"
1350	DWUN	Quezon City	19:07	f	"Radio Verdad 13-50(trece cincuenta) ang UNTV Radio"
1440	DWDH	Dagupan	17:58	vp	"♪DZRH～" Relay 666 DZRH
1476.09	Unknown PHL		4:30	p	OM FP Talk
1485	(DYDH)	Iloilo	4:58	vp	"DZRH…DZRH..." Relay 666 DZRH
1494	DWSS	Quezon City	17:19	vp	"DW double S"
1512	DZAT	Lucena	18:59	f-p	"DZAT 15-12 Ang Himpilan ng Katotohanan"
1512	DYAB	Cebu	19:03	p	"DYAB Radyo Patrol Balita"
1530.03	DZME	Obando	5:01	f	"Capitol Broadcastintg Center, DZME 15-30(quince treinta) ang Radio Uno"
1538.91	DZYM	San Jose	18:39	vp	"Radyo Asenso"
1548	DZSD	Dagupan	18:08	p-vp	"Ang GMA Super Radyo DZ dobol B 5 9 4(cinco nueve cuatro)" Relay 594 DZBB

RX: EXCALIBUR / ANT: DF (SE)
Night time : Oct. 19, Morning time : Oct. 20

Contributed by Shinya Hasegawa

「日本 BCL 連盟～その設立から解散までを調べて」

中川　弘夫

〔プロローグ〕

私が少年時代に BCL を始めたのは 1975 年 12 月のことであった。その少し前に小学校の図書室で「子供の科学」の記事「ラジオを聞いてカードをもらおう」を読んで、BCL という趣味の存在、中でも海外放送局の日本向け日本語放送の存在を知って、どうしても自分で聞いてみたいと思っていた時に、偶然北京放送を捉えたのが最初であった。日本 BCL 連盟（以下 B 連）はまさにその頃～正確には 1975 年 10 月 15 日に誕生していたのである。

私は設立から遅れること 2 年後の 1978 年 3 月に入会した。そこから 2 年間在籍して、その後 BCL 活動を停止状態となり、B 連も退会したのだと思う（記憶が曖昧）。

ところで BCL を 2000 年に復活して（当時 36 歳）冷静に考えた時、この B 連という団体は一体どんな団体だったのだろうという、極めて素朴な興味関心を抱いた。忽然と誕生し、すぐに六本木の一等地にオフィスを構え専従の職員を抱え、そしていきなり短波という商業誌を発行している。この資金力なり素早い行動力は一体何だったのだろう？一体誰が主導したのか？そしてそれがたった 8 年程であっけなく解散してしまったのは何故だろう？この趣味の復活以来いつかはその謎を解いてみたいものだと思っていた。

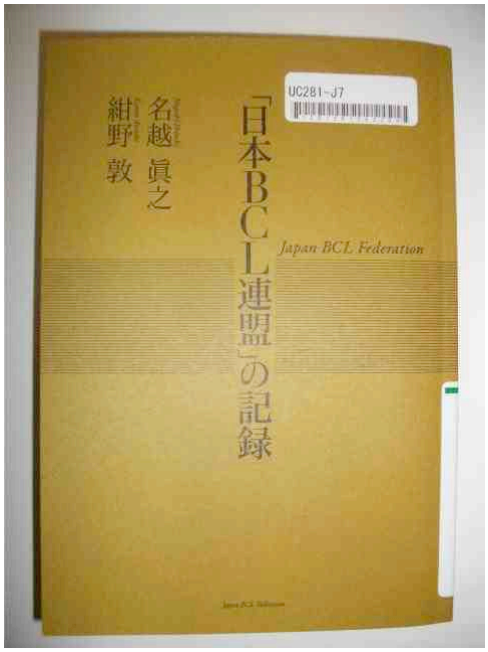
日本短波クラブには 50 年/60 年誌という記念誌がありその歴史を追うことが出来るが、B 連にはそうしたものが無い。日本の BCL ブームを担った主役だった団体が、自身については何も記録を残さぬまま消え去ってしまうのは寂しいのではないかと思っていた。そして誰も残さないのであれば、僭越ながら私が残そうという気持ちになった～ところがご存じの方は殆どいないと思うが、実は「B 連史」は存在したのである！これは後述することにする。

そして今回、この B 連史を PROPAGATION 2 の私のテーマとして取り上げ、本格的に色々と調べようと決心したのであった。

なお日本 BCL 連盟は今回扱う BCL ブーム当時の団体と、一旦解散した後に再度設立した団体に分かれるが、本記事では便宜上前者を B 連と呼び、後者を新 B 連と呼ぶことにする。

〔「記録」の発見〕

B 連理事に就任した方々。NHK 国際局長、電通顧問など錚々たるメンバーが名を連ねる。



「日本 BCL 連盟の記録」表紙

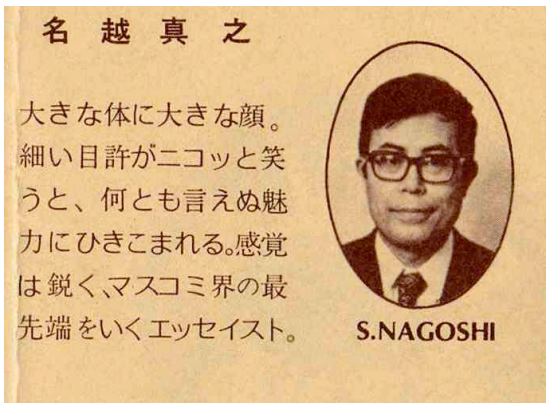
色々調べようと調査を開始したその瞬間に、上述の B 連史の存在に偶然気付くことになった。これは「日本 BCL 連盟の記録」（以下「記録」と表す）というタイトルの、63 ページの小冊子である。著者は名越眞之/新 B 連会長と紺野敦/同 MY WAVE 編集長の共著であり非売品、出版年月日は 2011 年 8 月と、著者名越氏が逝去される 4 ヶ月前である。残念ながら本冊子は限定出版だったとのことで、一般的には国立国会図書館で閲覧する以外にその内容を知る方法は無い。私はその存在を知った直後躊躇することなく国会図書館に直行し、内容を閲覧した。そしてそれを読んで、これから調べたいと思っていたことのあらましを知ることが出来た。一体誰が B 連の設立と運営を主導したのか？結論から言えば、B 連の仕掛け人・立役者は本著者の名越氏であった。本冊子には設立から解散までの記録が時系列で綴られており、読後には「じゃあ何も調査する必要が無くなってしまったかな」と拍子抜けしてしまったものである。

しかしこの小冊子は約 30 年の出来事を記録として簡単に記したに過ぎず、本当に知りたい具体的なシーンまでは記されていない。言ってみれば備忘録のようなものだ。そこで今回この記事をまとめる方針としては、この「記録」をベースにしつつも自分の知りたいことを独自に調べて追記するという方法で中身を肉付けしていくことにした。具体的には名越氏にお聞きすることが出来ない以上、当時の B 連を支えた方々に接触し、お話を伺うことである。その方法により、自分の知りたかったことは概ねまとめることが出来たように思う。それでは以下にその歴史を時代を追って記すこととする。

〔名越眞之氏について〕

まずはその主役であった名越氏について触れぬ訳にはいかないだろう。簡単にその経歴を記すと、1932 年に岡山県に生まれ 1956 年早稲田大学第一文学部卒、株式会社徳間書店に入社し編集に携わる。1967 年に退社後著述業に入る。主として月刊誌への執筆、本の出版などに関わる。著作として「ソ連の真昼と暗黒」（潮文社）、「世界ミステーク旅行」（立風書房）、「低辺絵巻の画工たち」（産報）などがある（以上同氏著書「品格ある日本人」（PHP）著者略歴他より抜粋）。

私は BCL 復活後、新 B 連九段オフィスに資料閲覧に伺った際に、一度だけお目に掛かったことがある。私が 20 年ぶりに BCL を復活したと話すと「短波誌の実発行部数は 10 万部あった」とか「グアム BCL 教室は赤字だった」とかの昔話を懐かしそうに話して下さった。その程度の面識なので人となりを話すことは出来ないが、伝え聞くところを総合するとアイデアマンでバイタリティに溢れタフ。サラリーマンに収まるタイプではなく、多分に個性の強い方だったようである。



名越眞之氏（B 連発足当時の写真）

B 連が当初オフィスを構えたユニ六本木ビル（左）、後に移転した第 6 セントラルビル（右）。いずれも現存

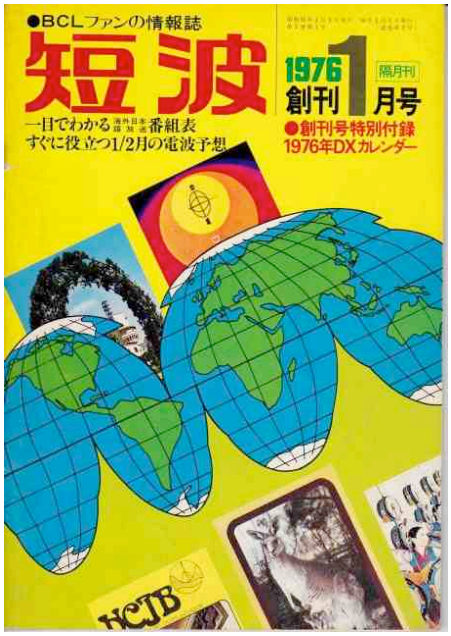
そんな氏が BCL に興味を持つようになったのは 1974 年。NHK の広報課に取材に行った際に、偶然にワラ半紙一枚に書かれた、短波放送による日本向け日本語放送の一覧表を見たことによる。「記録」には「これはオモロイなぁと思った。こんな世界があることをはじめて知って、少しその世界を調べてみる気になった」と記されている。そしてその興味関心が高じて、遂には B 連を立ち上げる立役者となっていく訳である。

〔創成期〕

B 連設立の大まかな経緯は「BCL 実践ハンドブック」（CQ 出版）で読んだことがあった。ただここではその資金源や実質的に誰がどういう目的でこの団体を組織したのかまでは書かれていなかった。私自身は 10 年ほど前に、B 連を後援したのが宗教法人パーフェクトリバティー（以下 PL）教団（注 1）であったと聞いた。なるほど、それほど大きな団体が支援したのであれば、経済力的には問題ないであろう。しかしそのときはそれを聞いただけに留まり、何故彼らが B 連を後援することになったのか、その背景等は知らずに終わった。

「記録」には名越氏が B 連設立を志ざし、PL 教団の当時の教主御木徳近氏を訪ねて趣旨を説明し、鶴の一声で資金提供を約してもらった様子が描かれている。名越氏の大学時代の友人に教団の幹部教師の方がおられ、その伝でアプローチ出来たようであった。

では何故 PL 教団は B 連を後援することになったのか？そこが私の知りたかった一つのポイントであった。取材の過程で「何か特別な目的があったのではないか」という推理もあったのだが、結論的には純粋に「BCL を通じた国際交流」という趣旨に賛同したに過ぎないということのようであった。一般的には出資すること＝特別な目的があるという風に捉えがちだが、当時の PL はマーチングバンドやバトントワリングなどの団体を設立したりして、様々な文化活動を後援していたという関係者の証言があった。併せて教主の子息であった貴日止氏が BCL に対して理解があったというのもポイントであったと思われる。かくして確たる資金源を確保し、同じく出向の形で 4 名の専従スタッフを擁し、B 連はいよいよその舟を漕ぎ出すのである。（注 2）



「短波」創刊号（76 年 1 月）。当初は隔月刊で、同年 5 月号より月刊化

それにしても驚かされるのは、名越氏の類稀なるバイタリティである。団体設立の 2 ヵ月後の 75 年 12 月には短波誌を発刊し、翌年 1 月には会員募集をスタートさせているのである。特に短波誌を商業誌として流通ルートに乗せるなど、普通では考えられないことである。しかしここでも氏は理事として加わっていた NHK 理事の橋本忠正氏の支援により、大手取次店を動かして発刊にこぎつけるのである。私も社会人になってから新規ビジネスの立ち上げに携わった経験を持つだけに、その難しさは良く知っているつもりである。だからこそ尚更その行動力に驚嘆するのである。上述の通りわずか 5 名のスタッフでこれだけの仕事をこなしたのだから立派である。「記録」には名越氏の述懐として「それ（設立）から三カ月間、常駐した名越理事は目の廻るような忙しさだった。ほとんど家に帰った記憶が無い」と記されている。

ところでマスコミ人として名越氏は新団体を上手に宣伝したようである。1 月には朝日・東京新聞、そして平凡パンチ、明星などの雑誌に記事として取り上げられているが、これは受身でなく積極的に広報して、マスコミを利用し認知度を急速に高めていったということであろう。その甲斐あってか 76 年末には会員数 3,781 人を数えるまでに成長している。

〔参加した DXer〕

さて、次に湧き起こった疑問はこの新団体に有力 DXer をどのように巻き込んだのかということである。「ヒト」「モノ」「カネ」そして一番大事な「情報＝ノウハウ」の部分である。これについては創刊号から執筆された赤林隆仁氏より、当時気鋭の若手 DXer が多く投稿していた「電波技術」誌がマニアックになり過ぎ廃刊となり、新たな投稿先を求めていたところに電波技術時代の関係者等から「書かないか」と声が掛かって、渡りに船とばかりに投稿することになったというお話を伺えた。なので DXer としては「発表の場を得た」という意識であり、「B 連に参加した」という意識はあまり無かったようである。

また短波誌編集部も、こうして参加してくれた若き DXer の熱い想いに応えた。同じく B 連設立時から携わった長瀬博之氏は「BCL を放送研究のレベルまで高めようと意気込んでいた青二才の私たちを買ってくれた、硬派の考え方を雑誌の看板色として採用してもらえたことが、私たちと編集部との間が続いた理由でしょう」と証言して下さった。

〔伸長期〕

76 年、77 年は組織で言う伸長期に当たる時期であった。ミーティングを全国各地に立ち上げる、短波誌を隔月→月刊化（76 年 5 月号～）、各地で活躍するスタッフと本部会議で何をやっていくのかの意見を広く集め、協力者のネットワークを拡げていった様子が分かる。例えば NDXC の青木茂紀氏、長谷川清一氏によれば、短波の筆者会議が京都で定期開催されており、そこでの議論や提案は短波誌の誌面構成のみならず B 連の活動の方向付けにも反映されたとの

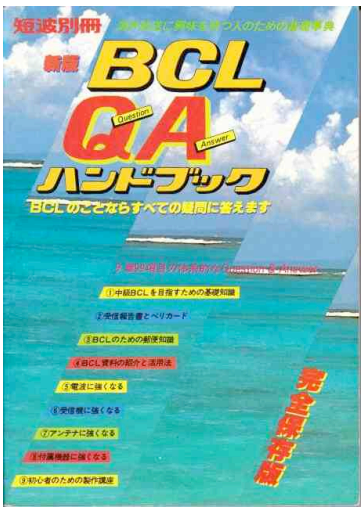
赤林 OM と筆者

BBC 札幌雪まつり特別放送を伝える短波誌。大変ユニークな企画だ。

ラジオたんぱ「BCL 教室」(78 年 11 月～80 年 3 月)

ことである（DX 年鑑の刊行等）。

連盟主催の様々なイベントも、BCL ブームに大きく貢献した。特に当時の人気者であった R.オーストラリア大村夫妻を招いての集いや、札幌雪まつりにビッグベンの雪像を作り BBC に特番を組ませるなどは素晴らしいアイデアであり、非常に高いアナウンスメント効果を発揮したと思われる。DX ペディションも最初の頃は連盟が支援に回った大型のものが中心であり、参加者の大半は小中学生、人数も 50 名前後の大型なものが目立つ。



「BCL QA ハンドブック」には、特に若年 BCL に役立つ情報が満載されていた。

〔全盛期〕

諸資料を総合するに B 連の全盛期は 78～80 年の 3 年間であったと言えるだろう。特に 78 年は凄まじいほどの展開である。2 月の雪まつりは今度は R.オーストラリアの特別放送を実現させ、8 月は中京多度山ペディ、11 月には B 連提供ラジオたんぱ「BCL 教室」が始まっている。そして 12 月には初中級者向けのバイブルとも言える「BCL QA ハンドブック」が発売されている。

7 月には BCL T シャツなども発売されているので、この辺りまでは初中級者にターゲットを絞って育成している様子が伺える。

「記録」を読むとスポンサーから提供して貰った資金は 4 年半で概ね返却していた旨の記述があるので、この頃の B 連の資金はそれなりに潤沢にあっただろうことが推察される。そのためか、そして元々スポンサー団体が「海外との交流」を狙って支援したという背景もあったために、B 連から海外に数回使節を送っている。79 年 8 月には何と子供を海外に派遣する「グアム BCL 教室」まで実施されている。前述の通り「グアム BCL 教室は赤字だった」そうなので、赤字の事業でも実施出来るだけの資金力が、当時の B 連にはあったのだ。これは 79 年のみならず 80 年にも続けて実施していることからも伺える。大規模ペディションも行われた。そして 79 年終わりには今なお金字塔として残る「DX 年鑑 1980」発売に至ったのである。

〔変質期〕

81 年に入ると B 連の事業に顕

BCLT シャツは私も 2 枚買った

COLOR PHOTOGRAPHY

グアムBCL教室 8月3日〜7日 随行記

文と写真 渡辺一(本誌編集部)

南洋のパラダイス 素敵なBCLライフ

灼熱の太陽のもと、コバルト・ブルーの海に遊び、満天の星空のもと、日本とは一味違うDXライフを満喫した"グアムBCL教室"のカメラ・ログ

「グアム BCL 教室」とは今の時代であっても凄い企画だ

著な変化が認められる。イベント事が一気に減っている。そしてB連自体は「短波」「DX年鑑」「BCL QA ハンドブック改訂版」等の出版物を手掛ける出版社的な役割にシフトしているのである。実際B連の年表を見ても分かるように、トピックス

「DX 年鑑」は 1980〜1983 まで 4 冊発刊。今なお日本の DX 界に残る金字塔だ。

になるようなイベントが姿を消している。

これはブームを担った小中学生の興味関心の対象が次に移り、或いは進学・就職等でリタイアを余儀なくされ、残ったのは所謂コアユーザーのみだったということのように感じる。なので少なくともB連が主催して日本語放送アナを招くようなイベントは姿を消し、この時期になると地方ごとにミーティングを中心とした活動が活発になっている。但しミーティングに出席するのはBCLの中でも一部であり、マニアの趣味へと変質している様子が感じられる。

この点については名越氏も「記録」の中で「B連が新たなソフトを提供出来なかった」という反省の辞を述べている。同じユーザーではなくニューカマーを開拓していく点で、工夫の余地はあったかもしれない。実際取材でお話を伺ったOMさんも「一貫して初心者を対象とし続けた山田耕嗣氏のスタンスは一面では正しかったのではないか」と述べておられた。

81 年の記述として「会員数も 1 万人を超えたという記憶がある」とあるが、ここがピークで会員数も減少に転じているようである（注 3）。

〔解散に向けて〕

この頃になるとBCLはマニアが大半であり、82 年には短波誌も最盛期の 2/3 ほどのページ数に減っている。明らかにブームが去ったことを表している。最盛期 18 万部を誇った短波誌の売り上げが落ち、広告収入が減り、会員数が減って会費収入が減りイベント収入も無くなれば、専従職員を雇って虎ノ門の一等地に事務所を構えて運営するのは不可能である。短波筆者陣にも告知はないものの、このままでは長くはないであろうと想像していたそうである。実際取り次いで貰える最低部数を割り込んでいたのを、名越氏の懸命の努力で延命していたようである。

そうした状況の中、「傷が深くならないうちに」という意向であったスポンサーである PL 教団御木徳近教主が 83 年 2 月に逝去して、その子息であったB連理事である貴日止氏がその座を継承することになったのが、最後の決定ポイントとなったようである。B連は遂に解散の方向に向かうこととなり、短波誌は 83 年 7 月号を持って休刊。B連自体も同 8 月に解散が決定され 11 月に解散を迎えることになった。

短波誌は最終号で社告として休刊のお知らせが掲載されたのみであり、状況が切迫していたのか、Hz に至っては最終号で何も告知がなされていない。昭和 58 年 11 月 30 日付で「会員各位」宛糸川会長名で解散の通知が送られたのみである。

〔新 B 連の誕生〕

B 連は一旦解散したもののその後熱心なファンやラジオメーカーの声に押され、翌 84 年 3 月に新 B 連として復活を遂げることになる。「記録」には B 連解散が決定した折に、名越氏は糸川氏に「もし続けるようなことになったら、名越君、君が会長を継続するといい」と命じられたと記されている。以降 2005 年 12 月の実質活動停止まで、日本 BCL 連盟は形を変えて存在し続けることになった。

世界の青木 OM、中波の神様長谷川 OM とともに

〔B 連の功績〕

B 連がブーム当時に果たした功績は非常に大きかったと思われる。私は大きく 3 つの功績があったと捉えている。

1 つ目は BCL という趣味のレベルの向上に寄与したことである。特に短波誌においては、投稿に対して時にアドバイザーからの厳しいコメントが掲載された。SINPO コードのつけ方に始まり、ID を確認しなければ受信したことにならないという極めて当たり前の概念が徹底して指導され、記事のレベルも年を追うごとに高まっている。また例えば受信機のレビューでも当時の入門書でのそれとは全く一線を画していた。各機種の長所のみならず短所も容赦なく指摘され、これによりメーカーから発表される新型機種も性能が飛躍的に高まっていったのである。

2 つ目は BCL の「領域」を大きく拡大させたことである。当時の BCL の対象は「西側諸国」の「短波放送」を聞くことと限定的に捉えられていた。すなわち長波、中波、VHF/UHF そして東側共産圏の放送受信は亜流扱いであったと聞く。BCL という言葉の定義に則れば、対象国や電波の種類を限定するのは奇異な印象を受ける。実際そうして拡大された領域において大勢の BCL/DXer が楽しみを見出し活躍した訳なので、前述の「若き DXer の熱き想い」はまさしく実現されたと言って良いであろう。

しかし何と言っても B 連の最大の功績は、ブーム当時の主役であった小中学生が参加しやすい態勢を作ってくれたことであろう。毎月発行されて書店で買える専門誌「短波」はその最大の功績であろう。これが無ければこれだけ多くの BCL が参加出来なかっただろう。

全国規模でミーティングを組織した功績も大きい。個で楽しむだけではなく仲間と分かち合う、或いは OM がビギナーを指導しともに成長する組織が誕生し参加する機会が出来たことの意義は極めて大きい。ラジオたんぱ「BCL 教室」をはじめ B 連が後援したラジオ番組、ビギナー向け講習会、日本語放送アナを招いてのイベント企画実施等々・・・。B 連がこれらのものを提供してくれなかったら、当時の BCL にとって BCL はこれほど楽しい趣味になっただろうか？私は自分がこの最大の恩恵に浴した世代であったと思うし、それは感謝してもし尽くせない思いである。

〔取材を終えて〕

B 連は設立から解散までの 8 年間を全力で走った。BCL ブーム当時未だ若かった私は、ブームは終わるものだということを知らず、短波誌も B 連も未来永劫続くのだと思っていた。またやりたくなったら再入会し、短波も購読を始めれば良いと思っていた。大人になって復活し、これらが自分のリタイア後間もなく消失してしまったことを知

長瀬 OM を囲んでのインタビュー

って驚いた。ブームというものはあっけないものであるということを改めて知ることとなった。

今回この記事を書くに際して苦労したという気持ちは全く無く、終始高揚した気分で取材を進めていった。既述の通り当時の関係者に色々話を聞かなければ事実が分からないので、事情をご存知であろうと思われる方々に、取材を申し入れていった。年代的には大先輩の方々であり、全く面識の無い方もいた。幸い私は仕事柄そうした方々にアプローチすることを苦にすることは無く～と言うか、取材を口実にそうした方々にお会い出来ることを実に楽しんでいた。インタビューを受けて下さった皆さんも最初はあまり覚えていないからと慎重な方が多かったが、私のしつこさに負けいざお話を聞かせて頂ける段になると、親切に時間を掛けて詳しく話して下さった。そのご記憶は実に正確かつ鮮明であり、記事を書くに十分な情報を頂戴することが出来た。

そうした方々のお話を私一人で伺うのも勿体無く、時には仲間にも声を掛けて同席させて貰い、酒も交えながら話を聞かせて頂いたこともある。その時は単に本記事のテーマのみならず BCL ブーム当時をともに懐古して語るという楽しい時間となった。図らずも先輩世代との交流が図れたことは、望外の喜びであった。

「ご本人は BCL ではなかった」名越氏がいくら興味を持ったからと言って、ご自身の半生を投じて B 連の活動をライフワークとされたそのモチベーションに迫ることも今回最大の関心事の一つであったが、残念ながらここには至ることが出来なかった。また本部の運営に携わった方々も既に故人となっておられたりして、また十分アプローチが出来ず、解明出来なかった点も少なからずあったのは残念である。例えば「雪まつり特別放送」とか「ラジオたんぱ BCL 教室」「グアム/オーストラリア BCL 教室」等の個別の出来事について当時の状況をお聞かせ下さる方がおられたら、是非お申し出願いたいと思う。もし何某かの情報を頂戴出来たら、次年度版本誌で補遺として発表させて頂くつもりである。

名越氏が B 連の仕掛け人であったことは今回の件で初めて知った訳だが、私達に大きな喜びを与えて下さったそのことに改めて御礼申し上げ、改めてご冥福をお祈りしたい。

最後に本記事取材に際して多大なるご協力を賜りました青木茂紀様、長谷川清一様、赤林隆仁様、長瀬博之様、中田信和様の各氏に改めて御礼を申し上げます。また取材時にお付き合い頂いた長谷川眞也氏、宮内聰氏、五十嵐雄希氏の各氏にも御礼申し上げる次第です。

～～～～～～～～～～～～

注１）名越氏は「記録」では「ある大きな団体」とだけ記し、名称を明記していないが、ネットで検索すれば誰でも知り得る事実である。また短波誌には編集人として B 連理事であった「御木貴日止」氏の名前が残っており、少し考えればその関係性に気付くであろう。このように実際的には公知の事実であると判断したため、本記事では団体名を明記することにした。

注２）一部混乱があるようなので記すことにするが、B 連は「社団法人」ではなく「任意団体」である。これは「設立時の役員会で糸川英夫氏が会の性格上は公益法人で進めたいところだが、政府の介入を避けるためにも自由に動ける任意団体で進めたいと提案し了承され、糸川氏自身が会長に就任した」という記述が「記録」にあった。当時の事務局に在籍した関係者からも任意団体であった旨の証言を得ている。

注３）但し「会員数 1 万人」はあくまでも累積の数字と思われる。実質的なアクティブ会員数のピークはやはり 78～80 年になるのではないだろうか。

日本 BCL 連盟年表

年	月	出来事
1975 年	10/15 12/8	設立 短波創刊号発行
1976 年	1 月 3 月 3/14 4/3 5 月 7/25 8 月 8/20～22 9/5	会員募集開始 会誌新春号発行 事務所内に「BCL 相談室」開設 第 1 回名古屋ミーティング 第 1 回関東地区研修会開催（於：全国町村会館） 短波誌月刊化 会誌の名称が Hz に決定 中京地区 BCL 研修会（於：名古屋中小企業センター） B 連事務局海外放送局訪問（北米、欧州他） 大阪 BCL サマーパーティー（於：YTV オーディアム） 短波筆者会議
1977 年	2/5 4/2 7/3 8/6,7 8/27,28	BBC 雪まつり特別放送　2/13 ニューマン氏を囲む会(大阪) 大村さんを囲む会（於：恵比寿区民館）4/29 奈良、5/1 福岡 関西スタッフ会議（於：ホテル南海） 関西 BCL ペディション（於：神戸市摩耶観光ホテル） 第 1 回全国会議（於：都市センターホテル）
1978 年	2/5 7/8 7/15 8/1 8/1～9/15 8/19,20 8/26,27 10/1 10/22 11/25 11/18 12/8 12/23	R.オーストラリア雪まつり特別放送 関東地区チーフスタッフ会議（於：海運会館） BCL オリジナル T シャツ発売開始 表彰制度制定（Hz 賞、優秀ミーティング賞、特別賞） アンケート調査実施 第 2 回全国ミーティング長会議（於：熱海伊豆山） 中京地区ペディション（於：多度山） 関西地区スタッフ会議（於：阪神ホテル） 関西 BCL の集い（於：阪神ナショナルショールーム） B 連提供ラジオたんぱ「BCL 教室」スタート 関東研修会（於：恵比寿区民会館） BCL QA ハンドブック発行 関西ブロック結成式

1979 年	 2/4 6/1～4 7/21,22 8/2～8 8/18 8/25,26 10/13,14 11/23 12/8	大村清・知子の東南アジア放送局見聞録（短波 1～3 月号） R.インドネシア雪まつり特別放送 南米放送局訪問記（短波 4～7 月号） EDXC 総会に御木理事出席 関西サマーペディション(於：滋賀県琵琶湖ロッヂ) グアム BCL 教室 BCL 教室公開録音（於：ラジオたんぱ 6F 公開スタジオ） 中京ブロック DX ペディション（多度山） 第 1 回全国ブロック長会議（於：ホテル高輪） ラジオたんぱ－KZOO 特別放送提供 DX 年鑑 1980 発売
1980 年	2/2 3/29 6/10 8/3～7 8/23,24 12/8 12/27	北京放送雪まつり特別放送 「BCL 教室」最終回 手塚治虫デザイン BCL T シャツ発売 第 2 回グアム BCL 教室 多度山 DX ペディション DX 年鑑 1981 発売 短波 1981 年 1 月号において EDXP 開始（12/8～5/31） B 連事務所六本木から虎ノ門へ移転
1981 年	3/20 9/8 12/8	新版 BCLQA ハンドブック発行 短波 10 月号で「ABL（エアバンドリスニング）」を特集 DX 年鑑 1982 発売 短波 1982 年 1 月号において EDXP1982 開始
1982 年	5/29～6/1 7/8 12/8	EDXC 総会に御木理事出席 短波 8 月号で「ユーティリティ入門」を特集 DX 年鑑 1983 発売
1983 年	3/29～4/4 6 月 11 月	第 1 回 BCL オーストラリアの旅 短波誌休刊 解散

誌上放談・元 KDXC 竹野 OM を囲んで
～BCL サークルの運営と会誌のあり方～

PROPAGATION 創刊号の祝辞文を頂戴した元 KDXC 代表の竹野 OM（竹野伸郎。1964 年北海道出身。KDXC：関東 DXers サークル代表幹事をつとめる。ローバンド AF・LA-DX を中心としたオールマイティーDXer。現在は BCL 活動を休止中。http://www.asahi-net.or.jp/~ms8n-tkn/）にお会いし、あらためて TDXC メンバーと共に会誌創刊を祝う会がありました。そこで竹野さんから、PROPAGATION の感想とともに、BCL サークル運営のこと、会誌のこと、竹野さん本人のこと、たくさんのお話を伺うことができました。ここに誌上放談として再現したいと思います。私は竹野さんと初対面でしたが、それ以前からツイッターやメールでやりとりをしていました。座談会の前と後のメールの一部もあわせて紹介します。

（構成：長谷川眞也）

メール談義・プロローグ

長谷川：こんにちは。TDXC 会誌「PROPAGATION」ようやく完成のはこびとなりました。竹野さんには会誌を引締める素晴らしい祝辞を頂戴しました。本当にどうもありがとうございました！

竹野：じっくり読ませて頂きます！！！！ありがとうございます。早速質問。何故に原稿はモノクロなのですか？レトロの会報らしく、ですかね。

長谷川：当初は印刷製本するつもりでいたので、本文はモノクロで編集していました。Web 頒布版はカラーです。

竹野：了解しました。編集のデザインに加えてカラーになるとそのセンスも出るから難しいですよね。

長谷川：当初は会誌を印刷製本して一般にも販売するつもりでいたので、本文はモノクロで編集していました。その後、会員との話し合いを経て、基本、会誌は PDF で頒布ということになったので、原稿をカラーに作り直しました。それでも「会誌を実物の本にしたい…」という会員のために、印刷版はモノクロのままにしてあります。まだまだ駆け出しで、決めごとがとっ散らかってるところが多々あります。戸惑わせてしまい申し訳ありません。

竹野：あらためて会誌を拝見しました。楽しいですね。「なんでもあり」「楽しそうだろ」「嫌なら読むな」のスタンスが伝わってきます。これこそが私が昔やりたかったことです。

中川：「嫌なら読むな」って、そこまでは思ってなかったけど（爆）、言われてみたらその通りかも知れない。よくぞ本質を喝破して下さった！ぜひ昔の話も聞かせて頂きたいです。それがまた次への活力源になるとおもうので。

長谷川：読後の感想をどうもありがとうございます！「楽しそうだろ」「嫌なら読むな」となると、なんだか閉鎖的なサークルの本のようですが、たしかにビギナーやジャンルに詳しくない読者への配慮が、ほとんど無かったかもしれないです。この点、次回への反省にもしたいです。ただ Naka さんが座談会で

もおっしゃってたように「あくまで会員の自己満足本」なのでどこまで一般 BCL 寄りにできるかは未知数です…。

竹野：やはり自分たちが楽しめる、を優先するのがいいと思いますよ。会員を募集されてますが、それも実は人間が多くなれば多くなるほどぎくしゃくもしてきます。そういう意味でこの手の「自分たちの楽しみ」を見つけるためのメディア作りは、マックスで４～５人が限度かなと。それ以上のサークル化になると明らかに誰かに「義務」「責任」「奉仕」がつきまといます。それを乗り越えてでも本気でサークル運営をやる人がいない限り難しいと思うのも実際です。

長谷川：貴重なアドバイスをありがとうございます。たしかにサークルは少人数でも揉めますよね。おっしゃるように、相互にコミュニケーションが密にできる人数は 4、5 人です。飲み会でも、それ以上の人数だと訳が分からなくなります。ともあれ、いまのところ TDXC は戸塚ローカルサークルという縛りもあるし、現状では読者として楽しんでいる、というような反応がほとんどですので、会員募集に賛同する人はほとんどいないかもしれないと思ってます。「義務」「責任」「奉仕」はキツいですよね。もはや趣味ではなくなります。そうならないレベルで長く遊ぶために、いろいろ考えていきたいと思います。

中川：会員募集は「この会誌を読んで面白いと思い、ペディを中心とした我々の活動に参加したいと思う方」というのが前提ですね。仮に来てくれるとしてもごく僅かだと思いますが、それでも今の人数の倍くらいは欲しいですね。5 名では如何せん情報が薄く、会誌を作るにしてもバラエティに乏しいし刺激も少ないです。会誌をさらけ出して仲間を集める～これは過去自分がやった手法を繰り返しているに過ぎないと思っています。私は自分の HP で好き勝手書いてバーチャル書籍なんかをアップして、それを面白いと思ってくれた方々（宮内さん、長谷川さん、五十嵐さん）を友達としてゲットした訳です。勿論お三方以外からもご連絡頂きましたが、そこはそれっきりで終わってしまう方のほうが圧倒的に多かったです。この人とは深く付き合いたい！と思える方は一握りなんですよね。でもその人を見つけるとこんなに長く楽しい思いが出来る訳です。

竹野：これは、これは相変わらず中川節だなあ（笑）。結局つき合うのは DX 系の人、になるんだけど、そう思う自分が大嫌いだった、当時は。それを打ち消したいために、なんでもありの会報をやりたいと思ったんだよね。あと、先に自分で書いていて否定するようで申し訳ないけど、正に KDXC は自分で「義務」「責任」「奉仕」をどうしてもやりたかった。それほどまでに会報を初めて見た時、最初にミーティングにいった時のウエルカムな姿勢は泣きそうに嬉しかった。 まずはそのようにウエルカムな体制を作るという意思をもった人間がいないとそういう人間関係を作る人がいないとサークル運営は長続きは出来ないのかなという思いもあったります。趣味だから、ってのは理想論であって、結局は人間関係の集まりだから、それが職場のようなバックボーンで金銭感覚がある関係でないだけに一層のエゴが出やすい。だからこそ、それにはどこかでしっかりアイデンティーを持ってやらないとぐらぐらになる。あくまでもクラブが大きくなった時、の話ですけどね。

長谷川：TDXC は、できるだけ義務とか奉仕にならないよう「ゆるい繋がり」を意識してますが、それはサークルをつくる以前からつきあいが長いメンバーだから、可能なんですよね。家が近いというのも、お互い気兼ねがいらなくなる要素のひとつです。会がある程度の規模になっていくと、そうはいかないだろうと思います。本気で「サークルをオープンにして、幅広く会員を集めて運営していきたい」と考えたら、もっと相当の覚悟（義務感や奉仕の気持ち）がいります。今回の会誌は、いつものメンバーのいつもの活動の記録にするとあっという間に内容がマンネリ化して行き詰まりそうだった（メンバーが HP やブログで発表してる内容ともカブリそうだった）ので、意識して多方面の話題の記事を書くようにつとめました。もともと

自分自身「なんでも屋」なのでそれ自体は面白い作業でしたし「ウエルカムな会誌にするための義務感」という気分も少なかったように思います。しかし自分自身の引き出しは限られてるので、今後会誌が続くとしてもこういう紙面になるかは分かりません。「DX 系の仲間だけで集まりたい」という Naka さんの意向と「ウエルカムでなんでもあり」の今回の会誌は、ちょっと矛盾してるかもしれないです。コテコテの DXer を集めるなら、もっと尖った内容のほうがアピールできたかも。

中川：議論をしていて、各々の「サークル」の位置付け方に相違があるように感じました。そもそも TDXC は単に近隣で知り合えた 3 人が戸塚という極めてローカルな場所で飲めたことを喜んで、「サークルってことにしちゃいます？」と話したことが発足のきっかけでした。その場のノリですね。サークルと言えば会報だろみたいな議論となり、そこで会報作りが始まった訳です。そんな経緯ですから、少なくとも私的にはこのサークルを大きくしようとか全国組織にしていこうとかいう考えは全くなかったです。「会員募集」と言ってもあくまで現メンバーの延長線です。私は DXer だけを集めたいと思っている訳ではないのですが、「興味の共通項」がなければつるもうという気にならんだろうとは思っています。「珍しい局を聞きたい」「遠くの局を聞くことにロマンを感じる」方であれば、その部分だけでも共有し合えれば付き合えると思います。考えてみればこの議論に加わってくれてる竹野さんもそうですね。ペディに行っても聞きゃしないし DXer としてはもはや終わっている人、言ってみればジジイみたいなもんですが（笑）、ここまでつるんでいられるのは何故だろう？底流には「DX への関心と造詣」、そして今回は「DX サークルを運営するということ」、また「会報を作る楽しさ」という点で興味関心の共通項がある訳です。そういうベースの部分さえ共有できれば、あとはアニソンラジオを聞こうがその他の相違は許される訳です。テーマは探せばまだまだあるのではないでしょうか。私なんか思いつきですが、例えば回顧系では「日本 BCL 連盟の発足から解散まで」「日本の BCL ブームに貢献したミズホ通信」辺りを取材してみたいですし、現在系では「スモール DDFA を使ってのチョイペ」とか研究してみたいですね。

竹野：「会員募集」とかあったんで少しつっこんでみましたが中川さんの書かれているのも理解出来るので、それ相応にしかならないし、片意地はってやるもんでもないのでゆったり、やって下さい。中川さんから言われるまでもラジオを聴く気なんてさらさらないけど、こういうどうでもいい話は大好きなんだよね。基本的に自分が昔、楽しんだ趣味を現在も楽しんでいる人がいる、ってことがとっても嬉しいんだと思います。これは分かる人しかわからんかな。まあ懐古主義の老人みたいなもんだな。今となっては何も出来ないくせに生意気なことだけ言うオヤジ、ジジイだな、確かに。結局、現役世代から見れば「お前は結局何も聞いてないんだろう？」って言われるのは良くわかるし、２０年前には俺もそう思ってた。（笑）

長谷川：私は「サークル」という概念、どこかぼんやりしたイメージで考えていたようです。Naka さんや竹野さんはサークル運営の経験者でらっしゃるし「ウエルカム」なサークル活動の苦労や限界を知っているお二人だからこそ、サークルの位置づけが明確だと思います。今回「ウエルカムな会員募集」を載せたのは、最初から排他的で窓口を狭めてしまうと近寄りにくいサークルの印象を与えてしまい、参加してみたいというイメージに繋がらないかも、と思ったからです。安易に「みんなにいい顔したかった」のかもしれません。反省です。面白そうな集まりがあったら自発的にコンタクトを取るくらいの熱意をもった方でないと、サークルのメンバーとしてお付き合いが続きませんよね。「当サークルに興味のある方、ご一緒にラジオを聞いてみませんか？詳細はご連絡下さい」くらいのほうが良かったかもです。

竹野：いえいえ大丈夫です。ウエルカムで問題ないです。反省することなんてありません。このような仲間の出会いの場を提

供することは素晴らしいと思います。今後も楽しんでいける仲間が増えます！！間違いありませんよ。まあ、俺みたいにラジオも聞かないオヤジもくるかもしれないけど、それはそれで楽しいですから！お気軽で行きましょ！

中川：そうそう。まずスタンスはオープンで良いと思います。私が言いたいのは間口は広くするけれど、本当に仲間に入って来ようとする時にはある種のフィルタを通した方が良いのではということです。実際活動してみて合わなければ、自然に離れていくんでしょうね。

長谷川：1 年目のひよっこサークルだし、サークルのスタンスや会誌の方向性もこれから定まってくるでしょうね。

座談会・竹野さんを囲む会

2013 年 9 月 3 日（火） 18:30
手作り居酒屋　甘太郎川崎駅前リバーク店（川崎駅前タワーリバーク 21F）
参加者：竹野 伸郎　中川 弘夫　宮内 聰　長谷川 眞也（敬称略）

話はいきなりトップギア

竹野：長谷川さんて、どんなとこ聞いてるんですか？いろんな難しいとことか、カッコいいとこ？中波とか聞いてるの？

長谷川：ちょろっと（笑）。家じゃ聞こえないんで、ペディ行って中波聞いたりとか。家ではE スポとかです。

竹野：昔と違って短波も聞こえないからね、中波くらいしか聞くとこないかな。

長谷川：短波はあまり聞かないですね。今から 10 年前くらいに（BCL を）復活したんですけど。

竹野：ああ、じゃあちょうど俺と入れ替わりなんだ。だから長谷川さんを知らなかったんだね。俺が抜けたのは 10 年前だから。

中川：10 年前？竹野さんのブログ更新は 2008 年で終わってるよね。（注：Takeno-DXing http://takeno-dxing.asablo.jp/blog/）

竹野：いや、KDXC から手を引いたのが 10 年くらい前だから（注：KDXC。関東 DXers サークルの略。1980 年 9 月発足、現在サークルとしての活動は休止中）

長谷川：復活してすぐ KDXC に入会して、「メールこーるさいん」を取ってたんですよ。（注：メールこーるさいん。KDXC 会誌「CALL SIGN」のメール配信版。創刊は 1998 年 11 月、最終は 2007 年 9 月の 344 号。当初は隔週、2002 年から週刊となった。また KDXC は、月刊の一般向け英語メールマガジン「JAPAN PREMIUM」も発行していた）

竹野：「メールこーるさいん」懐かしいですね。

長谷川：復活当初はとりあえず短波を聞いてたんですけど、中川さんと知り合ってからは「ペディで中波 DX」がメインになりましたね。

竹野：俺はそこ（DX ペディ）にハマらなかったから。ペディは KDXC で行ってたけど、いつも酒飲んでたんで（笑）。

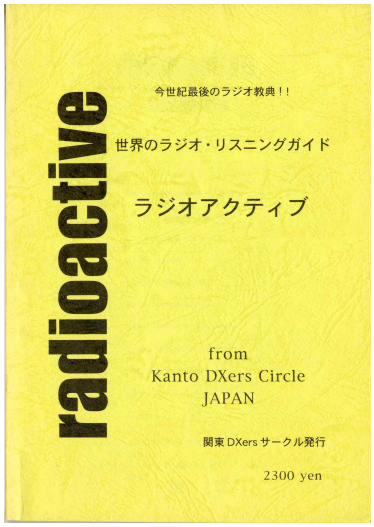
長谷川：泊まりがけで飲みですか。

竹野：「せっかくラジオ聞きに行ったのに、酒飲ましてどうするんですか！」とサークル関係者に真顔で怒られてた。大きなお世話だって（笑）。

長谷川：ペディでは真面目に聞かない？

竹野：町田に住んでいた当時は、家でも 40m くらいのワイヤーアンテナで結構聞こえてたんで。90mb もアフリカ局とかいっぱいいたし、中南米も今より聞こえてた。短波放送が面白かったし、短波しか聞いてなかったね。ペディは、酒飲みに行くところ。

長谷川：今でも町田にお住まいですか？



竹野：狛江に引っ越しましたが、単身赴任なんで普段は居ません。ラジオは部屋に並べてるだけで。

中川：狛江はおろか、どこでも聞いてないし。

竹野：いいじゃない別に（笑）。

長谷川：今は BCL を休止してるだけですか？それとも完全に足を洗っちゃった？

竹野：休止とかいう意味がよく分からない（笑）。足を洗う気もないんですけど。聞きたくなったら聞くだけで、今はそういう気にならないだけ。

中川：それにしても、聞きたいと思わない期間が長いねえ。

竹野：あんまり聞きたいと思わないね。

長谷川：時々そういう「波」ってあるんですか？聞きたくなくなる時期が。

竹野：2008 年から全然聞いてないから。

中川：禁断症状起きないの？

竹野：起きない（キッパリ）。半年に一回とか、ラジオ全部に電源入れて、エージングはしてますけど。

一同：（笑）。

竹野：この PROPAGATION を読んで、長谷川さんすごく活躍されてるから、（会誌作りが）楽しくてしょうがないんだろうなあ！と思ってね。

長谷川：そうなんです。本作りをはじめたら結構ハマっちゃって。最初の時期に原稿が集まってこなかったんで、僕一人でいろいろ書いちゃってました。

竹野：中波聞いてる人って、「ただ聞くだけ」の人が多かった。DX 聞いて、ある一定の友達だけで情報交換するだけ、みたいな。長谷川さんが違うのは、書いてる内容が「FM 局訪問」だったり、いろんな記事があって。俺と同じで「書きたい症候群」が凄まじいんだな、なんか自分でやりたくてしょうがないんだな、と。俺もそうで、クラブ運営なんてしてたから。自分で原稿をいろいろ書きたいけど、出来ないところは人に書いてもらったりしてね。クラブのみんなが記事を書きたがってたのは分かってたし。

長谷川：そのころの執筆者の方々は、今…。

竹野：もう書いてないよ、全然。今はつきあいもないし。

中川：名前しか知らないけど、皆さんどうしてるのかね。

長谷川：PROPAGATION は、PDF のデータと、実際の本と、違いますか？

竹野：いや、もう全然違うよ！やっぱり本だよ！

長谷川：ですよね！

竹野：本でないとぜったいダメ！中身はモノクロでもいいんですよ。本になっていることの素晴らしさ、手に持った時の感覚は、何物にも替えられないよ。

長谷川：そうですよね、そうですよね。

竹野：しっかり編集されてるし、素晴らしい！

長谷川：データで原稿を書いても、常に見開きの本を意識してました。

竹野：昔、「radioactive」は Mac で PageMaker とか使って編集してたけど、編集そのものが楽しくてね。（注：radioactive。1998 年 KDXC 発行の DXer 向け書籍で、総合編集は竹野氏。DX 年鑑を彷彿とさせる受信ガイドや、受信機カ

タログなど読み物も豊富）（注：PageMaker。Adobe の文書作成ソフト。現在のバージョンは 7.0）

中川：原稿は、みんなデータで入れてるの？

竹野：だいたいはテキストデータだったけど、ある方のはワープロ印刷だったから、スキャンして OCR で変換して。でもボケるから修正したりで、面倒だったねえ。（注：OCR。Optical Character Recognition、光学文字認識。印刷文書のスキャン画像を、コンピュータで文字データに変換するソフトのこと）

長谷川：PageMaker みたいな編集ソフトを使ったほうが楽ですか？

竹野：楽だし、俺は PageMaker 好きだったんで。

長谷川：僕も Mac ですが、編集は初めてでよく分からなかったんで、とりあえず Word を使ってました。

竹野：Word でもできますね。PageMaker のあとに InDesign という編集ソフトが出てきて。（注：InDesign。Adobe の DTP ソフト。現在は Creative Cloud で使用する InDesign CC がある）写真をこう入れて、こうやって…とか、当時はデジカメが無かったんで、写真をスキャンして拡大したら汚くなっちゃったり。とにかく編集が楽しかった。

長谷川：文章をどこに配置するか、小見出しを考えたり、とか。

竹野：そうそう、難しくてね。ところでハムフェアは行きました？

中川：今年は行ってない。

長谷川：毎年、ハムフェアの日程が町内の盆踊りと被っちゃうんですよ。

一同：（笑）。

竹野：去年だっけ、元 KDXC のメンバーに会場で会ったんだよね。みんな相変わらずだったよ。

中川：そろそろ「DX クラブ論」、はじめますか。

竹野：PROPAGATION は、何人くらいが読んでるの？

長谷川：それが全然分からないんです。中川さんのサイトにカウンターを付けてもらったんですけど…。

中川：う〜ん、上手くいかなかった。すいません。

話は会誌、サークル論へと

長谷川：KDXC は、会員参加希望はコンスタントにあったんですか？

中川：X1 で「CALL SIGN」売ってたし、そこで知って入った会員も多かったかな。（注：カクタ X1。1976〜1999 年に秋葉原で営業していた（株）角田無線電機のアマチュア無線・BCL 専門店）（注：CALL SIGN。1980 年 9 月から発行の KDXC 会誌で、1997 年 4 月には 200 号を達成）

竹野：KDXC 会員はピーク時に 230〜260 人くらいいたんだけど、クラブは基本的にすべてにウエルカムじゃないと「クラブ」という名を語っちゃいけないと思う。どんな人でも仲間に入れてやっていこう、というのがクラブ運営だと思う。

中川：社会勉強だね。

竹野：そうね。サークルを先代運営者から受け継いできてるし（受け継いだ会員も）好き嫌いしてはいけないと思って運営してきたから。まあその分カネもあったし、好きなコトをやらせてもらっていたね。「radioactive」も売れたし。

長谷川：「radioactive」は会の予算で作っていたんですか？

CALL SIGN

KANTO DXERS CIRCLE
－海外放送を楽しむ会－
定価５００円（本体４８５円）

ＢＣＬ／海外放送リスニングの情報誌

特集＝ ＶＨＦ ＤＸ 入門講座（１）
新企画＝ Fun! Fan! れいでぃお
［特製］よく聞こえる英語放送スケジュール
［最新］海外日本語放送スケジュール
ルポ＝ 善光寺ＦＭ訪問記

魂のゴング鳴れ号

● DX REPORT
● DX NEWS
● NEW SCHEDULES
● リスニング ダイアリー
● 日本語放送パラダイス
● VCL Gorner

129
1991 MAY

海・外・放・送
今月の聴きどころ

V.O.Free China (Taiwan,EC)
1100－1300　15345kHz

R.New Zealand Int.(EC)
0611－1530　17675kHz

★経営の放送のため休日にしか聞けないので、私は主に土曜日に聞いている。アジアの他の局と比べ、この局の英語は音調を発音で聞き取りやすい。番組内容は、台湾の国内ニュース、"Trend"という社会動向のレポート、料理番組、観光案内、中国語講座等々、バラエティに富んでいて楽しめる。私は特に"Trend"が好きだ。土曜日の1115から15分間の番組だが、台湾の若い人達に流行しているものなどのレポートをインタビューを取り入れた番組として放送している。その他の番組も宣伝臭がなく好感が持てる。なお、1200からはパラで 11745kHz でも放送している。
（渡辺三平）

★すっかりお馴染みとなった R.New Zealand Int. が経から夜にかけて良好に入感している。英語と現地語が混ざって放送されているが、南太平洋の陽気な明るさがそのまま番組に反映されており、ＤＪも独特な雰囲気を持っている。日曜日に放送している"Kiwi Music Show"は日本では聴けない音楽も耳にすることができ、ＢＣＬの楽しさを感じさせてくれる番組である。同局のＱＳＬカードはニュージーランドの風景の写真を使ったものが多く、集めると小さな写真集みたいになる。夜の 9700kHz も良好なので、受信したことのない人はダイアルを合わせてみて欲しい。
（城　武司）

ＢＣＬの「いま」を面白くします

竹野：うん。300〜500 部くらい売れたんで、クラブの運営にもすごくプラスになった。X1 からも感謝されました。
長谷川：委託販売で？
竹野：X1 からはいつも感謝されてましたよ。今回の PROPAGATION についても、別に好きな者同士が集まって本を出しました、でもいいのかなと思ってたから。TDXC という「クラブ」や「サークル」にして、入会希望とかワーッと来たらどうするのかな、と。
長谷川：実は、そこはすごくアバウトに考えていました。サークルというからには会員募集をかけないと、と思ってて。でも中川さんの言うような「TDXC に共感できるくらいのマニア」を中心に集めたい、という希望もあって。
竹野：閉鎖的で、自分達だけの閉じた世界でやっているサークルが嫌でね、KDXC はオープンにする形にした。KDXC 入会にはルールは無いです。会誌の読者なだけの会員でも、いいと思ってた。カネさえ入れてくれれば（笑）。
宮内：マニアを会員に集めたいとしたら入会のハードルを高くするとか。たとえば BCL 検定。
長谷川：合格しないと入れない（笑）。
宮内：検定のテキストを作って売ったり。いや、「テキストは無い、過去の短波誌を見ろ」（笑）。
中川：「日本語放送のアナウンサーをフルネームで答えよ」とかね。知らねえっての（笑）。
長谷川：会の運営に関しても、トラブルメーカーの会員の対処とか、会員数増加の対応とか、あんまり考えてませんでした。そもそも「戸塚のサークル」と銘打ってますし、あんまり会員希望も来ないだろうと思ってて
竹野：地域限定みたいなイメージだしね、そういう意味ではよかったんじゃないですか。
中川：それにしても、会員募集に誰も来ないっつうのは寂しいよねえ。（注：2013 年 8 月の PROPAGATION 発行以降、2013 年 12 月時点で TDXC 入会希望者はゼロ）
竹野：（笑）。
中川：だってさあ、なんかさあ…「感銘を受けました。戸塚から遠いですが、ぜひ仲間に入れて下さい」とか、ひとりぐらいあってもいいじゃん。
長谷川：なんででしょうねえ。
竹野：会誌の感想とかは来てないの？
長谷川：僕のブログの会誌発行記事にコメントくれた方のものと、会誌発行のお知らせを書き込んだ各掲示板へのレス、僕個人に届いたメールなどがありました。（注：BCL 再入門。http://bclguide.exblog.jp/）あと、いろんな BCL のブログに書かれた個々の感想とか。「おもしろかった」という意見がほとんどです。記事の具体的な意見や感想なんかは、特にありませんでしたね。
中川：「仲間に入れてくれ」っていうのなかったの？
長谷川：なかったですね〜。
一同：（笑）。
中川：やっぱり BCL って盛り下がってるよね。誰のブログにもレスがつかなくなってきてるし。
長谷川：ただ、影山さんの掲示板に書き込んだ「会誌発行のお知らせ」へのレスや感想が、ほかと比べても多かったんですよ。（注：影山敦久。掲示板 KAGEYAMA BCL COMMUNICATION PAGE http://6103.teacup.com/akage/bbs 主宰で、ΔLOOP アンテナシリーズの考案でも知られる）狙っていたマニアックな BCL の反響よりも、もっと一般的？な BCL の反響のほうが多かった印象です。
竹野：たしかに、この会誌にはマニアックさは無いよね。ただ単純にラジオが好き、というような内容で。
長谷川：ウェルカムな感じで記事を書いてたんで…。
竹野：それでいいと思うんですよ。それ以上でもそれ以下でもないというか。俺はそういうのが楽しいと思うんだよね。
長谷川：実際、楽しかったですねえ。
竹野：こういうのを作ろうと思う気持ちそのものが楽しいよね。一番楽しいのは、なんといっても総合編集している人間だし。
長谷川：そうかもしれないですね。自分でどうにでもできますから。
竹野：会誌、ペーパーにはしてないの？本にしてハムフェアとかで売ればいいのに。
長谷川：そういう話もあったんですけど、TDXC 内で相談して本としては刷らないということ

になりましたので。でも、刷って売ったら、読者からの反応も変わるかもしれないですね。ネットで読む層と、本で読む層と違うでしょうし。あと売らない理由としては、この本は「戸塚の話題」に限定してる面もあるので。

竹野：いや、それは関係ないよもう「ラジオ」って名目つければみんな買うから（笑）。いいんじゃないですか、本を売って次の本を作る資金にすれば。

長谷川：CALL SIGN は、本からメールに変わっていったじゃないですか。読者層も変わっていきましたか？

竹野：あれもいろいろ反発とかありましたねえ。

長谷川：本のほうがいい、という会員が。

竹野：いっぱいいましたから。メールにしようとか、俺が全部考えてやっちゃったんだけど、ペーパーメディアを残したいというのは最後まであった。でも負担が多すぎる。200 人の会員に本を配布をするというのは結構キツいんですよ。発送作業もやりましたが、封筒に入れてシール貼って昼休みに郵便局に持っていって…大変なんです。

長谷川：丸一日作業になったり？しかも毎月のことだし。

竹野：でも会誌を楽しみにされてる方がいっぱいいたんでね…まあ胃が痛かったです。で、猶予期間をもうけて（本の発行とメール配信と）パラでやってたんだけど、それはそれで問題があって。「なんで両方で（情報を）流すんだ」「本を中心にしろ」って、いろいろ文句を言う人がいたり。最後までできなくて、後半の発行業務をお願いした中川さん達には、申し訳なかったなあと思ってるんですけど

中川：まあ、毎月は無理でも、季刊とか、半年に一度とか、年に一度とかにして、（会誌本発行を）残せばよかったねえ。

長谷川：「メールこーるさいん」は、最初は読み物とかあったんですか？僕が読んでた時はログばかりでしたが。

竹野：そう、ログばっかりだったからこそ反発する意見が多かったんですよ。「なんでログをメールで先に流すんだ」と。ペーパーメディアは 1 ヶ月遅れなんだから、しょせんデータとしては（古くなって）活用できない。だから会誌とメールを同時進行でやって、会誌は「データのまとめ」としたかったんだけど、そこを理解してもらえない方がいっぱいいて。

長谷川：まあ、そういった読者や会員の反応も含めて、やってみないと分からない事ばかりだったんで…。会誌を発行して 1 ヶ月だし、まだよく分かりません。

竹野：俺がやってた時代（1990 年代）には BCL ブーマーの反動みたいなのがあって、一度やめてまた入ってくる BCL がいっぱいいたんですよ。（注：竹野氏は 1982 年から大学受験・就職で一度 BCL から遠ざかり、1991 年に復活している）今現在って、どういった BCL が残ってるのか、よく分からないところがある。90 年代当時の BCL は基本的に「フツー」の人が多かったんで、そういった意味では（サークル運営も）やりやすかった。一回 BCL をやめる人っていうのは、わりと普通なんですよ。

長谷川：「BCL 再入門」にまとめてある、会誌の感想をくれた方の多くは、ずーっと BCL やってる人ですね。（注：BCL 再入門・PROPAGATION 発行後 http://bclguide.exblog.jp/20579220/）

竹野：10 年くらいやめてた俺からみても、ずーっとやってる人っていうのは、感動する！（笑）

長谷川：今現在の BCL 人口は「ずーっとやってる」方は 2 割くらいで、あとは「普通」の方だと思います。

竹野：あとね、CQ 誌とかでも「カムバック組」がよく取り上げられてるし、BCL の世界でもカムバック組に期待したいですよ。でも、アマチュア無線は一対一の交信で成り立ってるものだけど、BCL はいかんせん放送局が相手だから。そもそも放送局が聞こえてないと。中南米局やアフリカ局も出てないし、49〜60mb も絶望的。中波になっちゃうと、家じゃ聞こえない。

長谷川：ハードルが高い。

竹野：そう、いきなりハードルが高い。

長谷川：短波は手軽に聞けるけど、今ホントに聞こえないですし。

竹野：聞くべき対象が無いとねえ。

長谷川：これじゃ（BCL は）つまらないですよね。

あっちこっちに話は広がり

（つまみの枝豆から、だだちゃ豆、ずんだの話題になり…）

竹野：秋、これから温泉シーズンですから。来ませんか？山形いいですよ〜接待しますよ！私の家に来ていただければ。（注：竹野氏は山形に単身赴任中）

長谷川：いいですねえ。

中川：ペディやれる？ペディ。アンテナ張れる？

竹野：張れねえよ（笑）。俺のペディは酒飲みペディだから。ラジオなんか聞いてたら怒るよ（笑）。

長谷川：まあ、ラジオはPERSEUSが聞きますから。

宮内：で、あとで解析をする。

竹野：それのいったい何が楽しいのよ。

一同：（爆笑）。

長谷川：ペディは飲むんですよ（笑）。

中川：あんたの理想じゃん（笑）。飲んでラジオも聞ける

竹野：リアルタイムで聞くのが楽しいんであって、後から解析して聞いても楽しくないし。

中川：そんなことないよ。家で「イヨッシャー！」とかやるよ。（注：珍局のID確認時、思わず取るガッツポーズ）

長谷川：家でやりますよね、「Wコール、キター！」

竹野：その場で感動したくないの？

中川：感動できればいいけど、そん時は飲み会で楽しんで、家帰って聞けば、楽しさ2倍じゃん！

長谷川：以前はその場でガッツリ聞いてたんですよね。

中川：7030とかで。（注：AR7030。1996年に発売された、英AOR最高峰のレガシー受信機。中波DXerに愛されてきたが、2008年に製造中止）

長谷川：変わりましたよね、環境が。

竹野：（ペディに行ってみて）それは違う、と思ったよ。なんでクルクルダイヤル回してないんだ、と。アイドルとか聞いてるし（笑）。（注：2013年2月に茅ヶ崎市柳島キャンプ場で開催されたDXペディで、参加した竹野氏に喜んでもらおうと中川さんが宴会中にアイドルソングを流した）

中川：それはあんたの接待だよ（笑）。他にもアイドルオタクがいたし。

長谷川：コンディションが良かったら、その場でもラジオ聞いてますよね。

中川：いや、帯域記録しちゃってるなら、聞いても聞いてなくても同じ。（聞かずに）その瞬間を楽しんだほうがいいよ。

竹野：しかし…こういう飲み会健全でいいね。

中川：涼しいし個室だし。

長谷川：このロマンティックな景色を肴に。

竹野：人生とBCLについて語る？全然興味ないんだけど俺。みんな頑張って（笑）。

中川：そんなことないよ、顧問になったんだから。TDXC顧問！

竹野：なにが顧問だよ（笑）。

長谷川：ご意見番として、毎回会誌に書いていただけますか？

中川：なんか書いてよ。昔ばなしでもいいし、書きたい事があれば。書きたくなかったら書かなくていいけど。

竹野：そう言われると俺、絶対書いちゃうじゃんよ（笑）。

宮内：（書くのが）好きなんですね。

長谷川：PROPAGATIONの祝辞が、本当によかったんです。

竹野：目次をいきなり見せられてさ。でも目次を見ただけで、これは面白そうだと思ったから

中川：実は、書いてくれると思ってなかった。

長谷川：「ラジオはもう興味ない」って言ってたから。

竹野：興味ないよ、全然（笑）けど、俺は今は（BCLを）楽しめる環境じゃないけれども、自分がやってた趣味を今でも楽しんでやっている方がいたら、それは嬉しいし、お役に立ちたいと思ってますよ。

長谷川：竹野さんが、BCLを一時中断して、90年代に復活した時のキッカケって何だったんですか？

竹野：俺が東京に就職で出てきたのが1987年。で、いろいろ飽きてきた頃に偶然X1でCALL SIGNを見つけて。NRD-535とか出てきて、またラジオに興味が出てきた時期だったんで、一度ミーティングに行ってみたんですよ。（注：NRD-535 1990年に発売されたJRC製の

通信型受信機）そのときにメンバー皆さんがウェルカムで歓迎してくれたから、ミーティングが楽しくて。だから、ラジオでもなく、DX でもなく、クラブだったんですよ。ラジオを聞くのが楽しい人間達の集まり…そこが面白かったし惹かれた。一ヶ月に一回、ラジオだけのミーティングで酒が飲めるのが楽しくて仕方がなかった。

長谷川：当時はラジオ以外に趣味はありましたか？

竹野：アイドルぐらいで。

一同：（笑）。

長谷川：すごいアイドルマニアって伺ってますけど。

中川：ハッピとか着てた？松田聖子とかの。L・O・V・E〜！

竹野：着てねえって（笑）。

長谷川：特定のアイドルとかいました？

竹野：堀ちえみが好きだった。その後は岡田有希子。アイドルは今でも聞いてますから。

中川：最近は誰がいいの？

竹野：「あまちゃん」て知ってる？あれのおかげで、今 80 年代アイドルブームなんだよ。もう、「俺にいわせろよ！」みたいな。

長谷川：盛り上がってますよねえ。

竹野：今日も朝から観ちゃってさ。

中川：そういえば、この三人（中川・竹野・宮内）同級生だ

竹野：あっ、そうなんだ。長谷川さんごめんなさい、年寄りばかりで（笑）。（注：長谷川は、このお三方より 4 つ年下）

中川：まったく時代がシンクロしてるからね。アイドル誰がいいかとか。ロマンポルノ誰がいいかとか（笑）。

長谷川：ギリギリ大丈夫ですよ僕も。「映画の友」とか読んでましたから。（注：映画の友。近代映画社が発行していたピンク映画専門誌。のちに「EIGA NO TOMO」のタイトルに変更された）

一同：（爆笑）。

長谷川：「アクトレス」とか。「セクシーオールナイト」の副読本ですから。（注：アクトレス。リイド社が発行していたビジュアル映画マガジン。ポルノ映画を中心としたアダルト雑誌）（注：セクシーオールナイト。ラジオたんぱで 1982 年から 84 年の土曜深夜に放送されていたアダルト番組。ポルノ映画の音声やテレホンセックスなど、過激な内容で話題になった）

竹野：あ〜わかるわかる。

長谷川：あれを聞きながら、この女優さんはこの人なんだと。この映画のこと言ってるんだ、この映画の音声なのか、と。

中川：アハハハ！

竹野：それはいいなあ（笑）。

長谷川：セクシーオールナイト聞いてました？

竹野：一本だけ録音テープ持ってますよ。

中川：CM もすごいよね、コンドームとかの。あれが電離層に乗って短波で世界中に飛んでくんだよ（笑）。

宮内：どういう時代だったんだかねえ（笑）。

竹野：北海道だと高い周波数はスキップしちゃって、3925（kHz）しか聞けなかったなあ。

長谷川：ラジオたんぱの送信所北海道にもありませんでしたっけ？

竹野：釧路にあるけど、あれ東京向けだったんじゃないかな。仕事で水晶取り扱ってて、ラジオたんぱ向け周波数の水晶振動子仕様書とかありますよ。トロピカルバンドの PNG 局周波数リストなんかもあって。周波数見ると、おおっ見たことあるぞと。

宮内：3305 とか？（注：NBC Radio Western 3305kHz）

竹野：NEC なんかでトランスミッターの供与、ODA やってるんですよ。

宮内：PNG 追いかけてた時期があって、そういえば PNG 局の QSL に「NEC の○○さんによろしく」て書いてあった。

竹野：そうそう。NEC 製 Transmitter…とか書いてあったね。

中川：RRI とかは？

竹野：RRI 局ではないなあ。PNG。

宮内：Solomons の 3322.5 とかね。わざとズレて出てた。（注：Radio North Solomons 3322.5kHz に出ていた。のちの Radio Bougainville 3325kHz）

竹野：3325、いまは Bougainville。わざとっていうか、ズレちゃうんですよ。

中川：マニアックな話だなあ（笑）。

長谷川：水晶って、ズレちゃうんですか？
竹野：ズレますね。経時変化ですよ。今の受信機は精度が高いから、ズレてるの分かっちゃうんだけど。
長谷川：今でも送信機とかの水晶をつくってるんですか？
竹野：つくってますよー。地デジやラジオも基本的に全部。楽しみと仕事、半分で。
長谷川：それはやっぱり、好きなジャンルの仕事に就いたってことですか？
竹野：大きな声じゃ言えないけど…でも偶然なんですよ。
長谷川：アマチュア無線も、はやくからはじめてた？
竹野：無線は子供の頃から。親父がやってたからね。
宮内：そういえば、イースター島に行ってますよね。
長谷川：あの写真は強烈ですよね。（注：竹野氏の HP の自己紹介ページに、イースター島でモアイ像をバックに ICF-SW55 を持った竹野氏の写真を拝見できる。 http://www.asahi-net.or.jp/~ms8n-tkn/myself/self.htm）
中川：普通、新婚旅行にイースター島は行かないよね。
竹野：イースター島行ってるにもかかわらず、ずっとラジオばかり聞いてたからね。でも、イースター島でもノイズあったんだよ。
長谷川：あの新婚旅行記を読むとね、なんかドキドキしちゃうんですよ（笑）。こんなにラジオいっぱい聞いてて、奥さん大丈夫なのかなって。
竹野：いいんです。
中川：もちろん旅行先は、竹野さんが決めたんでしょ？
竹野：あの当時、松田聖子の「セイシェルの夕日」っていう曲があって。FEBA のあるセイシェルに行くか、中南米に行って中波を聞くか、どっちか考えてたんですよ。（注：FEBA。Far East Broadcasting Association の略。FEBC が南アジア・アフリカ向けに放送していたキリスト教短波放送局。2003 年 4 月閉局）
一同：（爆笑）。
中川：それで奥さん、なんて言ったの？
竹野：なにも。奥さんもう行ってるんだもん、旅行マニアだし
宮内：よかったですねえ、今でもなかなか行きにくいところですよ。一週間に一便とかで。
竹野：タヒチ経由だったんですよ。メインのバカンスはそっちの水上コテージで。

長谷川：イースター島って、タヒチから行くんですか？ペルー経由じゃなくて。
竹野：タヒチからのほうがポピュラーですよ。タヒチまで 12 時間で、イースター島へ 7〜8 時間くらい。
中川：今度、宮内さんの企画で LCC（格安航空会社）を使った沖縄ペディがあるんですよ。
竹野：へえー。
長谷川：沖縄で、テント張って聞くの？
一同：（爆笑）。（注：実際にこの座談会の翌月、沖縄ペディでテントを張って受信した）
竹野：怪しいよそれ（笑）。俺「泡盛を飲もう会」なら参加する。
長谷川：行きましょうよ。泡盛を飲みながら。受信は PERSEUS にまかせて。
竹野：テント張って聞くって時点でおかしいよ（笑）。沖縄で五十近いオッサンがなにをやってるんだと。でも、その企画そのものが楽しそうだね。
長谷川：ぜひぜひ。
竹野：五十オヤジが、沖縄で人生について語り合う？
長谷川：沖縄の星空の元で、波音を聞きながら。
竹野：俺たちはこれまでいったい何をやってきたんだろう、と（笑）。
長谷川：アイドルとラジオについて、おおいに語る（笑）。
一同：（爆笑）。
中川：Shin さん、新婚旅行どこだっけ？
長谷川：モルジブです。
中川：Radio Maldives 聞いた？（注：Radio Maldives。現在の V.O.Maldives。かつては 1484kHz と 4754kHz に出ていた。現在は 1449kHz の中波のみで、超珍局）

長谷川：ラジオ聞くだけっていう時点で、（趣味として）なんだか怪しいですもんね。
中川：アマチュア無線は交信だしね。会話、コミュニケーション。
長谷川：新婚旅行の時は BCL やってなかったけど、何かあった時のために一応短波ラジオ（ICF-SW22）持ってったんです。
竹野：なんか長谷川さんて、フツーの人っぽいよね。
長谷川：そうですか？オタクですよ、アニメオタク。
中川：それが商売になってるからねえ。
長谷川：（笑）。
竹野：モルジブいいですねえ。どう行くの？インドから？
長谷川：直行便はなかったから、シンガポール経由で。
竹野：潜るの趣味なの？
長谷川：ぜんぜん。砂浜でぼーっとしたり。シュノーケリングしたりしてました。
竹野：やっぱりフツーの人だなあ。中川さんなんて、いかにもラジオっぽいじゃん。
中川：オレもオタクだけど、常識人だよ。
竹野：常識の範囲じゃないよ（笑）。
中川：常識の範囲だよ、口は悪いけども。「酒もってこい、オーイ！」
竹野：無線は一対一（の関係性）で成り立つけど、BCL は成り立たない。自分が「聞いた」っていえば、それまでの世界。そこがおかしいねって。
長谷川：昔もミーティングは飲み会になってたんですか？
竹野：それが楽しかったんです。酒飲みながらラジオの話ができる、最高の幸せでしたね。
長谷川：たしかにこんな機会はなかなかないですよね。
竹野：「ラジオ」という共通点がある、ラジオ好きな人間が集まって、話できること自体が楽しい。まあ、飲まないミーティングもあったけど
宮内：一回だけ行ってやめちゃったり（笑）。
中川：ミーティングで寝ちゃってたり、だらだらテープ流したり…自己満足なミーティングは面白くないよね。
竹野：いや、自己満足を否定すること自体がおかしい（笑）。この世界は自己満足なんだから心を広く持たないと。
長谷川：ある人からしたら、中波 DX なんて面白くも何ともないかもよ。
中川：それはオレもわきまえてる。オレの発表なんか、30 秒か 1 分で終わるから大丈夫。
長谷川：早！
宮内：（笑）。バランス感覚の問題だね。
竹野：俺は心が広いから（笑）
長谷川：心が広くないと、サークルの中心にはいられないんでしょうね。
竹野：半分ボランティアみたいなもんかなあ。
長谷川：竹野さんの聞いてたジャンルというか好きな分野は？
竹野：短波 DX しか興味が無くて。中南米とかアフリカとか。そういうのを楽しむにはいろんな人と付き合わないと。でも、クラブのためにやると疲れるから、好きなこともやろうとずっと思ってて。その集大成が「radioactive」。本を作った後にいろいろ文句も言われたけどまあ売り上げもよかったし。
中川：どういう文句？
竹野：「執筆者を募集してほしかった」「私も書きたかった」「クラブとして本を作るんだったら、もっと皆にオープンにするべき」とか。受け身のサークルだから、否定的な意見は少なかったね。とにかく、自分が楽しむことをしたかったから。だから PROPAGATION 読むと、長谷川さんの楽しさが伝わってくる。でも、記事を書くのは楽しいけど、編集は別問題。編集という、総まとめをやってくれる人間がいないと。
長谷川：PROPAGATION も、編集をやるほど執筆者が集まるといいんですが。

でもやっぱりラジオが好き

長谷川：竹野さんはアマチュア無線、今もやってるんですか？

竹野：昔はやってたけど…。

中川：1 アマでしょ。すごいなあ。1 アマって難しいの？

竹野：難しくないよ。俺プロだから。1 技。（注：1 技。第一級無線技術士の略。現在の第一級陸上無線技術士、1 陸技。放送局など無線通信設備の技術操作における最高資格）

一同：おお〜。

長谷川：それは仕事上必要だったんですか。

竹野：いえ、趣味で取っちゃいました。今ね、定年前に狙ってるのが京都放送。

長谷川：KBS 京都？

竹野：あそこにエンジニアとして行きたいなあと。策を練ってんの。

宮内：KBS 京都はよく聞こえますよね。

竹野：20kW くらいですよね。

中川：舞鶴局は？

長谷川：あっちは難しい。

竹野：難しいって（笑）。

中川：おんなじ周波数だから、どっちか分からないよね。

長谷川：ちょっと前は番組が違ってたんですけど、今同じになっちゃったから。確認できない。（注：KBS 舞鶴局。1215kHz 2kW。同じ周波数には滋賀県彦根市の KBS 京都・滋賀局 1kW が出ている。滋賀局では、かつては夕方の「さんさんわいど滋賀 wish」など滋賀局独自番組が聞けたが、2009 年 4 月の改編以降、京都本局・舞鶴局と同プログラムになっていた。しかし 2012 年 5 月から、毎週金曜 14:30 〜 17:00 で「しがスタ！」がはじまり、再び滋賀局確認のチャンスができた）

竹野・宮内：マニアック！（笑）

宮内：ハムと放送局の技師はかぶってる場合が多いですよね。前に北陸放送の 2 レターコールの人と交信しましたよ。

竹野：仕事でいろんなとこ回ってると、ハムに当たりますね。趣味でやってる人多いから、アイコムとか八重洲とかも。バーテックスタンダードでも、某工場行ったらワンノーワンが飾ってあって。（注：FT-101。70 年代に「ワンノーワン」の愛称で大ヒットした八重洲無線の HF トランシーバー）「101 使ってましたよ。TS-520 とライバルでしたよねえ」とか話して場を和ませたりね。（注：TS-520。1973 年に発売された TRIO 製の HF トランシーバー）

宮内：エコーですか、エコーシエラですか？とか聞いたり（笑）。（注：FT-101 シリーズで、特に人気のあった FT-101E（エコー）は終段真空管 6JS6C が 2 本、FT-101ES（エコーシエラ）は 6JS6C シングル。）

中川：宮内さんは 101 持ってるんでしたっけ？

宮内：FR-101、デジタルのやつ。（注：FR-101。70 年代に発売された八重洲無線の通信型受信機。FR-101DD はアマチュアバンドに加え放送バンドが受信でき、デジタル周波数カウンターを搭載）

竹野：うちにも DD があるよ。

中川：DD は憧れたよねえ。

竹野：でも中川さんとこには、受信機がいっぱいあるじゃない

中川：101 は無い。いつかは欲しいなあ。

長谷川：竹野さんみたいに、たまにはリグにちゃんと通電しなきゃ。

中川：少なくとも、3 年は電源入れてない…。

長谷川：ほったらかしなんですよ、すごい量の受信機を。もったいない〜。

竹野：むかし知人から、ドレークの R7A を譲ってもらって。でも R7A はラジオなんですよ。NRD-515 なんかと比べると、515 のほうが全然いい。（注：R7A。1981 年に発売された米 DRAKE 社製の通信型受信機で R7 の後継機。NRD-515。1979 年に発売された JRC 製の通信型受信機）

宮内：515 はラジオじゃなくて通信機、ですもんね。

長谷川：「苫小牧でロッドアンテナだけで DX」という記事、あれはよかったですね。（注：ロッドアンテナ DX in 北海道 http://www.asahi-net.or.jp/~ms8n-tkn/JP/yomi/ante.htm）

竹野：よく「北海道に行けば聞こえる」っていうけど、「聞いた」「聞こえた」「ID 取っ

た」といったような、結果だけの話じゃ面白くない。聞こえた事に付加価値を付けるというかたとえば移動の経路とか苦労とかね、アンテナを張る途中経過とか、そういう話があると文章として楽しいかな、と思って。北海道で聞こえるっていう結果だけの話なら、アメリカ行ったほうがもっと聞こえるってことになって、面白くも何ともない。「いいアンテナ張って聞こえた」「デカいアンテナ張って聞こえた」より、アンテナを「どう張るか」という過程の話のほうが面白いし、そういう話をオープンにしてほしいよね。

中川：そうだよね。いいロケーションで聞こえるのは当たり前の話だし。

長谷川：そういう（付加価値の）面白さを伝えたいですね。

竹野：「わざわざ来ちゃいましたよ、こんなへき地に！」みたいな紀行談をね。

中川：オレは、条件は厳しいけど、この近隣でどこまで聞こえるかっていうのを試してみたいし、それが楽しい。

竹野：限られた物で、限られた所で聞くっていうのが楽しいよね。

中川：ICF-2010 でどこまで聞こえるか、とか。改造したり、フィルター替えたりして。山形でも聞こえると思うよ？（注：ICF-2010。1985 年に発売された SONY のワイドバンドラジオ、ICF-2001D の輸出バージョン）

宮内：また指南（笑）。

中川：モンゴル長波とかさ。

竹野：長波なんて聞かねえし（笑）。

長谷川：Naka さん、日本海 DX なんて全然興味ないでしょ

中川：そんなことないよ。和島ペディとか興味あるよ。São Tomé e Príncipe とか TWR Africa 入るんでしょ。（注：VOA São Tomé e Príncipe 1530kHz 600kW、TWR Benin 1566kHz 100kW。2008 年、新潟県長岡市の和島オートキャンプ場ペディで受信された。）そういうのを山形で聞くとか。

竹野：俺は聞かなくても、こういう話をしてるだけで十分。

中川：山形戻ったら、「そういえば、中川さんがモンゴル長波とか言ってたっけな…」って、聞きたくなっちゃったりするかもよ。

竹野：ねえよ（笑）。

中川：WRTH（World Radio TV Handbook）なんか注文しちゃったり。2013 年版持ってる？

竹野：2012 年版まではある。

中川：中華ラジオ持ってる？結構いいよ、安いし。

竹野：持ってないなあ。

中川：最初の海外受信局、どこ？

竹野：忘れちゃった。でも最初にベリカードもらったのは、ラジオ韓国かモスクワ放送…いい趣味だったよね。

宮内：本当ですね、あの頃を考えたら。海外と繋がるなんてね

竹野：いま考えるとおかしいってことになるよね。なんでわざわざ短波放送で聞くの？みたいになっちゃう。

長谷川：いまだって、ロシアや中国と直接繋がってる人は少ないんじゃないですか。

竹野：昔の人は、北京放送とか結構知ってるんじゃない？

長谷川：そういえば、北京放送で毎年やってる「紅白歌くらべ」の受賞者とかは、たくさんいるけど BCL じゃないです。潜在的に（海外放送を）聞いてる人もいっぱいいるんですよ、BCL に関係なく。

宮内：そういう人たちに、何か情報を届けたいというか…。

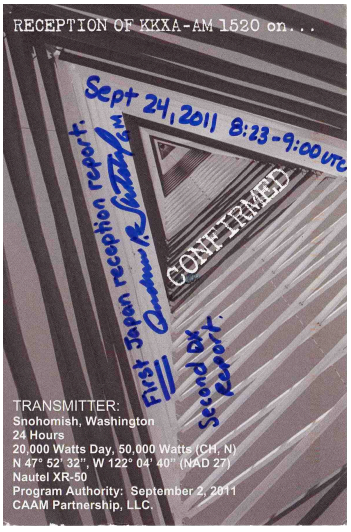
長谷川：必要無いんじゃないですかね。北京放送だけ聞こえればいいんでしょうし。中波 DX 指南とか、わけ分かんないでしょうし。

宮内：これからはアプリでも聞けちゃうかもしれないしね。（注：中国国際放送では、iPhone 用アプリ「シル知る中国」で番組を聞くことができる。http://japanese.cri.cn/782/2012/03/01/142s188082.htm）

長谷川：これから BCL はどうなっていくのか。

宮内：これだけ短波で聞くものがなくなっちゃうとね。中波とかになるのかな。

竹野：中波、楽しくないでしょ？
宮内：そこがまたね…。中波で楽しいなんて領域にいくのは、よっぽどオタクか、DXer か、（国内 DX で）タイガースの試合聞くとか。
長谷川：ラジオのオタクが、中波とかに求めてるもの…。
宮内：地方局のコマーシャル聞くと面白いかな？
長谷川：このあいだ、E スポで FM くめじま聞いたんですけどコミュニティ FM で、その地域の人しか分からないような話題をずーっとやってて。（注：FM くめじま。2012 年に開局した沖縄県島尻郡久米島町の CFM 局。89.7MHz 80W）
宮内：そこに面白さを見つけられたら、DX やりたくなるかもね。
長谷川：「久米島町シーサイドパークゴルフ場がオープンしました」とか「公共下水道を使用できるようになった地域では、プールや台所、浴室などの汚水を、直接公共下水道に流していただくことになります」とか。
中川：ベリもらった？
長谷川：もらいました。ID 取れなかったけど、確認してくれました。
中川：細かくやってるねえ。結構マメだよね。
長谷川：マメにやってますね。隙あらば First Japan を、と（笑）。（注：The first confirmed report from Japan。こうコメントされた QSL を GET しようと血眼になる BCL も、かつては多数存在した）
一同：（笑）。
中川：結構持ってない？
長谷川：いくつかありますけど、常連局の返信で First Japan と書いてあるのもあります。
宮内：その人（QSL 発行者）にとっての First Japan なんだね（笑）。
竹野：今回の記事のタイトルは「BCL とラジオと酒について」？
中川：じゃ、竹野さんは「BCL とアイドル」とか。
長谷川：アイドルの番組って、地方局だけでやってるのってあるじゃないですか。そういうのを追っかけてたりしてました？
竹野：堀ちえみの番組が朝日放送だけでやってて、それを RD-9170 と FRG-7700 使って聞いてた。鉄壁のラインナップで。（注：1983 年前後に放送されていた、ABC ラジオ「堀ちえみの夢日記」と思われる）



（注：RD-9170。1978 年に発売されたナショナル製の中波用ループアンテナ。FRG-7700。1980 年に発売された八重洲無線の通信型受信機。どちらも当時の BCL に人気があった）

長谷川：それならバッチリですね！
中川：堀ちえみの吐息まで聞こえる…！（笑）
竹野：聞こえねえよ！（笑）
宮内：そういうモチベーションは必要ですよね。
竹野：モチベーションじゃないし（笑）。
長谷川：竹野さんとは初対面でしたけど、もっと怖そうな人だと思ってました。
中川：モアイ像みたいな顔してるでしょ（笑）。
宮内：ミスターモアイ像（笑）
竹野：おおきなお世話だよ！（笑）…で、「今後の BCL クラブ運営について語る会」になった？
長谷川：130 分にもわたって語っていただきました。
竹野：テープおこししたらメールで送って。それに追加しますんで（笑）。
長谷川：今日はいろいろなお話を聞けました。とても楽しく、

勉強になりました。本当にどうもありがとうございました！

メール談義・エピローグ

中川：なかなか楽しかったですね。誰も普段ラジオ聞いてないのに、これだけ喋れるってのは凄いですね。これは BCL における新しいジャンルとも言えるのではないでしょうか？「BCL サークル論」「BCL 会誌論」とでも名づければ良いか？ニッチっていうかマニアックな会話だな。題材は沢山あるし、書きたければどんどん書くと良いでしょう。ホント、嫌なら読むな！ということで、自分本位で良いでしょう。金取る訳じゃなし、クレーム一切御無用！LCC 沖縄ペディ紀行記よし、B 連歴史論よし、BCL と酒論よし、山形におけるモンゴル長波受信テクニックよし、R7 と 515 の比較論よし、BCL とアイドル論これまたよし。 PROPAGATION2、今から楽しみになりました。

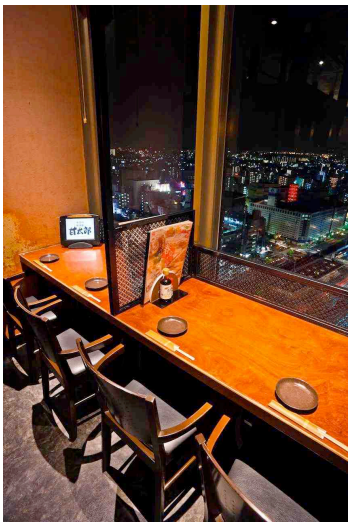
宮内：「なになにと BCL」って、組み合わせを挙げてみるだけでもワクワクしますね。

長谷川：昨晩は楽しかったですね。夜景のきれいなお店でしたし、初対面の竹野さんともたくさんお話しでき、貴重な先輩のご意見を伺うことができました。ありがとうございました。たしかに普段は家でラジオを聞いてない面々でこれだけ深くラジオの話ができるなんて不思議です。

中川：竹野さん 、モンゴル長波は 164kHz 500kW でウランバートルから出ているようです。山形での受信調査をお願いします（笑）。

竹野：本当に楽しい時間をありがとうございました。中川さんと二人で飲んでも楽しいのですが、皆様と一緒ですとその楽しみが×３　いや、それ以上されますね！また BCL 論、ラジオ論を聞かせて下さい。私の生意気な BCL 話を我慢して聞いて下さりありがとうございました。

長谷川：実はここでは書けない話も沢山ありました。読者の皆様も、実際に TDXC 飲み会に来て本音トークしましょう！



Introduction of TDXC

Satoshi Miyauti

In this modern world, everybody is busy. If you have kids, you may want to spend a little bit of your time with playing catch ball or have some fun on the ground. If you have a wife (or wives to someone?), definitely you need to share your time for some shopping or even just a coffee on beautiful Sunday morning. If you have aged parents, you definitely need to care unless they stay in well attended house for elders.. So we have to make use of our time "wisely".. Not spoiling our responsibility at home, but try to make the most out out of our "part of afternoon" in DXing. This is what we do to enjoy the moments with a bit of excitement.

Welcome to TDXC's Introduction page in English. Let us introduce you some of the activities of all these middle aged radio enthusiasts in Japan. TDXC stands for Totsuka DX (or DXing) Club. Totsuka is one of the district here in Yokohama City, in Kanagawa prefecture, near Tokyo. Totsuka itself is not facing to the ocean, but conveniently located not far from the Pacific, that makes us go to mini-DXing-Peditions

around the coastal regions. We have several active members and all of us are those "BCL generation", born in the late 60s, and 70s. - when listening to shortwave radio was one of the most exciting activities. The boom of BCL or SWL (In Japan, BCL is used for listeners for MW/Shortwave broadcast listener, while SWL means more narrower hobbyist concentrating on monitoring Shortwave/Ham bands etc)

Let our activities to be visible. There used to be plenty of radio clubs around the world. The news letters published and sent over the regular post meant a lot to serious DXers around the globe. I personally was also a member of one of US based club called SPEEDX. I don't remember how I became the member though it was indeed a pleasant experience to be a part of that "virtual community" - and it was full of fun and excitement to witness all those DX catches on monthly publications. Especially those US west coast logging on Latin American DXing was interesting, as the path logically open all the way to Far East for the same period of time, for instance, their

morning hours around 0900UTC, the rustic Peruvian Huaynos reports made me yearn for the same experience by sitting at the same time of the day in front of the radio. t was also so nice to get to know DXers through the club, and even had a chance to visit their home, and to be invited during Thanks Giving celebration..

When we take a look at the radio clubs based here in Japan, I believe there are still DXers around the country but I guess there are not much occasion that news and our activities are well "transmitted" to the same hobbyists in another countries. It is just so easy to get connected with facebook or skype or line or any other communication tools, but there seems to be - always language is the barrier - just so hesitant to communicate in English. Here at TDXC, one of our "mission" now - it might be my personal ambition - that we may be one of the "connector" or

"coupler" to connect DXers in and out of Japan, and maybe a "transmitter" sometimes, to broadcast the local activities that might be of interest to same hobbyists in another countries.. So please feel free to contact us/me should you find anything from Japan. (But please don't ask us to look for some old rigs or equipments in Akihabara! If we have time to do so, we are happy to accompany you, but anything that you may find it difficult to find is also difficult to find even here! Hi)

About Our mini-DX-Pedition. Although we are middle aged, that means we are still in the work force. Unfortunately none of us are still too young to let us eat without working! So we are busy. We keep busy with all the house hold activities, children, and families. Despite all of these, active members get together and sneak out to what we call "Choi-Pe", or ultra mini DX peditions just around the corner. Let us introduce one of the Choi-Pe(dition), FYI, Choi is something like .. Instant..a short period.. Sort of meaning, combimed with preceding word of Pe of Pedition.

1400 - Get together at local station

1530 - An hour ++ drive will take us to the coastal region

1600 - Park & Unload the camping goods, with our equipments. Choose the site, set up antenna(s) & Camp cabin(s)

1700 - Start monitoring. Turn on PC, SDRs (Perceus or/and Excalibar, some of us use multiple)

1800 - chat with catches ! Eat "Obento" or box dinner

1900 - Close the DX-pedition, put back antenna and equipments

2000 - chat again at local cafe for "today's catches & about next plan"

2130 - get back home to join the family as if Papa's back from important meeting of the local community (!)

We used to be late till mid night at DXing site, but thesedays, with the SDR's catches throughout the bands, we easily get "full" in a few hours time..

There are several techniques and equipments - that is "fine tuned" to suit these ChoiPe / small scale DX Pediton..

Equipments consist of

- SDR
- PC / preferably with longer operation time / at least 2 to 3 hours
- Battery (12V car battery) to distribute to members
- Distributor / switch board for battery environment
- Voltage regulated DC power supply that is requited for Perceus (5V)
- Antenna cable
- Headphone
- Folding table and/or chair for personal comfort
- Antenna (Used to be K9AY or its modified version, or Flag antenna with multiple noise cancelling equipments.

The main fun of these "Choi-Pe" is to meet other DXers, and to share the time togethre. It is more fun in the mini DX Pedition!

緊急レポート
Boni-Whip
1st impression

我戸塚豪

この度、中・短波・VHF 用受信アンテナ Boni-Whip を入手しましたのでファーストインプレッションを書かせて頂きます。尚、この記事は原稿締め切り日に書いたので後ほど使用感等が変わる可能性もありますのでご了承下さい。

Boni-Whip とは？

Boni-Whip とは、ドイツのメーカー Bonito 社が開発したミニホイップ型受信アンテナです。筐体は小型で軽く持ち運びには困りません。

形状は従来のミニホイップアンテナと違い、アンテナ本体上部に短いロッドアンテナがついてます。Bonito 社のアンテナの紹介ページには従来のミニホイップアンテナと比較が載っていて Boni-Whip の方が S/N 比が良いと書かれてます。（http://newsroom.bonito.net/?p=463）電源は 12VDC で動作します。

pa0rdt と比較　Boni-Whip の方がアンテナの分大きい

Boni-Whip とラジオを繋ぐ

Boni-Whip を伸縮ポールの先に固定して上げてみました。高さは約 10m ほどです。SDR に繋げて受信状況を見てみました。するとノイズフロアが一応に-100dbm 迄上昇しました。ざっと、中波・短波を聴いてみましたが信号は来てるのにノイズフ

ロアだけが上がっているような感じです。つまり従来のミニホイップアンテナと似たような感じです。

これではとても聞けた物ではありませんのでノイズフロアを下げる為、4 分配器を途中に噛ませてみました。するとノイズフロアが一応に下がり、-120dbm 辺りに落ち着きました。中波を聞いてみましたが昼間なのに 936kHz の秋田放送が聞こえてます。(横浜ー秋田間の距離、およそ 470km)

Boni-Whip は DX に使えるか？

Boni-Whip は DX に使えるかという点ですが一応、短波の大出力の国際放送などは聞こえるようです。ループアンテナとも比較してみましたが聞こえる局数はそれほど遜色はありませんでした。中波・VHF も使用できますがこの辺りは未だ調査中です。

このアンテナに興味が有る方は、リモートペルセウスサーバーに繋いで見てください。スイスのサーバーにアンテナが繋がっています。

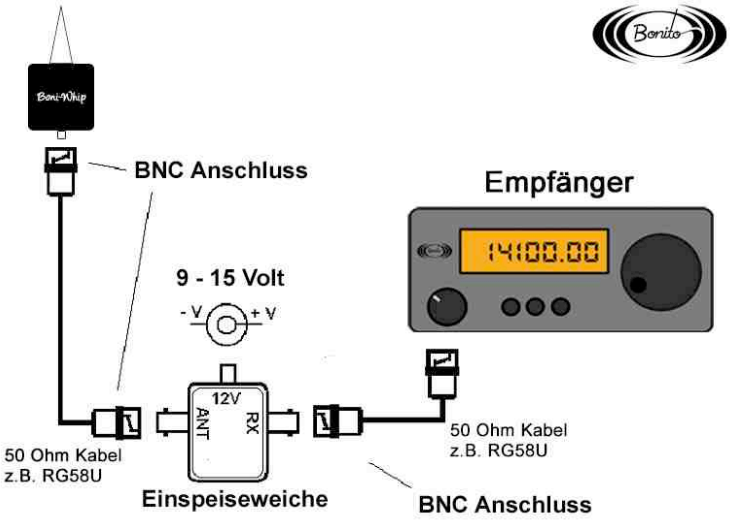
結論と今後について

このアンテナのファーストインプレッションですが、直付けでは周りの環境のノイズの影響が大きくて使えないと言う事が解りました。少なくともスイスのリモートペルセウスサーバーの受信環境のようには動いてくれませんでした。しかし、コモンモードチョークやガルバニックアイソレーターなどのノイズ低減に効果がある付加装置を追加する事によって今後、評価が変わってくるかもしれません。

また、ノイズレスの環境に持っていくことによって評価が変わるかもしれません。pa0rdt との比較など、このアンテナの話の続きは次回の会報迄とって置くことにします。

＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊

Bonito Boni-Whip active Antenna, Frequency range: 20 kHz -300 MHz, Voltage supply: 12V-15V, Gain: 3dB, Upper Frequency Limit: (-1db): 300 MHz, IP3: +32.5 dBm, IP2: +55 dBm



PERSEUS リモート受信へのチャレンジ ～ルーターの設定

中川　弘夫

〔リモート受信は「どこでもドア」〕

PERSEUS のリモート受信は V4.0 から搭載された機能である。面白そうだと思って早い時期にチャレンジしたが上手く設定出来ず、長らく放置してしまった。これは私だけではなく、多くの方が苦労なさっているようである。上手くいってこの機能が使えるようになると、これは実に面白い利用法だ。「BCL は電波での世界旅行」とも言える訳だが、リモート受信は言ってみれば「現地受信世界旅行」である。海外に行く時にポータブル受信機を携行して、現地受信を楽しむ方は多いであろう。私も大好きで、空港に降り立った瞬間に始めたりする。それが自室に居ながらにして出来てしまうのは、まるでドラえもんの「どこでもドア」である。この機能を使わないのは勿体無い。もう既に利用しておられる方が多いと思うが不幸にも私のように未だ苦労なさっている方、或いはこの機能を試そうともしたことのない方は是非チャレンジして頂きたいと思う。

それぞれ接続環境は異なると思うので、他の方にはこの記事の内容が当てはまらないと思うが、大事なのは「手順（考え方）」である。これを理解して進めれば上手く行くと思うので、外さぬようにトライして頂きたいと思う。

〔参考ページについて〕

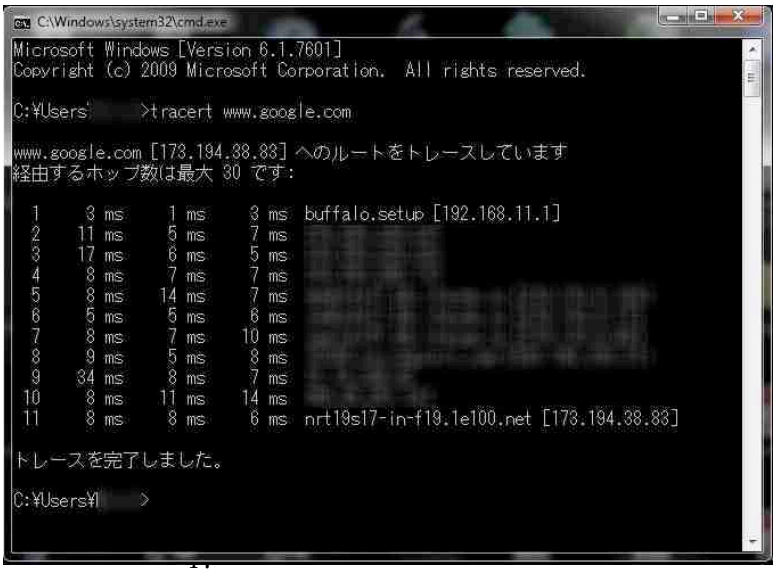
まず最初に参考になるページを紹介したい。それは AR7030PLUS 氏が運営しておられる Atlanta DX Online（http://atlantadxonlineusa.web.fc2.com/）である。こちらのコンテンツ「ペルセウス（PERSEUS）SDR 受信機」中に「導入の記録 ～ (8) 驚異のリモート受信（導入編）」という記事があり、私は大変参考にさせて頂いた。上述した「手順（考え方）」が良くまとまっていると思う。悩んでいる皆さんに一読をお勧めしたいページである。私も接続環境は全く異なるが、ポイントを外さなかったので上手く行った訳である。手順は氏の書いておられる通り① IP アドレスを固定すること、②ファイアーウォール「例外」の設定、③ルーターの設定（＝ポートの開放）の 3 ステップである。Windows（OS）のバージョンにより設定方法が若干異なるが、①・②は Windows の設定変更であり、③はルーターの設定変更である。①、②は大半の方が何とか出来るであろう。この部分に関しては、上記サイトと重複するので、そちらをご参照願いたい。私も①、②は上手く行ったが③で躓いてしまった。そういう方が多いようなので、ここでは私の経験の中でルーター部分に絞って触れることにする。

〔ルーターの設定変更について〕

私のネット環境は NTT フレッツ光回線に、「PR-400MI」

というモデムルーター及びBuffalo の無線ルーター「WHR-G54S」を接続する形になっている。元々は ADSL 回線で無線 LAN 化するために WHR-G54S を使っていたのだが、その後光回線に変えた際に PR-401MI に無線 LAN 機能が無かったためこれを流用したのである。この手の使い方をしている人は結構多いようだ。どちらも所謂「ルーター」なので、一体どちらの設定を変えれば良いのか？或いは両方変えなければいけないのかが分からなかったことが、そもそものネックになった。

この問題を解決するキーワードとなる語句は「二重ルーター」「ポート開放」であろうと見当をつけ、ネットで検索してみた。するとやはりヒントをくれる人はいるものである。Kagemaru 氏がポート開放方法についてまとめた kagemaru.info（http://www.akakagemaru.info/port/tracert.html）が引っ掛かり、ここで調べたところコマンドプロンプト画面で「tracert」コマンドを使うと、ルーターから目的のサイトまでの道筋が表示され、それにより自身の接続環境が二重ルーターかそうでないかが判明するのである。ちなみに私が www.google.com〔173.194.38.83〕に接続する場合のルートは上記画面のようになった。



これで見ると①IP アドレスの固定で「デフォルトゲートウェイ」に設定したアドレス〔192.168.11.1〕のみが表示されており、PR-400MI については何も表示されない。すなわち PR-400MI はルーターとして機能しておらず、二重ルーター環境ではない。したがってポートの開放は WHR-G54S についてのみ考えればよいということがハッキリした。

なので次は「WHR-G54S 設定画面」をキーワードに検索すると、バッファローのサポートページが出てくる。それにしたがってネット接続し、IP アドレス http://buffalo.setup/ または http://192.168.11.1 を入力し enter キーを押すと、ユーザ名とパスワードの入力画面が表示されるので、

「ユーザー名」欄→root

「パスワード」欄→空欄のままで OK をクリックすると、無事 WHR-G54S 設定画面に行き着ける。ある知人は保有するルーターの設定ページには辿り着いた

PERSEUS サーバーの拠点が表示される。ここで例えばオーストラリアのブリスベーンにあるサーバーをダブルクリックすると、その瞬間あなたのシャックはブリスベーンに移動するのである。これには感動する！リモート受信はペディで劣悪な状況で受信した録音と照合する場合に、非常に有益な情報をもたらしてくれる。楽しくそして有用だ。

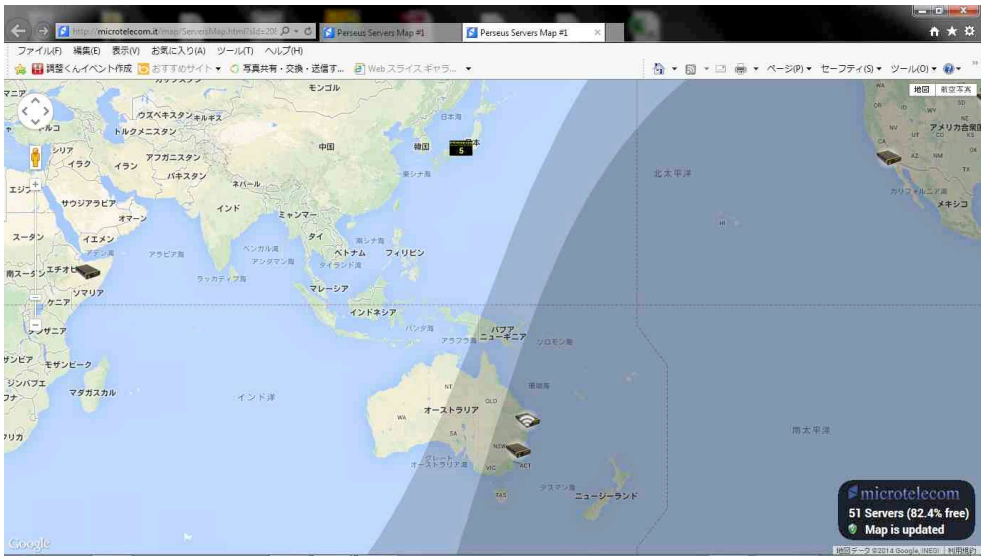
本記事が、未だ設定に苦労なさっている方の一助になれば幸いである。

が、「ユーザー名」「パスワード」が分からずに進めなかったということだった。私の場合上述サポートページに掲載されていたし、恐らくどのメーカーでもサポートページで調べられるのではないだろうか。

下記画面のトップページから「詳細設定」→「ネットワーク設定」→「アドレス変換」の順にクリックすると次の画面になる。ここではグループの新規追加に「perseus」（何でも良いので名称をつける）、プロトコルの TCP/UDB にチェックを入れ、右側のプルダウンメニューから任意の UDP ポートを選択。そして任意の TCP/UDP ポートに開放したいポート番号「8014」を、LAN 側 IP アドレスに「① IP アドレスを固定すること」で設定したアドレス（私の場合「192.168.11.10」に設定した）を入力して設定は完了である。

〔現地受信世界旅行の世界〕

実際の使い方は簡単だ。PERSEUS のソフトを立ち上げて INPUT SELECT の net にチェックを入れると隣に addr ボタンが出現するのでそこをクリックし、表示されるポップアップウィンドウの Show Map ボタンを押すと上記のような世界地図と、世界に点在する



FDM-S2 かんたん マニュアル

長谷川眞也

すっかり DXer のスタンダード受信機となった SDR（Software Defined Radio）。代表的名機 PERSEUS の後を追うように、新しい SDR が次々と登場しています。いまや PERSEUS、EXCALIBUR とあわせて「SDR 三羽烏」に名を連ねる一台がイタリア ELAD 社 FDM-S1 です。その後継機、FDM-S2 が 2014 年 2 月にリリースされました。USB 電源で駆動、長波～FM まで受信、6144kHz 幅で帯域記録が可能、という大変魅力あるスペックに惹かれて筆者も早速入手してみました。

■使用 PC を準備する

「Max. DDC Bw 6144kHz」という性能を実現するためには、なるべくハイスペックなパソコンを使うほうがよいでしょう。SDR の使用感は、それぞれの PC 環境によって変わってきます。このマニュアルで使用した PC は次のスペックです。

Lenovo ThinkPad L430
Intel Core i7 (2.90GHz)
8GB メモリ／1TB HDD
Windows 8.1 (64bit)
14.0 液晶 (1600 x 900)

■FDM-S2 を買う

FDM-S2 を取り扱う国内メーカーは今のところ無く、メーカー直販や海外のハムショップなどから購入するしかありません（唯一ナカトヨドットコムが輸入代行をしています）。今回は、米シカゴにある ELAD USA Inc,（http://shop.elad-usa.com/sdr-radio/fdm-s2/）からオーダー。本体価格は $580.00 と、伊 ELAD 本社（http://ecom.eladit.com/epages/990298944.sf/en_GB/?ObjectPath=/Shops/990298944/Products/"ELAD FDM-S2"）の通販価格 525.00€より低価格でした。UPS-Worldwide Expedited を使った送料が $81.60 と高めでしたが、注文からわずか 4 日後に自宅に届きました。送料込み価格の支払いには PayPal を利用。自宅に届いた際、業務委託先の宅配業者に支払った着払額（輸入における消費税額）は¥1,700 でした。

FDM-S2 が届く

小さな箱の中に、FDM-S2 本体、受信機／コントロールソフト取扱説明書（英語）とインストー

ルプログラムの入ったソフトウェア CD-R（現在は USB メモリーになっているようです）USB ケーブル（50cm 長）USB ダブルケーブルアダプタ（何に使うものか不明）BNC-SMA 変換アダプタ 2 個（1 個は SMA 側のネジ切りが無いもの。不良品？）半球ゴム足透明色 4 個、safe bag（ソフトケース）が入っています。FDM-S2 のサイズは 110 (W) x40 (H) x90 (D) mm 360g、PERSEUS の半分ほどの大きさで重さは同じくらい。先代の FDM-S1（108x27x90mm 180g）より厚みと重さが増えましたが、それでもコンパクトで場所を取りません。また中国製の金メッキ USB2.0 ケーブル 1.5m も同梱されていました。

FDM-S2 のセットアップ

■FDM-SW2 インストール
①PC の電源を入れて Windows 8.1 を起動し、付属 CD-R を PC の光学式ドライブに挿入する。
②CD-R にある ELAD_FDM_SW2_V1_02 フォルダ内の setup.exe をダブルクリック→ELAD FDM-SW2 Setup で Install をクリック→まずは Visual C++ 2010 Runtime libraries (×86)をインストールする。ユーザー アカウント制御ウィンドウの「はい」をクリック→Microsoft Visual C++ 2010 x86 Redistributable メンテナンスの「Microsoft Visual C++ 2010 x86 Redistributable を元の状態に修復します」にチェックが入っていることを確認し「次へ」をクリック→Microsoft Visual C++ 2010 x86 Redistributable 修復が完了しました、で完了をクリック。（注：マニュアルだと、Microsoft Visual C++ 2010 x86 Redistributable Setup の I have read and accept the license terms.にチェックが入っていることを確認し Install をクリック→Welcome to the ELAD FDM-SW2 Setup Wizard が出る。となっています）
③Welcome to the ELAD FDM-SW2 Setup Wizard の Next をクリック→Select Installation Folder で設定を変えずに Next をクリック→Confirm Installation で Next をクリック→次の不明な発行元からのプログラムにこのコンピューターへの変更を許可しますか？で、はいをクリック→Installation Complete で Close をクリック→以上でコントロールソフトのインストールは終了。
④デバイスマネージャ ELAD Samplers 内に ELAD FDM-S2-25 アイコンがあることを確認する。

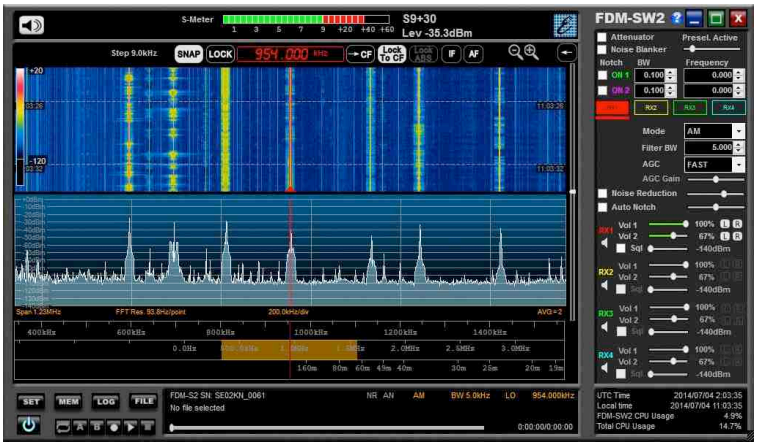
■FDM-S2 USB driver のインストール
①FDM-S2 の USB コネクタと PC の USB2.0 コネクタを付属の USB ケーブルを使って接続する。
②デバイスマネージャを開くと、ほかのデバイス項目に FDMS2 USB FW V2.6 アイコンがみつかるので、右クリックして、ドライバーソフトウェアの更新をクリック→どのような方法でドライバーソフトウェアを検索しますか？で、コンピューターを参照してドライバーソフトウェアを検索しますをクリック→コンピューター上のドライバーソフトウェアを参照しますをクリック→フォルダーの参照で Windows8_OS (C:)→Program Files (x86)→ELAD→ELAD FDM-SW2→ELAD_FDM_Driver を選択し、OK をクリック→コンピューター上のドライバーソフトウェアを参照します、の次へをクリック→Windows セキュリティのインストールをクリック→ドライバーソフトウェアが正常に更新されました、の閉じるをクリック→以上でドライバーソフトウェアのインストールは終了。デスクトップに ELAD FDM-SW2 ショートカットアイコンが作成される。

■FDM-SW2 をアップデートする
①付属 CD-R に入っていたコントロールソフトのバージョンは Ver 1.02。ソフトのアップデートは、HP（http://sdr.eladit.com/FDM-sw2_Software/）にアクセスし、FDM-S2 のコントロールソフト FDM-sw2 Software の最新版をダウンロードする。この記事の執筆時点での最新バージョンは v1.25。
②DL したフォルダ内にある ELAD_FDMSW2Setup.msi をダブルクリック。Welcome to the ELAD FDM-SW2 Setup Wizard→Next→Select Installation Folder→Next→

Confirm Installation→Next→次の不明な発行元からのプログラムにこのコンピューターへの変更を許可しますか？ではいをクリック→Installation Complete で Close をクリック→以上でコントロールソフトのインストールは終了。
③FDM-SW2 を起動させ、ディスプレイウィンドウ下部左端の SET ボタンを押す→Setup ウィンドウ内の About タブで、アップデートしたバージョンかを確認する。2 月のリリース以降ソフトの Ver. UP は頻繁に行われている。
④FDM-SW2 をアップデートすると、読み込んでいた EiBi リストがリセットされ起動時にエラー表示が出ることがある。EiBi リストの csv ファイルは、exe ファイルが入ったフォルダではなく、マイドキュメントなど別な場所に置くと良いとのこと（アドバイス下さった鮎さん TNX）。

FDM-S2 で聞く

①FDM-S2 にアンテナを接続する。HF（10kHz-54MHz）を受信する場合は HF Antenna Input に、VHF（74-108, 135-148MHz）を受信する場合は VHF Antenna Input に接続する。HF と VHF 両方を ALA1530 など一つのアンテナで受信する場合は 2 分配させてから、別々のアンテナならそれぞれを各 Input に接続する。FDM-S2 のアンテナ端子は SMA 型なのでアンテナからの同軸ケーブルが BNC コネクタなら付属の変換アダプタ使う。



M 型コネクタなどの場合は、別途変換アダプタが必要。
②PC の電源を入れて、Windows 8.1 を起動する。
③FDM-S2 の USB コネクタと PC の USB2.0 コネクタを付属の USB ケーブルを使って接続する。
④FDM-S2 の電源スイッチを ON にして、Power LED の点灯を確認する。FDM-S2 は USB バスパワーで動作するので電源は不要。
⑤デスクトップの ELAD FDM-SW2 ショートカットアイコンか、あるいは Windows8_OS (C:)→Program Files (×86)→ELAD フォルダ→ELAD FDM-SW2 フォルダ→FDMSW2.exe アイコンをダブルクリックすると、FDM-SW2 が起動。デスクトップにディスプレイウィンドウが表示される。
⑥ディスプレイウィンドウ下部左端にあるメインセッティングボタン（電源マークのようなボタン）を押すと受信を開始する。同時に IF SPECTRUM ウィンドウが開く。
⑦起動時に Offline Mode が選択できるよう設定する。SET ボタンを押す→Setup ウィンドウ内の Advanced タブ→Show HW Setup Form At Startup にチェックを入れる→Apply→OK。
⑧受信帯域を設定する。ディスプレイウィンドウ下部左端の SET ボタンを押す→Setup ウィンドウ内の Advanced タブ→Device Configuration プルダウンから、192k、384k、768k、1536k、3072k、6144k（リアルタイムの受信帯域は、153.61kHz、307.22kHz、614.44kHz、1.23MHz、2.46MHz、4.92MHz となる）から選択→Apply→OK。受信帯域の表示はスペクトラム表示部左下に「Span__.____Hz」と表示（注：スペクトラム表示を zoom させると、数値が低く表示される）、ディスプレイウィンドウ下部のチューニングバー（3 段の周波数ゲージ）中央ゲージ内にも、薄い黄色で帯域が図示される。
⑨ディスプレイウィンドウ上部中央の周波数表示窓をダブルクリック（またはキーボードのスペースバーを押す）→Advanced Tuning ウィンドウ内のプルダウンメニューを

Tune Frequency にし、下の小さい周波数表示部に任意の周波数をキーボード入力→OK（またはキーボードの Enter）を押すと同調がとれる。設定受信帯域内の周波数なら、Advanced Tuning の大きい周波数数字の上でマウスホイールを回す（注：選択した周波数ステップ以下の値の周波数は可変できない）か、ディスプレイウィンドウをアクティブにした状態でマウスホイールを回すか、キーボードの左右矢印キーで可変できる。マウスホイールや左右キーの周波数可変ステップは上下矢印キーで切り替わり、可変ステップは受信周波数表示窓の左側に「Step__.__kHz」と表示される。デフォルトの可変ステップには「1Hz」が無いので、SET→Tuning Step→Step Presets→Add→Step(Hz)に 1 を入力→Sort→Apply→OK、のように数値を適宜加えると良い。可変ステップから外れた端数の周波数になった場合、SNAP ボタンを押すと可変ステップに合わせた周波数に自動同調してくれる。「→CF」ボタンを押すと、受信周波数が LO 周波数（Local Oscillator frequency。局部発信周波数で、受信帯域の中央周波数）に設定される。設定受信帯域外の周波数に同調させるには、Advanced Tuning 下部の小さい周波数窓へ周波数を入力して OK を押す。または周波数表示窓右側の Lock To CF ボタンを押すと、周波数の可変に関係なく受信周波数がスペクトラム中央に固定され（受信周波数が常に LO 周波数となる）、マウスホイールやキー左右キーで設定受信帯域外へ移動できる。ディスプレイウィンドウ下にあるチューニングバーでは、アナログ受信機ライクなチューニングが可能（注：チューニングバーはファイル再生時は使えない）。

⑩受信モードは受信機コマンドパネルの Mode プルダウンから選択するか、キーボードショートカット（A を押すと AM、U を押すと USB、L で LSB、S で SYNC AM、W で WB FM）を使う。

⑪混信が気になる場合は帯域フィルタを可変させる。IF SPECTRUM で赤い帯域表示部の端をドラッグすると帯域幅を無段階可変できる。受信機コマンドパネルの Filter BW プルダウンから選択するか、キーボードの Z を押すと狭く、X を押すと広く、帯域幅値が変わる。デフォルト設定以外の帯域幅値を加えるには、SET→Demod Settings→BW Presets→Add→BW(Hz)に数値を入力→Sort→Apply→OK。帯域フィルタをずらせる「IF シフト機能」は無い。

⑫設定受信帯域内で、RX1～4 まで「仮想受信機」を設定することができる。受信機コマンドパネルの RX1～4 をクリックするとそれぞれアクティブになり（各表示の色が塗りつぶしになる）、スペクトラム表示部に色分けされた受信周波数が表示され、個別の IF SPECTRUM ウィンドウが開く。RX1～4 表示をもう一度クリックすると各 VFO はインアクティブになる（各表示色塗りつぶしが消える）。仮想受信機は、設定受信帯域外に設定はできない。

FDM-S2 で記録・再生する

①受信帯域を設定し、記録したい帯域の中心周波数（LO Frequency）に同調する。

②ディスプレイウィンドウ左下にある録音ボタン（●）を押すと帯域記録が開始され、録音ボタンが白色から赤色に点灯、記録時間が再生スライドバーの右側にカウントされる。

③停止ボタン（■）を押すと記録を停止する。受信も停止するので、受信を再開したいときはメインセッティングボタン（電源マークのようなボタン）を押すと受信を開始する。

④記録ファイルを再生する際に、受信を停止してから再生すると、6144k→4.92MHz のように帯域がダウンサイズして表示されるが、FDM-SW2 をオフラインで動作させると、6144kHz のフルサイズで帯域再生が可能となる。FDM-SW2 ソフトウェアを一度終了する→再度起動→FDM-SW2 Hardware Setup フォームで OFFLINE ボタンを押す→Offline Mode が起動。

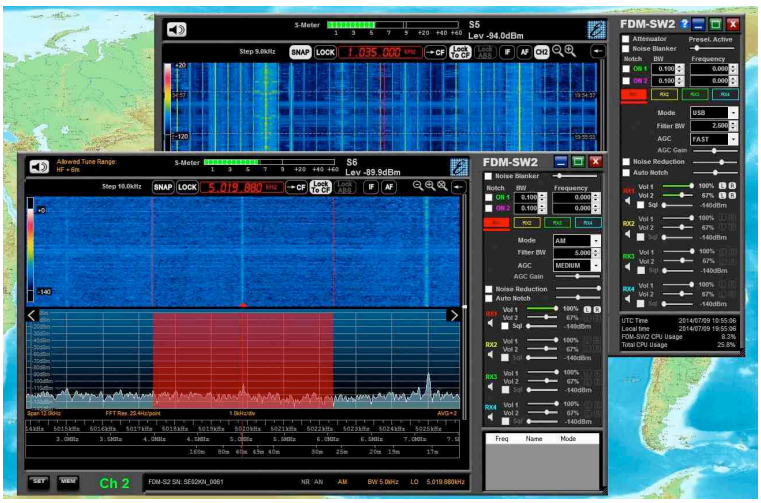
⑤FILE ボタンを押す→Recordings フォルダ内からファイルを選択→開く→再生ボタン（▶）を押す。停止ボタン（■）を押すと再生を停止する（注：再生スライドバーがファイル冒頭の位置まで戻る。連続したファイルなら、再生を開始したファイルの頭まで戻る）。

⑥部分的な選択箇所をリピート再生できる。再生中（または一

時停止中）に希望箇所の最初の所で再生バー左にある「A」ボタンを押すと、バー上に「A」が表示される→さらに再生しながら（または一時停止中）、希望箇所の最後の所で「B」ボタンを押すと、バー上に「B」が表示される→リピートボタンを押すと、AB 間を繰り返し再生する。再度リピートボタンを押すと、繰り返し再生が解除される。
AB 間を切り出して別ファイル保存する機能もある。AB 点を指定→再生を停止（■）し、FILE ボタンを右クリック→表示される Save A-> B selection as new file をクリックし、名前を付けて保存でファイル名を入力、保存する（注：筆者の環境では、この操作をしてファイルを保存すると ELAD FDMSW2 is not responding とエラーメッセージが出てソフトがフリーズしてしまう。切り出しファイルは保存されるが、再生しようとすると Unhandled exception has occurred in your application とエラーメッセージが出て再生ができない。原因は不明）。
⑦タイマー記録をするにはディスプレイウィンドウ左下にある録音ボタンを右クリック→Rec Options→ADD で、記録開始時刻、記録終了時刻（UTC かローカルタイムかを選択）、受信モード、LO Freq.（Hz）、TuneFreq（Hz）、などを入力→OK で登録完了、録音ボタンは黄色に点灯する（スタンバイ状態）。タイマーが作動すると赤色に点灯しタイマーが終了すると白色に戻る（注：タイマー予約ごとに記録帯域幅を変更はできない）。
⑧解析した受信音を、Sound it! などのサウンド編集ソフトで録音するには、SET ボタンを押す→Setup ウィンドウ内の Audio タブ→Use Soundcard audio out をチェック→Main Output Device プルダウンメニューを Speakers に→AUX Output Device の Channel 1 と VRX1 Enable AUX Out にチェックを入れ、Output Device プルダウンメニューを Line 1 (Virtual Audio Cable)、Mode で Audio をそれぞれ選択→Apply→OK。
＊Special double DDC mode（2 つの 384kHz 帯域幅で受信できるモード）
①SET ボタンを押す→Setup ウィンドウ内の Advanced タブ→Device Configuration プルダウンから、いちばん下の「...384kHz for 2 channels...」を選択→Apply→OK。
②メインウィンドウのスペクトラム表示部右上の CH2 ボタンをクリック。
以上の操作で、384kHz（実際は 307.22kHz）の帯域 2 つを同時に表示できる。なお CH2 はリアルタイムの受信のみ使用可能で、帯域記録・再生はできない。
（注：当初はなぜか CH2 が起動せず、CH2 ボタンをクリックすると、ELAD FDMSW2 has stopped working とエラーメッセージが出てソフトがフリーズしていたが、Elad SDR の Yahoo Groups に問い合わせたところ ELAD 製作チームの Donald 氏から、C:\Users\"Your username"\Documents\ELAD\FDM-SW2 ディレクトリにアクセスし、別のディレクトリに FDM-SW2 のすべてのファイルを移動させると、FDM-SW2 ソフトウェアがデフォルト状態に復元するという解決法を教わり、CH2 を起動させることができた）

FDM-S2 で FM DX

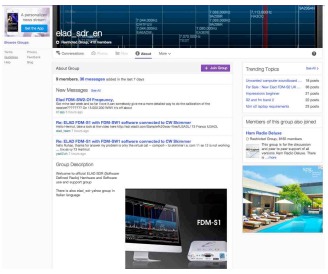
FDM-S2 の特徴的な機能として、VHF 帯の受信があります。中波や短波と FM を同じ SDR で受



信できるので広帯域受信機のような感覚で使えます。
Advanced Tuning 下部の周波数窓へ FM 放送の周波数を入力し、受信モードを WB FM に切り替える（受信機コマンドパネルの Mode プルダウンから選択するか、キーボードの W を押す）と FM 放送が受信できます。STEREO と MONO の切り替えも可能です。FDM-S2 で受信できる HF 以外の FM 帯は「Undersampling Mode になるので性能が低下する」とのことですが、AR5000A＋で聞こえる微弱局は FDM-SW2 でも聞こえてますし、感度も AR5000A＋3 や RTL-SDR とほとんど差はありません。混変調に弱い RTL-SDR で起こった、飽和によるオバケもありませんでしたので、Undersampling Mode が幸いしたようです。SDR#の Sampling Rate 3.2MHz に比べ、広大な 6.14MHz の帯域記録ができ、しかも混変調の心配をせず FM 放送の受信・解析ができます。記録データにタイムスタンプがない、タイマー機能がない、早送り・巻き戻しなどファイル再生機能の不足、帯域記録時間の制限…といった RTL-SDR での不満も、FDM-S2 で解消しました。FM-DX に実用的な SDR として活躍しそうです。

FDM-SW2 所感

操作画面は PERSEUS とも EXCALIBUR とも違った印象で、ボタン類は少なく、ディスプレイ・ウインドウ上でマウスを右クリック→ポップアップメニューや、SET ボタン→Setup ウィンドウ→プルダウン選択したり数値を入力したりと、使い勝手は受信機というよりパソコンソフト的です。メインスクリーンのサイズは自由に変更できます。受信局の帯域を拡大して表示する IF SPECTRUM ウィンドウが、PERSEUS や EXCALIBUR のセカンダリ・バンド幅・ウィンドウにあたります。IF SPECTRUM とメインウィンドウを並べて配置すると使いやすいと思います。
FDM-S2 最大の特徴は、PERSEUS や EXCALIBUR よりも受信・記録帯域が広くなったことです。最大の 6144kHz 帯域記録は、最大設定で一つのファイルは 58 秒間、サイズ 1.99GB でした（中波帯を網羅できる 1536kHz 帯域記録は 3 分 53 秒 1.99GB、最小の 192kHz 帯域記録は 31 分 04 秒 1.99GB）。帯域記録ファイルは「2014_03_27_05_12_54_FDMSW2_Rec_RF_000.wav」のようなファイル名で保存され、2014 年 3 月 27 日 05:12:54(UTC)の最初のファイルを意味します。記録ファイル再生時はファイルが順番に再生され、ディスプレイウィンドウ中央いちばん下の再生バーには各ファイルごとの長さが表示されています。システム的には PERSEUS と同じで、EXCALIBUR のように記録時間分すべての長さを（複数のファイルをいっぺんに）表示することはできません。
同梱のコントロールソフト v1.02 だと、6144kHz 帯域は再生音声が細かく途切れ途切れになりましたが、v2.01Beta 以降にアップデートすると音切れはほとんどなくなりました。
v1.02 で記録していた 4.92MHz 帯域のファイルも音切れなく再生できたので、音切れは記録時ではなく再生時に発生していると思われます。
NB、NR、ツイン Notch や Auto Notch、BW 無段階可変など受信機能も充実しています。
LW～SW の感度は PERSEUS や EXCALIBUR と同じくらいです。
自宅シャックの NFB プリアンプ（＋10dB）を入れると、中波帯、短波帯で ADC CLP 表示が出ます。受信音質はカリカリした軽い高音域の音です。
csv ファイルを読み込ませることで、EiBi リストの表示ができます。
コントロールソフトの詳しい操作法は英文の説明書を読む必要があります。受信機やソフトに関する詳しい情報は、ELAD の SDR 受信機のサポートを目的とした Yahoo! Groups コミュニティに加入して情報交換するこ



とをお勧めします。
（https://groups.yahoo.com/neo/groups/elad_sdr_en/info）
なお、FDM-S2 は USB3.0 でも動作しています。

その他、PERSEUS と異なるおもな機能

◯PERSEUS が最大記録帯域幅 1.6MHz に対し FDM-S2 は 6.144MHz。
◯VFO が RX1〜4 まで 4 つある。
◯DRM・RDS 復調機能、タイマー記録機能があり、サードパーティーのソフトウェアを必要としない。
◯スペクトラムとウォーターフォールを同時に表示できる。
◯各表示窓や全体のウィンドウサイズを変えられる。
◯USB バスパワーなので、外部電源の必要がない。

〈気になる点〉
◯チューニング操作がしにくい。ディスプレイウィンドウにある周波数表示窓は「表示のみ」で、PERSEUS や EXCALIBUR のように、そこにカーソルを置いて周波数変更ができない。別ウインドウ（Advanced Tuning パネル）でのチューニング操作が必要だが、LO Frequency（局部発信周波数）と Tune Frequency（受信周波数）を切り替えつつ大小周波数窓に入力するシステムに「Lock To CF」や周波数ステップが複雑に関係しており、とにかく分かりにくい。しかもこのウィンドウがアクティブになっていると、マウスホイールやキー操作でのチューニングが不可になる。このチューニング機構は、細かく周波数を可変させる解析時にストレスとなっている。
◯Lock To CF ボタン（受信周波数をスペクトラム中央に固定）を押したまま帯域記録し、記録中に受信周波数を可変すると、再生ファイルでも Lock To CF モードの操作が再現される。このファイルを再生中にさらに周波数を可変させると表示周波数がメチャクチャになってしまうので要注意。
◯記録ファイル再生中に Advanced Tuning を使用すると、同調周波数表示と同調局音声がバラバラに出力されることがある。原因は不明だが、記録ファイル再生時には使えない模様。
◯長時間連続記録したファイルを解析中に、幾つか目のファイルで一時停止して再生を再開すると、タイムカウンターの表示はそのままなのに音声がいちばん最初の（再生をスタートした）ファイルに戻ってしまう。停止ボタンを押すことで、タイムカウンターがリセットし最初のファイルに戻る。連続しないひとつだけのファイルなら、一時停止しても問題なし。原因は不明だが、もともとそういう仕様なのかもしれない。
◯各記録ファイルは最後に再生した時の情報（再生周波数やモード、フィルタ幅など）を保持し、次回再生時にその情報を引き継ぐので、記録ファイルを連続再生しているとファイルごとに再生周波数やモード、フィルタ幅などがコロコロと切り替わってしまう。ひとつの周波数を長時間追う際に非常に不便
（注：この問題は、SET→Recording→Apply recorded file settings when play file のチェックボックスをはずすことで解消）。
◯FDM-S2 で記録ファイルを再生しながら受信周波数を可変させると、記録帯域幅に関係なく受信音が遅れて出てくることがある。周波数可変のスピードに、音声が追いつけていない。このようなときは、サウンドカードのバッファサイズを変更することで改善する。SET ボタンを押す→Setup ウィンドウ内→Audio タブ→Soundcard Play Buffer Size (ms)の数値を小さくする。デフォルト値の 5000 から 500 くらいに小さくすると、音の遅れはほぼ気にならなくなった。このバッファ数値は、大きくするほど「音の遅れは出やすいが音途切れは出にくい」、小さくするほど「音の遅れは出にくいが音途切れは出やすい」となるので、使用 PC の環境によって適切な数値を入力する。
◯アプリケーションソフトウェアの操作が直感的な PERSEUS に比べ複雑。頻繁に使う「受信・記録帯域の選択」も、PERSEUS などのようにボタン 1 つで出来ず数段階を踏まないと実行できない。
◯6.14MHz 帯域の最大記録時間は約 1 分、1.53MHz 帯域は約 4 分なので、正時から逆算して記録スタート時間を決めないと、正時ジャストが記録ファイルの切り変わり目にあたってしまい解析が面倒になる（これは PERSEUS も同じ。記録開始〜終了間の複数の記録ファイルが再生バーに連続表示される EXCALIBUR ならこの問題はない。）

◯アッテネーターが 12dB ひとつのみ。
◯取説の内容が大雑把で分かりにくい。受信帯域の切り替え方や記録再生時の音の遅延問題なども、取説を読んでもどこに解説されているのかよく分からないし商品の広告にあった「Special double DDC mode」という言葉も載っていないので、使い方を理解しにくい。

FDM-S2 を HDSDR で使ってみる

同梱ソフト FDM-SW2 は豊富な機能が魅力なのですが、上記のように動作にややクセがあり、解析しにくく感じます。FDM-S2 は、HDSDR や Studio1 などサードパーティーのソフトが使用できますので、ためしにフリーソフトの HDSDR で動かしてみました。HDSDR（旧 WinradHD）は独の DXer DG0JBJ Mario Taeubel 氏が製作した SDR ソフトで、伊の DXer Alberto di Bene (I2PHD) によって製作された Winrad のバージョンアップ版です。HDSDR は広い互換性があり PERSEUS や EXCALIBUR でも使うことが可能です。HDSDR にはマニュアルがありませんが、各ボタンにカーソルを合わせるとヘルプ表示が出たり、機能はシンプルなので分かりやすいと思います。キーボードショートカット表示は Help/Update→Keyboard Shortcuts。
①http://www.hdsdr.de から HDSDR ソフトウェアをダウンロードし、パソコンにインストールする。最新バージョンは v2.70。
②http://sdr.eladit.com/FDM-S2 Sampler/ExtIO Dlls for use with third party software/から HDSDR で FDM-S2 を動かすための ExtIO DLL ファイルをすべてダウンロードし、C:\Program Files (x86)\HDSDR\のフォルダにすべてをペーストする。
③HDSDR.exe アイコンをクリック、HDSDR を起動する。Choose which External HW should be use by HDSDR ウィンドウで、使用する受信（記録）帯域幅の dll を選択し、開くをクリック。FDM-S2 HW SETTINGS ウィンドウは、特に何も無ければそのまま閉じる。
④メインウィンドウ左下の「Start」ボタンを押すと受信開始。受信周波数は LO（'Upper Spectrum' CENTER FREQUENCY (RF)）」か「Tune（Currently Monitored Frequency）」上でマウスホイールを回すと可変する（またはカーソルを数字に合わせ、タッチパッドの左右クリックボタンを押す）。任意の場所でマウスホイールを回しても可変できる（または Ctrl＋左右キーで LO Freq、Ctrl＋上下キーで Tune Freq がそれぞれ可変）。可変ステップは Options→Mouse Wheel→Step で選択する（または Ctrl＋Home で選択画面を呼び出し、上下キーで選択、Enter で決定）。ダイレクト入力は、キーボードで LO なら L、Tune なら T を押し、1242kHz なら「1242」、83.7MHz なら「83700」と入力、Enter で受信。LO は 2 つ設定でき、AB ボタンで切り替える（または Ctrl＋V）ことで、2VFO のように使うことができる。A を中波、B を FM といった設定も可能。受信モード切り替えのショートカットは、AM=Ctrl＋A、ECSS=Ctrl＋E、FM=Ctrl＋F、LSB=Ctrl＋L、USB=Ctrl＋U、CW=Ctrl＋C、DRM=Ctrl＋D。AGC Thresh は、強力局を聞く場合は左側へ低めに設定しておくが、微弱局や変調の浅い局を聞く時は右へ上げると音が大きくなる。パスバンド幅を変えるには、右下の AF Spectrum に表示された赤いラインをドラッグする。パスバンドの左右どちらかのみ幅を変えることや、パスバンド・シフトの機能はない（注：AF Spectrum は出力音声周波数のスペクトラム表示で、「RF Spectrum」の入力高周波スペクトラム表示とは、波形やパスバンド幅の形状が違う）。スペクトラム窓とウォーターフォール窓は、目盛りゲージ部を右クリック＋ドラッグでサイズ調節が可能。混信局の周波数を調べる際は、スペクトラムを Zoom で拡大表示させて RBW の数値を低くする（グラフがより細かく表示される）。Notch は 10 カ所設定でき、Notch ボタンを押して AF Waterfall か AF Spectrum 上でビート周波数をクリックする。マウスを Notch スペクトラムに合わせてホイールを回すと、Notch バンド幅を調整できる。Auto Notch も実装。Notch OFF は Notch スペクトラムを右クリッ

ク（個別 OFF）か、Notch ボタン上で右クリック（すべて OFF）。ECSS モードでは、ECSS ボタンを押すごとに側波帯の選択が可能。メインウィンドウ左下の日時表示は、クリックごとに Local Time～UTC と切り替わる。

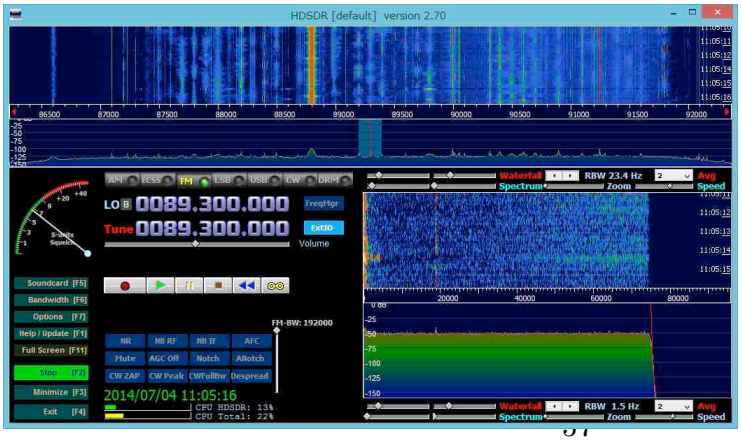
⑤FM を受信する際には、受信モードを FM に→Bandwidth ボタンを押す→Sampling Rate(Hz)の Output を最大の 192000 にする→FM-BW:96000 スライダを可変させ、適した帯域幅にする。バンド幅スライダは、FM モードボタンを押すたびに表示・非表示となる。信号が弱い時のノイズには NR が有効。S メーター目盛りをクリックでスケルチが ON（目盛りと針が赤色に変化）、目盛りゼロ付近をクリックで OFF。

⑥帯域記録は、録音ボタン（●）を押すだけ。録音ボタンを右クリックで録音やタイマーの設定ができる。HDSDR Recording Settings and Schduler ウィンドウにて、Start・Stop（それぞれローカル時間で設定）などを各種指定し、Add task ボタン→OK でタイマー設定完了。再生ボタン（▶）を押して記録ファイルを選択すると、再生を開始する。FDM-SW2 で記録したファイルも再生できる（逆は不可。なので記録は FDM-SW2 で行えば、解析は FDM-SW2 と HDSDR 両方でできる）。Volume スライダーの下の再生バーで、頭出し操作が可能。「∞」マークを押すと、再生中のファイルをリピートする。

⑦EiBi リスト表示。
http://www.eibi.de.vu/の CSV database を右クリックし対象をファイルに保存する。→ HDSDR メインウィンドウの LO 周波数表示右にある FreqMgr ボタンをクリック→ HDSDR Frequency Manager ウィンドウで、EiBi ボタン右の「▼」から Import from file を選択→さきほど保存した csv ファイルを選択し、開くをクリックで準備完了。受信周波数の局名は、HDSDR Frequency Manager を開き、右下の Find Match ボタンを押すとリストから表示される。

⑧周波数キャリブレーション。基準となる周波数の局（WWV など）にチューニング→ECSS モードにして自動的に正確な基準搬送波に同調させる→ Options→RF Front-End＋ Calibration→RF front-end frequency options & Calibration ウィンドウで、Calculate ボタンを押す。最高のキャリブレーション結果を得るためには、可能な限り高い周波数の基準局を使用する。

⑨Sound it!などのサウンド編集ソフトで解析した受信音を録音するには、Soundcard ボタンを押す→Sound Card Selection ウィンドウの RX Output(to Speaker)を Line 1 (Virtual Audio Cable)に設定する。デスクトップ右下のスピーカアイコンを右クリック→「サウンド」の「録音」で Line1 Virtual Audio Cable を既定のデバイスにし、Line1 Virtual Audio Cable を選択した状態で、プロパティ→Line1 のプロパティ→聴く→このデバイスを聴く、にチェックを入れる→このデバイスを使用して再生する→スピーカー／ヘッドフォンを選択→OK。サウンド編集ソフトのオーディオポート設定は、出力デバイスはスピーカー／ヘッドフォン、入力デバイスは Line1(Virtual Audio Cable)のままで OK（注：この設定で FDM-SW2 など他の SDR ソフトを使うと、スピーカー出力音声が「ダブって」聞こえてしまうので、他のソフトを使う場合はサウンド→録音→Line1 Virtual Audio Cable を選択した状態で、プロパティ→Line1 のプロパティ→聴く→このデバイスを聴くにチェックをはずす。



もっとちゃんとした設定方法があるかもしれないが、現状では不明)

FDM-SW2 では、リアルタイム受信時の最大帯域幅が 4.92MHz でしたが、HDSDR では 6.144MHz 幅で受信・記録・再生ができます。FDM-SW2 で記録したファイルも再生できました。HDSDR の機能はシンプルですが、10 カ所設定できる Notch やタイマー録音、タイムスタンプなど DXing と解析に必要な機能はほぼ備わっています。音質がいいので了解度が高いです。ただし筆者の環境では、HDSDR で 6.1MHz 帯域ファイルを再生すると音声が途切れたり遅くなったりする現象がありました。HDSDR の最新 Ver.が昨年のリリースなので、FDM-S2 にうまく対応してないのかもしれません。また各キーボードショートカットも「Ctrl キー」を同時に押さないと機能しないので、マウスが無いと使いづらかったです。

FDM-S2 をペディで使用する

USB バスパワーを電源とする FDM-S2 は外部電源が不要なので、外へ受信機器を持ち出す DX ペディションにうってつけです。Lenovo L430 の 9cell 内蔵バッテリ電源（PERSEUS の 1.6MHz 帯域記録が連続ほぼ 6 時間可能）で FDM-S2 を使用してみると、ディスプレイ電源オフ状態で 1.53MHz 帯域幅連続 4 時間半の帯域記録ができました。1 次伝搬狙いなら十分です。ペディのシャック構成は FDM-S2、ノート PC、ガルバニック・アイソレータ、とたった 3 点になりました。かつて、AR7030 が主力機だった頃は、大量の道具を持って海岸まで出掛けていましたが、SDR を使うようになった現在とはまさに隔世の感です。

まとめ

6〜7 万円というリーズナブルな価格で、基本性能は PERSEUS や EXCALIBUR に引けを取りません。基本ソフト FDM-SW2 の使い勝手にやや不満な点もありますが、解析時に「Offline Mode でファイルを再生し、Advanced Tuning、一時停止、Lock To CF は使用しない」これさえ守れば安定して動作します。代替ソフトとして HDSDR を使うと 6MHz 帯域リアルタイム受信ができますが、HDSDR の記録ファイルは FDM-SW2 では再生できません。帯域記録は FDM-SW2 で行っておくと、FDM-SW2・HDSDR 両方で解析できるのでお勧めです。FDM-SW2 の 6MHz 帯域記録でも、時々記録ファイルが音飛びします。まだまだパソコンの性能が 6MHz 帯域記録に追いついてないのかもしれません。「使いやすさは PERSEUS、音質と解析性能は EXCALIBUR、手軽に高性能は FDM-S2」。2007 年秋に PERSEUS が発売されて 7 年。次はどんな SDR が登場するのか、世界中の BCL が注目しています。

参考文献：BCL ライフ 2014（三才ブックス）「FDM-S1 使い方ガイド」西口隆司
KG-ACARS HFDL VDL MCA に感謝受信方法受信記録のブログ「RTL-SDR DRM 受信 HDSDR+Dream1.17 の導入、受信方法」
http://blog.livedoor.jp/bh5ea20tb/archives/4432855.html

Windows8.1 に PERSEUS をセットアップ ～奮闘記

長谷川眞也

新 PC へ受信環境移行にともなう諸問題

Windows OS は 2012 年 10 月の 8 に続き、2013 年 10 月には 8.1 がリリースされました。OS のアップデートに伴い各ソフトも対応版をリリースするのですが、いままで使っていたソフトが使えなくなって途方に暮れることもよく起こります。

筆者が昨年新 PC に買い替えたときに経験した、各受信用ソフトのセットアップ・トラブルとその克服について、参考までに書き残しておきたいと思います。記事タイトルからもお分かりのように、前号の中川さんの記事「Windows7 に PERSEUS をセットアップ～格闘記」の勝手な続編？です。

Windows Vista から Windows 8 へ

SDR 受信機 PERSEUS を使うために 2008 年購入した Windows ノート PC「Prime Note Galleria AT」は、パソコン・PC パーツショップ DOSPARA が販売するパソコンゲーム用ベアボーン（半完成品・自作）PC で、基本的には Acer の Aspire AS5920G-932G25 とほぼ同じものです。OS は Windows Vista で、Intel Core 2 Duo プロセッサーとグラフィックチップ NVIDIA GeForce 8600M GS を搭載。4 GB メモリに 250GBHDD、15.4 インチ液晶と当時としてはハイスペックでしたが、内蔵バッテリーの消費が激しく、PERSEUS で連続帯域記録すると 1 時間ちょっとでバッテリーが無くなってしまいました。TP やオセアニア中波がオープンした際には、数時間連続して帯域記録し続けると DX 局を拾いだす確率も高くなるのですが、バッテリー節約のために毎正時と 30 分の ID タイムだけ 10 分前後帯域記録し、それ以外の時間は PC をシャットダウンすることを余儀なくされました。予備バッテリー1 本も追加購入したのですが、それでもペディではどちらかというと聞いていない時間のほうが長く、毎回ただ帯域記録するためだけに出掛けているような状態でした。

のちにカーバッテリー（12V）をノート PC（19V）電源として使えるようにするための「DCDC 昇圧コンバータ」を自作。PERSEUS で 8 時間（EXCALIBUR では 6 時間半、PERSEUS + EXCALIBUR 同時だと 4 時間ほど）連続帯域記録が可能になり、ようやくバッテリーの減りを気にしながらのペディから解放されました。

そして持ち上がった LCC 沖縄ペディの企画。カーバッテリーは航空機荷物にでき

PC	CPU	HDD	RAM	Display	Interface	OS	Battery (駆動時間)	サイズ	重さ	発売時期
Prime Note Galleria AT	Intel Core 2 Duo 2.5GHz	250GB	4GB	15.4 (1280 x 800)	USB2.0	Windows Vista	6 Cell (2.5時間)	364×270.2×30.8-43.7mm	3.0kg	2008.3
ThinkPad L430	intel Core i7 2.9GHz	1TB	8GB	14.0 (1600 x 900)	USB3.0, USB2.0	Windows 8 (64bit)	9 Cell (15.3時間)	354 x 243 x 29.6-31.4mm	2.31kg	2012.6

新旧 PC 比較

ないため、DCDCUP コンバータを使うことができません。ノート PC のバッテリもかなりヘタってきているようで、不安が残ります。なかなか行けない場所に出掛けるのだし、聞いてる間はなるべく帯域記録しっぱなしにして持ち帰りたい…

そこで一念発起して新しいノート PC、Lenovo「ThinkPad L430」を購入しました。オフィス用マシンということでコストパフォーマンスが良く、Intel Core i7 プロセッサーに 8GB メモリ、1TBHDD、しかも 14.0 型液晶と先代機より小型軽量でペディ機としてなかなかのスペック。しかもバッテリーは 9 セル Li-Ion で公称「15.3 時間」という駆動時間です。多忙で機種選定に時間が掛かり、発注が遅かったのも災いして、中国工場から自宅に届いたのはなんと沖縄出発 2 日前。慌てて SDR ソフトのセットアップをしたのですが、慣れない OS8 に苦心しました。どうにか沖縄に持っていくことは出来ましたが、その後も試行錯誤は続いたのです…。

Windows8.1 (64bit) で PERSEUS が起動しない

まず、microtelecom の HP より PERSEUS の最新プログラム Perseus Software v4.1a と Perseus USB Drivers をあらかじめ新 PC にダウンロードしておいて、取説の手順で PERSEUS を L430 に USB 接続してみましたが、ここで出るはずの「新しいハードウェアが見つかりました」ダイアログが出ません。DL してある PERSEUS ソフトを起動させてみても、ソフトメインウィンドウは開くものの受信ができない状態。このときデバイスマネージャを確認してみると、「不明なデバイス？」アイコンがひとつあります。どうやら PERSEUS が USB で認識されていないようです。

PERSEUS の USB ドライバのインストールを試みます（AOR の HP にある USB ドライバーについての取扱説明書→http://www.aor.co.jp/perseus/files/）まず「不明なデバイス？」アイコンを右クリックし、ドライバーソフトウェアの更新→コンピューターを参照してドライバーソフトウェアを検索します→コンピューター上のドライバーソフトウェアを参照します→参照→PerseusWinUSBDrivers ファイル→perseus_winusb.inf を選択→次へ、と進み、このドライバーソフトウェアをインストールします、を実行してみますが、サードパーティの INF にデジタル署名情報が含まれていません、の表示が出て USB ドライバを認識できません。

PerseusWinUSBDriver（perseus_winusb.inf）にはデジタル署名がなく、Windows 8.1 の 64bit 版に対応していない（Windows 7 には対応している？）模様です。そこで次のような方法を試してみました。

①PERSEUS を USB 接続した状態で、Windows8.1 の画面右端にあるチャームバーから、設定→電源とクリックし、SHIFT キーを押しながら、再起動を選択。

②再起動後に表示されるオプションの選択項目から、トラブルシューティング→詳細オプション→スタートアップ設定→再起動とクリック。

③再起動後に表示される、スタートアップ設定項目から、「7) ドライバー署名の強制を無効にする」を選択するため、数字キー「7」を押す。これで Win8.1 はテストモードで起動したことになる。

④あらためて上記の「不明なデバイス？」右クリック～ドライバーソフトウェアをインストールしますを実行し、PERSEUSWinUSBDrivers フォルダを選択してインストールする。

⑤ドライバーソフトウェアが正常に更新されました、と表示されれば OK。テストモードを解除するため、PC を再起動させる。

PERSEUS ソフトを起動させると、無事動作することができました。再度デバイスマネージャを確認すると、

Microtelecom Devices 項目に Perseus HF Receiver (WinUSB)アイコンがちゃんとあります（USB 接続をはずすと「Microtelecom Devices」項目は消えます）。Perseus HF Receiver (WinUSB)アイコンには「?」マークがついた状態ですが、デジタル署名つきの新ドライバがリリースされたら、「?」マークも消えるかもしれません。

PERSEUS ソフトインストール時に、perseususb.dll、mpps.exe ファイルなどがウィルス対策ソフトによって削除されることがありますので、事前にウイルス対策ソフトをオフにすることをお勧めします。筆者の場合、Norton Internet Security が perseususb.dll を勝手に削除してしまうので、perseususb.dll アイコンを右クリック→ノートンファイルインサイト→不正→今すぐ信頼、で削除を回避できました。

なお PERSEUS の最新版ソフトウェアは Windows8 と USB3.0 をサポートしていますので、USB3.0 接続で問題なく動作しています。

Windows8.1 (64bit) で Perseus Record Scheduler、FC Record Timer が作動しない

PERSEUS の動作を確認後、Perseus Record Scheduler、FC Record Timer それぞれを起動してタイマーをセットしてみましたが、タイマーソフト自体は動作するものの、なぜか保存場所に記録ファイルが作成されません。64bit の PC で PERSEUS のタイマーソフトを使うためには、前号の中川さんの記事にあったように、64bit 版用デジタル署名付きの仮想シリアルポート com0com をインストールすることが必要です。

①64bit 版用デジタル署名付きの com0com を、http://en.sourceforge.jp/projects/sfnet_com0com/downloads/com0com/2.2.2.0/com0com-2.2.2.0-x64-fre-signed.zip/ からダウンロードする。

② PerseusWinUSBDrivers の時と同じく、ドライバー署名の強制を無効にするの手続きをして、テストモードにする。

③「com0com-2.2.2.0-x64-fre-signed ファイルの中にある setupg.exe アイコンをダブルクリックして、com0com をインストールする。

④ Program Files 内の com0com フォルダにある「seuupg.exe」をダブルクリックし、出てきた Setup for com0com 画面にて各項目を入力して設定（前号の記事を参照）。最後に Apply をクリック。

⑤デバイスマネージャで、com0com - serial port emulators 項目の中に、com0com - bus for serial port pair emulator 0 (COM10 <-> COM11)があることを確認する。

⑥テストモードを解除するため、PC を再起動させる。

このプロセスを経てもタイマーソフトは動きませんでしたが、WindowsOS をリカバリーしたところ動作するようになりました（詳細は文末に）。

Windows8.1 (64bit) に Virtual Audio Cable をインストールする

PERSEUS の帯域記録から個別に受信音を mp3 などで録音する、また PERSEUS 受信音から DREAM ソフトを使って DRM を復調する、KG-FAX を使った気象 FAX 放送の復調、NAVTEX Decoder を使った NAVTEX の復調、KG-HFDL を使った HF ACARS の復調などには、PC に仮想サウンドカードをインストールする事が必要です。筆者も Vista で使っていた仮想サウンドカード Virtual Audio Cable4.09。前号で中川さんは「Windows7 に移植してインストールを試みるが使えず」と報告されていますが、自分でも確認してみようと新 PC にインストールしてみました。

①Virtual Audio Cable4.09 のセットアップソフトなどが入った vac409full フォルダを、旧 PC から新 PC に移し替える。

② vac409full フォルダの setup.exe をクリックして、Virtual Audio Cable4.09 をインストールする。この際に、電子署名されたドライバーが必要です kernel-mode WDM driver Eugene V. Muzychenko といったような表示が出ることがありますので、その場合は PerseusWinUSBDrivers のところでやってみた「スタートアップ設定」～「7)ドライバー署

名の強制を無効にする」を、インストール前に試してみて下さい。
③インストールが完了すると、Windows8.1_OS(C:) → Program Files に Virtual Audio Cable フォルダができているので、vcctlpan.exe をクリックして Virtual Audio Cable Control Panel を起動。三才ブックス刊「BCL ライフ 2010」の石田 OM の記事を参考にして、Stream fmt を Cable format に変更する。
④デスクトップ右下のスピーカアイコンを右クリックし、サウンド設定のオーディオ録音デバイスを Virtual Audio Cable を「既定のデバイス」に設定する（再生側は、スピーカ／ヘッドフォンを既定のデバイスに）。

以上設定してみましたが、PERSEUS の音声を録音ソフトに録音することはできました（録音ソフトは Sound it! 3.0 LE。オーディオポートの設定で入力デバイスを Virtual Audio Cable に設定）。気象 FAX や NAVTEX なども各ソフトで復調できています。なおデバイスマネージャを確認すると、前号の記事どおり Virtual Audio Cable のアイコンに「！」マークがついています。プロパティには「このデバイスに必要なドライバーのデジタル署名を検証できません」といった文言が出ています。

注：Virtual Audio Cable は、購入したユーザーなら無料でアップグレードが可能です。こちらの方法をお勧めします。
①Virtual Audio Cable4.09 を購入したときに、support@muzychenko.net から届いた「Your RegSoft.com order has been Authorized!」というタイトルのメールに、購入した Virtual Audio Cable4.09 のダウンロード用アドレスが書いてある（ software.muzychenko.net/●●●●●●●●/vac409full.zip）ので、これを最新版バージョンナンバーに変更したアドレスを新たに作成する（これを書いている時点での最新版は V4.13 。http://software.muzychenko.net/●●●●●●●●/vac413full.zip と書き換える）。このアドレスをブラウザで開くと、v4.13 のファイルが自動的にダウンロードされる。なおアップデートは無料。
② PC 内に以前の Virtual Audio Cable（旧バージョン）がある場合は、必ずアンインストールしておく。
③ダウンロードされた vac413full フォルダの中にある「setup64.exe」を起動し、Virtual Audio Cable 4.13 をインストールする。
④Virtual Audio Cable フォルダ内の vcctlpan.exe をクリックして Virtual Audio Cable Control Panel を起動。Stream fmt を Cable format に変更する。
⑤デバイスマネージャの「オーディオの入力および出力」に Line 1 （ Virtual Audio Cable）があることを確認する。
⑥デスクトップ右下のスピーカアイコンを右クリックし、サウンド設定のオーディオ録音デバイスを Virtual Audio Cable を、既定のデバイスに設定する（再生側は、スピーカ／ヘッドフォンを既定のデバイスに）。

差出人: **Your RegSoft.com order has been submitted! <sales@regsoft.com>**
件名: Submission of your order for Virtual Audio Cable 4
日時: 2009年3月2日 13:18:16 JST
宛先:
返信先: sales@regsoft.com

Thank you for using RegSoft.com for your purchase of Virtual Audio Cable 4.
The Tracking Number for your order is .

Check your order status online at:
https://www.regsoft.net/orderstatus.php3?id=

-Important Information About Your Order
Once you clicked the Complete Purchase button on our order page, your order was assigned a Tracking Number. The Tracking Number for this order is . Please do not confuse this Tracking Number with a UPS or Federal Express tracking number, which tracks shipments made through these companies. This number does not correspond to any shipping company and does not imply that your order will be shipped. It is simply a number that RegSoft.com uses internally to locate your order before it has been processed.

-What You Can Expect
Your order has been submitted and is being processed. What exactly does that mean? Your credit card has NOT YET been charged, so within the next few minutes we will be submitting your order to our credit card processor. Depending on the result, you will either receive an email stating that your order has been approved or that it has been declined. In either case you will be receiving another email from us.

-What To Do If You Don't Hear Anything From Us
If you do not receive another email from us within a few hours, there may be a problem with your order. In that case, please visit the following link to obtain the status of your order:
https://www.regsoft.net/orderstatus.php3?id=
From there you will be able to find the status of your order and learn how to proceed if there is a problem.

-How Will The Transaction Be Completed?

NOTE: RegSoft.com provides the billing for Virtual Audio Cable 4. We do not provide ANY technical support for the product. Please direct any questions about the use of Virtual Audio Cable 4 to the vendor at http://software.muzychenko.net/eng/vac.html.

It is hereby certified that this invoice shows the actual price of the goods described, and that all particulars are true and correct to the best of our knowledge. These goods, technology or software were exported from the United States in accordance with all applicable U.S. laws and regulations. Diversion contrary to U.S. law is prohibited. No exports or re-exports of these items, or related services and technologies, will be made to individuals, entities, or countries prohibited by U.S. laws and regulations.

Again, Thank You for your purchase.

Sincerely,
The RegSoft Team

RegSoft.com, A Service of Digital River
9625 West 76th Street, Suite 150
Eden Prairie, MN 55344 USA

VAC のサポートから届いたメール

幾度かのインストールし直しの過程で、VAC のインストールが不可になる事態があり、「 Directory "C:¥ ProgramData ¥ Microsoft ¥ Windows ¥ StartMenu ¥ Programs ¥ Virtual Audio Cable" already existst」というエラー表示が出ました。PC 内を「Virtual Audio Cable」で検索し、上記ディレクトリ内の VAC を削除することで、インストールできるようになりました。

「NETDUETTO」もダウンロードしてみましたが、こちらはうまく作動させることができませんでした。ちなみに、筆者は最近の受信音切り出し（ブログへの張り付け用）には、Bandicam をよく使っています。こちらは Virtual Audio Cable は必要ありません。

USB3.0 接続で EXCALIBUR が起動しない

Winradio の HP で、USB3.0 に対応した最新版の EXCALIBUR ソフトウェアをダウンロードすることで、USB3.0 接続で使用できるようになります。

Windows8.1 (64bit) で RTL-SDR が起動しない

http://sdrsharp.com/downloads/sdr-install.zip でソフト（筆者が DL した時は SDR # v1.0.0.1188）を新 PC に DL しましたが、メインウィンドウは出るものの、ウィンドウ左上のプルダウンメニューから RTL-SDR / USB を選択できず、

エラーメッセージ「RTL-SDR / USB is either not connected or its driver is not working properly」が出てしまい、受信できません。その場合、下記を確認します。

①USB ドングルを PC に接続した状態で、sdrsharp フォルダ内にある Zadig を起動させ、Device プルダウンメニューに“Bulk-In, Interface (Interface 0)などの項目表示が無い場合、左上の Options メニューバーから List All Devices にチェックを入れる。Device に表示される名称の中で、使用するドングルのブランドや"rtl"ではじまる似たような名前の項目（「RTL2838UHIDIR」など）の場合、それを選択することで動作することがある。

② Device ： RTL2838UHIDIR、Driver ： WinUSB (v6.1.7600.16385) → WinUSB (v6.1.7600.16385)、USB ID：0BDA 28 38、以上の項目が表示されている事を確認し、「Install Driver」をクリックする。

これで無事に起動しました。USB3.0 でも動作しており、処理能力の高い L430 なので Sampling Rate 3.2 MSPS でも音飛びしません。

また TV Sharp ですが、インストールした TVSharp.exe が Norton Internet Security によって勝手に削除されることがあるので、TVSharp.exe アイコンを右クリック→ノートンファイルインサイト→不正→今すぐ信頼、で削除を回避できます。

おわりに

この奮闘記には余談があり、まず購入後すぐ Windows8 で上記セットアップをしましたが、Perseus Record Scheduler、FC Record Timer、SDR#は動作しませんでした。とりあえずその状態で沖縄ペディに持参しましたが、PERSEUS、EXCALIBUR 自体はちゃんと動いてくれて、無事に大量の記録

データを持ち帰ることができました。SDR#のセットアップは、沖縄からの帰宅後にうまくいきました。そのあと Widows8.1 にアップデードしてみたところ、PerseusWinUSBDrivers や com0com-2.2.2.0-x64-fre-signed、SDR#の Zadig の設定などがリセットされてしまい、各ソフトが動作しなくなってしまいました。それぞれをインストールし再設定し直したところ、元のように動作するようになりましたが、あいかわらず PERSEUS タイマーソフトは動作しないままでした。年が明けると、今度は PC 本体にトラブルが発生。WiFi 接続でネットに繋がらない状態になってしまいました。デバイスマネージャで確認すると、「ネットワークアダプタ」から無線ドライバーのアイコンが無くなっています。OS をリカバリーしましたが改善しません。メーカーサポートに相談したところ、「システムボードの物理的故障で Windows が損傷したらしい」とのことで、ボード交換の引き取り修理になってしまいました。サポートセンターから戻ってきた「購入当初状態の PC」を、また一から再設定し直し…。各受信ソフトも再々度ダウンロード・セットアップし直したところ、なぜか PERSEUS タイマーソフトが作動するようになっていました。理屈は分かりませんが、リカバリーによってタイマーソフトとコンフリクトしていた何かが解消されたのかもしれません。なお、ここにきて今度は SDR の TV Sharp が動作しなくなりましたが、こちらはソフトを再インストールしたら使えるようになりました（最新版は v1.2 。こちらから http://sdrts.amoti.ru/download/view.download/4/8）。そして満を持して、もう一度 Windows8 から 8.1 へ再アップデート。リセットされた各設定などを再々再度（笑）やり直して、こんどこそすべて使えるように。ここまでに 5 ヶ月を要しました。

各設定も終わり、Lenovo L430 の 9 セル内蔵バッテリー電源で PERSEUS を連続帯域記録（2000kS/s）してみると、5 時間 56 分で「バッテリーの残量が少なくなっています（9%）」と表示が出ました。記録中、ディスプレイの電源はほぼオフ状態です。6 時間弱と先代ノート PC より 6 倍近くの保ち時間となり、カーバッテリーと比べても軽量化の面で格段の進歩です。しばらくはこのノート PC と各 SDR で DX Pedition に挑みたいと思います。

それにしても疲れた…。

~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~

参考文献：
FBDX アンテナ・技術関連版「PERSEUS on WIN8」http://ani.atz.jp/FBDX/tecbbs/-1003
NonSoft「ドライバー署名の強制を無効にする方法 Windows8 の使い方」http://homepage2.nifty.com/nonnon/Chinamini/win8/win8-h027.html
PROPAGATION Edition 1「Windows7 に PERSEUS をセットアップ〜格闘記」中川弘夫
BCL ライフ 2010（三才ブックス）「PERSEUS 活用術」石田敦敬
Enjoy! BCL!! Radio Radio! Radio!! BLOG「Virtual Audio Cable」http://ngo.cocolog-nifty.com/enjoy_bcl_radio_radio_rad/2013/10/virtual-audio-c.html

~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~

ロードバイク＋ポケットDSPラジオでUltralight DX

五十嵐　雄希

BCLとならぶ私の趣味の一つにサイクリングがある。小学生時代には実家のある地方都市の自転車店協会のようなところが主催していた「おはようサイクリング」という毎週日曜の朝にサイクリングをする会に参加していた。サイクリングは中学生になってからやめてしまったが、BCLと同様に大人になってから復活した。ロードバイクで軽快に走るのもよし、小径車であちこち寄り道しながら散歩のように走るのも楽しい。

PROPAGATION Edition1でNakaさんがバイクによるペディの興味深い記事を書かれていたが、この記事を読んで、サイクリングにラジオを持参し、サイクリングを楽しみ、行った先でDXを楽しむというお手軽なペディができるのではないかと考えていた。そんな中、PROPAGATION Edition2に向けたテーマに「ロードバイク＋ポケットDSPラジオでUltralight DX」をShinさんからご提案いただき、ウルトラライトなペディをゴールデンウィークに実行した。

■装備

サイクリングとDXを両方楽しむのが趣旨であるので、サイクリングに支障がないように持参するものはリュックサックに入る範囲で極力かさばらず軽く抑えたい。

今回はTECSUNのBCLラジオPL-380、中波用アンテナとしてマイクロパワー研究所のMagical Stick Ace、ICレコーダ、LEDライト、ケーブル類を用意した。

Magical Stick Aceは先日　我戸塚豪さんに見せていただき、ウルトラライトペディに使えそうだということでGW前半に調達したものである。

■目的地

ペディを目的とするならば行き先として海または山が思い浮かぶが、山はハードなので海に行くこととした。できれば三浦半島あたりに行きたいところであるが、帰りが夜になることを考慮し、あまり遠すぎない範囲でペディができそうなスポットとして辻堂海浜公園を選定した。この公園は神奈川県藤沢市辻堂西海岸にある神奈川県立の公園で、公園の中には広い芝生広場や交通広場、ジャンボプール等がある大規模な公園である。この公園の海側に展望台のようなものがあるため、この展望台でラジオを受信することとした。

■いざ辻堂海浜公園へ

5/4にウルトラライトペディ

今回持参した機材

今回使用したロードバイク

辻堂海浜公園の入り口

を実行することとし、15 時過ぎにロードバイクで戸塚の自宅を出発。しばらく柏尾川沿いを鎌倉市の大船方面へ。気温は 20 度を越え、自転車を漕いでいると汗をかくが、向かい風が強く少々寒い。また、花粉症の私は 2 月〜4 月はサイクリングを自粛しており、3 ヶ月ぶりのロードバイクサイクリングであったので、向かい風は体力的に少々キツイ。

大船駅を過ぎたところで JR 東海道線と横須賀線の踏み切りを渡り、柏尾川沿いを藤沢方面に向かって走る。手広交差点で右折、更に藤沢方面へ。しばらく走ると藤沢市民会館の付近で国道 467 号線につながるので、左折し国道 467 号線を海方面へ向かって走る。3km ほど走ると海が見えてきて、片瀬東浜交差点で国道 134 号線に出る。ここを右折すると、江ノ島に行こうとする車で江ノ島入り口交差点まで大渋滞している。なんとか渋滞をやりすごし、国道 134 号線を茅ヶ崎市方面に向かって 4km ほど走り、16:20 には辻堂海浜公園に到着した。サイクルメーターを見ると走行距離は 19.1km であった。

■受信状況

16 時過ぎでもまだまだ明るいので、この時間でも公園には多くの家族連れ、カップル、若者のグループなどがいた。展望台にあがると、幸い先客はいなかったため、受信を開始した。とりあえず短波で 6180kHz R.Nacional da Amazonia に周波数をあわせて見るが聞こえない。もう少し日が暮れてくるまで待とうと思い、もしかしたら E スポでているかも?なんて思い FM を聴いてみると、中国語が聞こえるではないか。中国語に混じってモンゴル語らしき局も聞こえる。しばらく FM を聞いた後、18:00 前あたりに再度 6180kHz に周波数を合わせると、R.Nacional da Amazonia が自宅で聞くのとは桁違いに強力に聞こえる。また 5020kHz では SIBC、5025kHz では R.Rebelde らしき局が聞こえている。ただ、ラジオの調子が悪く、どこか接触不良でも起こしているのかのように感度が急に下がったり元に戻ったりしており、非常に聴きにくい状態であった。16:20 頃に 6180kHz で何も聞こえなかったのもこれが原因かもしれない。

明るいうちは他の人が何度か来たが、大きなアンテナを立てて PC に向かって SDR で聴くのとは違い、普通のラジオを聴いている分にはあまり違和感はないようで、ジロジロ見られたり、何をしているのかたずねられることもなかった。

広大な芝生広場

岸側の展望台

展望台から江ノ島が見える

18:30 を過ぎるとあたりは暗くなり、夕暮れの中に富士山が浮かんで見えている。この景色を見ながら中波でグアム 3 局をチェックすると、567 k Hz KGUM、630kHz KUAM が弱いながらも聞こえていた。801kHz KTWG は 810 k Hz AFN の強力なサイドにつぶされているのか聞こえなかった。ここで Magical Stick Ace を登場させ、ラジオに並べてみたものの、ラジオがどうにも不調でもあり、効果を確認しずらい状況であった。時刻は 19 時を過ぎ、このあたりで寒さに我慢できず、Magical Stick Ace は別の機会にじっくり試してみることとし、撤収することとした。

1 時間ほど夜道を走行し、20:30 には自宅に無事到着。初の ロードバイクとポケット DSP ラジオでのウルトラライトペディを終えた。

■ロードバイクペディを終えて

今回ロードバイクでのウルトラライトペディを実行して感じた注意点は以下の通りである。

＊昼夜の寒暖差を考慮した服装が必要

昼間のサイクリングタイムは比較的気温が高く、運動により汗をかくため薄着でよいが、夕方からの DX タイムは気温が下がるため防寒着が必要となる。特に、今回のように海岸でペディをする場合は海からの風が強いことを考慮し、上着の準備が必要である。今回はウインドブーカと中に着る長袖 T シャツを準備して行ったが、これでも不十分であった。

＊夜間の走行は十分すぎるくらいの安全対策を

自転車は道路交通法上、車道を走る必要がある。今回走った湘南海岸沿いの国道 134 号線は江ノ島入り口あたりから平塚あたりまで片側 2 車線の道路であり、スピードを出して走っている車も多い。事故防止のために

展望台にて

PL-380 と江ノ島

夕暮れの富士山

サイクリング用ウェア　腰部分に大きなポケットあり

はセーフティライト、リフレクター等で後ろから来る車に自分の存在をアピールすることが必要である。

　また、ロードバイクのタイヤは非常に細いため、路肩の段差にタイヤをとられて転倒する危険性がある。暗い中でも段差や障害物を認識できるようしっかりしたライトを装備する必要がある。

■今後の展望

<その 1>リュックレスで更なるウルトラライト化

　今回はリュックにラジオ、バーアンテナを入れて、背負って行ったが、サイクリング用のウェアには背中の下部腰のあたりに荷物を入れられるようポケットがついている。これは、サイクリング時にリュックなどを背負わずに必要な装備を収めるためのものであるが、ペディを更にウルトラライト化するために、更に機材を減らしをこのポケットを活用し、身軽にしたい。これによって、より軽快にサイクリングを楽しむことができる。そのためには PL-380 よりさらにコンパクトなラジオ(カセットテープケースサイズくらい)が欲しいところである。また、コンパクトなアンテナも準備したいものである。

<その 2> 輪行を組み合わせたペディ

　サイクリングは昼、DX のメインは夜であり、夜ラジオを受信した後、長距離を走って帰ってくるのは厳しいものがある。そのため、おのずと近場となってしまう。行き先の範囲を広げるため、輪行（りんこう）を活用したい。輪行とは、自転車を公共交通機関（鉄道～船～飛行機など）を使用して運ぶことで、サイクリング行程の一部を自走せず省略するために使う手段である。

　たとえば、自宅のある戸塚を午後に出発、鎌倉、葉山を経由して三浦半島まで約 35km、2～3 時間程のサイクリング。夕方～暗くなる頃まで受信タイム、京急三崎口駅から自転車を電車に積んで、京浜急行と横浜市営地下鉄を乗り継いで戸塚まで約 1 時間程で帰宅といったところである。

　さらには、サイクリングで横須賀市の久里浜まで行き、久里浜港から千葉県金谷港に向けて出ているフェリーで千葉に渡り、外房の海岸でペディを行い、JR で帰ってくるなんていうプランもある。

　ただし、輪行を併用する場合には輪行袋などの部材を持っていく必要があり、若干荷物が増えてしまうが、行き先の範囲を大きく広げることができ、次のステップとして実行したい。

■終わりに

　今回のウルトラライトペディでは DX 的な成果はなかったが、サイクリングを楽しみ、さらにラジオ受信も楽しむことができた。また、コンパクトなラジオでもロケーションの良さにより家よりも格段によいコンディションで聞こえることを改めて実感した。今回は寒さに耐えながらの受信であった、これから徐々に暖かい季節になってくるので、夜も海風が心地よいものとなってくるだろう。ぜひ再トライしたい。

Magical stick Ace について

我戸塚豪

この度、中波用受信アンテナ Magical Stick Ace を入手しましたのでその使用感や雑感などを書かせて頂きます。尚、この記事はあくまでも個人的感想ですので使用感等は周囲の環境等が影響する可能性がありますので予めご了承下さい。

Magical Stick Ace とは？

Magical Stick Ace とは、昔、謎のトライアングルアンテナ等のループアンテナで有名でしたミズホ通信研究所 (http://mizuho-lab.com/) が製作した中波受信用フェライトバーアンテナです。販売元は東京・秋葉原のラジオデパートの 1F のマイクロパワー研究所というお店です。

Magical Stick Ace の中身は、200 X 10mm のバー・アンテナとポリ・バリコンが入っており、1 次コイル部分には 0.04mm X 100 本のリッツ線を使用して、高い Q 値を得ているということです。 今回、購入したのは受信機にも繋げられるように BNC 端子タイプを選びましたが RCA 端子タイプも売られています。上記写真のように本体にはアンテナがゴロゴロと転がらないように木の土台が確りと取り付けられています。説明によるとフェライトバーは衝撃に弱い為、このようにしてるとの事です。本体と土台はプラスチック製のベルトで固定されてますががマイナスドライバーでロックを取り外す事ができました。尚、この場合、誤って落下してしまうと中のフェライトバーが割れて壊れてしまう恐れもあるので取り扱いには注意が必要です。

Magical Stick Ace とポータブルラジオを繋ぐ

Magical Stick Ace とアンテナ端子が無い小型ラジオなどの接続はアンテナの傍にラジオを持ってきてアンテナの同調を合わせる誘導結合という方法があります。TECSUN の小型ラジオ PL-380 とこの方法で繋げてみました。ラジオを目的の周波数に合わせ、Magical Stick Ace の同調ボリュームを廻すだけでラジオの感度がグンと上がります。日中でも室内で 558kHz のラジオ関西をこの方法で聞くことが出来ました。(ラジオの感度は同調時、20dbμ から 27dbμ に上昇)

PL-380 と Magical Stick Ace を誘導結合

また、アンテナ本体の BNC 端子若しくは RCA 端子からビニール線を引っ張ってきて結合ループを作りラジオ本体に 3-4 回、巻きつけるという電誘導結合と言う方法もあります。巻きつける場所はラジオによって違いますので色々と試してみてください。此方で試してみた所、誘導結合よりこの方が感度が上がる模様でした。(ラジオの感度は同調時、20dbμ から 30dbμ に上昇)

Magical Stick Ace には BNC 端子と RCA 端子がついている 2 種類のタイプがあります。ポータブルラジオに電誘導結合する場合は RCA 端子タイプを選び、別売りの電磁誘導用の RCA 接続ケーブル（長さ 1.5m ￥500)がありますのでそちらを使うのも良いかもしれません。

Magical Stick Ace で海外中波 DX は可能か？

ある夜の事、屋外に出て Magical Stick Ace と PL-380 の組み合わせで何処まで遠く迄、聞こえるのか試してみました。方法はアンテナとラジオを近づける誘導結合にしました。写真のように Magical Stick Ace を PL-380 の上部に固定します。固定には 100 円ショップで買った伸び縮みするゴムベルトを 2 本使用しました。がっちりと固定するには釣竿などを固定するロッドベルトなどを使用するのも良いかもしれません。

ベランダに出て北米中波が聞こえないかなと思い、ラジオと Magical Stick Ace を北東方向に向けます。周波数を 1550kHz にセットし、Magical Stick Ace の同調ツマミをゆっくりと廻します。ラジオの感度が一番高くなるポイントにツマミを合わせ耳を傾けていると音楽が浮き沈みしながらに聞こえてきました。暫くして・・・男性アナウンサーの声で、”KKOV...”と聞き取れました。後から調べてみるとこの局は、アメリカ、WA 州の KKOV でした。尚、ポータブル受信機などの小型のラジオで遠距離受信を行う事を海外では Ultralight Dxing と呼んでいるそうです。この他に PL-380 と誘導結合の組み合わせで受信できた主な海外の中波局は下記の通りです。

567kHz KGUM (グアム島) English

630kHz KUAM (グアム島) English

801kHz KTWG (グアム島) English

780kHz KNOM (USA,アラスカ） English

850kHz KICY (USA,アラスカ) Russian

1593kHz V6AK (ミクロネシア) Chuuk

結果としては、色々な局が聞こえましたが全て屋外使用での受信ですので雑音が多い場所や屋内ではこれらの局の受信は難しいかと思われます。また、コンディションによっては受信が難しいかもしれません。

尚、TECSUN の PL-380 は 1kHz のフィルターが搭載されている為、このような局を受信

Magical Stick Ace＋PL-380 受信セットの一例

するには適していると考えています。

欠点と長所

Magical Stick Ace の欠点と長所を考えてみました。欠点は操作が非常にクリチカルだということです。通常は、Magical Stick Ace のボリュームを廻してラジオの感度が最大になる所に合わせるのですが信号のピークポイントを見つけるのがボリュームの微妙な操作を必要とする為、うっかりするとピークポイントを見つけられず何度もボリュームを廻してしまう事があります。これを防止するには予め、大まかな同調周波数などをマーカーなどでアンテナ本体に印をつけておくと良いかもしれません。

また、アンテナ本体が周囲の生活雑音を増幅してしまうことがあります。屋内ではアンテナは窓際に設置するか受信機と繋げる時は本体と離して使うと良いと思います。長所については本体の重さが非常に軽いということです。これなら何処へ持参しても気になりません。

終わりに

Magical Stick Ace は小型のラジオの中波の感度を上げるのに有効なアンテナだと思います。勿論、受信機にも使えます。似たような製品は海外でも数多く見られますが日本で製品化してるのはミズホ通信研究所だけだと思います。今後も、このアンテナで何処まで聞こえるのか試してみたいと考えております。

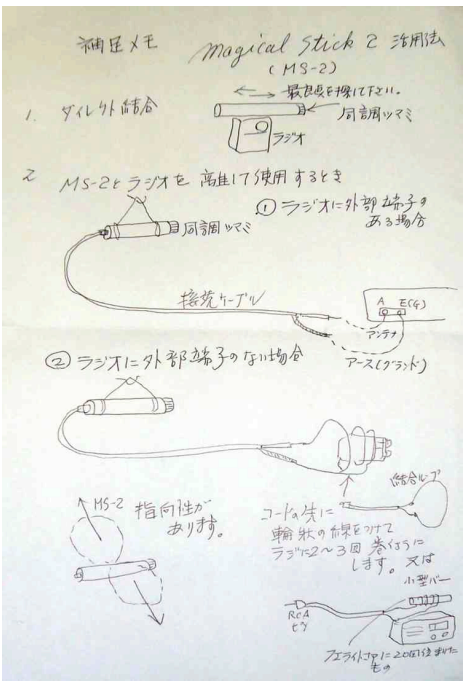
製品の仕様と価格ですが、一次コイルに 0.04mm X 100 本のリッツ線を使用した BNC ジャックタイプが ￥6,500 (送料別)、従来のコイル 0.04mm X 20 - 30 本のリッツ線を使用した BNC ジャックタイプが￥5,900 (送料別)、となっています。お話によると、0.04mm X 100 本のリッツ線を使用したタイプは本数が増えるため誘起電圧が若干増加します、との事です。また、RCA ジャックタイプは￥5,500 (送料別) となっています。

製品の詳細等、問い合わせは此方までお願いします。
〒101-0021 東京都千代田区外神田 1-10-11 東京ラジオデパート 1F マイクロ・パワー研究所

電話/FAX 03-3255-8018

AM11:00 - PM5:00 木曜休み

http://bar-antenna.com/magical/magical.html



ミズホ通信高田 OM による活用メモ

受信機ルポ

TECSUN

PL-380

長谷川眞也

●PL-380 とは

PL-380 は、中国広東省の TECSUN 社（東莞市德生通用電器製造有限公司）が 2009 年に発売した AM（LW～SW）／FM ステレオワールドバンド DSP ラジオです。文庫本よりひとまわり小さなサイズで 200g（電池のぞく）、5000 円前後で入手できます（2013 年 12 月現在）。日本では OEM 製品として、オーム電機から AudioComm RAD-S800N という機種名でも販売されています。

近年、中国製において DSP（Digital Signal Processor。アナログ信号をデジタル処理で同調・検波・増幅する技術）を使ったラジオが多く製造されており、BCL ラジオの小型化・高性能化・低価格化が進んでいます。なかでもよく使われている DSP チップが、米 TX 州オースチンにある Silicon Laboratories 社製「Si4734」ですが、この IC には「ソフトミュート」という DXer を悩ませる機能があります。ソフトミュートとは、放送局の信号が弱くなると自動的にオーディオレベルが下がり、ノイズなどの聞きづらい音を和らげる機能です。つまり、「ある一定の信号レベル以下の局」は聞こえなくなってしまうのです。リスニング派にとっては「低ノイズとクリアな音質で（そこそこ強い局を）楽しめる」という DSP ラジオの売りが、微弱局を追いかける DXer にとっては「使えないラジオ」となってしまうのです。

PL-380 にも Si4734 チップが搭載されているのですが、なぜかソフトミュートはほとんど機能していません。PL-380 の内蔵フェライトバーアンテナは 8cm と短く（同じ Si4734 搭載ラジオの PL-310 は 10cm）、中波帯の感度が基本的に低くなっています。そのためか、必要以上に受信局の音量を下げないよう、ソフトミュート機能が抑えられているようです。これが幸いして、ノイズレベルの微弱局も受信できるようになっています。さらに PL-380 は、コンパクトサイズながら 6・4・3・2・1kHz の選択度切替が可能で、海外の Ultralight （超軽量装備）DX 愛好家の間では「（外部アンテナを用いれば）1kHz 差の混信局をカットしたい TP-DX に最適なポケットラジオ」という評価を得ています。

ただし PL-380 には外部アンテナ端子がないので（前述のようにソフトミュートを掛けていない分、余計なノイズや微弱電波を受信させないようにという配慮？）、外部アンテナとは誘導結合させるか、改造して外部アンテナを接続させる必要があります。

●PL-380 の詳細

今回購入した PL-380 は、同梱の合格証に「生産日期 20130628」とありましたので、発売開始から 4 年を経ても製造が続けられているようです。同梱の取扱説明書は中国語ですが、RAD-S800N の日本語取説がネットでダウンロードできます。本体に付属していたものは、ハンドストラップ（本体に組込）、取扱説明書、簡易マニュアル、本体収納用ポーチ、ステレオイヤホン、イヤホンポーチ、SW/FM 用延長アンテナ、合格証、保証書です（説明書類はすべて中国語）。別途、単三電池 3 本や、電源／充電用に USB ケーブル（本体入力側にミニ USB5pin コネクタのもの）が必要です。

中国製 BCL ラジオを買うのは DE1103 以来 7 年半ぶりですが、性能の進化を感じました。SSB モードや感度調節、外部アンテナ端子、録音端子などは付いてないものの、6・4・3・2・1kHz の 5 段階選択度フィルタ（DE1103 のフィルタは 6・4kHz の 2 段階）、選局ダイヤルの回転速度で変化するチューニング周波数ステップ、「enter」キー不要の周波数 10 キー入力（594kHz なら 5・9・4、84.7MHz なら 8・4・7 と入力するだけで受信）、FM はロシアバンド対応の 64～108MHz、各バンドでスキャンした局を自動メモリ登録するなど 7 種の受信モード、dB・dBu 数値の S メータ／気温を液晶表示、電源／充電用の USB 端子、など多機能です。特に帯域フィルタは優秀で、狭めても了解度が高く、いちばん狭い 1kHz でも音声が聞き取れます。

なお DE1103 とくらべると、ロッドアンテナも内蔵バーアン

テナも短いので、AM・FM とも感度はわずかに低いです。

ところで国内では中華 DSP ラジオの Soft mute についての話をあまり耳にしません。似たような事例で、PL-660 や PL-880 などの信号強度変化によってミュートが掛かる現象も同様です。自宅でポータブルラジオを使って 2〜1kHz 差の混信をカットする厳しい DXing、という状況はあまり無いでしょうし、ある程度強い局を聞くのなら、あまり気にならない問題なのかもしれません。

●PL-380 で聞いてみる

外部アンテナへの接続ですが、中波の場合「誘導結合用カプラー」を使用します。これは手持ちの小さいフェライトバーアンテナにポリウレタン線巻いたものをプラケースに組み込んだもので、（作例はフェライトバー SL-55GT：535〜1605kHz インダクタンス 330μH±20μH に、0.32mm UEW（ポリウレタン線）を 10〜20 回巻き、タカチプラスチックケース SW-65 に収納。可変抵抗によってゲインを調節できるようにしてある）。PL-380 に近づけて感度がいちばん高くなるところ（内蔵ロッドアンテナがある本体上部）に近づけて受信します。

カプラーの市販品には、SONY の AN-12 に付属のアンテナカプラーANC-2 や DEGEN 31MS 付属の中波受信用フェライトバーアンテナカプラー、AZDEN の AM ループアンテナ ALA-60A 付属の結合器（カプラー）、ミズホ通信のループアンテナ UZ-8DX 付属のワニ型カプラーなどがあります。また、ミズホ通信研究所では（UZ-77BAR シリーズ付属）出力側カプラー（別売り 2,000 円）も扱っています。その他に、ラジオ本体にアンテナからの電線を数回巻き付ける、という方法も古典的かつ簡素ですが有効です。（参照：R.yawatta のラジオと工作「ワイヤーアンテナで普通のラジオの中波受信を改善する http://yawatta.seesaa.net/article/357877690.html」

北米 WA 州の DXer Gary DeBock 氏は、PL-380 を改造して大型のフェライトバーアンテナを取り付け、さらに多数のフェライトバーを使ったループアンテナを組み合わせて TP DX で成果を上げています（それらのレポートは Youtube で見ることができます。）

短波や FM の外部アンテナ用には、付属のワイヤーアンテナが付属しています。ロッドアンテナにワイヤー先端のクリップを挟んで、引き延ばしたワイヤーのもう一方のクリップで固定するタイプです。ALA などの外部アンテナを使いたい場合は、「測定器テスター用変換コネクタ：ＢＮＣオス–バナナメス（秋月電子通商で 400 円。別途「中継コネクタ BNC-J⇔BNC-J」が必要）」など変換コネクタを使い、ロッドアンテナに接続します

また受信音を録音する場合は、φ3.5 ステレオミニ分配ケーブル（千石電商で 180 円）や 100 円ショップなどで売っている「ステレオ出力分配器」を使って、イヤホン端子から 2 分配させて一方をイヤホンに、もう一方を IC レコーダに繋ぎます。

●PL-380 で DXing

実際に DXing に使ってみました。1 月 7 日の夕方、自宅の ALA1530 をカプラーで PL-380 に誘導結合させると、850 KICY が受信できました。帯域を 2〜1kHz に狭めると、弱い信号が浮き上がってきます。フィルタを狭くしても了解度がよく、音声がひどく籠って聞きにくくなるということはありませんでした。もちろん、ポケットラジオですので、AR7030 や AR5000A などの通信型受信機

に比べると、とてもひ弱な受信音です。

微弱局はあえて帯域を狭くすることで浮き上がって聞こえてきますので、混信が無い場合でもこの狭帯域フィルタは DXing に有効です。音質はキンキンしすぎないクリアなサウンドで、聞き取りやすく了解度に貢献しています。

中波の受信範囲ですが、9kHz ステップだと 1620～1710kHz 間を受信できませんので、筆者は常時 10kHz ステップにしてあります（選局ダイヤルの回転を遅くすれば 1kHz ステップに切り替わるので、国内局受信にもさほど不都合はありません）。

なお、各所レビューにもあるように押しボタン類がやや固く、力を入れて押し込む必要があります。押したつもりでも認識されてなく、操作がうまくいかない時がありました。あと細かい部分ですが、ロッドアンテナ畳んだ際に本体にホールドする「カチッ」とした留め具部分がありません。また気温表示ですが、MW の周波数ステップを 9kHz にすると摂氏（℃）、10kHz にすると華氏（°F）に切り替わります。

●PL-380 で FM-DX

FM 帯はどうでしょうか。筆者宅の ALA1530 をロッドアンテナに接続すると、76.3 FM なぎさステーション（伊東）が 76.1・76.5 InterFM のサイド混信をしっかり切って受信できています。また 78.5 FM ブルー湘南は、78.6 FM-FUJI（三ツ峠）のカブリが激しいもののなんとか聞き取れます。AR5000A＋3 の 110kHz フィルタと近いか若干広い切れ味なので、PL-380 の FM 帯域フィルタは 110kHz 前後だと思われます。DE1103 の FM フィルタも同じくらいの帯域に感じます。

●PL-380 を使いこなす

PL-380 を使いこなすための便利グッズを 100 円ショップで選んでみました。

＊折りたたみスマートフォンスタンド（Can★Do）　PL-380 を立てかけて使います。寝かせて使うよりも、机の上の省スペースになります。PL-380 はスマホより厚めなので、立てかける部分にキッチリとは「はまり」ません。

＊シリコン製ランチボックスベルト（DAISO）　誘導結合カプラーをラジオにしっかり固定、シリコンなので、すべらずがっちりと密着します。カプラーのラジオに接する面には、ゴム足を貼ってキズがつかないようにしてあります。カプラーをフェライトバーのみのシンプルなものにすれば、もっと安定して固定しやすそうです。

＊ステレオ出力分配器（DAISO）__PL-380 には録音端子が無いので、ステレオ出力分配器でイヤホン端子から 2 分配させて、一方をイヤホンに、もう一方を IC レコーダに繋ぎます。音声をモニターしながら録音できます。

＊測定器テスター用変換コネクタ／ＢＮＣオス−バナナメス（秋月電子通商 400 円）　SW や FM 受信で ALA などの外部アンテナを使いたい場合、このような変換コネクタを使ってロッドアンテナに接続します。バナナプラグ～ワニ口クリップケーブルは自作ですが、市販品もあります。

●まとめ

両手におさまる小型サイズながら多機能で高性能。旅行やベッドのお共に、いつでも連れていきたくなる BCL ラジオです。

参考文献：Hard-Core-DX.com Tecsun PL-380 DSP Receiver First Impressions / Gary DeBock http://www.hard-core-dx.com/article.php?story=20091110061534744&mode=print

R.yawatta のラジオと工作「アンテナ端子の無い AM ラジオに外部アンテナを結合させる」http://yawatta.seesaa.net/article/384506110.html

横浜のハムショップ

五十嵐　雄希

横浜市内にはアマチュア無線機器を販売する店(以下ハムショップ)が３件あります。今回この３件のハムショップを紹介します。

ハム・ランドの外観

■ハム・ランド(横浜市港北区)

東急東横線綱島駅からバスで５分程のところにあるハムショップです。同じ横浜市内とはいえ、戸塚とは北部と南部の正反対のロケーションであるため今まで行ったことはなく、今回取材のため初めて訪問しました。

店の前は駐車場があり、その横には花が植えられています。店主に DX サークルの会誌で紹介したい旨の趣旨を説明し、写真を取らせて欲しいと話したところ、店頭の花の手入れにも力を入れているので、ぜひ撮っていってくださいとのこと。白いきれいな花が咲いていました。

店内は比較的広く、新品のアマチュア無線機やアンテナ、ケーブルなどの各種アクセサリ、中古の無線機などが置かれております。売り物か分かりませんが、National RF-1120(クーガ112)も置かれておりました。

店舗横　花壇の花

店内には多くのアクセサリー類が

National　RF-1120

ヤエス　FR-100B

店主と最近のハムの状況について少し会話したところ、一時期どん底だったハム人口が若干盛り返してきているとのこと。BCL と同様、昔やっていてカムバックする人が多く、40 代以上が中心だそうだ。一旦はハムから離れ、インターネットなどの趣味に移りながらも、インターネットに物足りなさを感じてハムにカムバックする方が多いのではないかということである。他にも無線機メーカーの状況についてお話を伺った。各社とも国内では商売にならず、海外での売り上げに軸足を移しているとのこと。国内で利益が出ないのは、安く売りすぎるためだとのご意見。また、昔に比べると新しいモデルが発売される周期が非常に長くなっており、そのあたりからも国内での需要を喚起できないのではないかなどと、本当にいろいろなお話を伺えました。

お話をうかがった後、店内に置かれていた YAESU の古い受信機 FR-100B に火を入れていただき、音を聞かせていただきました。50 年前の受信機だそうですが、真空管から生み出される音が非常にやわらかく感じました。

今回初めての訪問にもかかわらず、気さくにご対応いただき、ぜひまた訪問したいと思うお店でした。

ハム・ランド
〒223-0058 横浜市港北区新吉田東 1-8-1
TEL:045-544-7359
営業時間:10:30-19:30
定休日：毎週(火)(水)
URL: http://www.hamland.co.jp

■ハマーズ(横浜市中区)

JR 京浜東北線　石川町駅北口から徒歩 3 分ほどのところにあるショップです。すぐ近くにはエジソンプラザと呼ばれる電子部品店が 3 店入るビルもあり、ここと併せて何度か訪問したことがあります。この度、記事を書くために改めて訪問しました。

お店に行ってみると、以前はかなり広い印象がありましたが、店舗の広さを縮小して、奥に事

ハマーズの外観

エジソンプラザのあるビル

ビンテージリグの数々

務所を作っているようであり、ちょうど店主が改装作業をされているところでした。とても忙しそうなので、紹介記事に乗せるため店内の写真を撮らせて欲しいと伝え、写真を何枚か撮って、お邪魔にならないよう早々に失礼してきました。

以前はシャック風の机が何席かあり、そこに HF の無線機やら、PERSEUS のデモ機があったりして、小生も PERSEUS を購入するか迷っていたときに見今回訪問したところ、残念ながら PERSEUS のコーナーはなくなっていました。

しかし、コリンズのビンテージ無線機が並べられているところは以前と同様であり、このコーナーの存在感は抜群でした。

横浜中華街からも近く、おしゃれな街元町や、エジソンプラザもすぐ近くにあり、いろいろ楽しめると思います。観光、食事も兼ねて訪れてみてはいかがでしょう。

神奈川ハムセンターの外観

ハマーズ
〒231-0025 横浜市中区松影町 2-7-21
TEL：045-680-1016
営業時間:11:00-18:00
定休日：毎週(日)(水)および年末年始
URL：
http://www.kojinsha.jp/hamersplus/index.html

■神奈川ハムセンター(横浜市港南区)

JR 京浜東北線　港南台駅から徒歩数分のところにあるハムショップです。TDXC 本拠地の横浜市戸塚区からは最も近いハムショップです。

店内に入ると、程よい広さの店内。店内のラックには中古、新品の無線機がビッシリと並べられています。その中には JRC の 515 ラインも。NRD-515 は小生にとって憧れのリグであり、お値段がリーズナブルであれば是非購入したいと思い、恐る恐る店主に聞いてみると、セットで 30 万円とのこと。30 万円ではさすがに即買とはいかず、憧れとして取っておくことに。

無線機の並ぶ棚には 515 ラインが

憧れの NRD-515

店主と会話すると、店主は 505 ラインを使っているとのこと。505 ラインとはこれまた憧れのリグ。短波誌に載っていた高橋 OM シャックに NRD-505、NRD-515 が並んでいるのを見て、憧れていたものです。「JRC が修理、オーバーホールの受付を終了したから、この 515 ラインも売れないだろーね」なんておっしゃってました。でしたら、505 ライン、515 ラインまとめて是非とも私にお譲りください、安価で！なんて思いながら店を後にしました。

車を使えば家から気軽に行ける距離であるため、今後も時々 515 が売れていないかチェックにお邪魔したいと思います。

神奈川ハムセンター
〒234-0054 横浜市港南区港南台 3-24-16
TEL:045-831-3671
営業時間:9:30-19:00
定休日：毎週(水)
URL：http://www1.c3-net.ne.jp/miki/

定休日、営業時間は各店 HP 記載のものであり、来店の際には最新情報をご確認ください。

横浜ハムショップ・MAP

ラジオを売る側になって。

岩田　学

■私は広告会社に勤務しています。社内にデザイナーやカメラマンもいるのですが、社員数人の小さな会社です。あるとき、同僚のクライアントであるメーカーが、「扱っている商材がネットの販売で値崩れを起こしている。ウチもネットで対抗したいが、既存客への価格は維持したい」という相談が来ました。

今の会社に勤務する前はメーカーで営業だった私がこの案件を担当することになり、数日間、熱が出るほど考えました。出した答えは「その商材を安価で販売するネットショップを立ち上げる。運営は私の勤務先で別の屋号を立てる。商材の製造元は明記しない、在庫は持たない」と言うものでした。

■メーカーさんもこの案を了承してくださり、屋号（ショップ名）は「A4 マニアックス」とし、販売価格や送料、具体的な受発注の方法などが決まり、そろそろショップを立ち上げようとしたときのことでした。この「A4 マニアックス」の運営コストは、イニシアティヴを持つために全て私の勤務先で負担しており、社長が「それなら、クライアントの商材だけでなく、オマエの売りたいものを扱って良いよ」と言ってきました。

これもまた急な話です。それまでクライアントの商材のことしか頭になかった私は、さらに熱が出るほど考えることとなりました。今度は「オープン日」という明確な締切がありますから、悠長なことは言っていられません。時間がないことから予備知識をある程度持っていること、とりあえず競合の少ないニッチな商材ということで、アマチュア無線にターゲットを置くことにしました。

■アマチュア無線とは言いながら、無線機は敷居が高すぎます。周辺機器やアンテナも同じこと。技術がないというのはホントに不利です(笑)。しかし、印刷やデザインならばなんとか土俵に乗れますので、まずは QSL カードのデザインを販売することにしました。私は無線をやっていて QSL カードも交換していますが、失礼ながら受取るものの中にデザインが良いなと思うものが本当に少ないのです。大量に交換するのだからデザインに凝る必要はないという声もありますが、私はそう思いません。

デザインが良いというのはカッコイイとか洒落てるということではありません。情報が容易に、そして確実に相手に伝わることがデザインの第一義なのです。コールサインやデータの判読が難しかったり、見つけにくいのはカードのデザインとしては失格といえます。そういう経験から、より良いデザインのカードを広めようと思い立ったのです。しかしながらカードは今回の主旨ではないので、また別の機会に。

■さて、ネットショップを立ち上げて知名度も上がってくると、QSL カード以外にも扱ってみたいと思うようになりました。いろいろと情報を集めてみると、最近中国製（台湾製）短波ラジオの性能が格段に上がっており、しかも価格が安いということがわかりました。しかも、短波ラジオを国内で生産、販売してい

る唯一のメーカーであるソニーは、もう 10 年以上新機種を出していないこともわかりました。

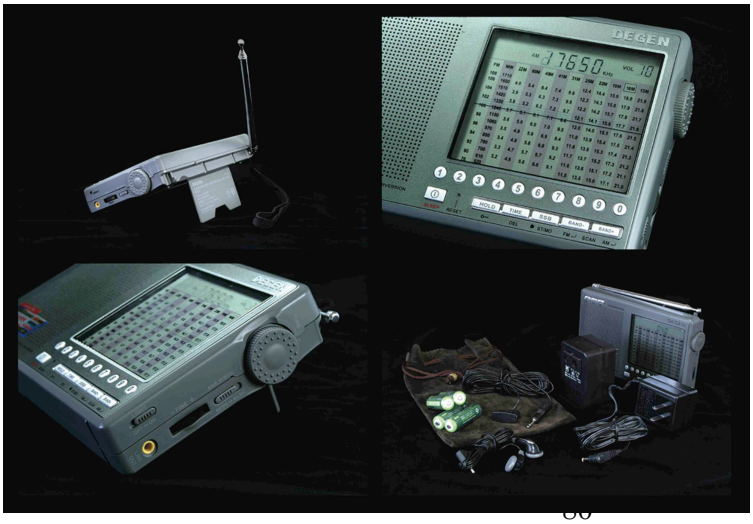
これはやるしかないだろうと即決し、今度はラジオを扱っている他社の調査です。他社の販売方法や価格、付属品、保証内容などを知っておくことは基本ですし、それを知らなければ自分達の特徴が出せず、結果として「別にここで買わなくてもいいや」となってしまい見向きもされなくなります。私の出した答えは「日本語のマニュアルを付ける」「受注方法をネット以外でも可能にする」の二点でした。

中国製短波ラジオを販売しているサイトは数多いのですが、全てネットの環境がないと発注はおろか、問い合わせすらできない店舗でした。また、付属している取扱説明書が中国語、または英語しかありません。この二点で他社との差別化を図ろうと、Ａ４マニアックスでは「電話での問い合わせ、現金書留、直接来社、全てＯＫ」「オリジナルの日本語マニュアルを作成」の二点を実施することとしました。おかげ様でこの考えは少し通用したようで、他社よりも高い販売価格であるにも関わらず、ご好評をいただいております。

■ただ、問題も若干あります。まずは商品供給の問題、つまり仕入れです。海外のメーカーですから直接というわけにはいかず、Ａ４マニアックスとの間に数社入っています。これにより、仕入値をなかなか下げられないことと、どこかで値上げをされると、そのしわ寄せが全て A4 マニアックスに来てしまい吸収ができません。結果として販売価格を上げるしかなくなってしまい、ユーザーには度々のご迷惑をかけております。現在でも仕入れルートは複数ありますが、まだまだ開拓する必要性を感じています。

■また宣伝方法にも苦慮しています。ネットでの宣伝はコストも低く簡単なのですが、ネットやメールでリーチ可能な層は、Ａ４マニアックスの特徴、すなわち「メール以外の受注ＯＫ」や「日本語マニュアル付属」などは関係が薄いのです。要するにネット環境があれば、他社での購入が可能ですし、日本語マニュアルもネットにアップされているらしいので、わざわざＡ４マニアックスで買う必要が全くないのです。

ネット環境に無い方々への訴求は、紙や活字媒体ということになるのですが、広告掲載費用が高価で、回収のハードルがかなり高くなってしまいます。広告会社が運営しているネットシ



ョップの訴求先がネット環境にない人々で、なおかつその人々へのリーチに苦慮しているというのは、なんとも切ないなあと感じています。良い方法がないかと、日々悩んでいます。

■さて、ラジオの問い合わせを電話で受け付けると、やはり「○○の性能はどうか」という質問が多く寄せられます。なかなか答えが難しいので、私は皆さんの聞きたいジャンルや環境を尋ねるようにしています。短波で遠距離の局を聞きたいのか、日本向け日本語放送を聴きたいのか、それとも夜間に国内の中波局を聴きたいのか。また、自宅で聴いているのか、自宅なら家のつくりは一戸建てか集合住宅か等々。嗜好と環境は千差万別なので、丁寧に伺うようにしています。

そういう話をしていると、どんどんと内容が広がっていき、受信情報の交換などにまでなってしまうこともしばしばあります。アクティブではありませんが、私も BCL を趣味としている一人ですので、皆さんからのお話を聞いたりするのは非常に楽しいことなのです。何かのイベントを除けば、BCL の方々とお話しができることはほとんどありません。これはラジオを売っているものの特権ではないかとまで思っています(笑)。

■また、直接来社された場合は、もっと話が盛り上がってしまうことがあります。お互い同じ趣味を持つもの同士ですから当然のことでしょう。一時間や二時間はあっという間に過ぎてしまうこともあり、時刻に気付いてお互いに苦笑いということもあります。でも、これが対面販売の醍醐味といってよいと思っています。私はこの時間のために、ネットショップでラジオを売っているのかも知れません。

直接お話が出来ることの良い点に、皆さんの不満を聞けるということがあります。あるラジオの販売当初のことなのですが、自宅に到着し、電池を入れて電源を入れたら、とんでもない大きな音がしたとの苦情が来ました。在庫を調べてみるとそのラジオは出荷段階でボリュームが最大になっており、しかもチューニングが FM 帯だったのです。メーカーにも伝えましたが、まったく修正されていません。ですので、今では箱の中に「イヤホンを差してから電源オン」との注意書きを入れています。

■さらに、受信報告書やログブックの雛形はないかとのお問い合わせも多数いただきました。エクセルなどの表計算ソフトで作成しネット上に公開されている方もおられるので、当初Ａ４マニアックスでは雛形のみを作り、その PDF ファイルをアップローダーに上げ、ご自由にダウンロードできる状態にするということで対応していました。しかしながら、ダウンロード数が 1,000 を越え、かつ、「紙」を希望される方が多くいらっしゃいましたので、まずはログブックを商品化しました。おかげ様で初回ロットは完売し、急遽追加で作成を行なうという反響をいただきました。これも、皆さんからのお話をいただいたおかげだと思っています。

■また、Ａ４マニアックスでは、みなさんからの商品のアイデアや売込みを歓迎しています。こんなものを作った、こういうものを作って欲しいとのご希望で結構です。漠然とした形でも、まずはお聞かせください。一緒に考えて、形にしましょう。

では、ネットショップでお待ちしております。

A4maniax DXing!
http://www.sk-koshinsya.co.jp/a4radio.html

✈シンガポール FM 現地受信の旅✈

✈五十嵐　雄希✈

2014 年 3/23～3/27 にラジオを持ってシンガポール一人旅をしてきました。今回は旅の内容と、現地受信ログをご紹介したいと思います。街歩きと庶民的な激安グルメ、そしてラジオ受信を目的とした個人的な旅の記録ですが、よろしければお付き合いくださいませ。

■リフレッシュ休暇

私が勤務する会社にはリフレッシュ休暇という制度があり、通常の年次有給休暇とは別に勤続 10 年以降 5 年毎に連続 5 日間の有給休暇が取得できる制度がある。2013 年度はそのリフレッシュ休暇が取得できる年度であり、2013 年度のスタート時には 1 週間かけてラジオを持ってヨーロッパ方面またはアメリカに行くぞ！という気持ちでやる気満々であった。しかしながら、年度がスタートすると毎日忙しく、重要なプロジェクトもスタートしていたことから延ばし延ばしとなっていき、ついに取得期限 3/31 まで残すところ 1 ヶ月になってしまった。3 月も 19 日まで業務上の重要なイベントがあり、その準備等でとても纏まった休みを取っている場合ではない。でも 3/19 には一区切りがつくので、3/20 から休んで海外に行くぞ！と決めた。でも、期末であり本当にフルに休めるか？という心配もあり、3～4 日で行ける近場の英語圏から選ぶこととし、シンガポールに行こうと決めた。事前に入手していたパンフレットでパックツアーを物色し、3 月初旬の日曜日に戸塚駅近くにある旅行会社 J 社に向かった。

J 社の窓口で 3/20～23 のシンガポールツアーに行きたい旨を告げ、空き状況を確認してもらう。しかし、3 連休であり、さらに大学生が卒業旅行に行く時期でもあり、飛行機の空きがない。1 日ずらしたらどうかとか、他のツアーはどうかなど散々調べてもらうがとにかく空きがない。半ば諦めながらも、3/21 週で空いているツアーを調べてもらうと、3/23 深夜(実質 3/24)羽田発、3/27 早朝羽田着のツアーが空いており、即予約してもらう。

■シンガポールにどのラジオを持参するか？

行くと決まり、早速どのような装備で行くか検討する。どうせなら PERSEUS か FDM-S1 を持参して、東南アジアの MW を受信できればと思ったが、果たして SDR を持っていっても大丈夫だろうか？という不安がよぎり、TDXC のお仲間であり旅行業界にお勤めのミヤさんに相談する。ミヤさんによれば、国によっては規制している場合があるようであり、シンガポール税関のウェブページを紹介いただいた。そこに書かれていた情報によれば、コミュニケーション

チャンギ国際空港にて

マリーナ・ベイ・サンズ

マリーナ・ベイ・サンズ展望台から海側

レシーバは OK、いわゆるスキャナーと言われる類の受信機には規制があるようである。PERSEUS や FDM-S1 もコミュニケーションレシーバに類されるものだと思うが、外観はとてもそうは見えない。小生は英語が得意でないため、現地で SDR について納得してもらえる説明をする自信が全くない。また、ホテルでの MW 受信はノイズが多いだろうとも思った。よって、PL-380 と万が一没収されても我慢できる価格である FM 用の RTL-SDR を持参することとし、現地 FM 受信を中心とすることとした。

■3/24 シンガポール入り

3/23 夜、家で家族と夕食を済ませ、羽田空港に向かう。日付が変わり 3/24 になった頃シンガポールに向けて JAL 機で羽田を発つ。その後、約 6 時間ほどでシンガポール チャンギ 国際空港に到着する。四十半ばにして一人で海外旅行をするのは今回が初めてであり、少々緊張の面持ちで飛行機を降りる。イミグレーションを通過し、入国ロビーに出ると J 社現地担当者が出迎えてくれる。他の旅行者の方々と車に乗り込み、宿泊するホテルに移動する。しばらくすると、今回宿泊するオーチャード・ロード地区のホテルに到着し、チェックインを済ます。ここで、J 社現地担当者とは別れ、後は全日気ままな自由行動である。

■1 日目　マリーナ地区からラッフルズシティへ。

まずは、シンガポールの電車 MRT でマリーナ地区へ向かう。ここで早くもトラブル。EZ Link Card という Suica のようなプリペイド式カードを改札機のセンサにあて、ゲートを通過しようとするが、何度やってもゲートが開かない。あたふたしていると親切なおじさんが近寄ってきて、このゲート閉まって

マリーナ・ベイ・サンズから見える高層ビル群

水を吐かないマーライオン

フライド・ホッケン・ミー

ラッフルズ・ホテル

るよと教えてくれる。よく見ると確かに通行止めのマークが…。平常心でなかったんですね。隣のゲートを無事通過、MRT 南北線に乗り、マリーナ・ベイ駅でサークル線に乗り換え、ベイフロント駅で降りる。ここでの目的はマリーナベイサンズの展望台である。3 つの高層ビルの上に、船のような形の展望台が乗っかっているホテルである。展望台に上ると、一方には海が広がり、反対側には高層ビル群とシンガポールの街並みが見える。とにかくすばらしい眺めである。

しばらく景色を堪能した後、次の目的地であるマーライオン公園に向かう。マーライオンといえば、シンガポールを代表する観光スポットであると同時に、世界 3 大ガッカリの一つといわれるスポットである。大勢の観光客に混じってマーライオンを見ると、残念ながら水を吐いていない。たしかにガッカリである。どうせならば、水を吐くマーライオンが見たかったが、とりあえず写真を取り、次の目的地であるシティホール地区へ向かう。

しばらく歩き、シティホール地区のショッピングモールであるラッフルズ・シティに到着。お腹もすいてきたので、ここで食事を取ることにする。シンガポールでの食事といえばやっぱりフードコートである。中国系、インド系、マレー系、日本系など様々な料理の店が並んでおり、行列ができている店もいくつかある。その中からフライド・ホッケン・ミーを選ぶ。これは、福建麺の塩焼きそばであり、海鮮の出汁とエビ、イカさらには添えられたチリソースが相まってとても美味しかった。

食事の後は、シンガポールでもっとも有名かつ伝統があるホテルであるラッフルズ・ホテルへ。近代シンガポールの父とい

ION フードコートのラクサ

SINGHA ビールと PL-380

シンガポール国立博物館

サルタン・モスク

われるラッフルズの名が冠されるホテルである。白いきれいな建物であり、しばし見物する。

初日から暑い中を歩き回りかなり疲れたので、少し早いが宿泊先のホテル方面へ向かう。ホテルの近くの ION フードコートで夕食としてラクサを食べる。ラクサとは、ココナッツミルクベースのスパイシーなスープに米粉でできた太めのビーフンにような麺を入れたものであり、これもなかなかうまい。

腹八分目となったところで、ビールを仕入れてホテルに帰り、部屋でビールを飲みながら PL-380 で MW 帯をチェックする。ラジオを窓際においてもノイズが多く、あまり多くの局は聞こえないが、1287kHz でやたらと歪んではいるが強力な RRI が聞こえる。他にもいくつか聞こえていたが、ラジオは程々にして早々に寝た。

■2 日目　ブギスとリトル・インディアへ

2 日目はまず MRT でブラス・バサーへ。ブラス・バサー駅を出てしばらく歩くとシンガポール国立博物館
が見えてくる。ここもラッフルズ・ホテルと同様、青い空に映える白くきれいな建物である。ブラス・バサーに来た目的はこの博物館ではなく、お土産として娘に頼まれたステーショナリーを探すためにブラス・バサー・コンプレックスという複合商業施設に行くためである。博物館から数分歩き目的地に着いた。

ブラス・バサー・コンプレックスに行ってみると、少々薄暗いビルの中に古本屋や楽器の店などが多数入っており、神田神保町あたりを縮小したようなところであった。お目当ての店を探しながら歩き回ってみたが発見できず、お土産は別なところで調達することとし、MRT で次の目的地であるブギスへ向かった。

事前に読んでいたガイドブッ

リトル・インディアのフードコート

オニオン・プラタ これで$1.2

明るい時間に飲むビールが最高

クによれば、ブギス界隈はオカマバーが立ち並ぶ怪しい一画だったそうであるが、再開発によりしゃれた繁華街になったそうである。このブギス駅から少し行ったところにアラブ・ストリートというイスラム色の濃いエリアがある。シンガポール最大のイスラム教寺院であるサルタン・モスクや、付近の店を見物しながらこのエリアを歩き回った。

歩き回っている間に、時間はとっくに昼を過ぎている。そろそろ昼食と行きたいところであるが、この日の昼食は次の目的地リトル・インディアで食べると決めていた。MRT でインド人街であるリトル・インディアに向かう。

リトル・インディアに着くと、テッカ・センターというところのフードコートに向かう。ここでのお目当てはプラタである。クレープのように薄く焼いて重ねたパンケーキのようなもので、プラタを頼むとカレーがついてくる。このカレーにプラタをつけて食べる。たまねぎが入ったオニオンプラタを食べたが、1枚$1.2(約 100 円)で激安な上に、美味しい。これはとても気に入った。

食後はリトル・インディアの街を歩き、スーパーマーケットに行ったり、電気街っぽい雰囲気のショッピングセンターを覗いたりする。中華ラジオが安く売っていたら買おうかと思っていたが、SONY はあれども中華ラジオはなく残念。

暑い中一日歩いて汗だくになったため、一旦ホテルに戻り、シャワーで汗を流す。その後、RTL-SDR をセットし、FM 局をチェックする。そうこうしているうちに、時間は 18 時過ぎ。この日は外に飲みに行くことにする。

シンガポールでは仕事を終えたビジネスマンが来る前の 16:00〜19:00 くらいの時間帯をハッピーアワーと銘打って通常よりもリーズナブルにお酒が飲める。ホテルのすぐ隣にもハッピーアワーをやっている店があり、前日に目を付けていた。店に入り、サンミゲルとイベリコ豚コロッケ、ガーリックトーストを頼み、外のテーブルで飲む。昼食の激安プラタに比べるとかなり贅沢ではあったが、まだ明

RTL-SDR と PL-380

スリ・マリアマン寺院

るい時間からシンガポールの街並を見ながらのんびりまったりとビールが飲めて格別であった。

いい感じに酔っ払い、ホテルに戻る。飲みに行く前の続きでRTL-SDR で FM 帯を記録の続きを行う。少々飲みすぎたのか、かなり眠くなってきたので、シンガポールの FM 局が出ているひと通りの帯域を記録し終わったところで眠りについた。

■最終日 チャイナタウンへ

シンガポール滞在最終日はホテルを朝チェックアウトし、夕方に再度 J 社現地担当者がホテルに迎えにくることになっている。夕方まで時間がたっぷりある。ホテルに荷物を預け、最終日も観光とおいしい食事を堪能することとする。

まずは、MRT でラッフルズ・プレイス駅に向かい、もう一度マーライオンを見に行く。初日に行った際は水を吐いていなかったため、もう一度見に行こうという思っていたのだが、水を吐くどころか工事のやぐらが組まれ、全く見えない状態になっていた。本当にがっかりである。

気を取り直し、次の目的にチャイナタウンへ向かう。駅を出てしばらく土産物屋が沢山並ぶ通りを行くと、スリ・マリアマン寺院が見えてくる。ここは、シンガポールで最も古いヒンドゥー教寺院だそうである。動物

フードコートの海南チキンライスの店

シンガポールのチキンライス

オーチャード・ロード

や人などの像が掘り込まれた高い塔が異様な雰囲気である。

周辺をひと通り見終わると、チャイナタウン・コンプレックスへ向かう。ここのフードコートで昼食を取ることにし、シンガポール名物であるチキンライスを食べる。日本でチキンライスといえばケチャップ味の小さく切った鶏肉が入っているご飯であるが、シンガポールのチキンライスは鶏肉をゆでた汁で炊いたご飯であり、ゆでた鶏肉をチリソースなどを付けて食べる。$3(約 250 円)と安くておいしい。

チキンライスはおいしかったが、まだ何か食べたいと思い、時間もまだたっぷりあるので、再度リトル・インディアに行き、プラタを食べることにする。MRT でリトル・インディアに向かい、テッカセンターの昨日と同じ店に行き、オニオンプラタを食べる。やっぱりおいしい。食後、MRT でオーチャード・ロードに向かう。

オーチャード・ロード付近には大型ショッピングセンターや日系デパート等が多数あり、お土産を調達することとする。職場や家族へのお土産にパイナップルの入ったお菓子、娘へはリクエスト通りステーショナリーを買う。困ったのは息子へのお土産である。鉄道好きな息子へのお土産になりそうなものがなく、本屋に行けば MRT の本でもあるのではないかと思い、高島屋ショッピングセンター内の紀伊國屋書店に行く。

広い店内を探しても、鉄道関連の本は見つからず、店員さんに MRT の本とか鉄道関連の本はないか？と尋ねると、しばらく考えた後、路線マップというか地図のような本を渡され、これしかないと言われる。おそらくシンガポールでは日本のように鉄道を趣味とする人がいないか少なくて、鉄道本の需要がないのだろう。やむなくその本を買う。

■帰国

夕方、ホテルで荷物を受け取り、J 社の迎えが来て、車でチャンギ国際空港へ向かう。チェックインし、深夜の便で日本に帰国。気ままな旅は無事終わった。

■現地 FM 局受信ログ

BCL というよりは単なる B 級グルメ旅行の記録みたいになってしまったので、最後にログを記します。受信日はいずれも 2014.3.25 オーチャード・ロードのホテルにて。使用した受信機は RTL-SDR「Mini Digital TV Stick」、アンテナは付属アンテナです。記録・復調ソフトは SDR#を使用しました。

英語以外は ID はほぼ聞き取れていませんが、ご容赦を。マレーシア航空機失跡の事件後であり、各局とも関連ニュースを放送していたのが印象に残りました。

2014.3.25 シンガポール FM 局　現地受信ログ

MHz	Station	Lang.	Condx.	JST	
88.3	883JiaFM	CH	f	18:00	
88.9	BBC Singapore 88.9FM	EG	f	18:00	"Freedom 2014 BBC world service"
89.7	Ria.89.7FM	MA	g	18:00	"Ria 897(lapan sembiilan tujuh) FM"
90.5	Gold 90FM	EG	g	18:00	"Broadcasting ... Gold 90FM"
91.3	HOT FM91.3	EG	g	20:00	"This is HOT FM HOT FM 913."
92.0	Kiss92 FM	EG	g	20:00	"Kiss 92 news"
92.4	Symphony 92FM	EG	g	20:00	"Symphony 924"
93.3	Y.E.S. 93.3FM	CH	g	20:00	
93.8	938LIVE	EG	g	20:00	"938LIVE"
94.2	Warna 94.2FM	MA	g	21:00	
95.0	Class 95FM	EG	g	21:00	"Class 95. The best mix music."
95.8	Capital 95.8FM	CH	g	21:00	"Chengshi Pindao"のジングル
96.3	Expat R. XFM	EG	g	21:00	"Expat Radio 96.3 XFM"
96.8	Oli 96.8FM	TM	g	21:00	
97.2	Love 97.2FM	CH	p	21:00	帯域境界部のためかカスカス
98.0	Power98FM	EG	g	22:00	"Power 98"
98.7	987FM	EG	g	22:00	"Hit music now 987"
99.5	Lush 99.5FM	EG	g	22:00	"Lush 99.5 ... music festival in the world ..."
100.3	UFM 1003	CH	p	22:00	帯域境界部のためかカスカス

MA:Malay, TM:Tamil
現地時間は JST-1h、上記時間の前後 5 分程度を受信(記録)。

北陸フリー切符で FM 現地受信の旅

五十嵐　雄希

2013/3/7～3/9 に JR の北陸フリー切符で一人旅をした。発端はたまたま見たテレビ東京の「いい旅夢気分」で放送していた福井の旅を見てうまそうなカニを見たことと、余りに余った有給休暇を少しでも消化しようということであった。パックツアーを探したものの、一人で参加できるものがなかなかなく、たまたま北陸フリー切符なるものがあることを見つけた。この切符は関東地区から北陸地区までの乗車券・特急券プラス北陸 3 県(富山、石川、福井)の特急電車自由席乗り放題というものである。ならばこれで旅をしようということで、どうせ旅するならラジオを持って FM 現地受信をしようと思い PL-380 を持参しての旅となった。

2013/3/7(木)

普段の出勤より遅く 8:30 頃家を出発、バスにより戸塚駅に到着。東海道線に乗り込む前に、戸塚駅のみどりの窓口に立ち寄る。越後湯沢で乗り換える特急はくたかのグリーン席 C 列(1 列席で北陸本線で海側になる)に空きがないか確認したが、残念ながら空きはなし。仕方がないので、そのまま東海道線に乗り込む。

東京駅から 10:12 発 Max とき 317 号に、初のグリーン車に期待しながら乗車。最前の席のため、目の前が壁であり、せっかくのグリーン車ながら狭い感じがして、少しがっかり。さらに、上野から金持ち風のオヤジ、オバサン 4 人組が乗り込んできて、そのうちのオヤジ 1 人がドッカリと隣に座る。

心地悪さを感じながらも、越後湯沢までの我慢。

11:28 越後湯沢に到着。11:38 発特急はくたか 8 号に乗り換え。グリーン車は内装はブラウン系で落ち着いた色調で、シート 3 列でゆったりしている。席は 2 列の窓側であったが、隣はあいており、さらにのびのびできた。

14:18 金沢に到着。金沢駅のオブジェのようなものを見て、最初の観光地 金沢の台所 近江町市場へ。

近江町市場は入り組んだ路地沿いに多くの店があり、海鮮丼を売りにした食堂が多数。食べようと思ったが、時すでに 15:00。夕食をおいしく食べるために我慢し、次の目的地である東茶屋町に向かう。

東茶屋町に歩く途中で浅野川を渡る。橋から見る川の風景が和の雰囲気ですばらしく、しばし眺める。

橋を渡り 1 分ほどで東茶屋町に到着。和風建築の茶屋などが並び、かなりいい雰囲気。ここにある醤油屋さんで「アイスにかける醤油」を購入。その後、栗のお菓子を購入。東茶屋町に 30 分ほど滞在し、次の目的地へ。

次の目的地、兼六園までは少し距離があるので、バスに乗ろうかと思ったが、次のバスまで 30 分近くある。時間がもったいないので、歩くことにする。20 分ほど歩いたところで、兼六園下交差点に到着。まずは金沢城跡を外から眺めた後、兼六園に入る。庭園内を 30 分ほど散策し、兼六園を後にする。

次の目的地に行く前に、重い荷物をホテルにおいていこうということで、宿泊先のホテルに向かうことにする。21 世紀近代美術館を横目に見ながら、ホテル近くの金沢市役所を目指して歩く。しかし、歩いていくと北陸放送が見えてきた。ここで、地図を読み違えていたことに気づく。少し遠回りし、少々迷いながらなんとかホテルに到着。金沢も気温が高かったため、汗だくになっており、汗が引くのを待つ。

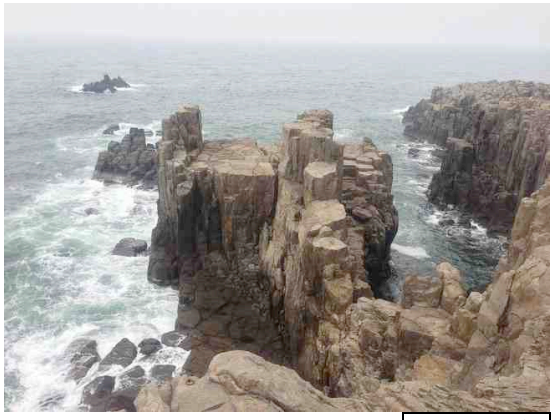
少し落ち着いたところで、西茶屋町に向かう。西茶屋町に向かう途中には犀川に

かかる橋があり、ここからの眺めもまた最高であった。橋を渡り、1 分ほどで西茶屋町に到着。ここは東茶屋町ほど観光客がおらず、店も高級そうな料理店などが多く、落ち着いた雰囲気である。ここでは甘納豆かわむらでいろいろある商品の中から能登大納言の甘納豆を購入。大納言と能登大納言があったが、石川に来たならということで能登大納言を選択。

時間も 18:00 をまわり、繁華街である片町の大通りの 1 本裏の道に入る。店がいろいろありすぎで良くわからず、
入り口にあるお品書きを見ながら行く。のどぐろ 1,500 円～と書かれた店の前で見ていると、中からおばちゃんがでてきて、どうぞと言われる。カニはあるかと聞くと、ないというので次の店に向かう。

結局、るるぶに出ていた「とと桜」に入る。るるぶにはかに焼き 1,200 円が載っていたのだが、今はないとのこと。仕方なく、刺身、金沢の名物料理である治部煮、サザエのつぼ焼きをつまみにビールを飲む。料理はどれもうまく、特に刺身のシメサバはおいしい。のどぐろ 2,000 円も食べたかったが、さっきのおばちゃんの店は 1,500 円～だったよなと思い、はしごをすることにして店を出る。

さきほどの店につくと、お客は他に一人。常連のようだ。店には松方広樹顔の映画監督みたいなポスターやら有名人の名刺や手紙などが貼ってある。キョロキョロ見ていると、常連さんが話しかけてくる。店の主は昔映画監督で、おばちゃんは女優だったとのこと。何年か前から金沢でこの店をやっている。常連さんは、神戸の方で、豆を扱う食品会社の方で、出張で全国各地を回っているらしい。小生の出身地である新潟の地方都市にも行ったことがあるという。この方は 6 年ほど前にこの店を見つけ、以来度々きているとのこと。子供や家族の話などひとし



きりしたところで、次の約束があるとのことで、名刺とポップコーン種をもらい別れる。客が自分一人になり、なんとなく居心地が悪くなってきたし、自分もいい感じに酔っ払ってきたので、勘定を頼む。ビールとお通し、のどぐろで勘定は3,600円。結局「とと桜」で2,000円払って食べたほうが安く上がったかもと思いながらも、楽しいひと時を過ごせたのでいいと考えながらホテルへ向かう。

ホテルに戻り、PL-380を取り出す。エフエム石川とラジオ金沢を聞く。かなり酔っ払っているので早々に眠くなり、ラジオはほどほどに眠りに着く。

2013/3/8(金)

本日の目的地、東尋坊に向けてホテルを出発。金沢駅9:48発の特急しらさぎ6号に乗車。10:25芦原温泉駅に到着。

芦原温泉駅前から東尋坊方面への路線バスにて東尋坊に向かう。バス停には若い女の子3人連れがおり、渋い旅に水を挿す。40分ほどの乗車で越前海岸が見えてくる。東尋坊バス亭に11:30頃到着。東尋坊までの5分ほどの距離は観光客相手の商店街となっているが、店を覗くのは後にしてまずは東尋坊に向かう。

東尋坊に到着すると、思ったより小さく感じたが、実際に見たからこそわかったことである。そう思いながら、断崖絶壁を見て回る。岩場の突端までいくと、ほぼ垂直に切り立った岩となっており、やはり落ちたら死にそうだ。実際、自殺が多いのか電話ボックスには自殺を思いとどまらせるための貼紙がしてあったり、聖書がおいてあったりする。でも、さすがに昼間は観光客が多くて、そんな感じではない。

ひとしきり見て回ったところで、食事場所を求めて歩く。金沢ではカニが食べれなかったので、ぜひともカニを食べたい。ひと通り店を見て回ったところで、焼きカニを3,000程度で食べれる「まるか本店」に入る。客が誰もおらず、少し薄暗い感じなのが気がかり。

カニをいくらで食べられるかとたずねたところ、3,000円のと6,000円のがあるということなので、3,000円のほうを選ぶ。少々小さいがさすがに6,000円も出せない。しばらく待つと、刺身にした足2本と、焼きカニ用にさばいたものが運ばれてくる。

刺身も焼きカニもうまい。特に、焼きカニにみそをつけて食べると最高にうまい。食べていると店のおじさんがやたらと話しかけてくる。カニにはかなりこだわりがあるようであり、焼き加減だの、カニみそはカニの内臓だだのをうれしそうに話してくる。店の奥に引っ込んだと思ったら、イカげその刺身とかをサービスで持ってきてくれた。食べ終わって、この店を出る。ごはんを食べていないため物足りなさを感じ、もうひとつ、ぜひここで食べておきたいものとしてカニみそ卵があった。これを食べて満足し、バス乗り場に向かう。

三国港駅からえちぜん鉄道に乗るため、バスに乗り込む。ボーッと車窓を眺めていたら、バス停2つほど乗り過ごす。仕方なく、海岸沿いに出て三国港駅までのんびり歩く。のんびりした漁港の雰囲気がいい。10分ほどで三国港駅につく。三国港駅は無人駅であり、ついたときには他に列車を待っている人もいない。駅舎内でのんびり待つ。

しばらく待つと、1両の電車が到着。折り返し16:09発の電車となる。乗り込んだ客は自分と地元の方と思われる方2人。それから、運転手とえちぜん鉄道名物のアテンダントさん。電車は予定通り16:09に発車し、福井駅に向かう。発車してすぐに海岸からは離れ、しばらくは見渡す限り田んぼの中を走行する。途中、客が少しずつ乗り降りする状態が続くが、福井駅近くなってくると満席の状態。17:00頃に福井駅に到着。

えちぜん鉄道福井駅からJR福井駅の駅舎に入り、おみやげ屋を物色する。羽二重餅というのが名物らしく、あちこちの店で売っている。娘が好きそうなので、福井のみやげとして購入する。

その後、駅前に出ると、FM 77.3 MHzと書かれた小さな建物があり、そのなか

にDJらしき人がいる。コミュニティFM福井街角放送のスタジオだ。

少し見物した後に、本日の宿泊先に向かい歩く。10分ほど歩くと、官公庁が集中しているエリアになり、お堀がある。福井市も城跡の街らしい。また、大通りには路面電車が走っていた。若干遠回りしながら、本日の宿泊先であるホテルに到着する。

一段落したところで夕食に出かける。昼間かなり贅沢したため、晩飯は福井名物おろしそばにすることにして、店を探す。ホテルを出たところで、目の前に焼き鳥屋があったが、そば屋に向かう。2,3分くらい歩いたところにあるそば屋つるきにておろしそばを食べる。めんつゆに辛めにおろした大根おろしがたっぷり入っており、さっぱりした味である。こうもさっぱりしたものを食べると、先ほどの焼き鳥屋が気になる。福井は焼き鳥の消費量が多いらしく、福井では有名なチェーン店らしい。店の前に行ってみると焼き場はすごい炎で焼いていて、うまそうである。店の中を覗くと、カウンターのみの席は満席かつ後ろで待っている人多数。片町を少しさまよい、再度行ってみても客は減っておらず、あきらめることとする。路面電車の市役所駅前付近のコンビニでビールを仕入れ、ホテルに帰る。

ホテルに戻り、PL-380でFM福井と福井街角放送を聴きながらビールを飲む。

2013/3/9(土)

本日は最終日、再度金沢を経由し、帰路につく。ホテルを出発し、福井駅に近いマクドナルドの2F席にて、路面電車を眺めながら朝食を取る。その後、福井駅9:37発の特急サンダーバード3号に乗車。10:25金沢駅に到着。

金沢駅前バス停から再度西茶屋町に向かう。甘納豆かわむらでホワイトデーのお返しように甘納豆を買うためである。西茶屋町に着

エフエム石川の QSL

き、甘納豆かわむらに行くと、3/7(木)夕方に行ったときと比べると多数のお客でにぎわっていた。自分用の小袋数種と職場の女性用に詰め合わせを購入する。かなり買い込んだため、ずっしりとする。

再度、バスに乗り込み、近江町市場最寄のバス停で降りる。近江町市場で昼食として海鮮丼を食べて帰ることとし、店を物色する。混んでいたり、入り口のメニュー写真にピンとこなかったりとでさんざん歩き回ったが、入り口付近の「いきいき亭」の行列に目が留まる。メニュー写真を見ると、リーズナブルかつ豪華。というわけで、少し待つこととし、列に並ぶ。前には5組程度並んでいたが、回転が恐ろしく悪い。残り一組となったときに店内で食べている若い女性の団体は外の行列に気を使うこともなく、何度もごはんのお代わりを繰り返す。列に並んでから40分ほど待たされた後、自分の番が来て店内に入る。事前に注文していた「いきいき丼」が出てくる。とてもおいしく一度お代わりし、店を出る。

徒歩で金沢駅に向かい、10～15分ほどで到着。みやげ物屋を物色した後、14:14発の特急はくたかで帰路につく。

終わりに

家族の許しを得ての気ままな一人旅でしたが、初めての特急グリーン車、食べたいものを食べ、行きたいところに行き、おみやげを物色し、楽しい旅であった。

帰宅後、今回受信した4局にレポートを送付。エフエム石川、FM福井、福井街角放送からQSLを返信いただいた。

福井街角放送の QSL

FM福井の QSL

BCLグルメの旅

長谷川眞也

「喫茶タンパ」。読者の皆さんは、この店名からどのようなお店を想像しますか？マスターは元大手無線機メーカーのエンジニアで無類のラジオ好き。アンテナタワーが目印のお店の中には所狭しとビンテージラジオや無線機が飾られ、本棚に並ぶのは電波技術や短波誌、BGM はキングレコードから出ていた IS 集…

武蔵野市にある「喫茶タンパ」を訪ね、JR 中央線の武蔵境駅に降り立ちました。武蔵境駅北口目の前にある商店街「すきっぷ通り」をまっすぐに北へ歩きます。商店街が途切れると、そのまま道は「独歩道り」「武蔵境通り」と名称を変えて続き、武蔵野の風情が残る玉川上水、境浄水場を横切ります。五日市街道の交差点を渡らずに右折、街道沿いにさらに歩くと、左手に武蔵野大学武蔵野キャンパス（かつての武蔵野女子大学。武蔵野女子学院中学校・高等学校、附属幼稚園併設）が見えてきました。武蔵野大学前交差点を挟んだ向かい側に、目指す「喫茶タンパ」があります。駅からは歩いて 25 分ほどでした。

さて、結論から申しますと、喫茶タンパはごく普通の町の喫茶店でした。創業は 1968 年。小さくて可愛らしいヨークシャテリアの看板犬「テン」（メス・2006 年 6 月 30 日生まれ）が出迎えてくれます。テーブル席 2 つとカウンターのこじんまりした店内にはタバコの匂いが漂い、数名の学生が談笑しています。「レモンスカッシュ」「コーヒーフロート」などのメニューはまさに昔ながらの「サテン」。お店の女主人に店名の由来を伺うと、「うちは丹羽（にわ）という名字で、別な読み方のタンバから発展してタンパになった」そうです。

短波とは何の関係もなくちょっとがっかりの旅でしたが、どこか懐かしくホッとできるひと時が過ごせるお店でした。

喫茶タンパ
東京都武蔵野市八幡町 3-8-7／0422-54-5301
営業時間 11：00〜18：00／定休日　土・日・祝
武蔵境駅北口から関東バス「三鷹駅北口」ゆきで 7 分、吉祥寺駅北口から関東バス「向台町五丁目」ゆきで 20 分。

ラジオライフ　別冊の魅力

竹野伸郎

ラジオ・無線の世界から離れてかなりの年数が経過しました。それでも本屋に行くとついその手の本を手にとることが良くあります。「その手の本」の代表が「ラジオライフ」の各種書物です。またラジオを聞きたい！という衝動は残念ながらおこらないのですが、「楽しみ」は伝わってきます。今もなお、ラジオマニアにその楽しみ方と話題を提供しているラジオライフ、三才ブックス殿に敬意を込めて「購入」という形で応援させて頂くことも多々ありました。

今回久しぶりに各種雑誌を購入致しましたので、前半はその購入した書物の「レビュー」を、後半は「竹野家の棚からひとつかみ」と題して過去の書物の簡単なレビューを試みました。お付き合い頂ければ幸いです。

なお、勝手な個人的なおススメ度を記載しています。

★★★★★　満点５点　☆☆☆☆☆　最低０点　です。

■　ラジオマニア　２０１３（三才ムック　vol.571）

表紙がパナソニックのラジオというあたりから想像するとおり AM 放送、FM 放送リスナーを対象とした内容です。巻頭カラーはパーソナリティーインタビュー、B 級ラジオ？といって特殊な、あるいは他製品とのタイアップラジオなどの特集です。こういう企画は楽しいですね。カラーの巻頭で大正解です。

目次的にはパーソナリティーインタビューの「マニア的番組ガイド」、ループアンテナ等の「最強の受信機材＆テクニック」、スカイツリー送信の実際、予備送信機受信、AM 放送中継局大研究など少しだけマニアックな内容の「ラジオをもっと楽しくするための情報」、「ラジオ番組表アーカイブ」となっています。AM 中継局の大研究というのが個人的には興味がありました。AM 放送の中継局というのは増えていますよね。私の実家の北海道でも地元に民放２局も中継局を作っていましたので。全体的にラジオクラブ会報の延長のようなネタがなんとも微笑ましいです。他 RF-DR100 ラジオのインプレッションはカラーで読みやすいです。このラジオ、以前から知っていましたが今時ジャイロアンテナというのが魅力です。デ

ザインも素敵だと思います。

１００％　AM/FM 放送を中心とした構成内容はとても読みやすく、ラジオの楽しさを再注目させたいという意図が充分伝わってきます。「ラジオ番組表」の補助教材、参考書、といったイメージに感じました。気になった点として登場するパーソナリティー皆様の年齢が思っていたより高かったことです。アイドルのようなパーソナリティーが中心で、この本の購入層ももっと若い（学生）と思っていたので少しびっくりしました。大袈裟にいうとラジオ深夜便に近いのでは？という感じです。

たまに（＝数年に１回程度）購入したい本、というのが率直な感想です。

おススメ度：★★★☆☆

■ラジオがもっと楽しくなる本（三才ムック　vol.616）

今　聴きたい番組ガイド、ラジオ基礎の基礎、受信機材とテクニック、ラジオ制作の現場、もっとラジオが好きになる情報、となっています。

順番に説明しますと、「今、聴きたい番組ガイド」では音楽、お笑い、朝、といったカテゴリーやシチュエーション別に番組を紹介。「ラジオ基礎の基礎」ではそもそもラジオの扱い方から AM 放送と FM 放送差異など、少しだけラジオの奥の世界の話、「受信機材とテクニック」では各種ラジオの紹介と radiko の話題。「ラジオ制作の現場」ではひとつの番組が出来るまでを紹介しています。「もっとラジオを好きになる情報」は通勤ラジオやソニーラジオを紹介されています。

サイズが B５ということで今回、他に紹介している本と比較してひとまわり大きく、そこからも従来の系譜のラジオ系ムック本ではないですよ、という印象です。従来のラジオマニア、ラジオ番組表以外の購買層を意識されて作られたような印象がありました。ただ、果たしてそのような購買層を獲得できたのか？　は、本編を読む限り少し疑問が残ります。世の中のラジオネタは多くはありませんが、それでも週刊誌、月刊誌など、それなりに特集記事をみかけますので、そのあたりの記事と比較すると「面白さ」に欠けるなという印象は残りました。やはり「マニア向け」対象の本なんのかもしれません。

おススメ度：★☆☆☆☆

■　BCL ライフ　２０１４（三才ムック　vol.670）

巻頭カラーはラジオ NIKKEI、EDXC２０１３レポート、BCL 機器カタログ、ベリカード、

BCL ラジオメンテナンス、ロシアの　　声情報。

具体的には海外放送最新情報（日本語、国際放送、DX 局など）、受信機材レポート（中華ラジオ、ループアンテナ、SDR）、もっと楽しく BCL ライフ（オーストラリア現地受信、BCL ラジオネットオークションなど）となっており、正に古き良き BCL の王道、といった内容です。他の三才ブックスのムック本では封印している BCL、DX, 中波などの言葉もあたりまえのように使用されており、「その手の方」だけに向けた、という印象が良く伝わってきます。表紙がクーガー２２００ですからね、そりゃそうでしょう。

具体的に興味を持った内容は海外日本語放送、代表的な放送局をカードや資料を添えて紹介、バンドごとの代表的な DX 局の紹介など、まさに、「それ」という感じで微笑んでしまいます。

PERSEUS の具体的な操作方法をカラーで紹介されるなど今の DX の紹介もあり勉強になりました。カラーはいいですね。このPERSEUS、２０１３年に皆様にお誘い頂き久しぶりのペディなるものに参加させて頂いた時に初めて遭遇し本当に驚きました。ダイヤルがないのにラジオはないだろう、正にカルチャーショックでした。

『BCL は「グローバル化を先取りした趣味である」、

というコーナーは強引に BCL を学術的な方向にもっていっている感はあるのですが、個人的にはこういう記事は大好きで、とても好感が持てました。

全体を通してもとてもいいですね、楽しかったです。決して回顧主義の内容ばかりではなく、現在の BCL、DX リスニングにターゲットを絞って編集されている内容はとても好感が持てました。ラジオを今聞いているとか、聞いていないとかを超越したおもしろさがあり、この内容であれば毎年購入を考えたく思います。

おススメ度：★★★★★

■　ラジオ番組表　２０１４年春号（三才ムック vol.703）

表紙が凄いことになっている！というのが第一印象です。数年前までは民間放送の番組、ベリカードの発行有無とデザイン変更のチェック。コミュニティーFM 局の新局、返信状況確認、を目的に購入していました。今回は購入するのに少しだけ躊躇しました。内容は定番の AM/FM 放送の番組表、おすすめ番組、周波数リスト。コンスタントに刊行され続けているというのは定着した需要層があるからで、良く考ええると偉大な

ことかなと思います。

機会があればまた購入させて頂くつもりです。

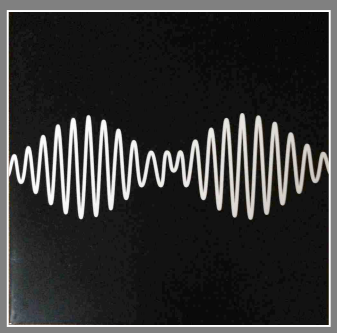
おススメ度：★★☆☆☆

■　ラジオライフ　DX　2014（三才ムック　vol.681）

第一特集として「無線界ここだけの話」としていかにも、話題。その中では『国内外有名人のコールサインリスト』　はいい企画ですね。亡くなっている方もいらっしゃるので、そこは具体的なコメントが欲しいかなとは思いました。最近では、えなりさんが有名ですが、ひと昔、ふた昔前では故　藤村有弘さん、子門正人さん、大村昆さん、タモリさんらが有名でしたね。故沖田浩之さんもテレビ番組のザベストテンに出演した時に CQ を出したり、その関係で？私をスキーに連れていって、でもアマチュア無線で活躍していました。BCL ネタでは、『変わらぬ BCL の勲章ベリカードを得るワザ』、がありました。他の大きな特集ではハンディー無線機ベストバイ。『俺のスマホアプリ最新１７０本』はとてもありがたい企画だと思いました。ネットで探せばいいのでしょうがそこまでして自分で探すのは面倒ですし、実際に使うことは個人的にはなかなかないと思いますので、たまにこのように一気に紹介して頂けると素人にはとても助かります。

BCL ネタでは BCL ライフ DX と題した日本語放送近況報告がありました。そこ、かしこ、にいかにも、のラジオライフらしいネタがありますが、それはご愛嬌ととらえて、このムック本は無線・ラジオマニアを十分満足させる内容だと思いました。

おススメ度：★★★★☆



2013 年に発売されたイギリスのロックバンド Arctic Monkeys の 5 枚のアルバム「AM」のジャケット。バンド名略の AM と振幅変調の AM をかけているのだろう。分かる人しかわからない。

小学生の頃から AM 放送は中波、Middle Wave，MW という言葉で呼んできたので AM 放送＝中波放送に疑問の余地はないのですが、「短波放送」は世の中の人には通じでも「中波放送」は一般用語ではないのでご注意を！　実は私は仕事でもこの世界に少しだけ関係があり、会議等で「中波」と言う言葉を使うと「中波？」と一瞬疑問形を投げかけられることがあります。放送業界、ラジオマニア以外には中波放送は AM 放送、と呼ぶのがよろしいかと思います。語源は全く異なるものなのですがその説明すら面倒ですので。決して振幅変調波、周波数変調波のことでね、などという偉そうな説明もしない方が無難かと思います。

竹野家の書棚から

ひとつかみ

● ラジオライフ別冊　BCL の楽しみかた

この「BCL の楽しみかた」が発刊された当時はラジオを全然聞いていませんでしたので、BCL 再開後、古本で購入した３冊です。BCL ブームよ再び、的なマニアが作った指南書、というイメージです。マニアのありがちな「持っているだけで満足」的な状態でしたので、今回あらためて内容を読ませていただき当時の「熱さ」を再体験した次第です。それにしても、アイドルが表紙というあたり、正に 80 年代。昭和 60 年は 1985 年、中山美穂さんや松本典子さん、本田美奈子さんがデビューして８０年代アイドルがムーブメントとして頂点を迎え、「おニャン子」という８０年代アイドル最後の大規模爆弾が仕掛けられたのも１９８５年でした。

・ ラジオライフ別冊　BCL の楽しみかた

発行年月日　S60 年３月 15 日

表紙　堀ちえみさん

本号、以下各号含め執筆者名は関係者もいらっしゃるので割愛します（今更出されたくない方もいらっしゃると思うので）。内容は中波放送のアイドル、アニメ番組、リクエストなどからループアンテナ。海外日本語短波放送、中波、短波、FM の受信テクニック、ベリカードのもらい方、受信機ガイド、周波数リストと放送局情報。全般的にオールラウンドに「今のラジオ、１９８５年」を紹介している感じです。カラーボックループアンテナや音声二重ステレオ受信法大公開あたり「ラジオの製作」を彷彿とさせる特集もあり楽しいです。また、アイドルでは堀ちえみさんの番組「夢日記」「どきどきダイアリー」の話などがあり、少しだけ嬉しくなりました。

８０年代を彷彿とさせる表紙。凄くいい！

―おまけー

堀ちえみさんが出演していたグリコのキャンレディーというキャンディーの箱を何個か集めて送ると抽選でもらえた缶バッジ。送られてきた封筒と一緒に。（右）大学時代の友人からアイドルを CM に使うと、こんなに効果があるのか！と驚かされました。あまり似ているとは思えませんが。また、有名な小説が映画化、テレビ化でその表紙が変更になることがあります。超名作　三島由紀夫先生の「潮騒」の映画に大胆不敵にも堀ちえみさんが主演してしまった時も表紙になりました。潮騒は何度も映画化さてますが、代表は山口百恵さん、吉永小百合さんでしょうか。今となってはちえみさんには少し荷が重過ぎました。

・ラジオライフ別冊　BCL の楽しみ方　PART2

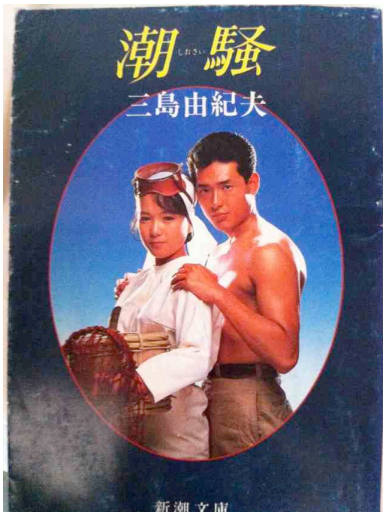
発行年月日　S61 年 5 月 15 日

表紙　冨田靖子さん

カラーで内外ベリーカードコレクション、初めて狙う海外２０局、インドネシアの声訪問、アンテナ張り、電波の不思議、ベリカード必須１２か条、BCL 最新データバンクなど。時代を感じるものではつくば科学万博で放送していた「ラジオきらっと」の巻頭特集は魅力でした。海外放送局ベスト１０では KYOI が一位。本当か？と思える内容ですが、前のパート１でのハガキのアンケートでの回答結果らしいです。初心者向けとはいえ DX への誘い、的な物が伝わってきます。皆がまだこの BCL は趣味の王道として存在する、DX 以外にも展開可能である、といった新たなる目標も感じます。

―おまけー

富田靖子さんはアイドルというより女優さんのイメージがあります。角川三人娘（薬師丸ひろ子、原田知世、渡辺典子）のような派手なメディア戦略がないわりには各種メディアに出ていましたので不思議でした。「アイコ１６歳」でデビューですが、私的には大林監督の尾道三部作「さびしんぼう」のイメージが強烈で、ショパンの「別れの曲」をバックにした尾道の



文庫本「潮騒」表紙、グリコのキャンディーのもらった缶バッジ

「悲しきチェイサー」のドーナツ盤。時代的に CD とレコードいずれも販売されていた。

景観が思い出されます。「悲しきチェイサー」という曲のイベントが「初・生・富田靖子」さんでした。富田靖子という名前は桑田靖子ばりに「一般人的な」「田舎にもいそうな」アイドルの名前、と思います。

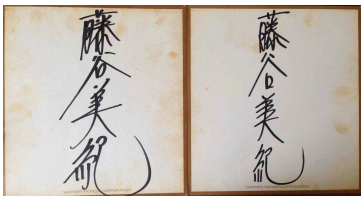
・ラジオライフ別冊　BCL の楽しみかた　「データブック編」

発行 S61 年 1 月 15 日　表紙小森まなみさん

内容は BCL とは、１０人の楽しみ方、英語放送の聞き方、英語／日本語の受信報告の書き方、ID 確認法、ユーティリティー受信、受信機改造とアンテナ製作に放送局データリスト。BCL 熱中の１０人のコーナーは知人もおられ、失礼ながら笑ってしまいます、が、正に時代、を象徴しているようで、この時代にラジオを聞いていなかったのは残念でなりません。データブック編というだけあって「資料」的なポイントを全面に出したかったのかもしれませんが、それより先に記したリスナー紹介があまりに衝撃的でそちらが優先してしまいました。

期待に沿えなくて申し訳ありませんが、小森まなみさんはノーマークでした。会ったこともレコードも持っていません。実はこの人と小森みちこさんを長年勘違いしていました。小森みちこさんはキャンディーズ Jr＝トライアングルというグループに所属、「８時だよ全員集合」にレギュラー出演、キャンディーズフォロワーとしてはナンバーワンでした。「トライアングルラブレター」という曲がスマッシュヒット、その後ポルノ女優として活躍されました。

●ラジオ　パラダイス　１９８９年６月号　表紙　藤谷美紀さん



ダブルヘッダーのサイン会でもらったサイン二枚とその時にもらったカネボウの洗顔料「エクシー」の試供品。

藤谷美紀さんがアイドル DJ インタビューとして巻頭カラーで登場、ウンナン、ダウンタウンも巻頭カラー、渡辺満里奈さんの番組インタビュー。各種番組紹介、パーソナリティー人気投票、合間に AM 受信テクニック、これからの AM ステレオなど。

この時代も全くラジオは聞いていないので、９０年以降のハムフェアの時にフジミさんの表

紙が気になり存在を知って、この雑誌を譲り受けた次第です。調査したところ８５年から９０年まで月刊誌として発刊されていたそうですね。AM 放送主体なので７０年代の深夜放送ファンを「８０年代でも！」、という形だったのかなと想像しました。

―おまけー

午後一番の八王子そごうでのイベント、その後３時からの銀座三越でのイベントとダブルヘッダーで参加して、CD シングルそれぞれの場所で買って２枚

もらったサイン、もちろん握手会では「応援しています、大好きです、ありがとうございます、また応援して下さいね」という会話はファンとアイドルの間ではお約束でした。このときは「さっき八王子もいきましたよ、あ、そうなんですか、ありがとうございます」と会話したのを今でも覚えています。

みなさん誤解されている方がいらっしゃるかもしれませんが、オスカープロモーションが主催する国民的美少女コンテストの第１回グランプリが藤谷美紀さんです。後藤久美子さんではありません。後藤さんはすでにその時にオスカーにおられましたのでプレゼンターとして登場しています。本コンテストは第二のゴクミを探せ、として仕掛けられております。ちなみに第２回は細川直美さんでした。

● AM /FM ラジオ　受信マニュアル'95

発行　1995 年 1 月 15 日　表紙　篠原涼子さん

AM/FM 放送の遠距離受信の受信、地域限定（コミュニティー放送）放送、海外からの放送、さらにラジオ、アンテナ情報に加えて全国ラジオ局ガイド。

内容はラジオ楽しみの世界へ、なのですが、対象を AM FM 放送を中心としたあたりが先の「BCL の楽しみ方」とは異なるところです。中波、と言う言葉は使わない、DX という言葉も使わず、それぞれ AM 放送、遠距離受信と言う言葉に置き換えられており、明らかにひと世代前の BCL から切り離そうとしている感じがとれます。実はこの本は私も執筆に参加しており言葉使いについていろいろご指導頂きました。過去の BCL の方以外を対象にしたい、との事をおっしゃっていたと記憶しております。この時代はラジオクラブ運営の関係で三才ブックスの方々と何度かやりとり、打ち合わせなどを行わせて頂き大変勉強になりました。

―終わりにー

関係者各位

執筆依頼ありがとうございます。楽しく書かせて頂きました。

国会図書館で
BCL 書籍を探そう！

中川　弘夫

〔きっかけ〕

ここは昔から存在だけは知っていた。その昔ブーム当時の BCL 書籍を閲覧しようと思って近郊の図書館を探したが、蔵書の数で圧倒的に多いのは、ここ国会図書館であることをその時に知ったのだった。一度行ってみたいと思っていたが、その機会もなく今日に至った。

それが今回行くことになったのは、今回の本誌で「日本 BCL 連盟～その設立から解散までを調べて」を書くにあたり、「日本 BCL 連盟」をキーワードにインターネット経由で国会図書館の蔵書検索をしたところ、思いもよらぬ小冊子「日本 BCL 連盟の記録」が引っ掛かってきたことであった。これには大変驚かされた。まさかそのものズバリの書籍があるとは思ってもみなかったのだが、多分ここにしかないだろうと思われた。

これは閲覧するしかないと早速足を運んだのだが、行ってみるとここは予想以上に面白い役立つ施設であった。前述の通り圧倒的な蔵書数を誇る。そして（私が他を知らないだけかもしれないが）、IT を駆使した大変合理的な検索～閲覧請求～複写請求のシステムが構築されている。私はその仕組みに非常に感心した。

国会図書館全景

そこでここでは、BCL ファンとしても楽しめるスペース、ここ国会図書館についてご紹介してみたいと思う。

〔国会図書館とは〕

国会図書館はその名の通り、元々は国会議員が立法活動のための調査研究機関、すなわち議会図書館として設置されたのがその起源である。発足は明治時代に遡ることになるが、第二次世界大戦後に米国議会図書館のシステムをモデルとし、議会図書館であると同時に国立図書館（国立中央図書館）の機能も兼ねることとなった。そして国内資料の網羅的収集と整理を目的とした法定納本制度により、国内すべての官公庁、団体と個人に出版物を国立国会図書館に納本することを義務付けている。つまり国内で発行された書籍は、原則全てここに存在するということになる訳である（と言うことはこの「PROPAGATION」も納本しなければならないと言うことであろう（笑））。

〔実際に行ってみる〕

そんな訳で本年 1 月某日、国会図書館東京本館を訪れることになった。国会議事堂のそばなので、最寄駅は永田町である。徒歩 5 分ほどで到着。まずは利用者登録だ。運転免許書、パス

ポート等の本人確認書類が必要となる。必要書類に記入し提出すると、10 分ほどで登録が完了し、カードが発行される。

荷物をロッカーに預け発行されたばかりのカードを手に持ってセンサーをタッチして入口を抜ける。パスモで改札を通る感じだ。そうして館内に入るとその階がメインのフロアであり、検索、貸出、閲覧、複写の一連の作業が出来る。

とにかく目に付くのが沢山の台数の利用者端末である。ここにはカードリーダーが接続されており、先ほど発行されたばかりのカードをここに置いてログインすると自身の情報が認識され、様々なリクエストが出来るようになる。

まずは読みたい本を探す。今回は「日本 BCL 連盟の記録」という書名が分かっていたのでその通り入力すると、蔵書に存在することが画面に表示されて、これに閲覧の申し込みを掛ける。感心したのはここからなのだが、こうやって申し込んで準備が出来ると、端末でポップアップ画面が出て到着したことを知らせてくれるのだ。つまり並ぶ必要もまだかまだかとそわそわする必要も無い。準備が出来るまで別な作業をしていれば良いのである。

さてそうしてカウンターで書籍を受け取り閲覧する。残念ながら貸出はしないので、ここで閲覧するか、必要な場合は複写申請することになる。そこでまた改めて先ほどの端末に座り、メニューから複写を選択して請求用紙を印字する。全てはカードとカードリーダーで認識される。そしてその用紙に必要ページ数を記入し実際の書籍の該当ページにしおりを挟んで複写請求カウンターに提出する。でまた端末の前に戻って作業していると、ポップアップで複写完了を知らせてくれるのである。こりゃ便利だ。

※　一連の流れを写真でお見せしたいのだが、館内写真撮影禁止なので、それができないのが何とも残念。

〔**所蔵する BCL 書籍**〕

「散々探して見つからず、最後の砦としてここに来る」と言われるだけあって、ここに来ればかなりの確率でお目当ての書籍と対面することが出来る。と言うかあるかないかは事前にインターネットで分かる訳なので、あったとすればここに来て実物を拝むだけである。

BCL 書籍に関しても、概ね全てのものを所蔵している。国内で発行された BCL 書籍を網羅的に紹介している「BCL 書籍のホームページ」（http://ar7030.web.fc2.com/）に掲載されている書籍は、同人誌的な（要は納本されていない）書籍を除けば殆どが所蔵されている。

かなりマニアックと言われそうだが、私はたまたま存在を知って気になる本が一冊あり、検索したらここにあったので読むことが出来た。それはその昔 R. オーストラリア日本語放送で「カンガルージョッキー」の DJ だった西里扶甬子氏の書いた「青春を電波にのせて」である。

当時 R.オーストラリアは聞いていたし「カンガルージョッキー」も聞いたように思ったのに、何故か西里氏の名前を覚えていなかった。読んでみたら氏は 72 年 11 月に着任し、76 年 1 月＝丁度私が BCL を開始した時に R. オーストラリアを去っていたのであった。まさにすれ違いのタイミングだったのだ。どおりで覚えていない筈である。読んでみて、当時まだ 20 代半ばの女性が、海外勤務が今ほど一般的でなかった時代に果敢に飛び出していく、その好奇心とバイタ

1977 年刊「青春を電波にのせて」
ネットでは古本が 32,800 円！で売られていた（笑）

リティに感心した。余談だが氏は 60 代の現在も現役のジャーナリストであり、ネットで検索すると今なおご活躍の様子を拝見することが出来る。

〔**雑誌も新聞も**〕

雑誌も新聞も、相当なものを所蔵している。私はやはり B 連に関して書かれた記事を閲覧したく、新聞のバックナンバーを捜したが、これらは縮刷版とマイクロフィルムの形態で所蔵されている。新聞名と日付が分かっていたので、その日の新聞を捜すことが出来たが（朝日新聞及び東京新聞）これらはあまりに古くてマイクロフィルムだった。

マイクロフィルムはマイクロフィルムリーダーを通して読むことが出来るが、これを使うのは中学生時代に文化祭の調べもので神奈川県立図書館で使用して以来である。それでも何となく使い方は分かって、こちらも最後にお目当ての記事を pdf ファイル化して、プリントアウトの申請をすると、受け取りカウンタで受領することが出来る。これまたシステマティックだ。

〔**地方の方も利用可能**〕

ここまで読んで、「自分は地方在住だし東京なんて行かないので全然無縁な話だ」と諦めないで頂きたい。郵送による利用者登録も可能であり、勿論ネットでの蔵書検索、そして希望の図書を閲覧は出来ないが、「複写申込」をすることが出来る（但し著作権法で複写出来るのは全ページの半分までなので、全体を読むには 2 回申請が必要になる）。どうしてもという書籍については、そこまでコストを掛けてもやる価値はあるだろう。それでも東京までの交通費を考えれば安いものだ。

昔出会ったあの懐かしい本に会いに・・・最近の書籍でも高価で必ずしも全体を保有する必要性がなければ、図書館で十分ではないか。大いに活用したい施設である。

＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊

国立国会図書館
http://www.ndl.go.jp
東京本館　　〒100-8924
千代田区永田町 1-10-1
交通：東京メトロ有楽町線「永田町駅」2 番出口から徒歩約 5 分。利用者入口前に駐車場（29 台分）がありますが、なるべく公共交通機関をご利用ください。
☎03-3581-2331（代表）
☎03-3506-3300（自動音声）
開館時間：9 時 30 分～19 時（土曜日は 17 時）
休館日：日曜日、国民の祝日・休日、年末年始、第 3 水曜日（資料整理休館日）
入館、資料の閲覧、利用者登録などは無料。複写サービスは有料。
入館資格：満 18 歳以上の方であれば、どなたでも入館・利用できます（お子様を同伴しての入館はできませんので、ご注意ください）。

リグの傍にこの一冊

「移動運用で楽しむアマチュア無線」

「移動運用の楽しさは、電波を出して交信するだけではないと思います。せっかく景色のいいところに出かけたのだから、いろんなことも楽しんでみませんか。ご家族の皆さんと一緒に出かけて、パパは無線、子供たちは虫取り、ママはハーブ探し、そしてお昼ご飯はみんなでわいわいアウトドア・クッキングを楽しむなど…。移動運用が、無線を含めた一つのレジャーとなれば最高だと思います。「また移動運用に行きたいね」家族の皆さんにそう思ってもらえるような移動運用を目指してみてはいかがでしょうか（「はじめに」より抜粋）」

相次ぐ「家族ペディ」失敗続きでくじけていた筆者には、この一文が涙の出るほど嬉しかったです。移動運用を志すアマチュア無線家に向けた本ですが、ゲリペ、チョイペ、モビといったペディションに関心のある BCL にとっても、必読の書です。

集合住宅に住んでいて制約が多い、普段は家族や近所に遠慮しながら無線をしている、ロケーションの良い広い場所で少しでも遠くの局とたくさん交信したい、といった理由から移動運用に出かけるアマチュア無線家は以前から多く、それだけに蓄積されたノウハウも膨大なものがあります。移動に適した場所、移動手段、装備、アンテナ、電源、屋外のリスク…。移動運用には、自宅のシャックとはまったく異なる環境で無線を楽しむための、いろいろなスキルが求められます。「空港の持ち物検査では、アンテナの入った釣り竿ケースを正直に「アンテナです」と答える」「湿った草むらが移動先ならアブの襲来に備え、すぐ車から降りずしばらく車内で待機する」「観光地で大きなアンテナを展開することはご法度」「出張のホテルはできるだけ高層階を、室内の窓の向きも確認してから予約をとる」「仕事や家庭の都合で行ける日時が限られている移動運用、そのときにオープンするかどうかは運まかせ…」「海岸の移動運用では、先端の被服を 1m むいたカウンターポイズを、海中に投入する」「春になって広大に広がる田園に水が張られ出したら、それは間違いなく移動運用開始の合図」「釣具店で見つけた磯釣り用竿受けをアンテナポール支持杭に利用」「ポールのステーやワイヤ・アンテナを張るときに便利なロープ結び」「車内へのアンテナ引き込みアダプタや、車内テーブルの自作」はてはアウトドア・クッキングレシピやテント設営術、救急法などなど、BCL にも参考となるテクニックや注意したい事柄が満載です。

ただし本書には夜間の移動運用についてのノウハウがほとんどなく、ワッチする時間帯が夕方～早朝と圧倒的に夜間が多い BCL にとって物足りない面もあります。照明や夜露、暖房など夜のアウトドアに関しては、オートキャンプの入門書などが参考になるかもしれません。

今でこそすっかり「ラジオを聞くなら自宅よりペディ」という筆者ですが、やはり最初の一歩を踏み出すまでにはかなりの勇気と準備、労力を要しました。ましてや「たったひとりで」となると、かなりの意気込みが必要です。もともとアウトドア志向ではない方にペディションはお勧めできませんし、屋外で聞くことに伴う各リスクへの補償もできません。世間一般の感覚からしても「ラジオを聞きに外へ出かける」というのは、やはり普通のことではありませんし…。それでも、そこを乗り越えたものだけが味わうことのできる DXing の楽しさや興奮があることも、また事実です。ぜひこの本を片手に、ノイズだらけのシャックを飛び出し、移動運用の世界を体験してみてはいかがでしょうか。（長谷川眞也）

「移動運用で楽しむアマチュア無線」CQ ham radio 編集部（編）アクティブ・ハムライフ・シリーズ　CQ 出版社
2011 年 9 月 15 日初版発行　ISBN 978-4-7898-1592-5　2,200 円（税別）

「ワイドバンド受信機＋PC で広がる電波受信」

すでに発行から 4 年近く経っている本ですが、「いま現在、書店で買える唯一の BCL 入門書籍」ともいえる一冊です。長波～V・UHF までのラジオ放送や、NDB、灯台局、漁業無線、エアバンド・消防・救急・鉄道・国際 VHF などの業務無線、アマチュア無線、CB 無線、簡易、特小、盗聴波、ワイヤレスマイク…多種多様な放送・無線通信とその受信方法を紹介しています。電波法規、電波伝搬、受信機やアンテナ機材、受信報告書の書き方（TV 局や漁業無線局への受信報告作例もあり）、DRM や NAVTEX、気象 FAX、ACARS、HFDL、VDL、AIS、APT などを PC で受信する方法など、様々なノウハウや関連情報が詰めこまれています。

現在主流となりつつある SDR を使った DX 受信に関しては、「マニアになるとノイズの少ない田舎の海岸に出向いて自宅では張れない長いアンテナを仮設、後述する SDR 受信ソフトで受信帯域ごと録音して持ち帰り、それを自宅で繰り返し再生しながらモニタすることで DX 信号を解析するような離れ業を楽しむ向きも（P19）」などの記述はありましたが、発行当時はまだマイナージャンルの受信機だったせいか詳細な情報が少ないのが残念です。カムバック派を主なターゲットとした本なので、ビギナーには難しく感じるかもしれません。また限られた紙面ゆえ、ここを入り口にさらに専門書籍やネットなどで深く調べることをお勧めします。

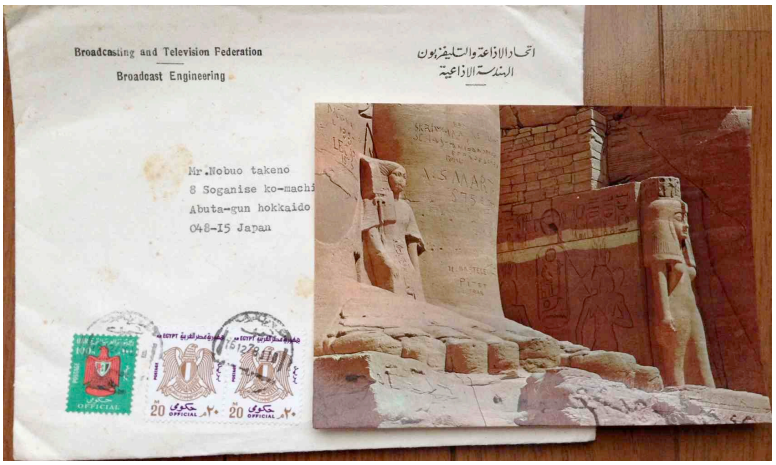
「わたしたちは仕事で電波を受信するのではありませんし、誰かと競争するのを目的としているのでもありません。大人であればお気に入りのお酒でもちびちび舐めながら、遠くから飛んでくる電波を捕まえてやろうという遊びのためにお金と労力と時間を費やしてやろうと考えているわけですから（P48）」「「今できなくても次はできる、今日できなくても明日はできる」」ので、一度でサクッとできなくても「明日の楽しみが増えた」と思って割り切るのが電波遊びの達人への近道です（P65）」「手取り足取りで他人に教えてもらうよりも、自らが身につけたテクニックを用いて信号を捕まえるほうがはるかに楽しいですし、DX を捕まえるまでのプロセスこそがワッチの醍醐味なのです（P84）」「静かな禅寺で座禅を組んでいると庭に枯葉が落ちる音すら聞き取ることができますが、うるさい工事現場の前を歩いているときでは隣にいる人から大声で声を掛けられても気付かないことがある、それが S/N の良し悪しです（P97）」など、知識と経験が豊富なベテラン DXer ならではの含蓄ある言葉が数多く載っており、同じ時代を生きる趣味の仲間として共感できました。

本書で数多く紹介されている「KG シリーズソフトウェア」ですが、残念なことに作者 KG 氏の「近畿地方の企業への就職に伴う、副業を禁じた服務規程」により、有償ソフト（KG-HFDL、KG-AIS、KG-VDL）のライセンス販売は 2014 年 3 月 16 日受付分をもって終了、また KG-FAX などのフリーソフトも「将来的には様子を見ながら閉鎖する方向」とのことです。興味のある方は、早めのダウンロードをおすすめします。ちなみに著者の JE3AVS/中田勝己氏は、同書でも紹介されているデスクトップ受信機 DX-R8 でおなじみアルインコ電子事業部（無線機などの電子機器部門）に在勤なさっているとのこと。Team Wideband Listeners としての著作で「ナビゲーションソフト KG シリーズ全集」「航空・気象・海上データ通信表示ソフト」などがあります。BCL・DX に理解ある氏の、今後のさらなるご活躍を願わずにはいられません。（長谷川眞也）

「ワイドバンド受信機＋PC で広がる電波受信」
中田勝己／みはる☆（Team Wideband Listeners）共著
電波の世界で遊んでみよう series　CQ 出版社
2010 年 9 月 1 日初版発行　ISBN 978-4-7898-1328-0　1,800 円（税別）

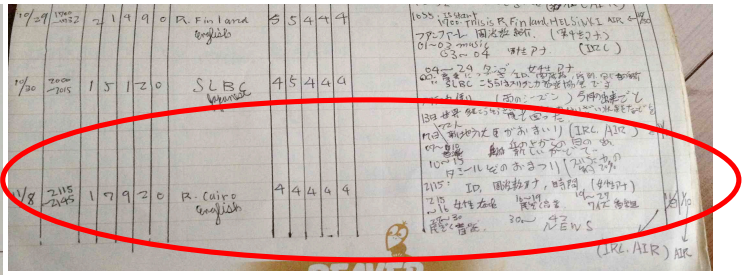
思い出のベリカード

竹野伸郎



海外短波放送、BCL のきっかけが日本語放送であり、アンデスの声であり、ベリカードであったことは間違いのない事実なのですが、そこからさらに進んでもっと沢山の放送を聞こうと思うと必ず言葉の壁にぶちあたります。

１９７６年の小学６年から海外放送を聞く様になったのですが、さすがに BCL 本や雑誌に書いてある日本語の意味すらはっきりわからないのに、ましてや経験のない英語放送の内容など聞き取れるはずがありません。しかしタイミング的には丁度良かったのですが、翌年には中学生になり必然的に初めて英語を習うことになります。これはかなり助かりました。ラジオが学校の勉強の参考になるのではなく、学校の勉強が BCL の参考になるという感じです。それで中学二年になってからぼちぼち英語放送にもレポートするようになり、それで偶然にも頂いたのがこのラジオ・カイロのベリカード。エジプトから自分の書いた英語の報告書でベリカードが、それもカラーでいかにもエジプト！を彷彿とされるものが届いたのだからそれはもう最高に感激でした。このラジオ・カイロのベリカードがその後の DX の世界への入り口だったと思っています。



この内容で報告を送っては失礼だろう！という当時のログ。お恥ずかしい限りでございます。放送局の皆様には大変失礼を致しました。申し訳ございません。

返信情報 QSL Information

■国名
局名 (送信地) 周波数 受信日 RPT 使用語 同封物 * 返信物 返信日数 QSL 発行者 RPT 送付先 (投稿者)

■Armenia
TWR relay Armenia 1350kHz 2013/11/24 EG *E-QSL E19E E-mail: twre@twr.org (我戸塚豪)

■Philippines
Radyo Natin Maramag Bukidnon 48.416MHz 2013/10/18 EG *E-QSL E1E E-mail: radyonatinmaramag@yahoo.com (我戸塚豪)

■SriLanca
FEBA (via Trincomalee) 9720kHz v/s Kennth Edwrad Head-Programee 2014/5/3 EG *E-QSL E30E E-mail: febaindia@vsnl.com

PCJ Radio Internatonal (via Trincomalee) 13720kHz 2014/4/5 EG *E-QSL E7E E-mail: pcjqsl@pcjmedia.com (我戸塚豪)

■U.S.A.
KJNP(Alasaka) 1170kHz 2013/10/29 EG *E-QSL E8E E-mail: kjnp@mosquitonet.com (我戸塚豪)

KRVN(Nebraska) 880kHz 2013/10/29 EG *E-QSL E1E E-mail: rzeigler@krvn.com (我戸塚豪)

■Australia
2QN 1521kHz 2013/5/31 EG 1US$ *QSL A22A

オーストラリアニューサウスウェールズ州デニリクインにある中波局である。出力はリストで見ると 2kW となっているが、返信には 2.5kW となっているので後者が正解であろう。周波数は 1521kHz、フォーマットは oldies であり、受信した日も Beatles の I want to hold your hand が掛かっており、ID 以外の確認の証拠となった。

この局は 5/31 の毘沙門ペディで受信した。オーストラリアが開けた日で、特に 2（NSW）エリアが強かった。そこで ID が明瞭に取れた 3 局（他に 2EL、2RPH）にレポートを送ったところ、この局からのみレターによる返信を得られたという経緯である。あと 2 局も諦めずに待ってみたいと思うが･･･（フォローアップを送るか？）。

ところでここ数年は QSL 獲得に対する意欲が低下し、何が何でもレポートせねばという姿勢が失われていた。それはそもそも DX 局は返信率が極めて低いという事情もある。実際この前に送ったのは 2013 年 3 月のハワイ 2 局（KUAI、KUPA）だが、残念ながら返信はなしのつぶてだった。局側にもレポートに対して何某かの返信をするという習慣がますます薄れてしまっているようにも感じていた。自分以外の同志達もその辺りの意欲が減退している感じもあり、大げさに言えば QSL という習慣が無くなってしまうのではないかという危惧の念さえ感じ始めていた。

加齢による根気の減退も気になっていた（笑）。そんな訳で久々に自身に鉄槌を加えるいい刺激であり、これを契機にまたコンスタントに出していこうと思う。レポートもまたアンチエイジングだ！（中川弘夫）

02/7/2014

Hiroo Nakagawa,
[redacted]
Japan

Hi Hiroo,

Thank you for your reception report for 2QN on 21st May 2014.

2QN operates from Deniliquin in New South Wales Australia.

2QN's frequency 1521 khz transmitter power 2500 watts, Antenna 100m.

Regards,

IAN CROCKETT
SENIOR TECHNICIAN

1521AM 2QN HITS AND MEMORIES Classic Rock 102.5FM

RICH RIVERS RADIO PTY LIMITED. A.B.N. 78 004 521 055
368 GEORGE STREET, DENILIQUIN NSW 2710 PH: (03) 5881 1811 - FAX: (03) 5881 4613
208 PAKENHAM STREET, ECHUCA VIC 3584 PH: (03) 5482 2047 - FAX: (03) 5482 2355

BCL用語事典　2014年度増補改訂版

●BCLをはじめたとき、まず戸惑うのが独特の専門用語。BCL用語の多くはアマチュア無線から派生したものです。ブログ「BCL再入門」で2007年8月に「BCL用語辞典①②」としてまとめましたが、BCLを取り巻く環境の変化や技術の進歩で、専門用語も日々変化しています。今回、ブログ記事を元に再構成し、大幅加筆・訂正を加え、ほぼ倍近いボリュームとなった2014年版の用語事典をお届けします。各用語は簡単に紹介してありますので、より詳しい意味や情報はネットなどで調べることをお勧めします。またすべての用語を網羅したものではなく、筆者の知識不足と個人的興味から偏った内容になっています。どうかご了承下さい。間違い・勘違い・要追加項目などお気づきの点がありましたら、ご指摘下さればありがたく存じます（長谷川眞也）

A～Z

73　別れのあいさつ。かつて作成されたCWの伝送時間短縮の数字コード「73：Best Regards」が由来。

A2　アメリカ方式のアナログTVチャンネルで、映像／音声周波数は55.25／59.75MHz。フィリピンなどで使われている。A3は61.25／65.75MHz、A4 67.25／71.75MHz、A5 77.25／81.75MHzほか。

A　夏スケジュール。3月最終日曜～10月最終日曜までの期間。2014年夏なら「A14」。

A　(approximate)　おおよその周波数。「4824.4__kHz」

A2　アメリカ方式のアナログTV第2チャンネルで、映像／音声周波数は55.25／59.75MHz。A3は61.25／65.75MHz、A4 67.25／71.75MHz、A5 77.25／81.75MHzほか。フィリピンは2015年に地デジ化完了予定。

ABC　①Australian Broadcasting Corporation。オーストラリア放送協会。②Ashahi Broadcasting Corporation。大阪の朝日放送。③American Broadcasting Company。CBS、NBCと並ぶ米3大ネットワークのひとつ。

ABI　(Asian Broadcasting Institute)　アジア放送研究会。

ABS-CBN　(Alto Broadcasting System-Chronicle Broadcasting Network)　フィリピン最大の民間放送ネットワーク。

ACARS　(automatic communications addressing and reporting sysytem)　地上スタッフとパイロットとで位置情報や各種データ通信を行うシステム。130MHz帯が使用されている。

A/D変換　(Analog/Digital Conversion)　アナログ信号からデジタル信号への変換。

ADC CLIP　(Analog / Digital Converter Clipping)　SDRで入力信号強度が受信機の許容範囲を越えると出る表示。

Add Label　(address label)　自分のアドレスを書いたラベルで、返信用に同封する。ネームシール。add sealとも表記。

AF　(Audio Frequency)　低周波。音声周波数。

AF GAIN　(Audio Frequency GAIN)　音量ボリューム。

AFN　(American Forces Network)　米軍放送網。

AGC　(Automatic Gain Control)　自動で利得（ゲイン）を調整する機能。サイドのきつい微弱局にはOFFが有効な事も。

A-Index　K指数日合計。K-Indexの1日8個の合計。 3以下なら「極めて静穏」、23以上だと「じょう乱（活発）」となる。

AIR　(All India Radio)　インド国営放送。ヒンディ語では「Akashvani」（天の声）と表現される。

AIS　(Automatic Identification System)　船舶自動識別装置。船舶の識別符号、種類、位置、針路、速力、航行状態及びその他の安全に関する情報を自動的にVHF帯電波で送受信し、船舶局相互間及び船舶局と陸上局の航行援助施設等と

の間で情報の交換を行うシステム。

ALA　ALA1530。英国Wellbrook社製の高性能受信用ループアンテナ。ノイズに比較的強く、都市部のBCLに愛用されている。

ALINCO　アルインコ株式会社。大阪市にある無線機メーカー。社名は代表製品のアルミニウムと1938年創業時の社名「井上鉄工所」から。2010年に久しぶりの国産BCL受信機となるDX-R8を発表。

AM　(amplitude modulation)　振幅変調。AM放送などで使われる電波形式。一般的には中波放送を指す。

AMP　(amplifier)　アンプ。信号を増幅する。弱い局の受信に有効だが、同時にノイズも増幅しやすい。

Ann　(announcement)　アナウンス。もっぱら番組以外の「お知らせ」部分を差す。「開始・終了__」

ANT　(antenna)　アンテナ。シャック・ペディの要。設置場所や高さ、受信機とのバランス・相性が非常に重要。

AOR　株式会社エーオーアール。東京都台東区にある無線機メーカー。広帯域受信機AR5000やAR-ALPHAで知られる。社名は創業者（現社長）高野茂氏のコールサインJA1AORから。無線通信の権威（Authority On Radio communications）の頭文字でもある。

APT　(Automatic Picture Transmission)　アメリカ海洋大気庁が管理・運用する気象衛星NOAAのダウンリンク送信。137MHz帯が使われている。

AR7030　AORではじめて英国販売拠点のAOR UKで開発した受信機。デザイナーはLowe社のHF受信機設計者で知られるJohn Thorpe氏。強信号特性に優れ、中波DXerにとって名機となった。

ATT　(attenuator)　アッテネーター。強すぎる信号を減衰させ飽和を防ぐ機能・機器。アンテナ〜受信機間に挿入すると混変調に有効。信号とノイズのどちらも強い場合にATTをONにすると、ノイズだけが大きく減衰しSN比が向上する場合もある。

AUS　(Australia)　オーストラリア。

AWR　(Adventist World Radio)　北米メリーランド州に本部があるセブンスデー・アドベンチスト教会が運営するプロテスタント系キリスト教放送団体。

B　冬スケジュール。10月最終日曜〜翌年3月最終日曜までの期間。2014年冬なら「B14」。

BBC　(British Broadcasting Corporation)　英国放送協会。

BBC WS　(BBC World Service)　BBC国際放送。

BC　(broadcasting corporation (company))　局名を省略表記する際に用いられる。

BCL　(broadcasting listening / listener)　趣味として（主に遠距離の）ラジオ・TV放送を受信すること、またはその愛好者。

BCL-LOOP　バイク用電子パーツの北神電子サービス店主が製作したアクティブループアンテナ。最新版はver9.3。

BCLブーム　1975〜1982年頃に起こった、学生を中心としたBCLホビーの流行。最盛期のBCL人口は300万人ともいわれている。

BCLラジオ　短波帯の遠距離受信を主目的として製造されたポータブルタイプのラジオ。かつてのBCLブームに発売されたものを指すことが多い。

BF　FB（Fine Business=素晴らしい）の反対。良くないの意。NG。

BNC　同軸コネクタの種類。M型よりコンパクトで、通信や映像信号に使われる。

BOG　(Beverage on the Ground)　地面に這わせて設置するタイプのビバレージアンテナ。

BS　(Broadcasting System (Station))　局名を省略表記する際に用いられる。

BS　(Broadcasting Satellite digital broadcast)　放送衛星(BS)を使った、デジタル信号によるテレビやラジオの放送。

BSKSA　(Broadcasting Services of the Kingdom of Saudi Arabia)　サウジアラビア国営放送。

BUSY　スケルチが開くと点灯するランプまたは表示。

C1　中国方式のアナログTV第1チャンネルで、映像／音声周波数は49.75／56.25MHz。C2は57.75／64.25MHz、C3 65.75

／72.25MHz、C4 77.25／83.75MHzほか。中国は2015年に地デジ化完了予定。

Canned ID　定型ID。あらかじめ録音されたものが流される。

cd　(card)　(QSL)カード。

CBC　①Canadian Broadcasting Corporation。カナダ放送協会。②Chubu-Nippon Broadcasting。名古屋の中部日本放送。

CBS　(Columbia Broadcasting System)　米最大の放送ネットワーク。CBS Broadcasting, Inc.。

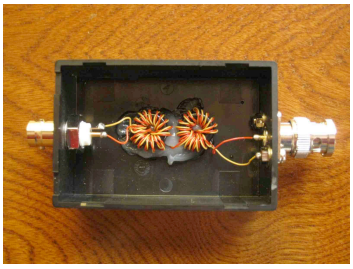
CFM　(Community FM)　広域放送や県域放送より狭い地域に密着した、小出力FM局。

Ch　(channel)　チャンネル。ラジオでは周波数の意。

Chief Engineer　放送に関する技術操作を行う部署のリーダー。受信報告書の宛名とすることが多い。

CM　(commercial)　コマーシャル。地名や電話番号など、局確認の情報となることがある。

CMC　(Common Mode Choke)　同軸ケーブルやACラインを流れるコモンモードノイズを減衰させるため挿入するチョークコイル。コモンモード減衰量が30dB以上だと優秀。



CNMI　(Commonwealth of the Northern Mariana Islands)　北マリアナ諸島。サイパンやテニアン島を含む。

CNN　(Cable News Network)　米国のケーブルテレビ向けニュース専門局。

co-channel　同一周波数。混信局を表す際などに用いたりする。c/c。

c/off　(carrier on)　電波の出終わり。

c/on　(carrier on)　電波の出始め。

Condx　(condition)　コンディション。

CRI　(China Radio International)　中国国際放送。中国国际广播电台。

CQ誌　CQ出版社発行のアマチュア無線雑誌「CQ ham Radio」のこと。1946年創刊。BCLの記事が掲載されていた時期もあった。アンテナなどの技術的情報がBCLに役立つこともある。

CQ出版社　東京都豊島区にある、アマチュア無線向け書籍専門の出版社。1954年設立。

CRI　(China Radio International)　中国国際放送。

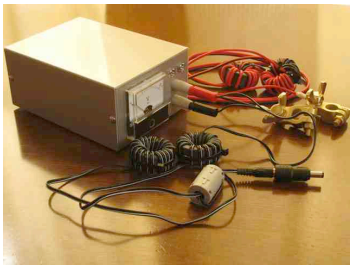
CS　(Communication Satellite)　通信用電波の送受信が目的の人工衛星を使った放送。

CW　(continuous wave)　モールス通信。現在ではアマチュア無線以外ではほとんど使われていない。

D　(directial)　指向性のある。

dB　(decibel)　デシベル。アンプ・アンテナなどのゲイン（利得）の比を対数で表した単位。

DC-DCコンバータ　(DC-DC converter)　直流電圧を異なる電圧に変換する機器。



DDFA　(Dual Delta Flag Array)　デルタフラッグアンテナを2基組み合わせたアンテナ。それぞれからフェーズド・アレイを介して電力を合成し、妨害局を弱め目的局を浮かび上がらせる。

DEGEN　深圳市德勁電子有限公司。中国広東省の電機メーカーで、DE1103などのBCLラジオで知られる。

DF　(delta flag)　デルタフラッグアンテナ。米国のハムK6SE Earl W. Cunningham氏が製作。カージオイド特性を持ち、三角の形状で接地も不要と設営しやすい。

DREAM　DRMを復調するためのソフトウェア。大学のプロジェクトでソースコードが開発された。

DRM　(Digital Radio Mondiale)　デジタル化されたラジオ放送の方式。FM並みの音質だが、専用の受信機が必要。

DSP　(Digital Signal Processing)　受信したアナログ信号をデジタル処理して同調・検波・増幅する機能。

DSWCI　(Danish Shortwave Club International)　デンマークに本部を置く、国際的なDXサークル。33カ国250人のメンバーで構成されている（2014年現在）。1974年5月設立。chairmanはAnker Petersen氏。

DVB-T　(Digital Video Broadcast-Terminal)　ワンセグTVチューナー。ノートパソコン等に接続して、テレビなどを試聴するのに用いる。USBスティックサイズで安価なものが多く、SDRとしても使用可能なものもある。

DW　(Deutsche Welle)　ドイツ海外放送。Deutsche Welle=German Wave。現在はアフリカ向け短波を残すのみとなっている。

DX　遠距離の通信や受信のこと。古い電信記号D(distance) X(unknown)が由来。

DXer　遠距離通信・受信をする人。

DXing　DXをすること。趣味としての遠距離ラジオ・TV局受信。

DXing.info　フィンランドのDXer Mika Makelainen氏が運営しているDXサイト。中波DXの情報が多い。

DXLD　(DX Listening Digest)　米オクラホマ州在住のDXer、Glenn Hauser氏の発行するメールマガジン。

DXバケーション　(DX vacation)　南の島などで開催される、休暇も兼ねたDXペディションのこと。

D層　上空70～90kmにある電離層。電波を吸収する。夜間は消滅するので、中波がE層で反射できるようになる。

E2　ヨーッロッパ方式のアナログTV第2チャンネルで、映像／音声周波数は48.25／53.75MHz。タイなどで使われている。E2Aは49.75／55.25MHz、E3 55.25／60.75MHz、E4 62.25／67.75MHzほか。

ECSS　(Exalted Carrier Selectable System)　サイドバンド選択同期検波機能。混信・フェージングを軽減させる。

EDXC　(European DX Council)　ヨーロッパおよび世界中のDXサークルおよびDXer統括を目的とする団体。1967年設立。

EiBi　独のDXer Eike Bierwirth氏が制作した短波放送スケジュールリスト。

ELAD　イタリアの受信機・アクセサリーメーカー。FDM-S2は今年リリースの最新鋭SDR機。

E-QSL　(E-mail QSL)　Eメールに添付されたWordファイルなどのQSLデータ。または受信を証明する旨記載されたEメールそのものを指す。

Es　(sporadic E layer)　Eスポの略。

ESPN　(Entertainment and Sports Programming Network)　米ウォルト・ディズニー・カンパニー傘下のスポーツ専門チャンネルネットワーク。

EWTN　Global Catholic Television and Radio Network。北米アラバマ州に本部があるカトリック系キリスト教放送団体。短波のWEWNなどが有名。

ex　「以前は」の意。変更前のコールなどを表記する際に用いる。「960 KNEW　ex:KKGN, KQKE」

EXCALIBUR　豪WiNRADIO社のSDR受信機。音質が良く、PERSEUSのライバル機。上位機にEXCALIBUR PROがある。

Eスポ　スポラディックE層でFMなどの電波が遠方まで届く現象。伝搬距離は1 回の反射で300～2000km程度。

E層　上空90～130kmにある電離層。低い電波を反射し、7MHz以上の電波は通過時減衰する。

FAX放送　(Radiofax)　ファクシミリ放送。画像情報を変調処理した信号を遠隔地に伝送する。気象庁のJMH（気象無線模写放送）が有名。

FB　(fine business)　素晴らしいの意。

FB DX　「よいDXを」あいさつで使う。

F/B比　(front to back ratio)　アンテナ特性の前方対後方比。単位はdB。値が大きいほど指向性が良い。

FCC　(Federal Communications Commission)　米連邦通信委員会。

f/d　(full data)　(QSLで）フルデータ記載。

FDM-S2　伊ELAD社のSDR受

信機。安価かつUSBバスパワーで6MHz帯域記録を実現。先代機はFDM-S1。

FEBA　(Far Eastern Broadcasting Associates)　イギリスに本部があるキリスト教放送団体。

FEBC　(Far East Broadcasting Company)　北米カリフォルニア州に本部があるプロテスタント系キリスト教放送団体。日本語放送は1566kHzのHLAZ。

f/in　(fade in)　フェード・イン。放送波が徐々に聞こえてくること。「+03:00〜」とも表記する。

Firedrake　中国の京劇音楽を使ったジャミング。「火龍」とも表現。

First from Japan　日本からはじめて受信報告書が届いた局からのQSL。1st from JA。

Flag　フラッグアンテナ。米国のハムK6SE Earl W. Cunningham氏が製作。指向性がカージオイド特性を持つ。形状を変えたものにペナントアンテナ(pennant antenna)がある。

FM　(frequency modulation)　周波数変調。FM放送などに用いられる。

f/out　(fade out)　フェード・アウト。放送波が徐々に聞こえなくなること。「〜05:00+」とも表記する。

Freq　(frequency)　周波数。

Fs　(spread F)　スプレッドF。太陽活動極大期の春と秋22時前後に、不規則に広がったF層で反射する伝搬。東南アジアのFM・TVが受信できる。

FSK　(Frequency Shift Keying)　デジタル値をアナログ信号に変換する変調方式の一つで、周波数に値を割り当てる方式。回路が比較的単純で済み、振幅変動の影響を受けにくい。

F/S比　(front to side ratio)　アンテナ特性のフロントとサイドの比率をdBで表したもの。値が大きいほど指向性が良い。

F層　上空200〜400kmにある電離層。日中はF1層（上空140〜210km）とF2層（上空210km以上）に分かれているが、夜間は一つのF層になる。短波（まれに中波）を反射し、1回の反射で最大4000km程度到達する。

F2層伝搬　太陽活動が活発な時期の春と秋7〜20時頃に、50MHz以上の高い周波数の電波が電子密度の上昇した F2 層で反射する伝搬。1回反射で4000kmほど。マルチホップもあり、47.9MHzのチリ局もこの伝搬と思われる。

GHz　(giga hertz)　ギガヘルツ。周波数の単位。1GHz=1000MHz。

GMA　(Global Media Arts Network)　フィリピンのTV・ラジオネットワーク。中波局は594kHz DZBB。

GND　(ground)　アース。

GPS　(Global Positioning System)　全地球測位システム。米国が運用する 衛星航法システムで、GPS衛星からの電波を使って、受信機とGPS衛星との間の距離を測定し、自分の位置を計算するもの

GQ　(german quad antenna)　ジャーマンクワッド。簡単に自作できるアンテナ。移動FMDXに最適。

GW　(ground wave)　地表波。地表近くを進む電波伝搬。

HCDX　(Hard-Core-DX)　世界中のDXサークルとリンクしているDXサイト。フィンランドのDXer Risto Kotalampi氏が1995にメーリングリストをスタート。

HCJB　アンデスの声。かつてエクアドルにあったキリスト教放送局。本部は米コロラド州にあり、現在はReach Beyondという団体名になっているが、日本語放送はオーストラリアからHCJBの局名のまま送信されている。

HF　(high frequency)　短波。3〜30MHz。短波ラジオ放送や各種業務通信で使われている。1.9MHzからを短波とする場合もある。

HFCC　(High Frequency Co-ordination Conference)　国際短波周波数調整会議。チェコのプラハに本部があり、毎年春と秋に短波周波数を調整している。1991年設立。

HFDL　(High Frequency Data Link)　短波帯を使用したACARS通信。

Hi　（笑）を意味する。

HPF　(High Pass Filter)　高い周波数帯域だけを通過させるフィルター。

Hz　(hertz)　ヘルツ。周波数の単位で、電波が1秒間に振動する回数。

I　(interference)　混信の強さ。SINPO5段階で、5は最強、1は最低。

IBB　(International Broadcasting Bureau)　米国政府の独立機関で、BBG(Broadcasting Board Governors)のに属する。VOAやRadio Martíなどを制作。

IBRA　(International Broadcasting Association)　英国に本部があるキリスト教放送団体。

ICOM　アイコム株式会社。大阪市にある無線機メーカー。IC-R75は発売から15年になるロングセラー。1954年に創業した井上電機製作所が1978年現在の社名（Inoue COMmunicationが由来）に変更。

ID　(station identification)　放送局名アナウンス。SAともいう。

IF　(Intermediate Frequency)　中間周波数。受信信号の周波数を増幅するために受信機内で一旦変換した周波数。AMラジオなら455kHz。

IFシフト　(Intermediate Frequency Shift)　中間周波数をずらし、IFフィルタの通過帯域を変化させ混信を軽減すること。

IFフィルタ　(Intermediate Frequency Bandwidth filter)　中間周波フィルタ。受信機の受信帯域幅を左右する。

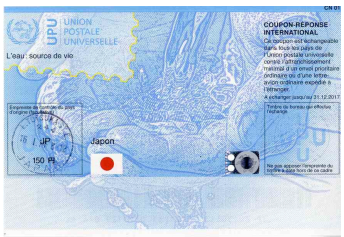
IM　(intermodulation)　相互変調。増幅器に２つの電波が入ったときに、本来は出ないはずの周波数から電波が出力される現象。

Int　(International)　国際放送の局名表記でよく使われる。

IP　(intercept point)　相互変調が希望信号より強くなる点のこと。値が大きいほど多信号特性が良くなる。

IQ信号　(In-phase Quadrature Signal)　Iは波形の同相（In-phase）成分、Qは直交位相（Quadrature）成分で、IとQは90度の位相差を持った直交波形。これをPCのデジタル処理で直交復調(直交検波)することがSDR。

IRC　(International Reply Coupon)　国際返信用切手券。郵便局で取り扱っており、1枚150円。



IRIB　(Islamic Republic of Iran Broadcasting)　イランイスラム共和国国際放送。

IS　(interval signal)　放送前に流れる音楽。昔はアナログラジオのチューニングを助ける意味があった。

ITU　(International Telecommunication Union)　国際電気通信連合。放送局の周波数帯割当てなどを司る。国連専門機関で、国連加盟国すべての国がほぼ加入している。

Jam　(jamming)　妨害電波。

JJY　日本の標準電波局。福島県おおたかどや山（40kHz）と佐賀県はがね山（60kHz）に送信所がある。

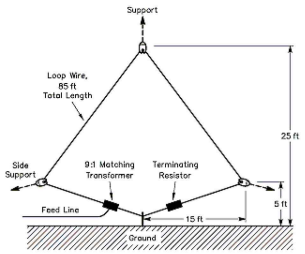
JRC　(Japan Radio Co., Ltd.)　日本無線株式会社。東京都杉並区にある無線機メーカー。創業は1915（大正4）年。NRD-545が最後の民生用受信機となった。

JST　(Japan Standard Time)　日本標準時。UTC＋9時間。

JSWC　(Japan Short Wave Club)　日本短波クラブ。創立1952年。

JVUDXC　(Japan V・UHF DXers Circle)　1981年設立のV・UHF DX専門サークル。会誌OVER-HORIZONやTV-FM受信ガイドを発行。

K9AY　米国のハムK9AY Gary Breed氏が製作したアンテナ。カージオイドの指向性があり、自作もできて設置も容易。



KBS　①Korean Broadcasting System。韓国放送公社。②Kyoto Broadcasting System。京都放送。KBS京都。

kc　(kiro cycle)　キロサイクル。1972年7月まで使われていた周波数単位。1kc=1kHz。

KCHIBO　深圳市凱隆電子有限公司。中国広東省の電機メーカーで、D96LなどのBCLラジオで知られる。

KDXC　(Kanto DXers Circle) 関東DXersサークル。1980年発足のBCLサークル。会誌CALL SIGN発行、ミーティングなど精力的に活動していた。

KENWOOD　株式会社JVCケンウッド。神奈川県横浜市にあり、無線機メーカーTRIOが前身。1961年のアメリカ進出時に、既に商標登録されていた「TRIO」に代わり立ち上げた新ブランド（当時人気のある名前「ken」、全盛だった「HOLLYWOOD」の合成）が社名の由来。ブーム後期にR-5000などの受信機を発売。

kHz　(kiro hertz)　キロヘルツ。周波数の単位。1000Hz=1kHz。kは小文字。

K-Index　K指数。地磁気変動の活動程度を表す指数。3時間ごとに地磁気変化を観測し、1日8回更新される。0=Inactive、9=Extremely severe storm。

Ku Band　Ku帯。マイクロ波の周波数帯域の一つ(12~18GHz)であり、Ku バンドともいう。主に衛星放送や衛星通信等で利用されている。

kW　(kiro watt)　電力の単位。1kW=1000W。

LA　(Latin America)　南米。南米の（短波）局。

L Band　L帯。マイクロ波の周波数帯域の一つ(0.5~1.5GHz)であり、L バン ドともいう。主に衛星電話や携帯電話、地球観測衛星の SAR 等で利用されている。 日本の地球観測衛星「だいち」(ALOS)に搭載されて いる合成開口レーダ「PALSAR」は、L バンドを利用しているほか、LAN、気象レーダーや船舶用レーダー等に利用されている。

LED　(Light Emitting Diode) 発光ダイオード。

LF　(low frequency)　長波。長波ラジオ放送や鉄道無線などで使われている。

Love Ambon　RRIで終了時に掛かる南洋調の音楽。

LPF　(Low Pass Filter)　低い周波数帯域だけを通過させるフィルター。

LRA 36　Radio Nacional Arcángel San Gabriel。南極唯一の短波放送局で、アルゼンチンのEsperanza基地が運用している。15476kHz。

LSB　(lower side band)　SSBの下側波帯。

LV　(La Voz)　（スペイン語で）声。「__ de tu Conciencia」

ltr　(letter)　(QSL)レター。

LUF　(Lowest Usable Frequency)　電離層反射波で通信できる最低の周波数。

MALA　(Mobile ALA) ALA1530のヘッドアンプにロッドアンテナ2本を取り付け、ミノムシクリップ付きケーブルで繋いでトライアングルループにしたアンテナ。携帯性がいい。

mb　(meter band)　メーターバンド。短波帯の放送バンドを波長で表したもの。

MBC　①Munhwa Broadcasting Corporation。文化放送（ムナバンソン）。韓国の民間放送ネットワーク。② Minaminihon Broadcasting Company。鹿児島の南日本放送。

MC　(master of ceremonies) 番組の司会者。

MCX　同軸コネクタの種類。スナップ･オン／プルオフ結合、DC～6GHzの周波数範囲での使用が可能で、 SMBコネクタよりさらに小型。情報通信システム、携帯電話などで使われる 。

MF　(medium frequency)　中波。300kHz～30MHz。中波ラジオ放送などで使われている。AM。

MHz　(megahertz)　周波数の単位。1 MHz=1000 kHz。

MLA　(Magnetic Loop Antenna)　磁界型ループアンテナ。スモールループアンテナとも呼ばれ、ループ長は波長に比べて微小。電磁波（電界と磁界）の磁界により動作する。

MLB　(Magnetic Long wire Balun)　マグネチック・ロングワイヤ・バラン。ロングワイヤ・アンテナと同軸ケーブルのマッチングをとる。平衡-不平衡変換器。

MS　(meteo scatter)　流星散乱。流星の残したガスに散乱（反射）して起こる伝搬。

ms　(mint stamp)　ミントスタンプ。未使用切手の意。

MT　(Matching Transformer) マッチング・トランス。アンテナエレメントと同軸ケーブルのインピーダンスを整合する。

Mt　(meeting)　ミーティング。BCLサークルで定期的に集まって情報交換し合う集い。

MUF　(Maximum Usable Frequency)　電離層反射波で通信できる最高の周波数。

Mコネ　M型コネクタ。無線機やアンテナと同軸ケーブルを繋ぐ基本的な接栓。

N　(noise)　雑音の強さ。SINPO5段階で、5は最強、1は最低。

Nac　(Nacional)　局名を省略表記する際に用いられる。

NASWA　(North American Shortwave Association)　北米最大のDXサークル。1961年設立。

NAVTEX　(navigation telex)　航行警報テレックス（ナブテックス）。船舶向けの海上安全情報を自動受信する装置・水域。

NB　(noise blanker)　ノイズブランカ。一定時間毎に数msだけ受信信号をカットする機能。モーターや自動車のイグニュッションノイズなど、一定の間隔で出るパルスタイプノイズに対して効果がある（電離層由来のノイズには効果がない）。

NBC　①National Broadcasting Commission。パプア・ニューギニア国営放送公社。②National Broadcasting Company。米3大ネットワークのひとつ。

n/d　(none data)　(QSLで）データ記載なし。

NDB　(Non Dirctional Radio BeacoN)　無指向性無線標識。長中波即ち200～415kHzの周波数を利用した無指向性の電波を発射している無線航行援助施設。パイロットは機上の自動方向探知機（ADF：Automatic Directional Finding）によりNDBの方向を知る ことができる。

NDXC　(Nagoya DXers Circle)　名古屋DXersサークル。1976年設立のDXクラブ。

NF　(Noise Figure)　ノイズフィギュア。入力のS/Nと出力のS/Nの比率で、プリアンプなど増幅回路の雑音性能評価を示す指数。単位はdBで、雑音が付加されない理想増幅器のNFは0dB。

NFBアンプ　(Norton NFB Preamplifier)　トランスによるNFB(Negative Feedback：負帰還)回路を使ったプリアンプ。NFが低く、相互変調を抑えた増幅を可能とする。

NFM　(Narrow FM)　ワイドFM。占有周波数帯域幅の狭いFM電波で、アマチュア・業務無線などで使用される。WFM（ワイドFM）に対しては、単に「FM」と表記することが多い。

NHK　(Nippon Housou Kyoukai)　日本放送協会。

NICT　(National Institute of Information and Communications Technology)　独立行政法人情報通信研究機構 。東京都小金井市にあり、通信や電波利用研究、日本標準時や宇宙天気予報を提供している。

NR　(noise reduction)　ノイズリダクション。受信信号からノイズ成分とノイズ以外の成分を分離して、ノイズ以外の成分だけを出力する機能。あらゆるノイズに対して効果があるが、特にホワイトノイズの低減に有効。レベル調整をノイズ消失ギリギリに合わせること（レベルが強すぎると受信音が歪む）。

NZL　(New Zealand)　ニュージーランド。

Nコネ　N型コネクタ。AR5000やIC-R8500など、V・UHFをカバーする通信型受信機に使われる。

O　(overall merit)　総合評価。SINPO5段階で、5は最高、1は最低。

OCXO　(OvenControlledXtalOscillator)　温度制御型水晶発振器。水晶発振回路を恒温槽に挿入することにより高安定化を図ったもの。

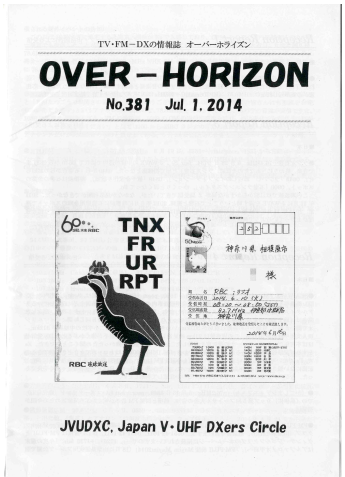
OIRT VHF　東欧国際ラジオ･テレビ機構(OIRT：International Radio and Television Organisation in Eastern Europe)の独自FM放送バンド。現在でもロシアで使用されている。65.84～74.00MHzで30kHzセパレーション。UKVバンド(UKV=ＹＫＢ=VHF)。

OM　(old man)　ベテランの意。

OTH　(Over the Horizon Radar)　短波帯の軍事レーダーで、水平線より遠方を観測する。160・40・80mbに中国海南島からと思われるOTHが出ており、

強力なパルス信号は妨害波となっている。ヘリコノイズ。

OVER-HORIZON　Japan V・UHF DXers Circle発行の会誌。1982年創刊。



OYA316　渡辺OMが製作した短波用同調型シールドループアンテナ。3.24～16.84MHzをカバー。

P　(propagation disturbance)　伝播障害の強さ。SINPO5段階で、5は最強、1は最低。

PA　(Phased Array)　フェーズド・アレイ。アンテナを複数配列し、それぞれの電力を組み合わせ、位相を調整したシステム。単一指向性でF/B比が高く、妨害局を弱め目的局を浮かび上がらせることができる。

PA0RDT Mini-Whip　オランダのハムPA0RDT Roelof Bakker氏が製作した超小型アクティブアンテナ。10kHz～30MHzをカバーする。

PAL　(Pacific-Asian Log)　米ワシントン州のDXer Bruce Portzer氏が編集するアジア・太平洋放送局リスト。

PBS　(Pass Band Shift)　混信除去機能のひとつで、受信中心周波数や受信帯域幅、BFOを変化させずに、受信帯域を中心周波数の上下にシフトさせる（ずらす）ことができる機能。SSB受信時の音質改善にも用いられる。

PBS　(People's Broadcasting Station)　人民広播電台。

PBT　(Pass Band Turning)　混信除去機能のひとつ。2個のフィルタを可変させ、目的周波数だけを通過させる。SSB受信時の音質改善にも用いられる。

PERSEUS　伊microtelecom社のSDR受信機。安定した高性能と直感的な使いやすさで定評がある。デザイナーはNico Palermo氏。

PFC　(Prepared Form Card)　主要事項記入済ベリカード。QSLを発行していない局に送付し、返信してもらう。

PHL　(Philippine)　フィリピン。

PLC　(Power Line Communications)　電力線を使い通信する技術。発するノイズが問題となっている。

PLLシンセサイザー　(Phase Locked Loop Synthesizer)　周波数を制御する電子回路で、正確に放送局の周波数に合わせるデジタル選局が可能になる。

PNG　(Papua New Guinea)　パプアニューギニア。

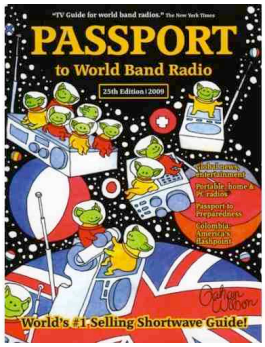
P.O.Box　(Post Office Pox)　私書箱。

PSR-MLA　(Passive type Series Resonant Magnetic Loop Antena)　北神電子サービス店主が製作したTUNED-ANTで、パッシブタイプの直列共振型MLA。原典はCQ ham radio 2006.12にJA2SVZ林輝彦氏が発表した回路。

presumed　推定。IDを確認していない局名に付加する。

Prgr　(program)　番組。proとも称す。

PWR　(Passport to World Band Radio)　米International Broadcasting Service社発行のBCL情報誌。2009年度版が最後となった。



QDFA　(Quad Delta Flag Array)　デルタフラッグアンテナを4基組み合わせたアンテナ。それぞれからフェーズド・アレイを介して電力を合成し、妨害局を弱め目的局を浮かび上がらせる。

QRM　混信を意味する無線用語。

QRP　小出力局を意味する無線用語。

QSB　フェージングを意味する無線用語。

QSL　確認を意味する無線用語。BCLの場合はベリカードの意。

QSY　周波数の変更を意味する無線用語。

QRT　送信中止（閉局）を意味する無線用語。

QTH　局の運用場所（住所）を意味する無線用語。送信地。

R1　ロシア方式のアナログTV第1チャンネルで、映像／音声周波数は49.75／56.25MHz。ロシアや北朝鮮などで使われている。R2は59.25／65.75MHz、R3 77.25／83.75MHz、R4 85.25／91.75MHzほか。ロシアは2015年に地デジ化完了予定。

R　(Radio)　局名を省略表記する際に用いられる。

r　Relay（中継）。

radiko　ラジコ。パソコンがそのままラジオ受信機となる「IP(Internet Protocol)サイマルラジオ」の配信サービス。radikoの由来は、ラジオ=ラジ男に対して ラジコ=ラジ子 といわれている。

Radiogram　FSKなどデジタル変調された信号で、文字や画像を送信する放送。

RAE　(Radiodifusión Argentina al Exterior)　アルゼンチン海外向け放送。アルゼンチン国営放送（Radio Nacional）が運営する。ラエ。

Rdif　(Radiodiffusion)　（フランス語で）放送。「__ TV de Djibouti」

RDS　(Radio Data System)　液晶付きFMラジオで局名や放送中の曲名を表示させるシステム。Esでロシアや中国局のRDSを受信できる。

REDSUN　東莞市楽信電器制造有限公司。中国広東省の電機メーカーで、RP3100などのBCLラジオで知られる。

REE　(**Radio** Exterior de España)　スペイン海外放送。

Relay　中継（局）を意味する。

RF　(Radio Frequency)　高周波。放送の搬送波に使用される周波数の電波。

RFA　(Radio Free Asia)　米政府が管理するアジア向け放送局。

RFE/RL　(Radio Free Europe / Radio Liberty)　米政府が管理する東欧およびロシア・中東向け放送局。本部はチェコのプラハにある。

RF GAIN　(Radio Frequency GAIN)　（高周波増幅回路の）利得ボリューム。

RHC　(Radio Havana **Cuba**)　キューバ国際放送。Havanaはキューバの首都。

RIT　(Receive Incremental Tuning)　送信周波数を変えずに受信周波数だけを微調整して相手の送信周波数に同調させる機能。

RL　(Radio Life)　ラジオライフ。三才ブックス発行の受信系雑誌。

rlg　(religious)　宗教的な。「__ prgr.」

RNZI　(Radio New Zealand International)　ニュージーランド国際放送。

RMN　(Radio Mindanao Network)　フィリピン最大のラジオネットワーク。スローガンは「Radyo Mo Nationwide」。

Rpt　(report)　受信報告書。

RRI　(Radio Republik Indonesia)　インドネシア・ラジオ公社。インドネシアで唯一全国ネットのラジオ局。

Rst　(Radiostantsiya)　局名を省略表記する際に用いられる。

RTI　(Radio Taiwan International)　台湾国際放送。中央廣播電台が運営する。

RTL-SDR　IC復調チップRTL2832Uが内蔵された、USBワンセグTVチューナー（ドングル）を使ったSDR。高感度チューナーICのR820Tを内蔵したものはFM-DXに適している。

RTM　(**R**adio **T**elevisyen **M**alaysia)　マレーシア国営放送。

RTR　(Remote Controllable Termination Register, Remote Variable Termination Resister)　リモート終端抵抗。デルタフラッグやフラッグ、K9AY、ビバレージなどのアンテナの終端抵抗値を調整する。

RX　(receiver)　受信機。送信機はTX。

S　(signal strength)　信号の強さ。SINPO5段階で、5は最強、1は最低。

SA　(station announcement)　局名アナウンス。IDと同じ。

SAE　(Self Addressed Envelope)　自分の住所・氏名を書いた返信用封筒。「サエ」と発音する。返信料としてIRCなどを別途同封する。

SANGEAN　山進電子工業股份有限公司。台湾の電機メーカーで、ATS-909XなどのBCLラジオで知られる。

SASE　(self addressed stamped emvelope)　自分の住所・氏名を書いて切手を貼った

返信用封筒。「サセ」「セイス」と発音する。

SDR　(Software Defined Radio)　単一のハードウェアにおいて、複数のシステム機能をソフトウェアで変更することで対応するマルチモード無線システムのこと。PERSEUSやEXCALIBURなどが代表的SDR受信機。

SDR#　(SDR Sharp)　SDRドングルで主に使われている、フリーウェアのSDRソフト。

SHF　(Super High Frequency)　マイクロ波。波長は1〜10cm。直進性が強い性質で、伝送できる情報量が非常に大きいことから、主に電話局間や放送の送信所間を結ぶ固定の中継回線、衛星通信、衛星放送や無線通信などに用いられる。

SIBC　(Solomon Islands Broadcasting Corporation)　ソロモン諸島放送協会。

SINPO　放送の受信状態（S・I・N・P・O）を1-5で表す5段階評価のこと。シンポコード。

SIO　放送の受信状態（S・I・O）を2〜4で表す3段階評価コード。

SJ　(station jingle)　ステーションジングル。

SLBC　(Sri Lanka Broadcasting Corporation)　スリランカ放送協会。

SMA　同軸コネクタの種類。マイクロ波を扱う小型無線機・受信機などに使われる。

S/N比　(signal to noise ratio)　信号と雑音の比(単位はdB)。値が大きいほどノイズが少なく高音質。

s/off　(sign off)　放送（信号の送信）終了。「〜23:00*」とも表記する。

s/on　(sign on)　放送（信号の送信）開始。「*21:00〜」とも表記する。

SQL　(squelch)　スケルチ。

SSB　(Single Side Band)　単側波帯の電波型式モード。音質は落ちるが微弱局や混信時に有効。

SSN　(Sun Spot Number)　太陽黒点数。太陽活動が活発になると増加する。黒点数が低いとローバンドが、高いとハイバンドが開きやすい。

STL　(Studio Transmitter Link)　送信所への中継回線。

Stn　(Station)　局名を省略表記する際に用いられる。

SW　(Short Wave)　短波。

SW DX GUIDE　日本短波クラブ発行の会誌。1952年創刊。

SWL　(Shortwave Listening)　趣味としての短波放送聴取。アマチュア無線局を受信することも指す。海外ではBCLをSWLと言い表すことが一般的。SWLing。

SWLer　(Shortwave Listener)　SWLをする人。

SYNC　(synchronous detection)　同期検波。混信・フェージング低減回路。

Sメーター　(signal strength meter)　信号の強さを表す計器。S9を基準とし、S9の10倍がS9+20、100倍がS9+40、1000倍がS9+60、S9の半分がS8、S8の半分がS7、S7の半分がS6、となる。

T2FD　(Terminated, Tilted, Folded Dipole)　無指向性で広帯域かつ低ノイズなワイヤーアンテナ。

TA　(transatlantic)　太西洋をまたぐアメリカ大陸–ヨーロッパ・アフリカ間の中波DX受信。

TCXO　(temperature compensated crystal oscillator)　温度補償型水晶発振器。水晶振動子と温度補償回路（温度変化をセンサーが検知し周波数の変動を補正する回路）が内蔵された水晶発信器。広い温度範囲にわたって良好な温度特性が得られ、機器の発熱などによる周波数変動を改善する。

TDXC　(Totsuka DXers Circle)　国内で一番新しいBCLサークル。神奈川県横浜市戸塚区付近のBCL有志が2012年8月に設立。

TE　(transequatorial)　赤道を越えたオーストラリア・ニュージーランド中波のDX受信。

TECSUN　東莞市德生通用電器製造有限公司。中国広東省の電機メーカーで、PL-660などのBCLラジオで知られる。

TEP　(transequatorial propagation)　赤道横断伝播。赤道上空のF層に傾斜が起こる

「赤道異常」によってダクト伝搬すること。オーストラリアのFMなどが受信できる。12〜19時頃のアフタヌーンTEP（aTEP）と20〜23時頃のイブニングTEP（eTEP）がある。

TNX　(thanks)　ありがとう。QSLの「TNX FR UR RPT」は「Thanks For Your Report」の意。

TOM　(The Overcomer Ministry)　Brother Stair（Ralph Gordon Stair）によるキリスト教保守派ラジオ伝道放送。北米サウスカロライナ州に本部がある。

TP　(transpacific)　太平洋を越えた北米・南米中波のDX受信。北米からはアジア方面がTPとなる。

TR　(Termination Register)　終端抵抗。

TRIO　トリオ商事株式会社。1946年に有限会社春日無線電機商会として創業した無線機メーカー。社名は創業者の春日家親戚三名から。R-1000、R-600などの受信機をBCLブーム時に発表。1986年には社名を「株式会社ケンウッド」に変更した。

TS　(time signal)　時報。

Tuned Loop Antenna　同調型ループアンテナ。

TWR　(Trans World Radio)　北米ノースカロライナ州に本部を持つ、プロテスタント系キリスト教放送団体。ブラジル局はRádio Trans Mundial（RTM）。

TX　(transmitter)　送信機。

UBC　(Uganda Broadcasting Corporation)　ウガンダ放送協会。

UHF　(Ultra High Frequency)　極超短波。300MHz〜3000MHz（3GHz）の電波。地デジ放送や各種業務無線などで使われている。

UKVバンド　ロシアFMバンド。ロシアで使用されている65.84〜74.00MHzのFMバンドで、かつての共産圏バンド。OIRTバンド。(UKV=ＹＫＢ=VHF)

Ultralight DX　超軽量のポータブルラジオ（とアンテナ）を使った、本格DXingのこと。

UNID　(unknown identification)　局名未確認局。

USB　(Upper Side Band)　SSBの上側波帯。

UTC　(Coordinated Universal Time)　協定世界時。セシウム原子の振動数を基準にした国際原子時をうるう秒で調整したもの。日本時間−9時間。かつてはGMT（Greenwich Mean Time：グリニッジ標準時）が世界標準時だった。

V　(variable)　周波数が移動すること。「きょうは上（の周波数）に__している」

VCL　(verification card collector listener)　ベリカード収集が主目的のBCL。

VDL　(VHF Digital Link)　航空用デジタルデータ無線通信システム。117〜137MHz帯が使われている。

VFO　(Variable Frequency Oscillator)　可変周波数発振器。設定した周波数帯域内をダイヤル操作で可変し、希望する周波数に合わせることができる。2つ以上付いたRXはパラチェックに便利。

VHF　(Very High Frequency)　超短波。30MHz〜300MHzの電波。FM放送などで使われている。

V-High　(VHF HIGH)　地上TV放送の完全デジタル化によって、空いたアナログ放送4〜12チャンネル(170〜220MHz)の周波数帯。

via　経由。放送・番組などの中継の意。

VLF　(Very Low Frequency)　超長波。JJYなどの標準電波で使われている。

V-Low　(VHF LOW)　地上TV放送の完全デジタル化によって、空いたアナログ放送1〜3チャンネル(90〜108MHz)の周波数帯。

VO　(Voice of)　〜の声。海外の放送局名でよく使われている。

VOA　(Voice of America)　米政府運営の国際放送。2014年6月30日からアジア向けを廃止。

VOLMET　(voice language meteorological report)　航空機向けの気象情報放送。気象庁が運用している。

VOR　(Voice of Russia)　ロシアの声。ВГТРК（全ロシア国営テレビ・ラジオ放送会社）が運営する。2014年3月31日をもって、日本語放送は終了した。

VOV　(Voice of Vietnam)　ベトナム国営放送局。

v/s　(verification signer)　QSL発行者。

vy　(very)　とても。

W　(watt)　ワット。電力の単位で、1秒間に消費される電力エネルギーを表す。

Warta Berita　ワルタ・ブリタ。RRIのニュース番組。

Wellbrook　英国のアンテナメーカー。ALA1530シリーズで有名。オーナー兼チーフエンジニアはAndrew H. Ikin氏。

WFM　(Wide FM)　ワイドFM。占有周波数帯域幅の広いFM電波で、一般のFM放送で使用される。

WRTH　(World Radio TV Handbook)　英WRTH Publications Ltd社が発行する、世界のラジオ・TV局年鑑。2014年版で68巻となる。

WS　(World Service)　局名を省略表記する際に用いられる。

WSML　(Wideband Active Small Magnetic Loop Antenna)　ブルガリアのハムLZ1AQ Chavdar Levkov氏が製作したループアンテナ」。

WWDXC　(World Wide DX Club)　ドイツに本部を置くDXサークル。1966年設立。

Wコール　（おもに）北米中波局で、Wからはじまるコールサインの局。ミシシッピー川以東と遠いエリアの局なので、日本では超珍局。

X Band　①1605-1705 kHz。日本国内の民放は出ていないので、混信が少なくTPを狙いやすい。②マイクロ波の周波数帯域の一つ(8~12GHz)。X帯、Xバンド。主に軍事通信や気象観測衛星、地球観測衛星のSAR、Xバンドレーダー（弾道ミサイルの早期警戒用レーダー）等で利用されている。

YAESU　八重洲無線株式会社。東京都品川区にある無線機メーカーで、創業は1956年。FRG-7やFRG-7700などの受信機は人気を博した。ブランド最後のテーブル型受信機VR-5000も生産終了となって久しい。

YL　(Young Lady)　女性のこと。

Z　協定世界時。09:00UTC=0900Z。

ZBC　(Zimbabwe Broadcasting Corporation)　ジンバブエ放送協会。

あ～わ

アース　(earth)　電気的接地。パッシブタイプのアンテナでは重要。

愛好者3号　中国DEGEN社の小型BCLラジオDE1103の愛称。2004年頃から口コミで広まり、中華ラジオブームの先駆けとなった。低価格でありながら高感度で多機能、隠しコマンドなどで人気を博す。愛好者シリーズ、1号DE1101、2号DE1102、4号DE1104、5号DE1105。

アイボール　(eyeball)　アイボール（目玉）QSOともいい、実際に会って話をすること。オフ会のような意味合い。無線用語で、BCLで使うことは少ない。

上がる　電波伝搬状況が良化してくること。

青木リスト　名古屋のDXer青木茂紀氏が制作した放送局リスト。PERSEUSなどのuserlistに使用可能。

アクティブ　(active)　（BCL活動が）活発なこと。

アクティブアンテナ　(active antenna)　アンプ内蔵のアンテナ。ゲインはあるがノイズも強くなってしまう。

アジア放送研究会　1979年設立。南北朝鮮、中国、香港、台湾、マカオ、モンゴル、日本などアジア諸国の放送調査・研究を目的とする。会誌は「アジア放送研究月報」。Asian Broadcasting Institute（ABI）。

アナ　(announcer)　アナウンサー。「女性__のトーク」。

アフロポップス　(afro-pops)　アフリカン・ポップス。アフロ。

アル中　アルゼンチンの中波局。

アワード　(award)　アマチュア無線で、規定の交信地域や局数、QSL数を達成し、申請することで発行される賞状。少ないがBCLのアワードもある、

アンカバー　(Undercovered)　免許を持たずに運用している不法無線局。

アンテナ　(antenna)　電波の出入口。空中線。もともとは昆虫の触角を指す言葉。

アンテナセレクター　(antenna selector)　アンテナ切換器。複数のアンテナの際使用する。

安定化電源　AC100VからDC12Vを作り出す機器。おもに無線機の電源として用いる。

安定度　受信機の電源ON後、受信周波数が変わらず受信し続けているかどうかの度合い。

イオノグラム　(ionogram)　地上から打上げたパルス電波が、電離層に反射して返ってくるまでの遅延時間から、電離層の高

度を調べたもの。NICTの観測データが公開されている。

一次伝播　TP受信時において、受信地の地域が夕方になり、一時的に信号が強くなる現象。

移動系　移動系防災行政無線。市町村防災行政無線システムのうち、車載型や携帯型の移動局と市町村役場との間で通信を行うもの。移動系は主として行政機関内の通信手段となる。

イメージ　(image)　受信機内部で発生する混信。中波帯で短波放送が聞こえたり目的外電波が受信される現象。中波専用受信機で強力な短波放送が受信されることもある

インダクタンス　(inductance)　コイルに交流電流を流すと発生する電圧の度合い。単位はH(ヘンリー)。

インバーターノイズ　(inverter noise)　交流を直流に変換する回路において、コンバータ部トランジスタの高速オン・オフにより発生するスイッチングノイズ。

インピーダンス　(impedance)　交流回路の抵抗値。単位はΩ。

インピーダンス・マッチング　(impedance matching)　接続する機器の回路抵抗を合わせること。ミスマッチだとロスが出やすい。

ウォーターフォール　(waterfall)　SDRのオペレーションソフト上で、時系列で帯域周波数の信号強度を表示する、滝のような画像。

受かる　受信できる、の意。

ウッドペッカー　(woodpecker)　冷戦時代にソ連から出ていた短波OTH（Over the Horizon)レーダーの俗称で、受信音がキツツキの音に似ていることからその名がある。近年ロシアで復活の兆しがある模様。

エアーバンド　(air band)　航空無線。108MHz〜136MHz AM。エアバンド。

映像信号　テレビ放送の映像の信号。音声信号とは周波数が別。

エコー　(echo)　複数の電波伝搬の僅かなタイムラグで、音声がエコーのように聞こえること。

エレメント　(element)　アンテナを構成する、電波と共振する部分。アンテナ素子。

演奏所　演奏設備（スタジオや調整装置など）のある場所。放送局のこと。

オーディオセレクタ　(audio selector)　複数の受信機などの音声を、自由に切り替えて聞ける装置。

オープン　(open)　通常聞こえない地域が、コンディションの変化によって聞こえるようになること。開ける。

おおはま　愛媛県今治市の大浜潮流信号所が運営する、来島海峡の潮流状況を通報する局。

汚染　強力なスプリアスやOTHなどの影響が、広い範囲の周波数に及ぶこと。

お空　電波伝搬状態の自然的な表現。「__はもう秋ですね」。

落ちる　伝搬状況が悪化してくること。

音になる　普段聞こえるか聞こえないかの微弱局が、はっきりと音声になって聞こえること。

おばけ　受信機が飽和し、混変調や相互変調によって出てないはずの周波数に出現する局のこと。ゴースト信号。

オフシーズン　(off season)　各放送バンドで目的の方面があまり聞こえない季節・期間のこと。

オフバンド　(off band)　放送や通信を許可された周波数以外の周波数。

おもしろ無線　業務用無線などのユーティリティ局受信をメインに楽しむ趣味。

カージオイド　(cardioid)　アンテナのハート形指向性。

海岸局　漁業無線において、陸上に開設された無線局のこと。

開始　放送局がその日の送信をはじめること。

解析　SDRで記録した帯域受信データを聞きかえすこと。

回折波　山や建物などを回り込むようにして伝わる電波伝搬。

海賊局　無許可放送局。パイレーツ。

カウンターポイズ　(counterpoise)　地面に打ち込まず、ワイヤを這わせるようなタイプのアース。

確認　①DX局のIDや放送内容など、局名の確証となるものを聞き取ること。②放送局が、送られてきた受信報告書の内容を自局のものと認めること。「IDは取れませんでしたが、同局と__してもらいました」

可聴エリア　放送電波の届く範囲。サービスエリア。

カップラー　(coupler)　アンテナのインピーダンス整合器。アンテナカップラー。カプラ。

過入力　送信所の近くなどで受信機に過大な電波が入力されて歪みが生じ、混変調や感度抑圧が起こること。

カバー　(cover)　①放送局からの送信波が実用的に届くこと。カバーエリア。②妨害波・混信によって目的局が聞こえなくなること。「__される」

かぶる　近隣周波数からの強い混信で音が重なってくること。カブリ（被り）。

過変調　音声が適正レベルを超えて歪むこと。

ガリ　古い受信機のボリュームを回すと「ガサガサ」ノイズが出ること。

ガルバニック・アイソレータ　(galvanic isolator)　絶縁トランス。アースを分離し、ノイズの回り込みを防ぐ。

簡易無線　簡易な事務又は個人的用務を行うために開設する無線。150MHz帯は平成24月12月5日からデジタル周波数が導入され、400MHz帯、350MHz帯のアナログ周波数の使用期限は平成34年11月30日となっている。

感度　受信感度。単位はdBmで、受信電力が1mWの時を0dBmとして相対的な電力で表す（例：「-75dBm」マイナスが大きくなるにつれ徐々に減衰していく。0に近い値ほど強い電波）。Sensitivity。

感度抑圧　目的周波数以外の強力な電波の影響で受信回路が飽和し、受信周波数の感度が悪くなる現象。抑圧。Blocking。

聞こえるうちに聞いておく　不定期に出る短波局やコンディションに左右されるDX局、世界的ラジオ局減少の流れなど、二度と聞くことができない可能性がある局は受信チャンスを逃さず聞くべき、という標語。

キャリア　(carrier)　搬送波。無変調を表すこともある。聞くと無音。「__のみ出ている」

キャリブレーション　(calibration)　校正。受信機で周波数を正確にかつ安定して受信させるために調整すること。

給電　電波をアンテナに供給すること。

筐体　きょうたい。受信機器の外側のケース。

強電界　近所にラジオなどの送信所があって、強力な電波が常に受信されてしまう地域。受信機が飽和しやすい。

漁業無線　航行する漁船（船舶局）に向けて、陸上の無線局（海岸局）から送信される無線通信。市況、天気予報、周知事項など色々な情報を提供するとともに、各局との通信も行う。Fisheries Telecommunication Station。

極冠吸収　太陽フレアで極域に発生したオーロラ・ゾーンでD層電離が進み、短波帯の電波を吸収・減衰する現象。PCA：Polar Cap Absorption。

切れ　フィルタのスカート特性の形による、混信カットの具合。キレ。「サイドの__がよい」

グアム3局　567 KGUM、630 KUAM、801 KTWGの3局で、オセアニア方面のパイロット局。

クーガ　(COUGAR)　ナショナル（松下電器、現パナソニック）が発売していたBCLラジオシリーズ。RF-877、RF-1150、RF-2200など。

空中線　アンテナの意。初期のアンテナは空中に張られた電線だったことから。

空中線電力　放送局が送信アンテナから発射する電波の出力。

空電　雷や雷雲の出す雑音。「バサバサ」「ガガッ」などと聞こえる。

グライコ　(graphic equalizer)　グラフィックイコライザー。音質の悪い受信機で使用すると効果がある。

クラスタ　(cluster)　インターネットでリアルタイムに情報を交換するシステム（パケットクラスタ：packet cluster）。FM-DXの情報をアマチュア無線の6mDXクラスタから得ることもある。

クリア　(clear)　混信・雑音がなく聞こえていること。

クリチカル　(critical)　きわどい。微妙なダイヤル操作を必要

とする調整を指す。クリティカル。

クリフィル　(crystal filter)　水晶発振子を使ったフィルター。選択度に優れている。

クルクル　（受信機のダイヤルを回しながら）流しワッチすること。「__してます」

グレーラインパス　(gray line path)　地球上で薄明になっている地点間に沿って伝搬することで、DX局が強力に受信できる現象。

警察無線　警察において使用される無線通信。現在は完全デジタル化されており、傍受は不可能。

京滋ミーティング　1970年代後半に設立された、京都・滋賀・大阪を中心としたDXサークル。会報は「Jamming」。

ゲイン　(gain)　利得。受信機やアンテナの感度を指すことが多い。単位はdB。

芥子粒　PERSEUSなどSDRのスペクトラム上で、かろうじて確認できる程度の微弱信号。ケシツブ。

ゲット　(get)　IDを取る、またはQSLを受領すること。

ゲリペ　(guerrilla expedition)　テントやキャンプ用テーブルを受信ベースに、何処にでも出没するタイプのペディション。

剣　EXCALIBURのこと。

検波　増幅された高周波の変調信号を、低周波信号に変換すること。SDRはパソコンで検波をする。

コーラン　(Koran)　イスラム教の聖典。イスラム教国の放送で朗誦がよく聞かれるので、確認材料のひとつになる。

コールサイン　(call sign)　局の呼出符号。コール。「__、HLAZ」

航空無線　管制官とパイロットの間で使用される無線通信。民間機向けはVHF（117.975～137MHz）、軍用機向けはUHF（222～253.8／275～322MHz）が使われる。エアバンド。

高周波　耳で聞こえない数10KHz以上の信号。

更新　老朽化した送信所設備を新しいものに切り舞えること。中波放送の場合、50～60年が寿命。

広帯域受信機　主にV・UHF帯までの広い周波数範囲を受信できる受信機。

高調波　おもに大電力局から送信される電波で、基本周波数以外の余計な成分。3倍や7倍など奇数倍の高調波が出やすい。

広播電台　中国語で放送局の意。"guǎng bō diàn tái"と発音。

国際VHF　(marine VHF band)　船舶共通通信システム。150MHz帯を使用し、船舶において遭難・安全通信、港務通 信、電気通信業務、水先業務等に使う無線通信システムで、全世界的に使われているため「国際VHF」と呼ばれている。マリンバンド。

固定機　シャックに据え置きを前提とした受信機。大きくて重い。

コネクター　(connector)　アンテナと受信機、プリアンプなどの受信機器を同軸ケーブルで接続する部品。

コミュニティ　(community FM)　コミュニティFM放送。CFMと略す。

コモンモードノイズ　(common-mode noise)　信号ラインや電源ラインとGND間に発生するノイズ。ノイズの電流の方向は同じ向き。

混信　目的の局に混ざって聞こえてくる局のこと。QRMとも表現する。

コンディション　(condition)　電波伝搬状態。condx.と略す。

コンデンサー　(capacitor)　電気を一時的に蓄える部品。C。「コンデンサ」はラテン語。

コンバーター　(converter)　周波数や電圧などの変換器。

コンファーム　(confirm)　局が受信報告を確認、QSLを発行してくれるの意。

混変調　受信局が近くの周波数の強力な局の信号で変調されてしまったり、強力局も一緒に受信できてしまう現象。ひどい時はバンドがガサついたり、甚だしい場合にはバンド一杯に強力局が被さってきてしまう事もある。放送局の送信所近くでよく起こる。cross modulation。

サーチ　(search)　ある周波数から周波数までの間を一定幅で移動しながら受信すること。

サービス　(service)　放送局による「放送」のこと。

サービスエリア　(service area)　放送電波の届く範囲。可聴エリア。

サーベイ　(survey)　（主に放送バンドなどの）調査。

サイクル　(cycle)　約11年周期の太陽黒点活動の意。最盛期にはFM、最衰期にはMWのコン

ディションが良くなる。「現在は__24のピーク」

サイト　(site)　おもに送信所の敷地を指す。

サイド　(side splash)　サイドスプラッシュの略。近隣周波数からの混信で、音声の高音部分が「バッサバッサ」というように聞こえる。

サイマル　(simulcast)　地上波で流されているラジオ番組をインターネット上やケーブルTVなど複数のメディアで同時配信する仕組み。

三才ブックス　東京都千代田区にある出版社で、1980年設立。「ラジオライフ」などの電波系マニア雑誌を数多く発行している。社名は「天才・地才・人才」の「三つの才」から。BCL関連書籍は「ラジオ番組表」「ラジオライフDX」「ラジオマニア」「BCLライフ」「周波数帳」など。

山岳回折　山岳を回折する伝搬。若干のフェージングを伴うことがあるが、常時安定して受信できる。

三端子レギュレーター　定電圧電源回路に使われるIC部品。

シーズン　(season)　各放送バンドで目的の方面が良好に聞こえる季節・期間のこと。TPなら彼岸前後、Eスポなら夏至前後。

シールドループ　(shielded loop antenna)　エレメントをアルミパイプを通すことなどでシールドしたループアンテナ。ノイズの影響を減らしたり指向性を鋭くする効果がある。

磁界型アンテナ　微小ループアンテナなど、電波の磁界成分のみを検出するアンテナ。ノイズの多い電解成分を遮断するので、ノイズに強いアンテナといえる。

磁気嵐　太陽の黒点活動が及ぼす影響で地磁気が乱れ、F層の電子密度が低下して中波〜短波放送が数時間〜数日にわたって聞こえなくなる現象。磁気嵐直前にDXが開けることがある。Magnetic storm。

試験電波　電波の規格確認及び試験調整のため送信する電波。

指向性　①アンテナで、ある方向のみ感度が上がること。②送信する方向。送信アンテナを中心とした360°の方位角で示す。

沈む　伝搬状況が悪化して、目的局が聞こえなくなってしまうこと。

シャック　(shack)　受信室。元は「丸太小屋」の意。

ジャミング　(jamming)　特定の局を故意に聞こえなくするよう発射された妨害電波。SINPOではIで評価する。Jam。

ジャンク　(junk)　壊れていて動作保証の無い受信機器。

周波数　電波が1秒間に振動する数。単位はHz。

周波数安定度　周波数の安定度。数値が小さいほど安定度がよい。単位はppm（parts per million：100万分の1）で、たとえば0.5ppmであれば1MHzに対して0.5Hzの誤差となる。

受信報告書　放送の聞こえ具合を、局に報告するレポート書類。

出撃　環境が厳しい場所、忙しい時間を縫って、など困難を伴いながらペディションに出かけること。

シェイプファクター　(shape factor)　IFフィルタの遮断特性波形。波形の上部が平坦かつ遮断特性が急峻なほど良い。

終了　放送局がその日の送信を終わること。

正時　1時0分0秒のように、分や秒の端数がつかない時刻。

ショートパス　(short path)　地球上を最短距離で伝わる電波の経路のこと。

消防救急無線　消防本部の管轄区域内における事故や災害対応など消防救急活動に使用される無線通信網。アナログ方式(150MHz 帯)消防救急無線については、平成 28 年5月末までにデジ タル方式(260MHz 帯)に移行する。

常連局　ロケーションや送信出力に恵まれた、ほぼ常時受信できる局。

ジングル　(jingle)　→ステーションジングル。

水平偏波　振動方向が地面に対して水平の電波。短波放送やFM放送で使われている。地デジ放送では混信防止の目的で水平・垂直の偏波は使い分けられており、アナログ放送を垂直偏波で送信していた送信塔からの地デジ放送は、垂直偏波送信がほとんど。

垂直偏波　振動方向が地面に対して垂直の電波。中波放送や携帯電話で使われている。

スイッチングノイズ　(switching noise)　半導体素子により電流を高速でON/OFFする方式のスイッチング電源から発生する高周波ノイズ。

スーパージャミング　(super jamming)　北朝鮮から出ていると思われる、複数の送信機から同一周波数へ向けて出ているジ

ャミング。轟音のような音で目的局をかき消す。

スカイセンサー　(Skysensor)　ソニーが発売していたBCLラジオシリーズ。ICF-5800、ICF-5900など。

スキップ　(skip)　電離層と地上を跳ね返って進む電波が、届かない死角ができる現象。

スキャッター　(scatter)　不安定な電離層や大気層で、電波があちこちに反射して伝搬すること。電波散乱。

スキャナー　(scanner)　（スキャン機能の豊富な）広帯域受信機。

スキャン　(scan)　登録している周波数を順番に受信すること。

スクランブル　(scramble)　おもに衛星放送で、契約者だけが受信できるように局側で電波にかける暗号のこと。

スケ　(schedule)　スケジュール。「夏＿、冬＿」

スケルチ　(squelch)　周りの電界強度にあわせて電波の入口を調整し、強い信号が入感するときだけ音を出す回路。タクシー無線などでよく使われている。電波を受信していない周波数で、雑音（内部ノイズ）が切れるまでSQLツマミを右に回す。「＿が開く（信号が上がって、スケルチをかけたチャンネルから音が出ること）」

ステーションジングル　(station jingle)　局名や番組名、スローガンなどを音楽に乗せて短く流すもの。

ストリーミング　(streaming)　TV・ラジオ放送などをインターネットで配信する方式。BCL的には受信局のパラチェックやID確認のために聞くことが多い。リアルタイムの配信はライブストリーミング、あるいはサイマル放送ともいう。

スプリアス　(spurious)　送信周波数以外の不要電波が発射されてしまう現象。

スプリアス妨害比　希望信号以外の入力感度を指し、希望信号に対するスプリアス信号の強度比で表す。

スプレッドF　(spread F)　太陽活動極大期の春と秋22時前後に、不規則に広がったF層で反射する伝搬。東南アジアのFM・TVが受信できる。Fs。

スペアナ　(spectrum analyzer)　スペクトラムアナライザ。高周波信号の周波数成分分布（スペクトラム）を表示・解析する測定器。

スペクトラム　(spectrum)　SDRのオペレーションソフト上で、連続時間グラフ表示される帯域周波数波形。

スポット　(spot CM)　テレビやラジオで番組や時間帯の指定なしに放送されるCM。番組スポンサーとしてのCMは「タイムCM」と呼ばれる。

スポラディックE層　(sporadic E layer)　春〜夏にかけて高度90〜110kmで突発的に出現し、FMなどの電波を反射する電離層。Esと略す。

絶叫　宗教局の番組で、絶叫ぎみの牧師の講話。

接地　アース。グランド。GND。

絶滅危惧趣味　不景気や合理化、多様化の流れで消滅が心配される趣味のこと。BCLなど。

ゼネカバ　(general coverage)　ゼネラルカバレッジ受信。アマチュア無線機で0〜30MHzの周波数が受信できる機能。

セパ　(separate)　セパレート。周波数上に放送が出ている間隔。「北米中波は10kHz＿」

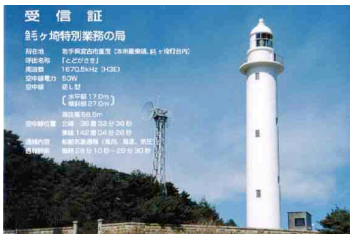
セラフィル　(ceramic filter)　磁器を使ったフィルタ。

ゼロイン　(zero in)　正確にチューニングされた状態。

ゼロビート　(zero beat)　SSB受信のチューニングでビートが無くなった状態。

選択度　混信の中から目的局の信号をピックアップする能力。IF（中間周波数）フィルターを選択した場合の通過帯域と減衰領域を表す。

船舶気象通報　海上保安庁が、沿岸を航行する船舶等に主要な岬の灯台の風向、風速、波高等の気象現況を提供するための放送。灯台局。周波数は1670.5kHz H3E（受信は1669kHz USB/AMがFB）。



船舶局　漁業無線において、航行する漁船に開設された無線局のこと。

相互変調　複数の強力局の信号で受信機が飽和し、それらの周波数の和と差に当たるあちこちの周波数で聞こえてしまう現象。intermodulation。

送信所　放送局から送られてきた番組を電波にして送り出しているところ。放送所ともいう。

側波帯　搬送波の上側（USB）と下側（LSB）。サイドバンド。

空耳　微弱局で、思い込みでIDが聞こえること。ソラミミ。

帯域記録　SDRのスペクトラム記録機能を使って、広い幅の周波数帯域をデータ記録すること。spectrum sampling。トロール、底引き、根こそぎ、ゴッソリ、という表現も。

ダイオード　(diode)　整流器。電流を一定方向にしか流さない部品。D。

大圏地図　正距方位図法で描かれた地図。地球の大円（大圏）に沿った2 地点間の最短距離、すなわち電波の到来方向を示す。

ダイナミックレンジ　(dynamic range)　最強音（飽和レベル）と最弱音（ノイズレベル）との比（単位はdB）。広いほどあらゆる強さの信号を処理できる優秀な受信機ということになる。狭い受信機だと混変調を起しやすい。

対蹠点　たいせきてん（たいしょてん）。地球上の真裏に位置する地点。日本の場合はウルグアイ付近。

対蹠点効果　受信地と対蹠点間は、各方位から同じ距離の無数の伝搬経路ができるため、安定した受信ができる現象。

ダイポールアンテナ　(dipole antenna)　1/2λ(ラムダ：波長)のアンテナ。エレメント長は7MHz用なら20m。タブレットアンテナ。

大陸　一般に中国大陸（局）の意。

対流圏伝播　大気の変動でV・UHF電波が屈折される伝搬現象。トロッポ。

ダイレクトサンプリング　(direct sampling)　無線受信機の小型化、低消費電力化、アナログ信号処理部とデジタル信号処理部の一体化を目指すため、高周波信号を直接A/D変換器により波形データを取り込み受信処理する方式。

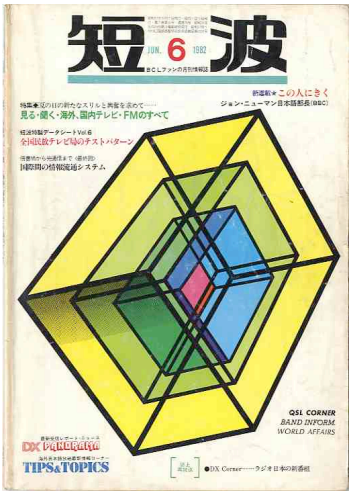
多信号特性　多くの信号によって起こる、相互変調や混変調などに対する受信機の性能。

ダブルホップ　(double hop, double skip)　マルチホップの一種で、2カ所に発生したスポラディックE層に反射することで、3000～4000km伝搬すること。

垂れ流し　放送時間以外でも、キャリアなどを切らずに送信し続ける状態。DXの妨げとなる。

短小　短波用微小ループアンテナの略。自作できノイズに強い。微小といってもエレメントの一辺は1～3m。中波用に製作したものは「中小」。

短波　①3MHz から30MHzまでの周波数帯。②日本BCL連盟が発行していた月刊誌（1975年12月～1983年7月）。最盛期は実売18万部を誇った。



地アナ　地上アナログテレビ放送。地上の電波塔から送信される地上波のアナログテレビ放送。2012年3月31日にすべてのアナログ局は停波した。

地デジ　地上デジタルテレビ放送。地上の電波塔から送信される地上波テレビ放送をデジタル化したもの。従来のアナログ方式と比べて、より高品質な（ゴーストや雑音のない）映像と音声を受信することができる。

地下局　国家間の謀略、反政府、反体制などの目的をもつ出所不明の放送局。秘密局。謀略局。clandestine。

地上波　地表付近を伝う伝搬一般を指す。ground wave、GW。

チャンネル　(channel)　特定の周波数を指す。

中央人民広播電台　中国の国営放送局。China National Radio（CNR）。

中華ラジオ　近年中国で設計・製造されているラジオで、特に短波を受信できるものを指す。高性能で安価なものが多数出てきており、かつての日本メーカー製品を凌駕している。

中継　①電波を遠距離に送るための送受信施設。②別局の番組などを流すこと。
中国広播公司　台湾の民間放送会社。中國廣播股份有限公司。
中波　300kHzから3,000kHz(30MHz)までの周波数帯。
中短波　中波帯と短波帯にまたがる性質をもつ帯域。総務省の無線局運用規則では「1,606kHz から4,000kHzまでの周波数帯」と定義されている。
チューナー　(tuner)　同調回路を指すが、一般的にはコンポ・システムのラジオ受信機などのこと。
チューニング　(turning)　周波数を合わせること。
チョイペ　「ちょいとペディ」の略。近所の公園などで聞くお気軽なペディ。
超短波　30MHzから0.3GHzまでの周波数帯。
超長波　3kHzから30kHzまでの周波数帯。
長波　30kHzから300kHzまでの周波数帯。
直接波　見通し距離の伝搬。地上波TVやFM放送などで使われる。
チリ中　チリの中波局。
チルト　(tilting)　指向性アンテナを傾けること。指向性が変化し、サイドの切れが良くなることがある。
珍局　混信や小出力・遠距離などの要因で、なかなか聞こえてこない珍しいDX局。
通信型受信機　外部アンテナを接続するタイプの高性能受信機。かつての通信機は受信機と送信機に分かれていたことから由来する。
土臭い　田舎風であかぬけていないこと。アフリカ伝統音楽を指すことが多い。
低空飛行　信号強度が上昇しないまま一定のレベルで受信できている弱い電波。
抵抗　電流を流れにくくする部品。R。
低周波　耳で実際に聞こえる、20Hzから20kHzぐらいの周波数。
ディスコン　(discontinued)　製造中止・販売中止の意。カタログ落ち。
ディスコーン　(discone antenna)　disc（皿）とcone（円錐）からなる広帯域アンテナ。
停波　何らかの理由で放送（送信）が止まっていること。
ディファレンシャルGPS局　(Differential GPS Site)　中波帯の電波を使って、米国が運用するGPS の精度が1 m 以下となるような補正値をビーコンによって提供する業務局。DGPS局。
鉄道無線　鉄道で連絡用に使用されている無線通信。デジタル列車無線システムの導入が進んでいる。列車無線。
デッドストック　(dead stock)　売れ残った在庫品。
テモテーター　手で指向性アンテナを回転させること。ローテーターメーカー「エモテーター」が由来。
出る・出た　①IDなどがアナウンスされること。「"15-10 KGA"と＿」②放送が送信されること。
デリンジャー現象　(Dellinger Phenomenon)　太陽フレアの影響で地磁気が乱れ、D層の電子密度が急上昇して短波放送が数分〜数時間にわたって聞こえなくなる現象。日中に起こる。
ΔLOOP　(delta loop antenna)　大阪の影山OMが製作したループアンテナ。再現性が高く高性能。
電解型アンテナ　ダイポールアンテナなど、電波の電解成分のみを検出するアンテナ。電解成分はノイズを多く含むので、ノイズに弱いアンテナといえる。
電界強度　(field strength)　ある地点での届いている電波の強さのこと。受信点が放送局から遠くなると、電界強度が弱まる。単位はV/m（実効長1mのアンテナに誘起する電圧、あるいはdBμV/m）。AM放送だと、3mV/mがサービスエリア内。
伝搬　電波の伝わる状況、伝わり方。
電離圏ダクト伝搬　伝搬距離が30000kmを越えるロングパスなどでは、地上反射せずF層内でダクト伝搬するといわれている。
電離層　電波を反射・散乱させる地球上空のイオン層。D、E、F1、F2などの層がある。
とうきょうじゅうさんごうち　船の科学館にある東京13号地船舶通航信号所が運営する、京浜港東京区の海上交通情報を通報する局。

同期検波　DX信号の弱くなった搬送波を生成・合成してフェージングを低減する技術（回路）。さらにLSB・USB側波帯の抽出を加味することで混信に効果がある。

同軸ケーブル　アンテナと受信機を繋ぐ多層ケーブル。

同調　受信機やアンテナで、特定の周波数に共振するように、固有振動数を合わせること。「__を取る」

同調型ループ　周波数の同調操作を必要とするループアンテナ。相互変調に強い。Tuned Loop Antenna。

同報系　同報系防災行政無線。市町村防災行政無線システムのうち、屋外拡声器や戸別受信機を介して、市町村役場から住民等に対して直接・同時に防災情報や行政情報を伝えるシステム。

トーク　(talk)　話を中心にした番組。

特定小電力無線　近距離間での簡易連絡用のコミュニケーション手段として、比較的狭いサービスエリアにおける無線通信。無線局免許は不要。

取る　放送内容を聞き取ること。「時報後のIDを__」

トラップ　(wave trap)　混信を低減するため用いるフィルタで、コイルとコンデンサーで構成された並列共振回路（または直列共振回路）。中波トラップなどを強電界地域で使用する。ウェーブトラップ。

トランジスタ　(transistor)　半導体を使った発振、増幅用素子。Tr。

トロッポ　(tropospheric propagation)　対流圏伝搬。大気の変動で電波が屈折して伝搬される現象。

ドングル　(Dongle)　コンピューターのUSBポートに接続する小さな装置。DVB-TをSDRとして使用するものを指す。

流し　バンド内を聞き流す程度の受信。流し受信、流しワッチ。

波（なみ）　（特定の周波数の）電波。「__が出てない」

ナル　(null)　ヌル。

ナロー　(narrow)　フィルターが狭いモード。

ナローキャスト　(narrowcast)　特定少数向けに対象を絞った放送。⇔ブロードキャスト（不特定多数を対象）

二次伝搬　TP受信時において、局のある地域が夜明けになり、一時的に信号が強くなる現象。

日本BCL連盟　1975年に発足したBCL団体。Japan BCL Federation。月刊「短波」を発行、1981年には会員数が1万人を越えるなど、BCLブームの中心的存在だった。初代会長は糸川英夫氏。

日本短波クラブ　日本最古のDXクラブ。1952年創立。JSWC(Japan Shortwave Club)。会誌はSW DX GUIDE。

入感　電波が受信できていること。

入射角　電波がアンテナに入ってくる角度。

ヌル　(null)　アンテナの指向性によって、混信やノイズの信号が最弱になること。ナル。「__を取る」「ノイズを__点に追い込む」

ネームシール　(name seal)　自分の住所・氏名を書いたシール。返信用に同封する。

ネットワーク　(network)　同じ企業や団体に所属する、放送局の系列のこと。

狙う　目的を持って積極的にDX局を受信すること。

ノイジー　(noisy)　雑音が多く聞きにくいこと。

ノイズ　(noise)　雑音。

ノーマルモードノイズ　(normal-mode noise)　信号ラインや電源ライン間に発生するノイズ。ノイズの電流の方向は逆向き。

ノッチ　(notch)　混信などによるビート音を消す機能。

ノンストップ　(non-stop)　同じ内容（フォーマット）の番組が、途切れることなく流れ続けること。

波（は）　（特定の周波数の）電波。「一__のみ出ている」

バースト信号　(burst signal)　間隔を置いて発せられる断続した信号。

ハーバーレーダー　(Harbor Radar)　港湾における海上交通情報局。

ハイウェイラジオ　NEXCO（ネクスコ：Nippon EXpressway COmpany Limited）が運営する、高速道路に沿って設置したアンテナからAMラジオ放送（1620kHz）を通じて5分更新で交通情報を提供する。

ハイエンド　(high end)　最上級の製品（受信機）。フラッグシップ。

ハイカットフィルタ　(AF (audio frequency) cut filter)　1 kHz以上の混信・ノイズ音を消すフィルタ機器。

ハイパスフィルタ　(high pass filter)　受信したいバンドより低い周波数の信号をカットして、受信機の飽和を防ぐ機器。

ハイバンド　(high band)　高い周波数帯。短波帯だと14〜28MHz。

パイレーツ　(pirate)　無許可で放送する局。いわゆる海賊局。

パイロット　(pilot)　目的地域受信のコンディションを掴むために設定した、比較的受信容易な局。

爆裂　普段よく聞こえない局（地域）が猛烈によく聞こえていること。

バズ音　ブーンという低音のノイズ。

パスバンド　(passband)　通過帯域。フィルタで減衰させず通過させる周波数の範囲。

波長　電波の波の周期の長さ。波長(m)=300(Mm/s。電波の速度で、1秒間に300Mm=30万km)÷周波数(MHz)。12MHzなら25m。

パッシブアンテナ　(passive antenna)　アンプを内蔵しないアンテナ。

ハム　(ham)　アマチュア無線家。

ハム　(hum)　ハム音。ブーンという雑音。数倍激しいものはバズ音。

ハムフェア　(Ham Fair)　一般社団法人 日本アマチュア無線連盟（JARL）が主催する、国内最大のアマチュア無線イベント。毎年8月下旬に開催され、数は少ないがBCL関連の製品展示やサークル出展もある。

パラ　(parallel)　同時刻、同番組で複数の周波数を使い放送すること。//（周波数）とログ表記することも。

パラチェック　(parallel check)　別周波数で同時送信されている放送を、微弱局の確認などのために受信すること。

バラン　(balun)　平衡-不平衡変換器。アンテナ（平衡：balanced）と同軸ケーブル（不平衡：unbalanced）の接続などに用いる。バルン。

バリコン　(variable condenser)　回転操作で容量を変化できるコンデンサ。

バルン　バラン。

搬送波　音声信号などを重畳して運ぶ電波。carrier 。

番宣　番組宣伝。

番宣スポット　TV・ラジオで流される番組宣伝CM。局名確認のヒントになることがある。

ハンダ　錫と鉛の合金。電子部品の接合に使われる。はんだ・半田。錫の産地マレーシアの盤陀（バンダ）島から、福島県北部の半田銀山から、中国語の焊(hàn) から、など語源は諸説ある。solder。

バンド　(meter band)　メーターバンドの略。

ハンディ機　(handy receiver)　移動時使うこと前提とした受信機。小さくて軽い。

ピーク　(peak)　受信状態が最良になること。

ビーコン　(beacon)　無線標識。発射された電波を受信することで、位置などの情報を得るシステム。

ビート　(beat)　混信によって起こる「ピー」「ビー」といった唸り音。SINPOではIで評価する。

ビーム　(beam)　①アンテナが指向性を発揮する向き。「__を振る」。②送信アンテナが電波を発射する方向。「R. SwedenのAsia向けは、85°の__」

飛行機反射　上空の飛行機に反射して伝搬すること。FM放送などが数秒ほど受信できる。airplane scatter。

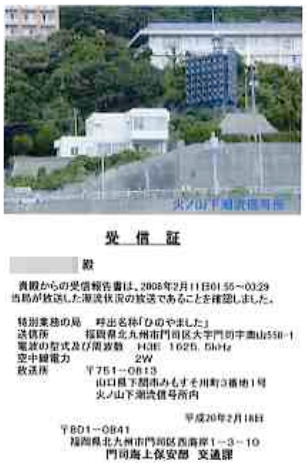
ヒスノイズ　(hiss noise)　ヘッドホンからの「サー」「シー」

という高音域の雑音。ホワイトノイズ。

ビットレート　(bit rate)　DRMなどにおいて、1秒間にどのくらいのデータを送受信できるかを表す。単位はbps (bits per second)。

非同調型ループ　周波数の同調操作を必要としないループアンテナ。相互変調に弱い。

ひのやました　北九州市門司にある火の山下潮流信号所が運営する潮流状況の放送。出力2W。



受信証

殿

貴殿からの受信報告書は、2008年2月11日0155～0329当局が放送した潮流状況の放送であることを確認しました。

特別業務の局　呼出名称「ひのやました」
送信所　福岡県北九州市門司区大字門司字壇山550-1
電波の型式及び周波数　H3E 1625.5kHz
空中線電力　2W
放送所　〒751～0815
山口県下関市みもすそ川町3番地1号
火ノ山下潮流信号所内

平成20年2月18日

〒801～0841
福岡県北九州市門司区西海岸1－3－10
門司海上保安部　交通課

ビバ　ビバレージアンテナ。

ビバレージ　(beverage antenna)　強力な単一指向性を持つ進行波アンテナ。ゲインも高く、ローバンドDXに用いられる。1波長のエレメント長が必要なので、中波だと100～1000mとなる。ベバレッジアンテナ。

ピピピジャミング　北朝鮮由来と思われるジャミングの一種。pulsating noise jamming、pulsating jammingとも呼ばれる。

秘密局　地下局のこと。

標準電波　時間と周波数の標準、および標準時などを送信する電波。おもに国の組織が運用する。日本ではJJYがこれにあたる。

開く　目的方面のコンディションが良くなること。オープン。

火を入れる　受信機の電源を入れること。昔の真空管型受信機の見た目に由来。

ピンピロサウンド　バラフォンなど打楽器中心の、ノリのいいアフリカ音楽。

フィーダー　(feeder)　①スタジオ～送信所などの中継波。②地元局を短波で海洋上の船舶に向けて再送信する局。アルゼンチン海軍フィーダーなどが有名。

フィリ中　フィリピンの中波局。

フィルタ　(filter)　必要な信号のみを通す濾過器。受信機の場合、IFフィルタを指すことが多い。

フェーザー　(phase shift unit)　2種のアンテナからの信号を合成し、妨害局を弱め目的局を浮かび上がらせる機器。

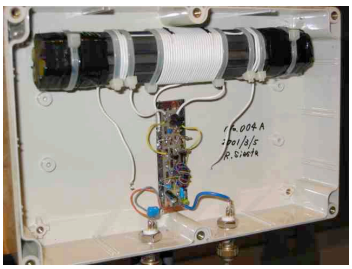
フェージング　(fading)　複数の伝搬経路の電波を受信するなどの影響で、信号が不安定な変動を伴って受信される現象。

フェーズド・アレイ　(phased array antenna)　整然と並んだアンテナで受けた電波の位相を合成させることで、指向性を上げ、混信を低減するアンテナ。

フェライトコア　(ferrite core)　スイッチングノイズを吸収し、熱に変換するフィルタ。EMI（Electro Magnetic Interference：電磁妨害）対策に用いる。

フェライト・バー（ferrite bar）中波ラジオの内蔵バーアンテナ。8の字指向性がある。ferrite loop stick。

フェラ中　大型のフェライトバーを使った中波用外部アンテナ。



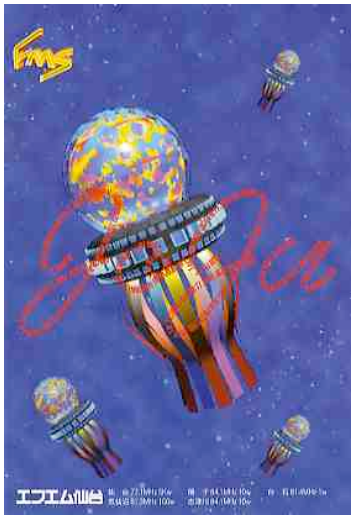
フォーマット　(format)　放送局の番組の専門形式を指す。ニュースやスポーツ、音楽など。

フォネティックコード　(Phonetic Code)　電波の状態や周囲の雑音での聞き取りにくさを防ぐため用いられる、アルファベットや数字の読み方。全世界共通。

フォルクローレ　(folklore)　南米アンデス地方の、哀愁を帯びた民族・大衆音楽。コンドルは飛んでいく（El condor pasa)や花祭り（El Humahuaqueño）が有名。

フォローアップ　(follow up)　返信のない局に再度同じレポートを送ること。

不感　電波が弱いか届いていないせいで、受信できないこと。
復調　受信した電波から検波回路で音声信号を取り出し、音声に戻すこと。近年ではDRM放送の音声復調を指すことが多い。
復活　停波していた放送局が送信を再開すること。
復活組　主に30年前のBCLブーム以来、活動を再開したBCL。
プッツン　終了アナウンスなしで、トークや音楽中にいきなりc/offすること。プッツリ。ブッチ。
ブラ珍　ブラジルの珍局。
フラッグシップ　(flagship)　最上級の製品（受信機）。ハイエンド。
フラッタリング　(fluttering)　不整振動。パタパタといった感じに波打って聞こえる。本来は旗が風にはためく姿を指す。フラッター。
プリアンプ　(pre amplifier)　前置増幅器。受信機器の前段に置く。ヘッドアンプ。ノイズ低減のため、不要な時はOFFにする。
プリセレクタ　(preselector)　強力なローカル局の信号を抑制し相互変調を防ぐため、受信機の前に入れる同調回路で、電界強度が強い地域では有効。近年受信機の多信号特性が良くなり、使われることは少ない。
フルコピー　(full copy)　IDなど放送内容を全文完全に聞き取ること。
フルスケール　(full scale)　Sメータが振り切れるほどの強さで受信できていること。フルスケと略すことも。
ブレイド・ブレイカ　(Braid Breaker)　コモンモード・ノイズを低減するトランス。簡単な構造で、ガルバニック・アイソレータやCMCの代用品となる。
プロ　(program)　番組。「音楽＿」
フロアノイズ　(floor noise)　通常から受信してしまうノイズのこと。局の出ていない周波数で聞こえるノイズがこれ。
プローブ　(probe)　電子測定などで測定に用いる電極。転じて極端に短縮したアンテナエレメントなどを指す。pa0rdt-Mini-Whipのプローブは13.5㎝。
ブロック　(block)　強力局の混信で目的局が影に隠れて受信不能になること。カバー。マスク。
フロントエンド　(front-end)　アンテナからの電波を増幅し、中間周波数に変換するまでの部分の回路。
分配器　アンテナからの信号を、複数の受信機に振り分ける機器。多少の損失が出る。splitter。
ヘッドホンアンプ　(headphone amplifier)　受信機PHONE端子のホワイトノイズ低減に有効。
ヘッドホンセレクタ　(headphone selector)　複数の受信機などの音声を、ヘッドホン1本で自由に切り替えて聞ける装置。
ペディショナー　(peditioner)　ペディションにアクティブなDXer。
ペディション　(expedition)　屋外や遠征地へ移動して受信すること。ペディ。
ベリカード　(verification card)　カードタイプの受信確認証。ベリ。ベリカ。QSLカード。



ベリレター　(verification card)　手紙タイプの受信確認証。レター。
ヘリコノイズ　(helicopter noise)　パタパタパタ・・と連続して聞こえるノイズ。OTHレーダーが原因と言われている。
ペル　PERSEUSのこと。
変調　送信機で音声を電気信号に変換すること。信号が強いのに音声がか細く聞こえる状態を「＿が浅い」「＿が乗ってない」と表現する。
防災行政無線　国及び地方公共団体が非常災害時における災害情報の収集・伝達手段の確保を目的として運用する無線。
傍受　電波を受信すること。おもしろ無線受信を指すことが多い。
飽和　強力すぎる信号を受信することによって、受信機が正常に処理しきれなくなること。
ポチッ　ネット通販の「買い物かごに入れる」をクリックすること。おもにBCL用品の衝動買

いを表現する際に用いる。ポチる。

ボディエフェクト　(Body Effect)　アンテナ機器に触れることで、人体がアンテナやアースの効果を生み出してしまい、受信信号の強度に変化が出る現象。人体効果。

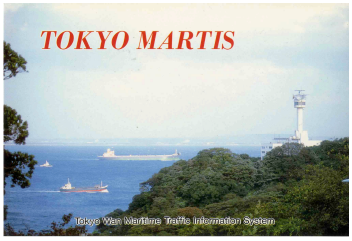
ボリューム　(volume)　音量などを調節する半固定抵抗器。VR。

ホワイトスペース　(white space)　利用されていない周波数帯のこと。アナログ放送の停波後、電波の割り当ての再編にあわせてホワイトスペース利用が検討されている。

ホワイトノイズ　(white noise)　無信号時に発生する「サー」という高音域の雑音。フロアノイズや、ヘッドホンからの「シー」という雑音。

盆踊り　R.Fana、R.Oromiya、R.Hargeysa、R.Djiboutiなど「アフリカの角」地域の局でよく聞かれる民族音楽。ペンタトニック音階で、日本の盆踊りや演歌と似ている。

マーチス　(Marine Traffic Information Service)　海上交通センター。航行する船舶に対して、情報提供や大型船の航行管制を行う海上保安庁の機関。中短波帯にてラジオ放送も行っている。



マイクロ波　0.3GHzから3THzまでの周波数帯。波長は1mm~1m。SHF。帯域毎に L、X、Ku などの分類がなされている。

町田DXミーティング　2003年設立のBCLサークル。東京都町田市周辺で定期的にミーティングをおこなっている。

マルチパス（multi path）複数の経路からの同じ電波を受信すること。エコーの原因になる。

マルチホップ　(multi hop)　複数回Eスポ反射が起こり、2000km以上の超遠距離を伝播する現象。

見えるラジオ　FM放送で行われていた文字多重放送のこと。

耳　BCL的には、微弱局のアナウンスなどを聞き分けるDXing能力を指す。「あのOMはいい__をお持ちだ」

民生用受信機　業務用・軍事用に対して、一般向け・民間用の受信機のこと。

ミントコンディション　(mint condition)　新品同様。買っても使わず密封保存しておいた受信機などを評する。

向け　放送のサービスエリアを指す。「アジア__が強力に入感」

無指向性　①アンテナで、すべての方向の感度が同じこと。②全方位に向けて送信すること。

無変調　搬送波のみで音声が乗っていない状態のこと。信号は来ていても無音な状態。

メーターバンド　(meter band)　周波数帯の意。広い電波帯のなかで、定められたラジオ放送専用の帯域。

メカフィル　(mechanical filter)　機械的振動を使ったフィルター。

メモリー効果　ニッケル水素電池など充電式電池を放電しきらないうちに充電すると、本来の容量よりも少ない状態を完全充電と記憶してしまい、これを繰り返すと電池寿命が短くなる現象。

文字多重放送　ラジオやTVで、文字情報を重畳する放送のこと。2014年3月31日をもってTOKYO FMとJFN系列が国内最後の「見えるラジオ」サービスを終了した。

モニター　(monitor)　特定のジャンルの放送を調査・研究目的で一定期間聞き続けること。

モビ　(mobile)　モービル。自動車などで移動して（移動しながら）受信すること。

モビバ　(mobile with beverage antenna)　車で郊外へ移動し、ビバレージアンテナを架設するペディ。

八木アンテナ　八木秀次と宇田新太郎によって発明されたアンテナ。効率よく特定方向への送受信できる。

ユーティリティ　(utility)　業務無線など放送波以外の通信。業務局。

誘導結合　外部アンテナに接続した誘導結合カップラ（コイルを巻いたフェライトバー）を中波ラジオの内蔵フェライトバーアンテナに近づけると、カップラから電磁誘導によって磁場（磁束）が発生し、それをラジオのバーアンテナが受信することで、非接触状態ながらアンテナをラジオに結合できること。アンテナ端子の無いAMラジオにアンテナを接続する際に用いる。

予備免許　開局前の放送局に機器調整を目的として交付される仮免許。

ライブストリーミング　(live streaming)　リアルタイムのTV・ラジオ放送などをインターネットで配信する方式。

ラエ　RAE。アルゼンチン海外向け放送。

ラジオ　(radio)　これがなくてはBCLはできない。

ラジオダクト　(radio duct)　上空の大気逆転層でV・UHFの電波が屈折して伝搬する現象。

ラジオライフ　(Radio Life)　三才ブックス発行の電波系マニア向け雑誌。1980年創刊。

ラマダン　(Ramadan)　イスラム教の断食月。この月の日の出から日没までのあいだ教徒は断食をする。日没から夜明けまでは食事がとれるので、期間中イスラム国の放送局は延長放送や早朝放送といった特別放送を行う。

乱数放送　数字やアルファベット通話表を用いた暗号放送。工作員や非合法組織が利用する。Numbers Station。

リグ　(rig)　無線機や無線設備。BCLの場合は受信機・受信設備。もともとは船舶の装備一式（艤装）を指す言葉。

リスナー　(listener)　ラジオ（番組）聴取者。

利得　増幅器の入力と出力間の電圧または電流の比。単位はdB。ゲイン。

リモート　(remote)　SDRのリモート受信機能。サーバ公開された各地のSDRを、インターネット経由で自宅にいながら遠隔受信すること。
リモペル。

流星散乱　流星の残したガスに散乱（反射）して起こる伝搬。1〜数秒間、遠距離FM局が受信できる。流星群極大日前後に観測しやすい。meteo scatter、MS。

了解度　放送内容の聞き取りやすさの度合い。

ループ　(loop antenna)　輪の形をしたアンテナ。小型軽量でノイズに強い。

ルクセンブルグ現象　(Luxembourg Effect)　周波数の違う強力な局どうしが電離層で相互変調を生じて混信する現象。1933年にスイスの中波放送をオランダで受信した際、ルクセンブルグの長波放送が混信して聞こえた現象から名付けられた。発生の確率は非常に低い。

礼状　受信報告書に対するお礼の手紙。ベリではないが届くと嬉しい。

レガシー受信機　SDR以前の検波方式の受信機のこと。
legacy=遺物。

レポート　(reception report)　受信報告書。

レポートモード　(report mode)　受信報告書を書ける程度（ID、番組内容が確認できるくらい）の強さで受信できていること。

ローカル　(local)　DX局に相対する、近郊の局・地域

ローカルノイズ　自宅および近隣住宅、近所の施設や機器などから出ている雑音。

ローテーター　(rotator)　指向性アンテナを回転させる装置。

ローパスフィルタ　(low pass filter)　受信したいバンドより高い周波数の信号をカットして、受信機の飽和を防ぐ機器。

ローバンド　(low band)　低い周波数帯。短波帯だと1.8〜10MHz。

ログ　(log)　受信記録。

ロギング　(logging)　ログをとる（書き込む）こと。

ログペリ　(Log periodic antenna)　広帯域に対応可能で高ゲインなアンテナ。

ロケ　ロケーションのこと。

ロケーション　(location)　受信地および受信地周辺の環境。

略してロケ。都市部から離れ、目的方向の空が開け、海抜が高く、海や湖に近い場所が良いロケーションとなる。「好__にめぐまれた」

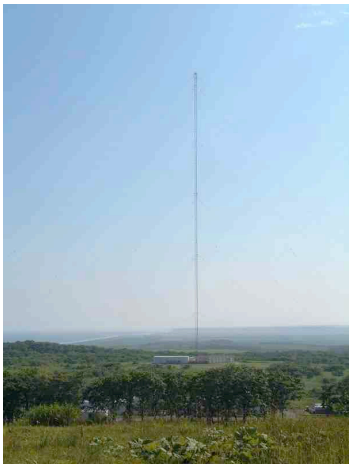
ロシアFMバンド　ロシアで使用されている65.84～74.00MHzのFMバンドで、かつての共産圏バンド。UKVバンド。OIRT VHF。

路側通信　交通情報ラジオ。交通管制センターのコンピューターで自動的に編集した交通情報をカーラジオ(1620kHz)を通じて、ドライバーに音声で伝えるための装置で、道路沿いに設置した同軸ケーブルから電波を発信する。路側放送、路側ラジオ。

ロット　(lot)　機器製造時の最小製造数単位。ロットの違いで性能に差が出ることもある。

ロッドアンテナ　(rod antenna)　ポータブルラジオについている、伸び縮みさせるアンテナ。

ロランC　(LORAN C：long range navigation C)　船舶がロランC局からの長波帯電波（100kHz）を受信し、双曲線航法により自船の位置を知るための地上系の測位システム。現在は沖縄の慶佐次ロランC局の



み。写真：十勝太ロラン航路標識事務所

ロングパス　(long path)　電波が地球上を最短距離以外の経路で伝わること。フラッターとエコーを伴ったフワフワした音声が特徴的。

ロングワイヤ　(long wire antenna)　ワイヤ1本のアンテナ。同軸ケーブルや受信機のアンテナ端子とはインピーダンスが異なるので、接続にはマッチング機器が必要。

ワイド　(wide)　フィルターが広いモード。

ワイドバンド　(wide band)　広帯域。VHF帯以上の周波数を広く指す。

ワイドレンジ　(wide range)　広範囲。BCL的には「広いフィルター」。

ワッカ　ループアンテナのこと。

ワッチ　(watch)　BCLとしてラジオを聞くこと。

ワンセグ　(1 segment broadcasting)　地上デジタル放送で行われる携帯電話などの移動体向け放送。1つのチャンネルを13セグメントに分割したうちの1セグメントが使われている。帯域が狭く、QVGA(320×240ピクセル)サイズの低解像度の映像しか伝送できない。

＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊

参考文献：別冊短波 新版BCLQAハンドブック（日本BCL連盟）、短波別冊 DX年鑑1983（日本BCL連盟）、TV-FM受信ガイド 2011（JVUDXC）「V・UHFの電波伝搬」福永光洋、CQ ham radio 2012年8月号別冊付録 図解HF電波伝搬　JL8AQH 前田隼、BEACON-アマチュア無線用語集 http://www.icom.co.jp/beacon/backnumber/quiz/yougo/content.html、BCL再入門「BCL用語辞典①」http://bclguide.exblog.jp/6640001/、BCL用語辞典② http://bclguide.exblog.jp/6640008/
ほか、BCL・アマチュア無線の書籍やホームページ・ブログなど多数

PROPAGATION Edition 1　正誤表

p16
誤：ジャグリングをはじめバルーン、マジック、ジャグリング、ローラーバランス芸などを中心とした、
正：ジャグリングをはじめ、バルーン、マジック、ローラーバランス芸などを中心とした、
p25
誤：バンド中が飽和してしまう減少が
正：バンド中が飽和してしまう現象が
p25
誤：比較すると一辺に取れる範囲が
正：比較すると一遍に取れる範囲が
p31
誤：①アナログ TV 映像復調ソフトの TV Sharp https://disk.yandex.com/public/?hash=mWEnrYyUZXGEF9VII1LvdbuxKgJvC6O134JAcUywXbU%3D　を DL する。
正：①アナログ TV 映像復調ソフトの TV Sharp http://www.rtl-sdr.com/tag/tvsharp/　を DL する。
p42
誤：排水溝の格子ふたのようもの
正：排水溝の格子ふたのようなもの
p48
誤：JR 東戸塚駅から徒歩で 20〜30 ほど
正：JR 東戸塚駅から徒歩で 20〜30 分ほど
p55
誤：相鉄線瀬谷駅から徒歩 13 分の中原街道沿い。
「↑」をキャプション【明治図書出版 DASH7 ￥630】の頭に
p57
キャプション【↑ANDO AR2-320 ￥990（本体のみ）】を、同機器写真の下に
p60
誤：【ラジオ焼き】起源は古く
誤：【ラヂオ焼き】起源は古く
p64
誤：【長谷川さんの書いた絵とシャック猫のキヨシ君】
正：【長谷川さんの仕事机とシャック猫のキヨシ君】
p64
誤：そんな長谷川さんのシャックには AR7030PLUS、AR5000＋3、ICF-6500、ICF-7600GR が
正：そんな長谷川さんのシャックには AR7030PLUS、AR5000A＋3、ICF-6500、PERSEUS が
p66
誤：越えるような受信機が出たら欲しけど、
正：越えるような受信機が出たら欲しいけど、
p70
誤：78.3MHz FM 湘南ナパサと 78.4MHz FM ブルー湘南の
正：78.3MHz FM 湘南ナパサと 78.5MHz FM ブルー湘南の
p70
誤：そんな SHIBUYA-FM が【突然の「放送休止」】「放送休止」するらしいと知ったのは
正：【突然の「放送休止」】そんな SHIBUYA-FM が「放送休止」するらしいと知ったのは
p71
誤：（これより前に、【2013 年 1 月 6 日（日）】放送内で告知があったかどうかは未確認）。
正：（これより前に、放送内で告知があったかどうかは未確認）。【2013 年 1 月 6 日（日）】
p80
誤：これにより、SHIBUYA-FM は正式に廃止となりました。
正：これにより、SHIBUYA-FM は正式に廃止となりました（追記：SHIBUYA-FM の公式 HP は削除されましたが、公式 Twitter・Facebook は 2014 年 4 月現在まだ残っています）。
p82
誤：人口 27 万 3 千人を擁する戸塚区の
正：人口 27 万 4 千人を擁する戸塚区の
p83
誤：衛星ラジオ"シリウス XM"」
正：衛星ラジオ"シリウス XM"）」
p95　729 DXIF Remarks
誤：　"Bombo Radyo, Philippine...Bombo Radyo, PhilippineBasta Radyo, Bombo"
正：　"Bombo Radyo, Philippine...Bombo Radyo, Philippine Basta Radyo, Bombo"
p95　782.975 DXRA Remarks
誤：　"♪Arangkada...7-8-3...Coreporation"@1921 "RMCBC, Rizal Memorial Colleges Broadcasting Corpporation...RMCBC...Davao..."
正：　"♪Arangkada...7-8-3...Corporation"@1921 "RMCBC, Rizal Memorial Colleges Broadcasting Corporation...RMCBC...Davao..."

会員だより

梅雨真っ只中の 6 月末日～原稿締め切りに間に合って、今回は 4 つの記事を投稿させて頂いた。昨夏に Edition1 を刊行し、この会員便りで「来年も発行したい！」と書いたが、お陰様で実現しそうである。根気強くお仲間にアラートを送り刺激してくれた、Shin さんのお陰である。この後発生する編集作業も含め本当おんぶに抱っこで、感謝の言葉もない。

ところで TDXC、そしてこの PROPAGATION のお陰で、私の BCL ライフはまた充実したものになっている。記事を書くために行動しているというのは順番が逆だが、テーマと期限が明確になることで適度な緊張感が生じて活動が充実するという意味において、非常に良い効果をもたらしてくれていると思う。前号のバイクチョイペ、そして今号の沖縄ペディ・OM 訪問など、決めないとやらないと思うし、やってみると実に楽しいのだ。

夏至が過ぎて DX 的にはオフシーズンで、7 月 8 月と受信活動自体は一旦停止状態になる。アンテナとかの電子工作、ラジオ仲間と集ってビールを飲む、そして来年に向けてまた新しいテーマを設定すること･･･そんなことをしながらこの時期を過ごすことになりそうだ。（中川）

戸塚区ローカル情報

●本牧の有志 FM 局を準備～2016 年開局めざす

防災情報の提供手段として注目されているコミュニティーFM を中区に開設しようと、現在本牧地域の有志が中心となり準備を進めている。名称を「横浜マリン FM」として今年 1 月末にはホームページを開設、3 月から試験的に自主制作番組をインターネットで配信している。準備室の笹原延介代表（48）は「2016 年初頭に開局したい」と話す。

災害時に情報を

中区本郷町で音楽制作会社を経営する笹原さんが、コミュニティーFM の有用性を知ったのは 2011 年 6 月。笹原さんの会社に所属するミュージシャンのメンバーが、福島県出身ということもあり、震災前から福島のラジオ局などを訪れていた。

地震発生から 3 カ月、余震や放射線などの心配事がつきないなか、福島入り。そこで、ペットボトル販売店の紹介など身近な生活情報や防災情報を流す地域ラジオの役割に触れ、「災害に備え地域の需要に応えるための放送が中区にも必要だ」と考えたという。

コミュニティーＦＭに関する書籍を読みあさり横浜マリンＦＭを構想、13 年 2 月に計画をまとめた。今年 1 月末に開設したホームページでは地域の匠紹介や本牧の歴史などを配信する。

課題は資金

笹原さんは、大鳥小学校の PTA 会長や少年野球のコーチ、また町内会の夏まつりに参加するなど、地域と接点を持ってきた。その縁から、地元の連合町内会長に同計画を提案し、各町内会に広がることで地域から理解を得ることに成功した。メンバーの紹介も得て、昨年夏には 6 人からなる準備室が立ち上がった。準備室では、現在、月 1 回集まり番組内容や今後の取り組みを検討している。

メンバーの一人、安田屋呉服店＝本牧町＝の羽生田靖博社長は、事業計画を読み「地域の情報を地域で循環させるためにもコミュニティーFM は必要だと思った」と話す。

開局に向け「最大の課題は資金集め」(笹原さん)。開局に 5 千から 6 千万円、年間経費は 4 千万円前後と見込む。事業収入は広告と番組スポンサーを柱に検討。放送免許の取得や法人化を視野に 2 年後の 16 年初頭に「目立つ場所に」スタジオ開設を目指す。（タウンニュース　中区・西区版　2014 年 4 月 3 日号）

【横浜市第 3 の CFM 開局なるか？／編】

編集後記

■PROPAGATION Edition2、無事発行のはこびとなりました。ここまでお読み下さった皆様、どうもありがとうございます。Edition1 発行後、全国の BCL からたくさんの賛辞を頂戴いたしました。サークルの遊び・自己満足として作った本でしたが、おおぜいの方の共感を得られて、TDXC 一同驚きと感謝の気持ちで一杯です。
■Edition2 では昨年開催した TDXC 沖縄ペディ記を中心に、バラエティに富んだ記事が集まりました。中でも中川さんの日本 BCL 連盟調査録は、著名な OM 方からの取材を重ね、名古屋まで足を伸ばして証言を得た「額に汗した」記事であり、貴重な歴史的資料になりました。宮内さんには海外 DXer に向けた TDXC 紹介の英文記事を執筆いただきました。「戸塚から世界へ」と夢が膨らみます。フットワークの軽い五十嵐さんからはグルメ情報も楽しい旅行記とサイクリングペディのレポート、我戸塚さんからはめずらしいアンテナのインプレッションが届きました。
■また、今回は元 KDXC の竹野 OM と岩田 OM からも示唆に富んだ原稿をご寄稿いただけました。三才ブックスのラジオムックとアイドル論、ラジオ販売メーカー店主となった経験を元にしたエッセイ、それぞれ独自の目線から BCL を展望した読み物です。PROPAGATION はサークル会誌であるとともに、「読者から執筆者へ、楽しみを広げたい DXer の発表の場」でもありたいと思っています。貴重な時間を割いて原稿を執筆いただいた皆様方に、この場を借りてあらためて御礼申し上げます。
■昨年は発行後グッタリして「次のことなんて考えられない…」状態になりましたが、今年も Word と Excel に四苦八苦する日々が続いたので、しばらくは気が抜けそうです。次号ではあらかじめ原稿のフォーマットを統一して投稿いただくなど、もっと円滑に編集を進める方法を模索中です。
■世界情勢は流動的で、ラジオを取り巻く状況も今後の予想がつきませんが、会員の遊び場の一つとして、今後も楽しく会誌づくりをしていけたらと思っています。

2014 年夏　長谷川眞也

TDXC からのおしらせ

＊TDXC(Totsuka DXer's Circle)では、常時会員を募集しています。
神奈川県横浜市戸塚区およびその周辺地域にお住まいで、DXing（遠距離受信）に興味があって会誌の内容に共感いただけた方、DX ペディションを中心とした活動に参加したい方を歓迎いたします。

＊会費は無料、会則も特にありません。会誌は一般向けに PDF 版を無料配布していますが、執筆いただいた会員には簡易印刷版を頒布いたします。詳細は下記までご連絡下さい。

戸塚 DXers サークル／TOTSUKA DXER'S CIRCLE (TDXC)
設立：2012 年 8 月

E-mail：bclguide@excite.co.jp

PROPAGATION Edition 2 執筆者（50 音順・敬称略）

五十嵐 雄希、岩田 学、我戸塚 豪、竹野 伸郎、中川 弘夫、長谷川 眞也、宮内 聡

戸塚区紹介

■地　勢

戸塚区は横浜市の南西部に位置し、南北に長く、北は旭区・保土ケ谷区の２区に、東は南区・港南区の２区に、南は栄区・鎌倉市に、西は泉区・藤沢市に接しています。

地勢上は、多摩丘陵の南端に位置し、区の中央部を柏尾川が南北に流れて低地を形成しており、その周囲を比較的起伏に富む台地が取り囲むように広がっています。

区域の面積は、35.70ｋ㎡で、18 区中１番広く、市域面積の 8．2%を占めています。

人口は、273,962 人で市内第４位ですが、人口密度は１ｋ㎡あたり 7,674 人で 10 位となっています（平成 26 年１月１日現在）。

＜面　積＞	３５．７０ｋ㎡	
＜極　東＞	平戸一丁目１３８５－３９	東西距離
＜極　西＞	俣野町１６０９	８．４０ｋｍ
＜極　南＞	影取町３－７	南北距離
＜極　北＞	名瀬町３４２０	１０．０５ｋｍ
＜最高地＞	品濃町	海抜 ９９．３ｍ
＜最低地＞	東俣野町	海抜　６．５ｍ

（データで見る戸塚 2014 年版／横浜市戸塚区役所総務課 発行　より）

＊人口：274,804 人（男：135,783 人、女：139,021 人）、世帯数：112,616 世帯（6 月 1 日現在）
＊2014 年末のアンダーパス（柏尾戸塚線トンネル）開通に伴い閉鎖される戸塚大踏切の上を通る「戸塚大踏切デッキ」（歩行者用）が、2014 年 1 月 18 日より一般供用を開始（戸塚駅北側の戸塚大踏切は、ラッシュ時の通行可能時間が 1 時間あたりわずか 3 分という交通難所）。
＊戸塚区のラジオ局エフエム戸塚（83.7MHz 10W）は、2014 年 4 月 29 日に開局 5 周年を迎えた。
＊戸塚区マスコットキャラクターのウナシーは 2014 年 5 月 10 日に満 5 歳、戸塚駅西口再開発事業マスコットキャラクターのとつか再開発くんは 10 月 4 日に満 20 歳を迎える。

PROPAGATION〈Edition 2〉

2014 年 8 月 1 日　第 1 刷発行
発行　戸塚 DXers サークル（Totsuka DXer’s Circle）　印刷　キンコーズ・ジャパン株式会社横浜西口店
©Totsuka DXer’s Circle 2014 Printed in Japan

落丁・乱丁本の場合は TDXC 編集部へご連絡下さい。お取り替えいたします。
無断転載・複製を禁ず

Totsuka DXers Circle